

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第150集

そうさく かねば いせきに  
惣作・鐘場遺跡Ⅱ

2008

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター



## 序

愛知県瀬戸市は、県の北部、岐阜県との県境に位置します。市域は濃尾平野北西部から山地にかけて広がり、庄内川源流の自然豊かな地です。古くより窯業産地として知られ、「せともの」は陶器の代名詞となっています。近年は窯業とともにセラミック産業として再生し、近代化が進んでいます。

この地も近代産業の発達によりますます開発が進み、これにともなう埋蔵文化財の調査が増えています。今回の惣作・鐘場遺跡の調査は国道改良工事にもなうものであり、産業の発達と軌を一にする交通の増加を因とするものです。この調査により、古代の人々の生活、中世の村の様子的一端が明らかになってきたと思われます。本書はその成果をまとめたもので、この地域の歴史を考える上での一助となることができましたなら幸いです。

最後に、発掘調査にあたりまして御理解、御協力をいただきました地元住民の方々をはじめ、関係者並びに関係各機関に厚く御礼を申し上げます。

平成 20 年 3 月

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長 林 良三

## 例言

1. 本書は愛知県瀬戸市惣作町及び鐘場町地内に所在する惣作・鐘場遺跡（遺跡番号 030792）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は国道 248 号道路改良工事に伴うもので、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託され、財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが実施した。整理作業及び報告書作成は同センターが行った。（中途より財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターに改組）
3. 調査期間は平成 12 年～16 年である。
4. 調査は藤岡幹根（現小牧市立一色小学校教諭）、鶴飼雅弘（現東郷高校教諭）、成瀬智弘（現豊野高校教諭）、樋上昇、宇佐見守、武部真木、川添和暁、早野浩二、酒井俊彦が担当した。
5. 調査に際して以下の関係機関から指導・協力を受けた。  
愛知県教育委員会文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター・（財）瀬戸市埋蔵文化財センター・愛知県建設部道路建設課
6. 遺物整理、図版作成については以下の方々の協力を得た。  
調査研究補助員 八木佳素実  
整理補助員 中村たかみ、牧ゆかり、斉藤佳美、山田有美子、伊藤ますみ、三浦里美、後藤恵理（敬称略）
7. 出土遺物については以下のように外部委託を行い、その結果を掲載した。  
土壌分析（株）バリノ・サーヴェイ C14 年代測定（株）パレオ・ラボ 山茶碗胎土分析（株）第四紀地質研究所
8. 本書の編集は酒井俊彦が行った。
9. 今回の調査で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標（平面直角座標）第 VII 系に基づくものであり、海拔標高は T.P.（東京湾平均海面高度）による。
10. 調査及び本書の作製に当たり、次の諸氏に御指導・御助言を賜った。  
渡辺誠（本センター専門委員） 岡本直久（瀬戸市埋蔵文化財センター）（順不動、敬称略）



## 目次

### 第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯と経過	1
第2節 遺跡の立地と環境	4

### 第2章 遺構

第1節 基本層序	8
第2節 縄文時代の遺構	12
第3節 弥生時代の遺構	16
第4節 古墳時代の遺構	20
第5節 古代の遺構	79
第6節 中世の遺構	83
第7節 近世の遺構	125
第8節 自然流路その他	129

### 第3章 遺物

第1節 土器・陶磁器類	130
第2節 土製品	232
第3節 石製品	234
第4節 木製品	245
第5節 金属製品	255
第6節 その他の遺物	257

### 第4章 自然科学的分析

第1節 山茶碗及び古瀬戸施釉陶器の胎土分析	258
第2節 炭化物の放射性炭素年代測定	272
第3節 植物珪酸体分析	277
第4節 惣作・鐘場遺跡における古環境変遷	286

第5章 まとめ	290
---------	-----

## 挿図目次

第1図 調査区位置図(1/4000)・・・・・・・・・・	3	第56図 SB033(1/50)・・・・・・・・・・	54
第2図 道跡位置図・・・・・・・・・・	5	第57図 SB036・040(1/50)・・・・・・・・・・	56
第3図 道跡周辺(1/25000)・・・・・・・・・・	7	第58図 SB037(1/50)・・・・・・・・・・	57
第4図 基本層序(1)・・・・・・・・・・	10	第59図 SB038(1/50)・・・・・・・・・・	58
第5図 基本層序(2)・・・・・・・・・・	11	第60図 SB039(1/50)・・・・・・・・・・	59
第6図 SB001(1/50)・・・・・・・・・・	13	第61図 SB044(1/50)・・・・・・・・・・	60
第7図 SB002(1/50)・・・・・・・・・・	13	第62図 SB041(1/50)・・・・・・・・・・	61
第8図 SB003(1/50)・・・・・・・・・・	14	第63図 SB051(1/50)・・・・・・・・・・	62
第9図 SB004(1/50)・・・・・・・・・・	14	第64図 SB052(1/50)・・・・・・・・・・	63
第10図 SB005(1/50)・・・・・・・・・・	14	第65図 SB060(1/50)・・・・・・・・・・	64
第11図 SB007(1/50)・・・・・・・・・・	15	第66図 SB062・063(1/50)・・・・・・・・・・	65
第12図 SB019(1/50)・・・・・・・・・・	15	第67図 SB065(1/50)・・・・・・・・・・	66
第13図 01A区 SK02(1/50)・・・・・・・・・・	15	第68図 SB201(1/50)・・・・・・・・・・	67
第14図 01A区 SK171(1/50)・・・・・・・・・・	15	第69図 SB202(1/50)・・・・・・・・・・	68
第15図 SB220(1/50)・・・・・・・・・・	17	第70図 SB204-206(1/50)・・・・・・・・・・	69
第16図 SD122(1/50)・・・・・・・・・・	18・19	第71図 SB203(1/50)・・・・・・・・・・	70
第17図 SB213(1/50)・・・・・・・・・・	23	第72図 SB207(1/50)・・・・・・・・・・	70
第18図 SB216(1/50)・・・・・・・・・・	24	第73図 SB208(1/50)・・・・・・・・・・	71
第19図 SB217(1/50)・・・・・・・・・・	24	第74図 SB209・210(1/50)・・・・・・・・・・	72
第20図 SB218(1/50)・・・・・・・・・・	25	第75図 SB214(1/50)・・・・・・・・・・	73
第21図 SB221(1/50)・・・・・・・・・・	26	第76図 SB211(1/50)・・・・・・・・・・	74
第22図 SB222(1/50)・・・・・・・・・・	27	第77図 SB212(1/50)・・・・・・・・・・	75
第23図 SB223・224(1/50)・・・・・・・・・・	27	第78図 SB215(1/50)・・・・・・・・・・	76
第24図 SB225・226・228(1/50)・・・・・・・・・・	28	第79図 SB230(1/50)・・・・・・・・・・	76
第25図 SB227(1/50)・・・・・・・・・・	29	第80図 SB266・267(1/50)・・・・・・・・・・	77
第26図 SB228(1/50)・・・・・・・・・・	30	第81図 SB262(1/50)・・・・・・・・・・	78
第27図 SB238・239(1/50)・・・・・・・・・・	30	第82図 03B区 SK206(1/50)・・・・・・・・・・	78
第28図 SB242(1/50)・・・・・・・・・・	31	第83図 SB018(1/50)・・・・・・・・・・	80
第29図 SB243(1/50)・・・・・・・・・・	31	第84図 SB043(1/50)・・・・・・・・・・	80
第30図 SB244(1/50)・・・・・・・・・・	32	第85図 SB064(1/50)・・・・・・・・・・	81
第31図 SB247(1/50)・・・・・・・・・・	32	第86図 SB272(1/50)・・・・・・・・・・	81
第32図 SB257(1/50)・・・・・・・・・・	33	第87図 SB263(1/50)・・・・・・・・・・	82
第33図 SB259(1/50)・・・・・・・・・・	33	第88図 SB287(1/50)・・・・・・・・・・	82
第34図 SB265(1/50)・・・・・・・・・・	33	第89図 SB050・055(1/50)・・・・・・・・・・	90
第35図 SB268(1/50)・・・・・・・・・・	34	第90図 SB006(1/50)・・・・・・・・・・	91
第36図 SB270(1/50)・・・・・・・・・・	34	第91図 SB010(1/50)・・・・・・・・・・	91
第37図 SB271・275・276・278(1/50)・・・・・・・・・・	35	第92図 SB007(1/50)・・・・・・・・・・	92
第38図 SB274・281(1/50)・・・・・・・・・・	36	第93図 SB008(1/50)・・・・・・・・・・	92
第39図 SB277(1/50)・・・・・・・・・・	37	第94図 SB009(1/50)・・・・・・・・・・	93
第40図 SB279(1/50)・・・・・・・・・・	37	第95図 SB022(1/50)・・・・・・・・・・	94
第41図 SB280(1/50)・・・・・・・・・・	37	第96図 SB023(1/50)・・・・・・・・・・	94
第42図 SB285(1/50)・・・・・・・・・・	38	第97図 SB026(1/50)・・・・・・・・・・	95
第43図 SB286(1/50)・・・・・・・・・・	39	第98図 SB029(1/50)・・・・・・・・・・	95
第44図 SB290・297(1/50)・・・・・・・・・・	39	第99図 SB030(1/50)・・・・・・・・・・	96
第45図 SB292・293(1/50)・・・・・・・・・・	40	第100図 SB048(1/50)・・・・・・・・・・	96
第46図 02B区 SK134(1/50)・・・・・・・・・・	40	第101図 SB054(1/50)・・・・・・・・・・	97
第47図 SB011(1/50)・・・・・・・・・・	46	第102図 SB056(1/50)・・・・・・・・・・	98
第48図 SB012(1/50)・・・・・・・・・・	47	第103図 SB058(1/50)・・・・・・・・・・	99
第49図 SB014(1/50)・・・・・・・・・・	47	第104図 SB057(1/50)・・・・・・・・・・	100・101
第50図 SB025(1/50)・・・・・・・・・・	48	第105図 04Ca区 SK964(1/50)・・・・・・・・・・	402
第51図 SB028(1/50)・・・・・・・・・・	48	第106図 04Cb区 SK500(1/50)・・・・・・・・・・	402
第52図 SB027(1/50)・・・・・・・・・・	49	第107図 04Cb区 SK100(1/50)・・・・・・・・・・	402
第53図 SB031(1/50)・・・・・・・・・・	50	第108図 04Cb区 SK352(1/50)・・・・・・・・・・	403
第54図 SB032(1/50)・・・・・・・・・・	52	第109図 02A区 SK19(1/50)・・・・・・・・・・	403
第55図 SB034(1/50)・・・・・・・・・・	53	第110図 02B区 SK58(1/50)・・・・・・・・・・	403

第 111 图	SD053-055 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 104	第 166 图	古墳時代土器 (12)	· · · · ·	· 154
第 112 图	SD053 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 105	第 167 图	古墳時代土器 (13)	· · · · ·	· 155
第 113 图	SD053·054 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 105	第 168 图	古墳時代土器 (14)	· · · · ·	· 156
第 114 图	SD055 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 106	第 169 图	古墳時代土器 (15)	· · · · ·	· 157
第 115 图	SD086 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 106	第 170 图	古墳時代土器 (16)	· · · · ·	· 158
第 116 图	SD089 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 106	第 171 图	古墳時代土器 (17)	· · · · ·	· 159
第 117 图	SD090 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 107	第 172 图	古墳時代土器 (18)	· · · · ·	· 160
第 118 图	SD056 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 107	第 173 图	古墳時代土器 (19)	· · · · ·	· 161
第 119 图	SD092 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 107	第 174 图	古墳時代土器 (20)	· · · · ·	· 162
第 120 图	SD104 遺物出土状態图 (1/50)	· · · · ·	· 107	第 175 图	古墳時代土器 (21)	· · · · ·	· 163
第 121 图	SD084(1/50)	· · · · ·	· 108·109	第 176 图	古墳時代土器 (22)	· · · · ·	· 164
第 122 图	SD093(1/50)	· · · · ·	· 110	第 177 图	古墳時代土器 (23)	· · · · ·	· 165
第 123 图	SD116 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 111	第 178 图	古代土器 (1)	· · · · ·	· 167
第 124 图	SD080·083·084 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 111	第 179 图	古代土器 (2)	· · · · ·	· 168
第 125 图	SD083-085 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 111	第 180 图	中世土器 (1)	· · · · ·	· 180
第 126 图	SD105 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 112	第 181 图	中世土器 (2)	· · · · ·	· 181
第 127 图	SD121-125 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 113	第 182 图	中世土器 (3)	· · · · ·	· 182
第 128 图	SD132 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 113	第 183 图	中世土器 (4)	· · · · ·	· 183
第 129 图	SD007(1/50)	· · · · ·	· 114	第 184 图	中世土器 (5)	· · · · ·	· 184
第 130 图	SE01(1/50)	· · · · ·	· 115	第 185 图	中世土器 (6)	· · · · ·	· 185
第 131 图	SE02(1/50)	· · · · ·	· 115	第 186 图	中世土器 (7)	· · · · ·	· 186
第 132 图	SE03(1/50)	· · · · ·	· 115	第 187 图	中世土器 (8)	· · · · ·	· 187
第 133 图	SE07(1/50)	· · · · ·	· 115	第 188 图	中世土器 (9)	· · · · ·	· 188
第 134 图	SE04(1/50)	· · · · ·	· 116	第 189 图	中世土器 (10)	· · · · ·	· 189
第 135 图	SX014(1/50)	· · · · ·	· 117	第 190 图	中世土器 (11)	· · · · ·	· 190
第 136 图	SX015(1/50)	· · · · ·	· 117	第 191 图	中世土器 (12)	· · · · ·	· 191
第 137 图	SX025(1/50)	· · · · ·	· 118	第 192 图	中世土器 (13)	· · · · ·	· 192
第 138 图	SX019(1/50)	· · · · ·	· 118	第 193 图	中世土器 (14)	· · · · ·	· 193
第 139 图	01A 区西斜面 (1/50)	· · · · ·	· 119	第 194 图	中世土器 (15)	· · · · ·	· 194
第 140 图	00A 区南斜面 (1/50)	· · · · ·	· 120·121	第 195 图	中世土器 (16)	· · · · ·	· 195
第 141 图	04E 区抗列出土状態 (1/60)	· 122·123		第 196 图	中世土器 (17)	· · · · ·	· 196
第 142 图	SX201-203(1/50)	· · · · ·	· 124	第 197 图	中世土器 (18)	· · · · ·	· 197
第 143 图	SB230(1/50)	· · · · ·	· 126	第 198 图	中世土器 (19)	· · · · ·	· 198
第 144 图	SD003(1/50)	· · · · ·	· 127	第 199 图	中世土器 (20)	· · · · ·	· 199
第 145 图	SD003 断面图 (1/50)	· · · · ·	· 127	第 200 图	中世土器 (21)	· · · · ·	· 200
第 146 图	SE05(1/50)	· · · · ·	· 127	第 201 图	中世土器 (22)	· · · · ·	· 201
第 147 图	SE06(1/50)	· · · · ·	· 127	第 202 图	中世土器 (23)	· · · · ·	· 202
第 148 图	SX02(1/50)	· · · · ·	· 128	第 203 图	中世土器 (24)	· · · · ·	· 203
第 149 图	NR01(1/50)	· · · · ·	· 128	第 204 图	中世土器 (25)	· · · · ·	· 204
第 150 图	00B 区断面图 (1/50)	· · · · ·	· 129	第 205 图	中世土器 (26)	· · · · ·	· 205
第 151 图	縄文土器 (1)	· · · · ·	· 132	第 206 图	中世土器 (27)	· · · · ·	· 206
第 152 图	縄文土器 (2)	· · · · ·	· 133	第 207 图	中世土器 (28)	· · · · ·	· 207
第 153 图	縄文土器 (3)	· · · · ·	· 134	第 208 图	中世土器 (29)	· · · · ·	· 208
第 154 图	弥生土器	· · · · ·	· 135	第 209 图	中世土器 (30)	· · · · ·	· 209
第 155 图	古墳時代土器 (1)	· · · · ·	· 143	第 210 图	中世土器 (31)	· · · · ·	· 210
第 156 图	古墳時代土器 (2)	· · · · ·	· 144	第 211 图	中世土器 (32)	· · · · ·	· 211
第 157 图	古墳時代土器 (3)	· · · · ·	· 145	第 212 图	中世土器 (33)	· · · · ·	· 212
第 158 图	古墳時代土器 (4)	· · · · ·	· 146	第 213 图	中世土器 (34)	· · · · ·	· 213
第 159 图	古墳時代土器 (5)	· · · · ·	· 147	第 214 图	中世土器 (35)	· · · · ·	· 214
第 160 图	古墳時代土器 (6)	· · · · ·	· 148	第 215 图	中世土器 (36)	· · · · ·	· 215
第 161 图	古墳時代土器 (7)	· · · · ·	· 149	第 216 图	中世土器 (37)	· · · · ·	· 216
第 162 图	古墳時代土器 (8)	· · · · ·	· 150	第 217 图	中世土器 (38)	· · · · ·	· 217
第 163 图	古墳時代土器 (9)	· · · · ·	· 151	第 218 图	中世土器 (39)	· · · · ·	· 218
第 164 图	古墳時代土器 (10)	· · · · ·	· 152	第 219 图	中世土器 (40)	· · · · ·	· 219
第 165 图	古墳時代土器 (11)	· · · · ·	· 153	第 220 图	中世土器 (41)	· · · · ·	· 220

第221図 中世土器 (42) . . . . .	221	第246図 木製品 (3) . . . . .	248
第222図 中世土器 (43) . . . . .	222	第247図 木製品 (4) . . . . .	249
第223図 近世土器 (1) . . . . .	224	第248図 木製品 (5) . . . . .	250
第224図 近世土器 (2) . . . . .	225	第249図 木製品 (6) . . . . .	251
第225図 近世土器 (3) . . . . .	226	第250図 木製品 (7) . . . . .	252
第226図 近世土器 (4) . . . . .	227	第251図 木製品 (8) . . . . .	253
第227図 近世土器 (5) . . . . .	228	第252図 木製品 (9) . . . . .	254
第228図 近世土器 (6) . . . . .	229	第253図 金属製品 . . . . .	256
第229図 黒書土器 . . . . .	231	第254図 玉類 . . . . .	257
第230図 舶犬 . . . . .	232	第255図 金属関連遺物 . . . . .	257
第231図 加工円盤 . . . . .	233	第256図 三角ダイヤグラム位置分類図 . . . . .	262
第232図 土鍾 . . . . .	233	第257図 菱形ダイヤグラム位置分類図 . . . . .	262
第233図 製塩土器 . . . . .	233	第258図 Qt-Pt 図 . . . . .	263
第234図 銅鏢型土製品 . . . . .	233	第259図 SiO <sub>2</sub> -Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 図 . . . . .	263
第235図 石鏢 (1) . . . . .	236	第260図 FeO <sub>3</sub> -TiO <sub>2</sub> 図 . . . . .	264
第236図 石鏢 (2) . . . . .	237	第261図 K <sub>2</sub> O-CaO 図 . . . . .	264
第237図 有舌尖頭器 石鏢 スクレイバー類 . . . . .	238	第262図 暦年較正結果 . . . . .	276
第238図 打製石斧 . . . . .	239	第263図 各地点の植物珪酸体含量 . . . . .	279
第239図 磨製石斧 石棒 石錘 . . . . .	240	第264図 植物珪酸体群集 . . . . .	283
第240図 箠石 . . . . .	241	第265図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区における柱状図作成地点 . . . . .	288
第241図 磨石類 . . . . .	242	第266図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区の層序断面写真 . . . . .	289
第242図 砥石 . . . . .	243	第267図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区における柱状図 . . . . .	289
第243図 砥石 硯 紡錘車 . . . . .	244		
第244図 木製品 (1) . . . . .	246		
第245図 木製品 (2) . . . . .	247		

## 表目次

第1表 調査工程 . . . . .	1	第10表 測定試料及び処理 . . . . .	275
第2表 胎土性状表 (1) . . . . .	265	第11表 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果 . . . . .	275
第3表 胎土性状表 (2) . . . . .	266	第12表 各地点の植物珪酸体含量 . . . . .	279
第4表 化学分析表 (1) . . . . .	267	第13表 珪藻分析結果 (1) . . . . .	284
第5表 化学分析表 (2) . . . . .	268	第14表 珪藻分析結果 (2) . . . . .	284
第6表 タイプ分類表 . . . . .	269	第15表 花粉分析結果 . . . . .	285
第7表 組成分類表 (1) . . . . .	270	第16表 植物珪酸体分析結果 . . . . .	285
第8表 組成分類表 (2) . . . . .	271	第17表 惣作・鐘場遺跡 01Da 区における放射性炭素年代測定結果 . . . . .	288
第9表 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果 . . . . .	273		



年度北部2調査区・南部2調査区計5465m<sup>2</sup>、平成15年度南部2調査区・北部1調査区計4850m<sup>2</sup>、平成16年度南部5調査区・北部1調査区計10200m<sup>2</sup>である。調査面積の総計は30775m<sup>2</sup>である。

これまでに検出された遺構・遺物は旧石器時代終末から近世末までの時期に及ぶ。出土遺物は本センターが標準的に使用する内容量27Lコンテナでおよそ700箱である。また、(財)瀬戸市埋蔵文化財センターによる本遺跡の調査が平成14・15年度に行われている。現在、環状自動車道と国道改良工事に関わる部分について調査は終了している。

## 2. 調査の経過

愛知県教育委員会の平成10年度の試掘調査では、遺跡の西から南側を流れる門前川より遺跡中央部の惣作川までの範囲に20ヶ所のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。その結果、門前川及び惣作川河谷を除いた段丘上に縄文時代、古墳時代後期、中世・戦国時代及び近世の遺構・遺物が認められ、遺跡が広く展開することが確認された。これに基づき、平成12年度より調査を行なった。また、同年度に惣作川以北の区域内について赤津川との間の遺跡の広がりやを確定する試掘調査を本センターが行った。試掘トレンチ17ヶ所を設定して調査を行ったところ、縄文時代及び古墳時代前・後期の遺構・遺物が検出された。この結果、遺跡範囲は惣作川以北の赤津川河谷に至るまでの段丘上に広がり、縄文時代から中世の複合遺跡と認識された。また、惣作川を挟んで2地区にわたり、両者に遺跡としての性格に差異があることが認められた。

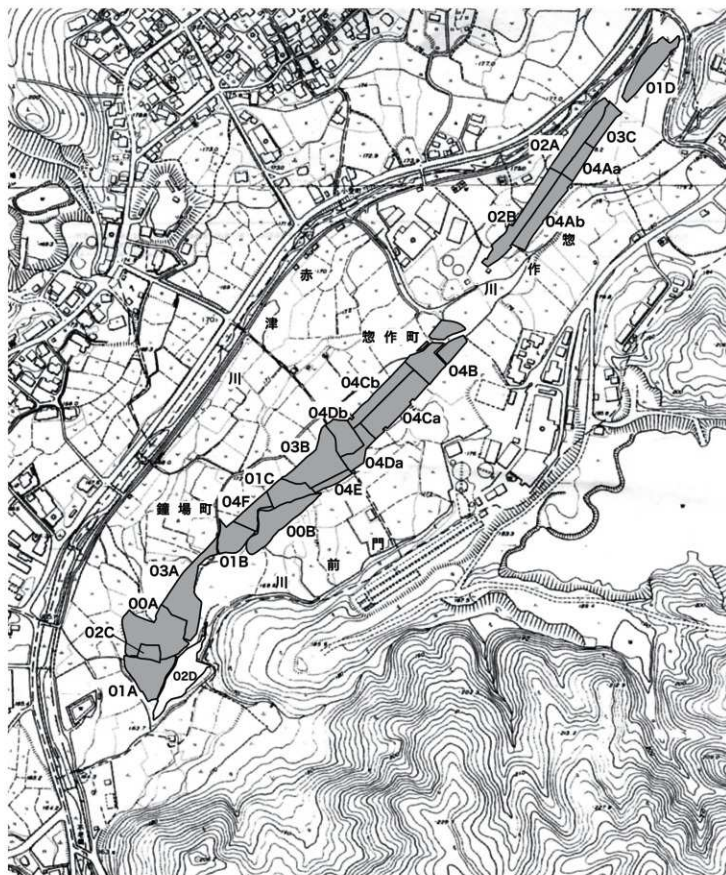
平成12年度の調査では、00A区において、縄文時代、古墳時代及び平安時代竪穴住居が検出され、この時代の集落址が展開することが確認された。00B区は遺跡の所在する段丘下であり、門前川河谷の遺物包含層が検出された。

平成13年度は、前年度の範囲確認によって惣作川以北の地区の調査を開始した。01A区、01B、01C区では、前年度と同様に古墳時代及び縄文時代の集落址を確認する。北部地区の北辺の01D区でも、古墳時代の竪穴住居と掘立柱建物が検出され、当地域でも集落が存在することが確認された。

平成14年度では、北部地区の02A区、02B区で古墳時代集落が検出され、01D区から南に展開することが確認された。また、02B区で弥生時代後期の竪穴住居を確認した。南部地区の02C区では中世包含層と中世以後の道路が検出された。02D区では中世初期の掘立柱建物が検出され、集落が確認された。

平成15年度は北部地区01C区で古墳時代竪穴住居1棟を確認する。南部地区では、03B区で古墳時代の竪穴住居群を検出し、遺跡中央部において同時期の集落が展開することを確認した。03A区では中世溝などを検出する。

平成16年度は南部地区の遺跡中央部と北部地区の計10200m<sup>2</sup>の調査を行う。04B、04C、04D区において中世14～15世紀の溝によって囲まれる集落を検出する。04B区の集落より一段低い面において中世から近世にかけての水田が検出された。この地区と北部地区の04A区において古墳時代竪穴住居群を確認し、この時代の集落は遺跡全体に展開することが確認された。また、04C区で近世の掘立柱建物、井戸を検出し、本遺跡が旧石器時代から近世に至る複合遺跡であることが明確になった。(酒井俊彦)



第1図 調査区位置図 (1/4000)

## 第2節 遺跡の立地と環境

### 1. 地理的環境

遺跡は瀬戸市の東部、惣作町及び鐘場町地内に所在する。瀬戸市は愛知県の西部北端、名古屋市の北東に位置する。市内は尾張平野を囲む山地帯から尾張平野に移行する地域にある。市域の南東部から北部にかけては木曾山地に続く山地帯、中央部は平野に移行する丘陵地帯となり、西部は尾張平野の一部となる。市域の北西部の境界は庄内川であり、これに合流する河川が東の山地帯から発し、尾張平野にむけて流下する。北から水野川、瀬戸川、矢田川があり、流域に沿って丘陵部に盆地を形成している。

遺跡は矢田川の支流である赤津川の左岸に位置する。赤津川は市の東辺となる三河山と猿投山を含む山地塊を源流として西流し、市域の東部で南に流れを変え、海上川と合流して矢田川になり、再び西流した後、庄内川に合流する。遺跡は赤津川が南流する部分にひろがる赤津盆地の中央部分に所在する。東側は三河山地に連なる山塊で、西側は丘陵地帯を挟んで市街地である瀬戸川の盆地となる。

遺跡は北東から南西に流れる赤津川東側に面した2段からなる河岸段丘上に立地する。標高は159～174mを測る。南流する赤津川に平行して、その支流である惣作川と門前川が流れる。惣作川は遺跡が立地する段丘に連なる山地塊の東側から南流し、遺跡範囲の中央を横切ったちで赤津川と合流する。この惣作川の河谷によって遺跡は南北の2地区に別れる。遺跡の北部は赤津川と惣作川に挟まれ、北東から南西に延びる舌状の河岸段丘上に展開する。北端は赤津川の河谷となる。門前川は遺跡の東側の山塊から発し、遺跡の東側を流れて遺跡の南の境界部で赤津川に合流する。南部は赤津川と門前川の河谷に挟まれる比較的広い段丘上に立地する。

現在の遺跡及びその周辺は農耕地となっている。大部分は昭和期以降の土地改良によって整備された水田である。河谷などの傾斜面の段差が存在するが、段丘面上は全体として緩やかな傾斜地となっている。

### 2. 歴史的環境

瀬戸市は、古墳時代より窯業生産の影響が顕著な地域である。本遺跡を中心とした赤津盆地では、ことに中世から連綿と継続して築かれてきた古窯跡が集中する。赤津盆地周辺では東側の山地から市内中央部にいたる丘陵地帯の斜面に多数の古窯跡が確認されている。

本遺跡北方の丘陵地帯には八床古窯跡群が所在する。昭和36・44年に調査が行われ、20基が確認されている。すでに消滅している窯体が多いが13世紀の山茶碗及び古瀬戸施軸陶器と15世紀の古瀬戸施軸陶器を生産している。北東の山地部には3基の15世紀の古瀬戸施軸陶器窯からなる鶯古窯跡群が所在する。本センターは東海環状自動車道建設にともなってこの中の1基の調査を平成11年から12年度にかけて行い、窯体、灰原と製陶工房跡を検出している。

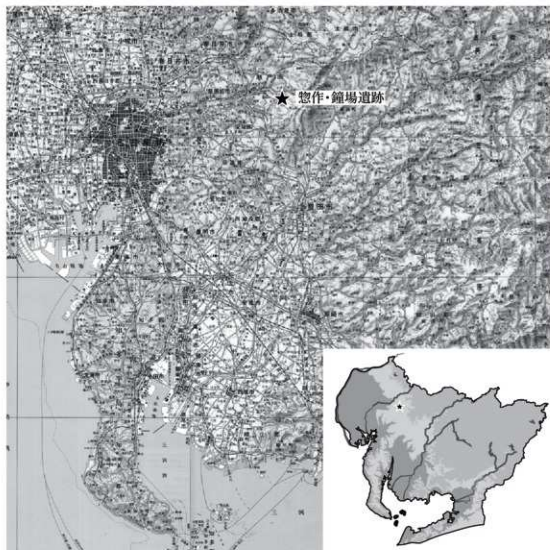
赤津盆地をとりまく、丘陵及び山塊の斜面は特に古窯跡が密集する。西北～西側の丘陵上には馬分城、大橋、椿、保手、銭亀、銭東など古窯址が立地する。いずれも13世紀の中世山茶碗および古瀬戸施軸陶器と15世紀の古瀬戸施軸陶器を中心とする窯である。大部分が山林で、開発が進んでいないため調査例は少なく、現存するものが多い。盆地の南西部は比較的窯跡が少ない地域であるが、川合古窯跡群などがある。この地域で県道瀬戸設業線建設にともない、本センターは平成15年度に万徳峠窯跡と川合D窯跡の調査を行っている。万徳峠窯跡は13世紀の山茶碗と施軸陶器である四耳壺などの瓶子類との併焼窯であることを確認している。川



合D号窯跡の窯体は調査されておらず、灰原のみが確認され、山茶碗と古瀬戸施軸陶器を併焼している。

赤津盆地東方の山地の谷斜面にも嵐山、呉、神田、巡間、白山などの古窯跡が分布する。確認されているものでは、中世13～15世紀の山茶碗と古瀬戸施軸陶器の生産窯がほとんどである。本センターは東海環状自動車道の建設にともない、この地区の窯跡の調査を行っている。平成13年度に巡間E窯跡、平成14年度に嵐山C窯跡の調査を行い、前者は窯体が2基確認され、13世紀の山茶碗と瓶子類の施軸陶器を併焼している。後者は2基存在し、14世紀の山茶碗と施軸陶器を生産していることを確認している。また、県道瀬戸設楽線建設にともない、単独の古窯跡として近世17世紀の施軸陶器生産窯2基が確認され、瓶子窯跡を調査している。窯体の調査は行われていないが、近接する河道沿いに堆積する遺物包含層を調査し、窯生産品と工房関係の木製品・金属製品を含む各種遺物を検出している。

赤津盆地南東から南側の山地帯から丘陵地帯にかけては2～3基程度を単位として横根、平林、笹松、篠田などの古窯跡群が展開する。これらは13～15世紀の山茶碗あるいは古瀬戸施軸陶器の窯跡である。開発が進んでいないため、調査されたものは少ないが、扶桑古窯跡群の一部が調査されて消滅している。



第2図 遺跡位置図

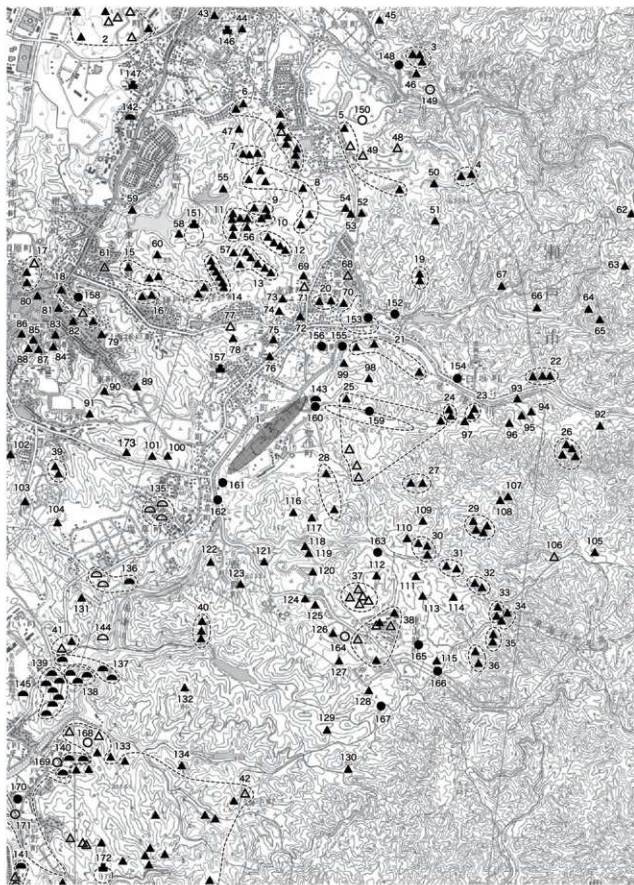
赤津盆地の中心は市街地であり、開発行為による消滅例が多い。中世窯以外に近世以降の逆戻りの窯跡が含まれる。また、隣接する瀬戸盆地には近世以降の窯跡が分布する。市街化進み、消滅している窯も多い。近世以降、近代の窯跡が確認されている。

赤津川下流域には30基以上からなる広久手古窯跡群が所在する。12～15世紀の山茶碗と施軸陶器の生産窯が主体であるが、11世紀の灰軸陶器窯が存在する。

古窯跡群以外の遺跡としては、古墳時代後期の群集墳が分布する。赤津盆地の南部地域に多く、万徳寺、塩草、高塚山、塚原、川原山、吉田等の古墳群がある。調査例は少ないが、塚原古墳群は昭和40年に調査されている。本遺跡が所在する段丘に連なる北の丘陵上には、単独で大目神社古墳が存在する。

この地域では古窯跡および古墳群については確認された例が多く、それ以外の一般の遺跡は比較的に少ない。近年の開発行為によって調査例も増えてきており、本遺跡もその例に含まれる。これまで調査された遺跡では、本センターが関わったものとして八王子遺跡、長谷口遺跡、嵐山屋敷遺跡、吉野遺跡がある。これらは東海環状自動車道および県道瀬戸設楽線建設にともなうものである。八王子遺跡では、縄文時代早期の堅穴住居が確認され、縄文時代早期から中期の遺物および中世の遺物が検出された。長谷口遺跡は縄文中期及び弥生時代の堅穴住居が検出された。嵐山屋敷遺跡では、中世末から近世にかけての屋敷地が確認されている。吉野遺跡では縄文時代と中世の遺構・遺物が検出され、盆地の沖積地において縄文時代中期後半から後期前葉の堅穴住居が確認された。赤津盆地とその周辺には、岩屋堂遺跡、鳥原遺跡、針原遺跡、太子籠遺跡、山路縄文遺跡など縄文時代の遺跡が多い。その他、太子遺跡、山路遺跡など旧石器時代の遺跡が少数ある。(酒井俊彦)

1 惣作・織津遺跡	31 北平1・2号窯	61 栗田窯	91 船形窯	121 山崎0窯	151 馬ヶ城
2 八束1～21号窯	32 平林1・2号窯	62 栗崎窯	92 長谷西窯	122 陸奥センター窯	152 長谷口遺跡
3 粟1～3号窯	33 菅谷林1・2号窯	63 藤室	93 城ヶ根白窯	123 高島窯	153 八王子遺跡
4 新沢1・2号窯	34 菅谷1・2号窯	64 堀下窯	94 城ヶ根東窯	124 城北北窯	154 白旗塚古墳跡
5 針原A～C窯	35 菅松東窯・南窯	65 長谷口窯	95 城ヶ根西窯	125 清水窯	155 山崎屋敷遺跡
6 粟1～10号窯	36 島崎白北窯・西窯	66 滝窯	96 城ヶ根西窯	126 大松窯	156 赤津遺跡
7 龍原1～3号窯	37 伏巻1～5号窯	67 木下川窯	97 新田陶器窯	127 山路西山窯	157 赤津城
8 新久津1～7号窯	38 山路0窯	68 百目窯	98 風山窯	128 大字窯	158 瀬戸小西遺跡
9 大塚北1・2号窯	39 川合1・2号窯	69 白土社窯	99 熊子窯	129 隠屋窯	159 菅作遺跡
10 大塚南1・2号窯	40 藤田1～3号窯	70 帆立北窯	100 太子A窯	130 海上A窯	160 大目神社遺跡
11 柳1～6号窯	41 龍原1・2号窯	71 清三郎窯	101 万徳峠窯	131 岩宮A窯	161 太子籠文遺跡
12 新井1～4号窯	42 正久保109号中心窯	72 作助窯	102 奉徳窯	132 南北北土窯	162 太子遺跡
13 龍東A～C窯	43 品野屋敷跡	73 赤津A窯	103 奉徳A窯	133 百代寺窯	163 山路遺跡
14 龍亀1～6号窯	44 門六窯	74 ちんらん山窯	104 塩草A窯	134 海上B窯	164 海上遺跡
15 井守御前C窯	45 津野寺西窯	75 小左衛門窯	105 松平窯	135 方勝寺1～3号墳	165 嵐山路遺跡
16 赤坂御前1・2号窯	46 津野寺東窯	76 西原A窯	106 島原窯	136 竜宮1～3号墳	166 山路縄文遺跡
17 夕日A～C窯	47 五反原A窯	77 押戸窯	107 磯崎北窯	137 山口龍崎1～3号墳	167 大平縄文遺跡
18 王子沢窯・中窯・東窯	48 仏供田1号窯	78 秋保窯	108 磯崎南窯	138 高塚山1～3号墳	168 瀬戸遺跡
19 神守地西窯・東窯	49 三ツ洞窯	79 新窯	109 上山跡A窯	139 龍原1～2号墳	169 瀬戸遺跡2
20 栗心1・西窯	50 玉葉窯	80 冬木窯	110 孫右衛門窯	140 川原山1～3号墳	170 吉野遺跡
21 嵐山A～C窯	51 赤津長根窯	81 日原窯	111 平石窯	141 吉田1～4号墳	171 吉野遺跡
22 真1～3号窯	52 針原窯	82 仲割窯	112 火山窯	142 五反原古墳	172 川原城
23 神田東1・2号窯	53 サカイ窯	83 平右衛門窯	113 上山跡B窯	143 大目神社古墳	173 川合0窯
24 神田西1・2号窯	54 奥白根窯	84 元十窯	114 平窯	144 山口龍崎北古墳	
25 石原1～4号窯	55 笠原窯	85 榎下窯	115 山路八幡窯	145 北土古墳	
26 白山1～4号窯	56 大智西窯	86 西原A窯	116 菅五窯	146 山崎城	
27 城狭間上窯・下窯	57 馬ヶ城0窯	87 朝日窯	117 菅五東原山窯	147 阿保阿保城	
28 門前1・西窯	58 馬ヶ城東窯	88 藤原窯	118 田尻東窯	148 鳥原遺跡	
29 磯崎南1～4号窯	59 水原西窯	89 東久保窯	119 田尻西窯	149 岩屋堂遺跡	
30 磯崎北1～3号窯	60 藤林窯	90 藤久保窯	120 石坂窯	150 針原遺跡	



第3区 遺跡周辺 (1/25000)

## 第2章 遺構

### 第1節 基本層序

#### 1. 調査区と周辺の地形

遺跡は赤津川の東側の河岸段丘上に立地する。河岸段丘は大きく上位と下位の2面が存在する。二つの面は遺跡北部の赤津川上流では緩やかな傾斜で比高差は1m前後であるが、南端部分では3～4mとなり、傾斜は急角度である。上位段丘面は平坦で北西方向に緩やかに高度を上げる。中央を南北に流れる惣作川によって、遺跡は南部と北部の2地区に分かれる。

##### 南部地区

O1A区は北東から延びる河岸段丘南端の下位段丘面に相当する。この段丘は東から南側は門前川の河谷に面し、西側は赤津川の河谷である。00A区、02C区から04B区は上位段丘面に位置し、北東から南西に伸びる河岸段丘の中央部分にあたる。03A区から04Db区の南東側は門前川河谷で、耕作地化しているため緩傾斜である。調査区の南東辺が河谷の斜面にあたる。00A、03Aの隣接地には東の山塊からの採土による小丘陵状の比高差約15mの盛り土が調査区に平行して存在する。本来の地形の状況が不明な部分があるが、門前川は本来、河谷の東側に流れていたものが、河谷の西側に人為的に流路を移動し、03Aから00A区では近接した位置を流れている。00A区西側は赤津川河谷であるが、03A区から04Ca区の北西側は上位段丘面及び下位段丘に至る平坦面または緩やかな斜面で赤津川に向かって高度を下げる。04Ca区から04B区東半は下位段丘面である。04B区北側は惣作川河谷である。

O1A区の標高は約165mで、北側の上位段丘の00A区との境界は3～4mの比高差のある急傾斜地である。00A区から03B区にかけて緩やかに傾斜して高度を上げ、04E区から04B区の段丘中央部は標高約173～174mの平坦面である。

##### 北部地区

調査区全体は大目神社の北東方向の丘陵から南西に伸びる細長い河岸段丘上に位置する。02B、04Ab区の南西端は惣作川河谷である。調査区の南東半04Abから03C区と02B中央は上位段丘面に相当する。02B区北半から02A、01D区は下位段丘面にあたる。04Ab区南東側は惣作川河谷の傾斜地である。02A区と01D区の北端は赤津川の河谷で急傾斜地となる。

調査区南西端は標高176mをはかる。調査区南東半の上位段丘面で標高178～179m、北西半の下位段丘面で178m弱の標高である。

#### 2. 基本層序

##### 南部地区(第4図)

A:O1A区南壁 O1A区は全体が下位段丘面に位置する。基本層序はa現耕作土b旧耕作土(2-4)c中世遺物包含層(5)で、cは基盤層の黄褐色シルト層直上に部分的に薄く広がる。表土は薄く、現代までの耕作作業の掘り返しが基盤面に達しているため、基盤上において検出可能な遺構のみが検出された。

B:00A区北壁 00A区は全体が上位段丘面にのる。基本層序はa現耕作土(1-5)b旧耕作土(6-10)で旧耕作土が基盤にのる。Bは比較的厚い表土部分である。

C:03A区北西壁 03A区は南半が上位段丘面で、北半は下位段丘への傾斜地である。基本層序はa現耕作土(1-4)b旧耕作土(4-6)c中世遺物包含層(7)である。全体に表土は薄く、部分

的には現在の耕作土が基盤面にのる。傾斜面には中世遺物包含層が遺存する。

D:04F 区北西壁 01B 区、04F 区、01C 区は上位段丘面に位置する。基本層序は a 現耕作土 (1-3)b 旧耕作土 (4-5) である。これらの調査区は全体に表土が薄く、現在の耕作が基盤に達する部分が多い。

E:03B 区北西壁 03B 区と 04E 区の北西側は上位段丘面に位置する。基本層序は a 現耕作土 (1-7)b 旧耕作土 (8) である。全体に表土が薄く、現在の耕作が基盤に達する。03B 区南東部から 04E 区にかけては近年の耕地整理による削平が行われている。

F:04Cb 区北西壁 04Cb 区、04Da 区、04Db 区および 04Ca 区北西半は上位段丘面である。基本層序は a 現耕作土 (1-2)b 旧耕作土 (3-5) である。全体に表土は薄く、現在の耕作が基盤面に達する部分が多い。遺構の検出は基本的に基盤面上である。

G:04Bb 区北西壁 04B 区から 04Ca 区は下位段丘面に相当する。基本層序は a 現耕作土 (1)b 旧耕作土 (2-5) である。04B 区北部では表土は薄いが、南東部側では中世以降の旧耕作面が数層あり、遺構検出面は比較的深い。

北部地区 (第 5 図)

A:02B 区南壁 02B 区南端は惣作川河谷である。基本層序は a 現耕作土 (1-2) である。基盤は河川堆積の砂礫層である。

B:02B 区北西壁 02B 区中央は上位段丘面に相当する。基本層序は a 現耕作土 (1) である。表土は薄く、耕作によって削平が著しい。A から B にかけては、近世の耕地造成によって下位段丘から上位段丘の斜面が階段状になっている。

C:02B 区北西壁 02B 区北半は下位段丘面である。基本層序は a 現耕作土 (1-2)b 旧耕作土 (3-4)c 黒ボク堆積層 (5-6) である。c は無遺物層で基盤面とも考えられる。遺構の検出は c 層の上面および基盤面で行う。上層面で古墳時代から中世の遺構、下層面で古墳時代初期の遺構を確認した。

D:02A 区北西壁 02A 区は下位段丘面に位置する。基本層序は a 現耕作土 (1-2)b 旧耕作土 (3-4)c 黒ボク堆積層 (5-6) である。遺構の検出は c 層の上面および基盤面で行う。上層面で古墳時代から中世の遺構、下層面で古墳時代初期の遺構を確認した。

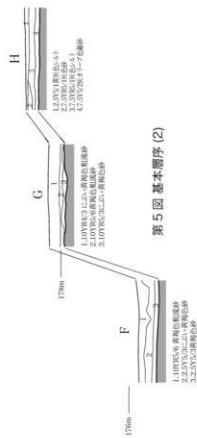
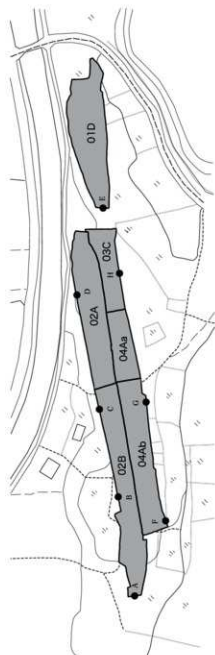
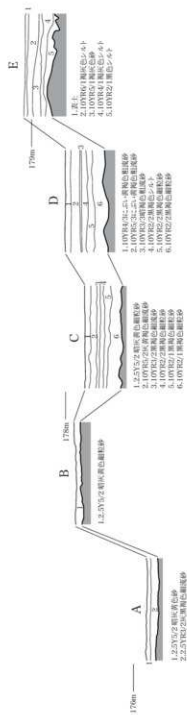
E:01D 区南壁 01D 区は上位段丘に位置する。基本層序は a 現耕作土 (1-3)b 旧耕作土 (4-5) である。遺構検出は基盤直上で行う。

F:04Ab 区南東壁 04Ab 区南端は惣作川河谷である。基本層序は a 現耕作土 (1-3) である。基盤は河川堆積の砂礫層である。

G:04Ab 区南東壁 04Ab 区、04Aa 区は上位段丘にあたる。基本層序は a 現耕作土 (1-3) である。表土は薄く、現在の耕作が基盤面に達している。遺構検出は基盤面で行う。

H:03C 区南東壁 03C 区は上位段丘に位置する。基本層序は a 現耕作土 (1-4) である。表土は薄く、現在の耕作が基盤面に達している。遺構検出は基盤面で行う。(酒井俊彦)





第5図 基本層序(2)

## 第2節 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構としては竪穴住居7棟と土坑2基及び遺物包含層を検出した。

### 1. 竪穴住居

#### SB001(第6図)

01A区の中央北寄りで検出した。削平が激しく、南西側の壁溝は検出されない。平面形は、直径約3.8mの円形となる。壁溝は、幅約10cm、深さ約1cmを測る。ほぼ中央で、一辺約60cmの隅丸方形をした土と土器片を併用した戸を検出した。土器片は戸の内側に二重に貼り付けられ、底面中央が被熱する。

#### SB002(第7図)

01A区の中央北寄りで検出した。削平が激しく、南西側の壁溝は検出されない。平面形は残存する壁溝から、長径約4.4m、短径約4mの楕円形となる。壁溝は、幅約10cm、深さ約3cmを測る。柱穴は楕円形をしており、柱跡と掘りかたが明確なものもある。住居の中央北東寄りで土器片が出土した直径約50cm、深さ約10cmの土坑(SK125)を検出した。

#### SB003(第8図)

01A区の南端で検出した竪穴住居で、下層にSB004・005がある。平面形は、長径約3.7m、短径約3.3mの楕円形をしている。埋土中より土器片・石鏝・剥片・礫などが出土し、大型の礫は石囲炉に使用されたものとする。

#### SB004(第9図)

01A区の南端で検出した。平面形は、直径約3mの円形である。住居の中央西寄りで直径約60cmの円形をした石囲炉を検出した。炉の中央は被熱していた。

#### SB005(第10図)

01A区の南端で検出した。平面形は、直径約2.8mの円形である。壁溝は幅約10cm、深さ約10cmを測る。ほぼ中央で、直径約60cmの円形をした地床炉を検出した。炉の中央には大型の礫が2個置かれ、その下が被熱していた。

#### SB017(第11図)

00A区の中央で検出した竪穴住居で、約5m北にSB019がある。平面形は長径約5m、短径約4mの西側に膨らむ不整の円形である。壁溝が住居の周囲を巡る。住居内には多数のピットがあり、柱穴を明確にしかたいが、柱数は4本か5本と考えられる。住居の中央やや東寄りで長辺約1.2m、短辺約1.0mのやや胴張りの長方形をした石囲炉を検出した。炉の上面は顕著に被熱する。炉の中央には直径約25cmのピットがともなう。炉内や柱穴(SK131)から土器片が出土した。

#### SB019(第12図)

00A区の中央やや北寄りで検出した竪穴住居で、約5m南にSB017がある。削平が激しく、壁溝は南西側を検出するのみであった。住居内には多数のピットがあり、柱穴が明確にしかたいが、柱数は4本か5本と考えられる。中央部が被熱した浅い掘り込みを伴う地床炉を検出した。

### 2. 土坑

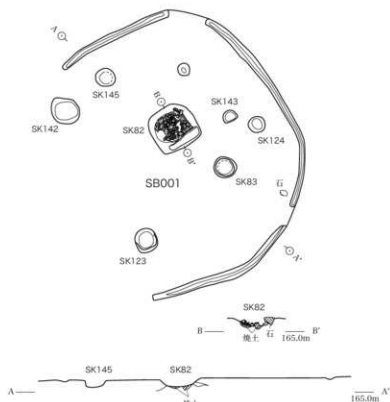
#### SK02(第13図)

00A区の中央やや北寄りで検出した。東に隣接してSB019がある。長辺約90cm、短辺約75cm、深さ約70cmを測る。入口が狭く、底部に行くほど幅が広がる形状をしている。

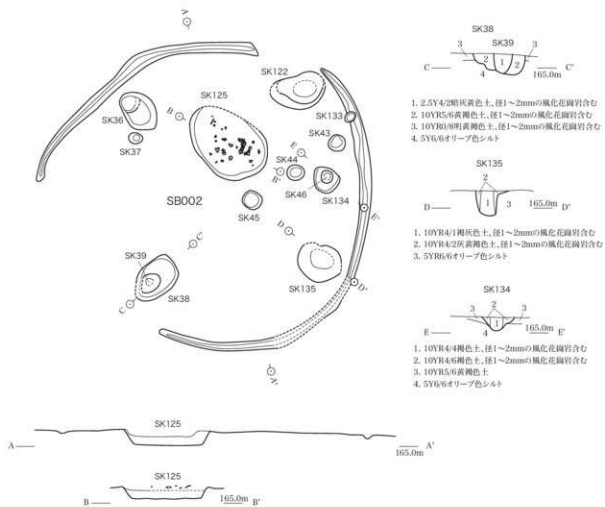
#### SK171(第14図)

00A区の中央で検出した土坑で、南東に隣接してSB017がある。長辺約60cm、短辺約40cm、深さ約40cmを測る。入口が狭く、底部に行くほど幅が広がる形状をしている。(宇佐美守)

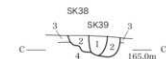




第6図 SB001(1/50)



第7図 SB002(1/50)



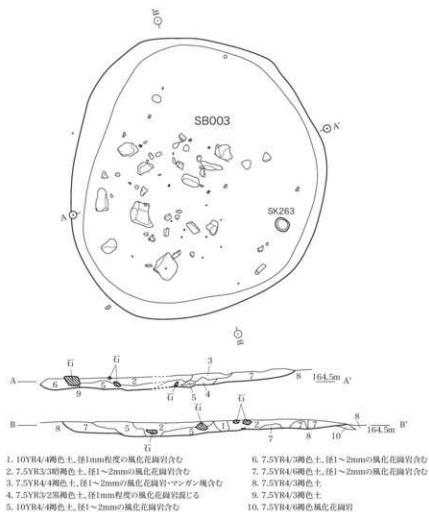
1. 2.5Y4/2弱灰黄色土、径1~2mmの風化花崗岩を含む
2. 10YR5/6黄褐色土、径1~2mmの風化花崗岩を含む
3. 10YR3/8明黄褐色土、径1~2mmの風化花崗岩を含む
4. 5Y6/6オリーブ色シルト



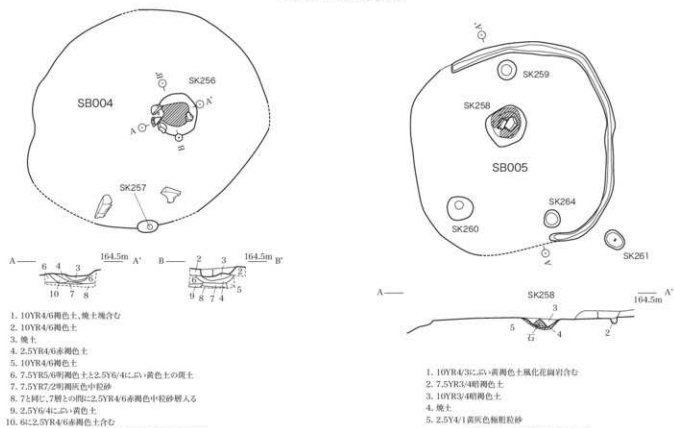
1. 10YR4/1褐色土、径1~2mmの風化花崗岩を含む
2. 10YR4/2灰黄褐色土、径1~2mmの風化花崗岩を含む
3. 5YR6/6オリーブ色シルト



1. 10YR4/4褐色土、径1~2mmの風化花崗岩を含む
2. 10YR4/6褐色土、径1~2mmの風化花崗岩を含む
3. 10YR5/6黄褐色土
4. 5Y6/6オリーブ色シルト

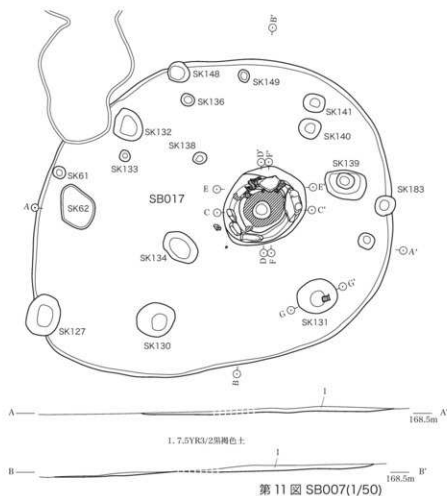


第8図 SB003(1/50)

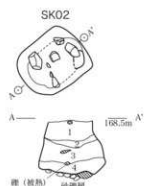
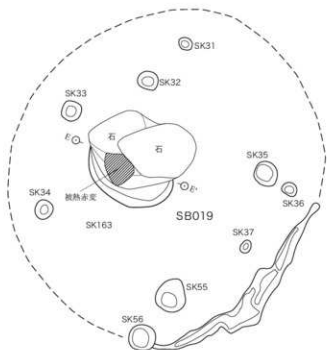


第9図 SB004(1/50)

第10図 SB005(1/50)

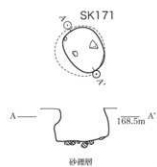


1. 7.5YR4/3シロト風化した花崗岩粒を含む
2. 7.5YR4/1シロト質粘土
3. 7.5YR4/4シロト



1. 10YR4/6褐色粘質シルト
2. 10YR4/6褐色シルト
3. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト
4. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト
5. 2.5Y5/4黄褐色無細砂の壤土

第13図 O1A区 SK02(1/50)



第14図 O1A区 SK171(1/50)



1. 7.5YR4/3褐色シルト風化した花崗岩の砂粒を含む
2. 7.5YR4/3褐色シルト
3. 2.5Y5/4黄褐色細砂(壤土)
4. 7.5YR4/4褐色シルト砂粒を含む

第12図 SB019(1/50)

### 第3節 弥生時代の遺構

この時代の遺構は北部地区の02B区を中心に検出された。南部地区においては、03B区で検出された。遺物は01B、04E区などで出土したが、ごく少量であり、遺構は確認されなかった。

#### 1. 南部地区

03B区の調査区北端部で竪穴住居1棟が検出された。

##### SB04

中期の遺構と考えられる。大部分が瀬戸市埋蔵文化財センターの調査区にはいり、本調査区の境界のトレンチにかかったため、遺構の全体の状況はわからない。残存長4.1m幅1.1mを測る。出土遺物はない。

#### 2. 北部地区

02B区から02Ab区に遺構が集中する。竪穴住居2棟、溝1条を検出する。竪穴住居は中央の上位段丘面上に位置する。北方の丘陵から伸びてくる段丘の先端に立地する。溝は下位段丘部分に惣作用に平行する方向で北東から西に伸びる。

##### SB219

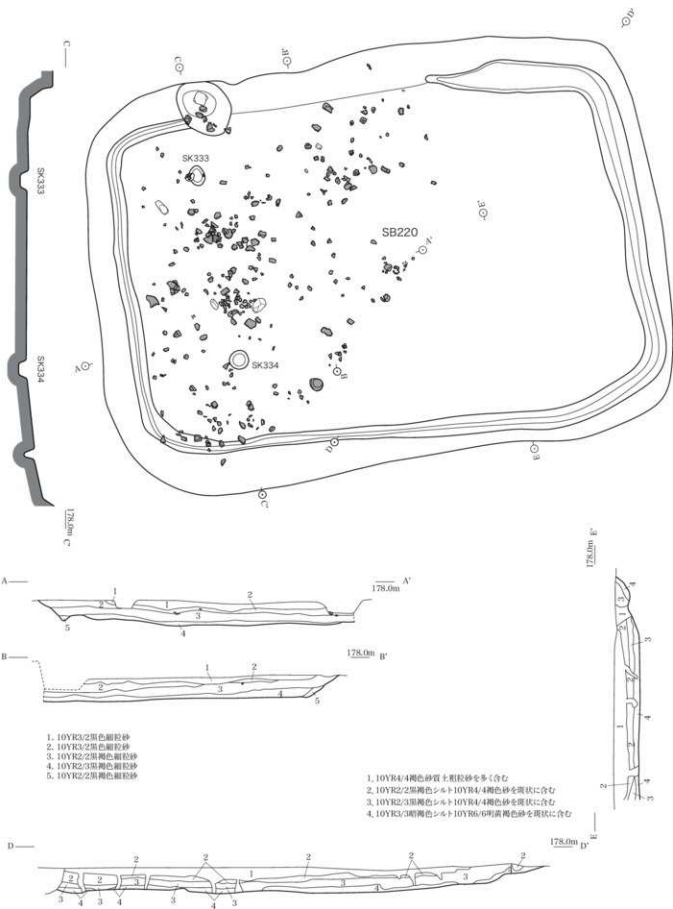
後期に属する。上位段丘の北側斜面に近い部分で検出される。耕作による削平により、遺存状況は悪い。北側2/3は中世以降に斜面が削られ、消失している。長軸は南北方向をとる。残存長4.5m幅2.3mを測る。柱穴は2基検出された。遺物は少なく、砥石が1点出土している。SB220(第15図)

後期に属する。上位段丘のほぼ中央で検出される。東西に長軸方向(N-83°E)をとる。一部04Ab区にはいる。基盤に比較的深く掘り込んでいて、長軸4.4m短軸2.3m深さ0.6mを測る。西半床面に柱穴と考えられる土坑2基を確認する。北側の一部を除いて、周溝が巡る。西半部の遺構埋土上層より土器、及び銅鐸型土製品が出土した。

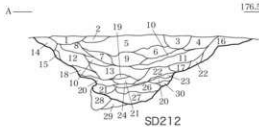
##### SD212(第16図)

弥生時代後期から古墳時代前期に属する。02B区～04Ab区の南部下位段丘面に位置する。04Ab区では北東-南西方向で、02B区では東西方向であり、04Ab区ではほぼ惣作用に平行する。02B区では下位段丘の斜面の裾に沿った方向をとる。最大幅5.4m深さ1.3mを測る。04Ab区では北東端に向かって浅くなり、調査区内で消滅する。清断面は緩いV字状で、斜面は一時的な流水によって削られ、大きな凹凸となる。底面に近い両側は挟りかいはいる。溝埋土は東側ベルトの断面では、上層からa細かい砂礫土b黒色土c粗い砂礫である。cは底面に近い挟りかいはの部分で、bは上半の斜面を埋め、その中央がa層となる。遺物は、bからcの下半部にかけて古墳時代前半の土器がまとまって出土している。また、bの斜面に接する最下層から弥生時代後期の土器が少量検出された。

溝は弥生時代後期に掘られ、その後、土石流などの一時的な流水によって大きく形状を変えられたものと考えられる。その時点の埋土がaとして残存する。その後、bの下面のラインで再掘削が行われ、bが堆積する過程で土器廃棄が行われた。aは再度の流水で埋積したと考えられる。溝は弥生時代後期では防御的な機能が想定される。その後の掘削によって維持されたことが推定されるが、古墳時代初期に機能を失ったものと考えられる。(酒井俊彦)



第15図 SB220(1/50)



1. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の混土
2. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
3. 10YR3/3暗褐色細粒砂
4. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土
5. 10YR4/3にじい黄褐色粗粒砂と10YR5/2灰黄褐色粗粒砂の混土
6. 10YR4/3暗褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の混土
7. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
8. 10YR2/2黒褐色細粒砂
9. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR5/2灰黄褐色粗粒砂の混土
10. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の混土
11. 10YR2/2黒褐色細粒砂
12. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の混土
13. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の混土
14. 10YR5/4にじい黄褐色粗粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の混土
15. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR8/4にじい黄褐色粗粒砂の混土
16. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR5/6黄褐色細粒砂の混土
17. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR5/6黄褐色細粒砂の混土
18. 10YR3/2黒褐色細粒砂
19. 10YR4/1褐色細粒砂と10YR4/6褐色中粒砂のシマ状の堆積
20. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土
21. 10YR5/2灰黄褐色粗粒砂と10YR5/8黄褐色粗粒砂のシマ状の堆積
22. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR4/4褐色細粒砂の混土
23. 10YR4/4にじい黄褐色粗粒砂
24. 10YR4/2灰黄褐色中粒砂砂礫を中心とする層
25. 10YR6/6暗褐色粗粒砂と7.2YR5/6暗褐色粗粒砂の混土
26. 10YR5/4にじい黄褐色粗粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂
27. 10YR7/2にじい黄褐色粗粒砂
28. 10YR5/4にじい黄褐色粗粒砂
29. 10YR7/6暗褐色粗粒砂
30. 10YR6/4にじい黄褐色粗粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂が交互に堆積した層になる

1. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
2. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の混土
3. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の混土
4. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の混土
5. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の混土
6. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の混土
7. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の混土
8. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/3に多い黄褐色細粒砂の混土
9. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR4/3に多い黄褐色細粒砂の混土
10. 10YR4/6褐色細粒砂と10YR5/4に多い黄褐色細粒砂の混土
11. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の混土
12. 10YR5/4に多い黄褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土
13. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR5/4に多い黄褐色細粒砂の混土
14. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土
15. 10YR4/3に多い黄褐色細粒砂と10YR5/4に多い黄褐色細粒砂の混土
16. 10YR5/3に多い黄褐色細粒砂
17. 10YR4/6褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の混土
18. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の混土
19. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の混土
20. 10YR3/2灰黄褐色中粒砂
21. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の混土
22. 10YR4/2灰黄褐色中粒砂と10YR4/3に多い黄褐色細粒砂の混土
23. 10YR3/2黒褐色細粒砂
24. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の混土
25. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色中粒砂の混土
26. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色中粒砂の混土
27. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂の混土
28. 10YR2/1黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色中粒砂の混土



第 16 図 SD212(1/50)

## 第4節 古墳時代の遺構

### 1. 古墳時代前期

古墳時代前半の遺構を取り扱う。この時期の遺構はほぼ北部地区に集中する。02A・02B区の低位段丘面及び04A・02B区の上位段丘面で検出された。

#### a. 竪穴住居

##### (1)02A区

##### SB213(第17図)

下位段丘黒ボク層の下面で検出された。長軸は南北方向(N-35°-W)である。残存長5.3mで比較的大形である。底面の堀方は凹凸があり、その数cm～十数cm上層で床面が確認された。南東の柱穴2基が認められた。床面上で少量の遺物が出土した。

##### SB216(第18図)

下位段丘黒ボク層の下面で検出された。長軸方位不明である。遺構の大部分は調査区外である。底面の堀方は平で、直上で土器が少量検出された。柱穴は確認できない。

##### SB217(第19図)

下位段丘黒ボク層の上面で検出された。上・中層の埋土は細礫を含む砂である。長軸方向は南北方向で残存長3.8mである。底面堀方は凹凸があり、直上のブロックを含む層の上面で固く踏み固められた床面を検出した。周溝は全体を巡る。柱穴は確認されない。床面上で木材の炭化物を検出した。建築部材が住居の辺から直角に倒れたものと考えられる。遺物は土器細片が少量検出された。

##### (2)02B区

##### SB218(第20図)

下位段丘黒ボク層上面で検出された。残存長5.3m幅3.6mである。長軸は南北方向(N-37°-W)である。床面堀方は凹凸があり、直上のブロックを含む層の上面で固く踏み固められた平坦な床面を検出した。周溝は検出されず、柱穴は4基確認された。床面上に径数cm～30cm程度の礫が出土した。人為的な廃棄と考えられる。これらに混じって土器が少量検出された。

##### SB221(第21図)

上位段丘基盤面で検出された。平面正方形(長軸4.7m短軸4.6m)に近く、東西方向(N-51°-W)に長軸をとる。底面は凹凸があり、床面は確認できない。柱穴の土坑は4基検出された。底面近くから土器が比較的まとまって出土した。

##### SB222(第22図)

上位段丘面で検出された。長軸を南北方向(N-44°-E)にとる。長軸4.0m短軸3.6mを測る。柱穴、周溝は確認できない。底面は部分的に低いが、床面に相当し、直上から遺物がまとまって出土した。角礫が床面上で検出された。

##### SB223・224(第23図)

竪穴住居2棟が重複して検出された。埋土の状況から新旧関係は古SB224→新SB223である。SB223は深い掘り込みで、SB224はこれを埋めた面が床面に相当する。SB223は底面の凹凸があり、柱穴は2基検出された。2棟とも大部分が調査区外であり、遺物は少量出土した。

##### SB225(第24図)

奈良時代竪穴住居に切られる。上位段丘の縁辺に位置するため、近世以後の削平によって大部分消失している。遺物は少ない。



SB227(第25図)

上位段丘に位置する。正方形に近い平面形で、長軸短軸とも5.2mを測る。長軸はN-41°-Wである。比較的大形の竪穴住居で、柱穴4基を確認する。北隅に貯蔵穴が検出された。中央やや北西よりに土坑がある。3方の壁際に周溝らしき掘り込みが認められるが、南東辺は幅広い落ち込みとなる。基盤面で検出されたが、比較的底面までの掘り込みは深い。貯蔵穴と考えられる土坑より土器が集中して出土した。

SB228(第26図)

SB225の下部にある。大部分消失している。底面は凹凸がある。遺物はごくわずか出土した。(3)04Aa区

SB238・239(第27図)

上位段丘に位置する。表土が薄いため耕作等による削平遺や、新しい遺構に切られ、遺存状況は悪い。SB238は長軸を東西方向にとる。SB239は南北方向にとる。いずれも柱穴、周溝は確認できず、遺物も少量である。

SB242(第28図)

上位段丘に位置する。長軸を東西方向にとる。比較的大形で残存長5.3m幅5.1mを測る。周溝、柱穴は確認されない。削平により遺存状況は悪く、出土遺物は少ない。

SB243(第29図)

上位段丘に位置する。東西に長軸をとる(N-78°-W)。長軸4.8m短軸4.0mを測る。中央やや西寄りに炬が検出された。削平により遺存状況は悪く、出土遺物は少ない。

SB244(第30図)

上位段丘に位置する。南北に長軸をとる。削平により遺存状況は悪く、出土遺物は少ない。

SB247(第31図)

上位段丘に位置する。他の遺構に切られ、削平により遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB257(第32図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB259(第33図)

上位段丘に位置する。他の遺構に切られ、遺存状況は悪い。遺物は少量である。

(4)04Ab区

SB265(第34図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB268(第35図)

上位段丘に位置する。東西に長軸をとる(N-59°-E)。長軸4.7m短軸3.2mを測る。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB270(第36図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB274(第38図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる(N-23°-W長軸4.3m短軸4.3m)遺物は少量である。

SB275(第37図)

上位段丘に位置する。SB278に切られる。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。SB276(第37図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。SB275・278に切られる。遺物は少量である。

SB277(第39図)

上位段丘に位置する。東西に長軸をとる。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB278(第37図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。ほぼ南北に長軸をとる(N-3°-W長軸4.3m短軸4.0m)。中央に炉跡と考えられる浅い土坑を確認された。遺物は少量である。

SB279(第40図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる。遺物は少量である。

SB280(第41図)

上位段丘に位置する。東西に長軸をとる(N-82°-W)。長軸5.6m短軸3.6mを測る。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB281(第38図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる(N-23°-W長軸4.3m短軸4.3m)遺物は少量である。

SB285(第42図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-13°-W長軸4.5m短軸4.5m)。遺構の遺存状況はやや良好である。周溝がほぼ全体に巡る。中央西寄りに炉跡が2基確認された。遺物がややまとまって出土した。

SB286(第43図)

上位段丘に位置する。東西に長軸をとる(N-78°-E)。長軸3.8m短軸3.5mを測る。中央やや東よりに炉跡を検出した。周溝が部分的に認められた。遺物は少量である。

SB290(第44図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる。柱穴は2基確認された。遺物は少量である。

SB292(第45図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる。柱穴は2基確認された。遺物は少量である。

SB292(第45図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる(N-54°-W長軸4.2m短軸4.0m)。遺物は少量である。

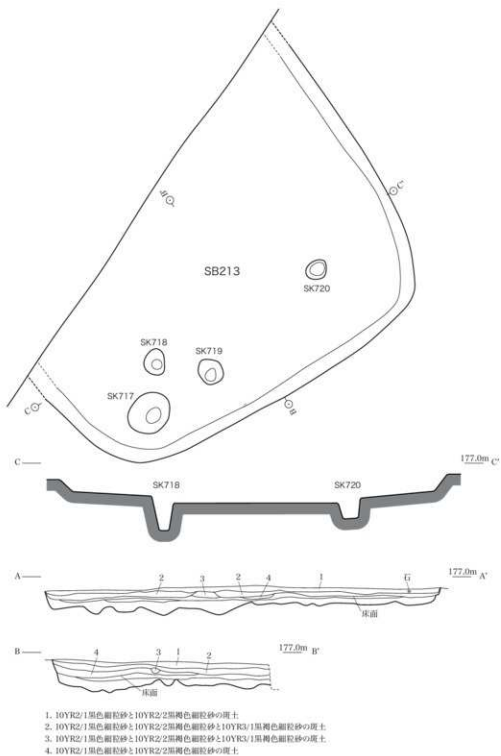
SB297(第44図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

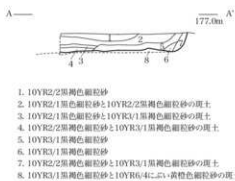
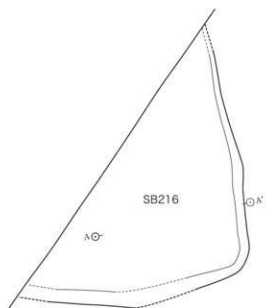
b. 土坑

02B区SK134(第46図)

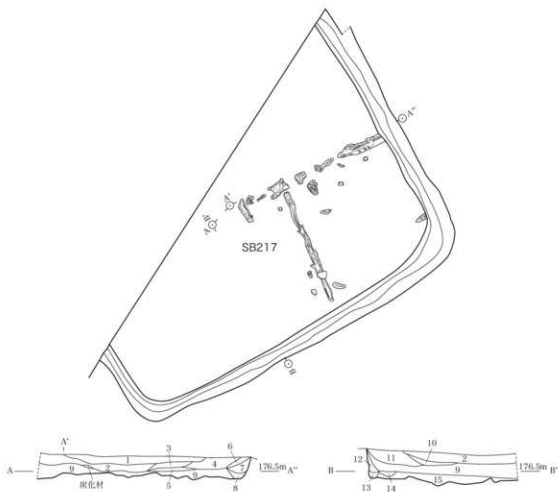
東西に長軸をとる。浅い土坑で長軸2.6m以上短軸1.5mである。SB222を切り、これと同時期の土器がややまとまって底面から検出された。(酒井俊彦)



第 17 図 SB213(1/50)



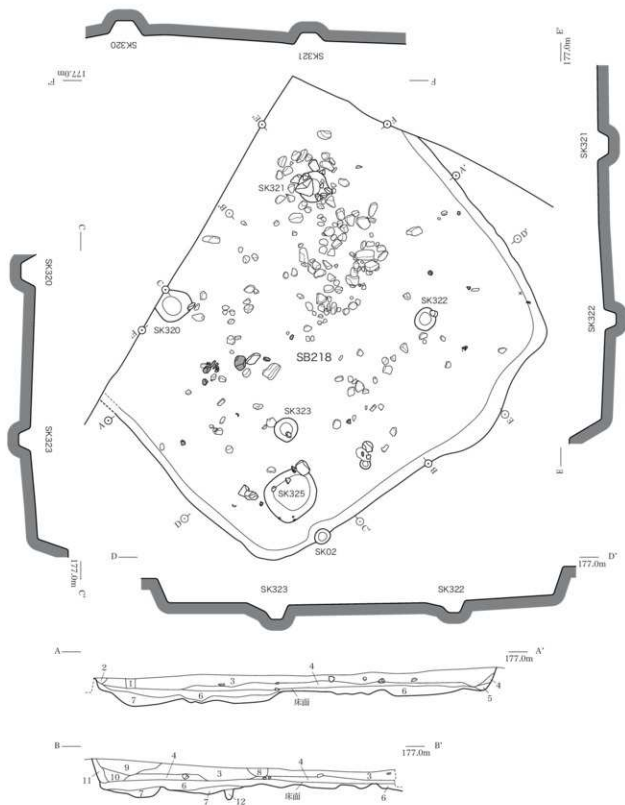
第 18 図 SB216(1/50)



1. 10YR3/1黒褐色細粒砂
2. 10YR3/2黒褐色細粒砂
3. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
4. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
5. 10YR3/1黒褐色細粒砂
6. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
7. 10YR3/1黒褐色細粒砂
8. 10YR2/1黒色細粒砂

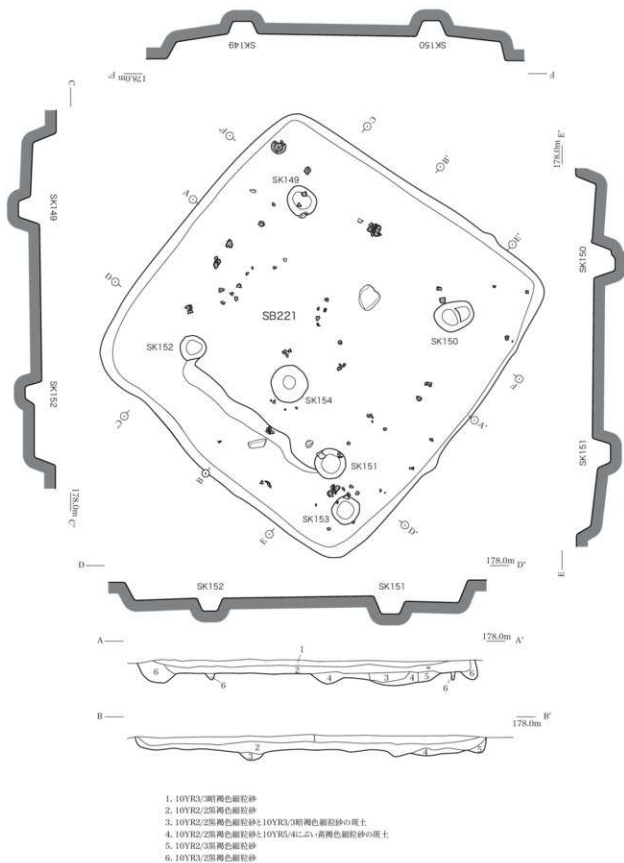
9. 10YR2/1黒色細粒砂
10. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
11. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
12. 10YR2/1黒色細粒砂
13. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
14. 10YR2/1黒色細粒砂
15. 10YR2/1黒色細粒砂

第 19 図 SB217(1/50)

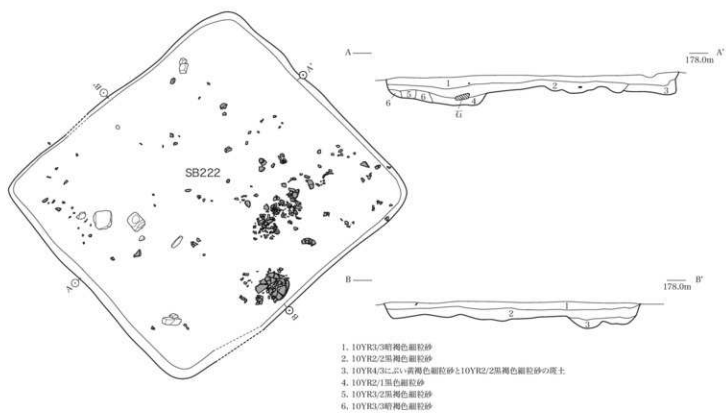


1. 10YR3/2黄褐色細粒砂
2. 10YR3/2黄褐色細粒砂
3. 10YR2/2灰褐色細粒砂と10YR3/2灰褐色細粒砂の混土
4. 10YR2/2灰褐色細粒砂
5. 10YR3/2灰褐色細粒砂
6. 10YR3/2灰褐色細粒砂
7. 10YR3/2灰褐色細粒砂と10YR4/3に、い、黄褐色細粒砂の混土
8. 10YR2/1黒色細粒砂
9. 10YR3/2灰褐色細粒砂
10. 10YR2/1黒色細粒砂
11. 10YR2/1黒色細粒砂
12. 10YR4/3に、い、黄褐色細粒砂と10YR3/2灰褐色細粒砂の混土

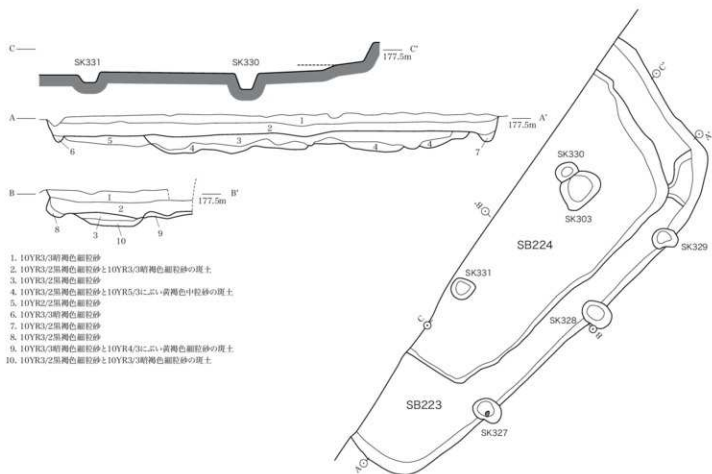
第20図 SB218(1/50)



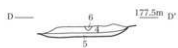
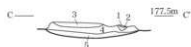
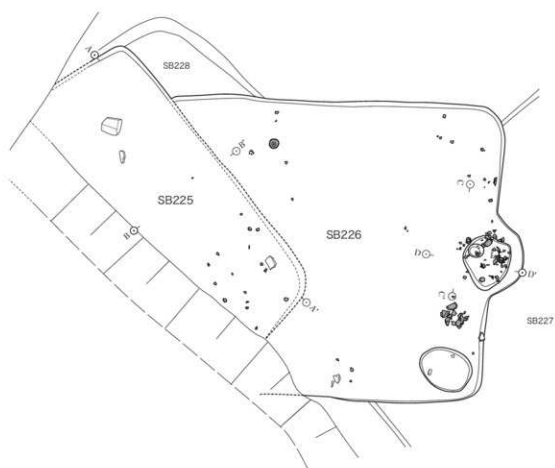
第21図 SB221(1/50)



第22図 SB222(1/50)



第23図 SB223・224(1/50)

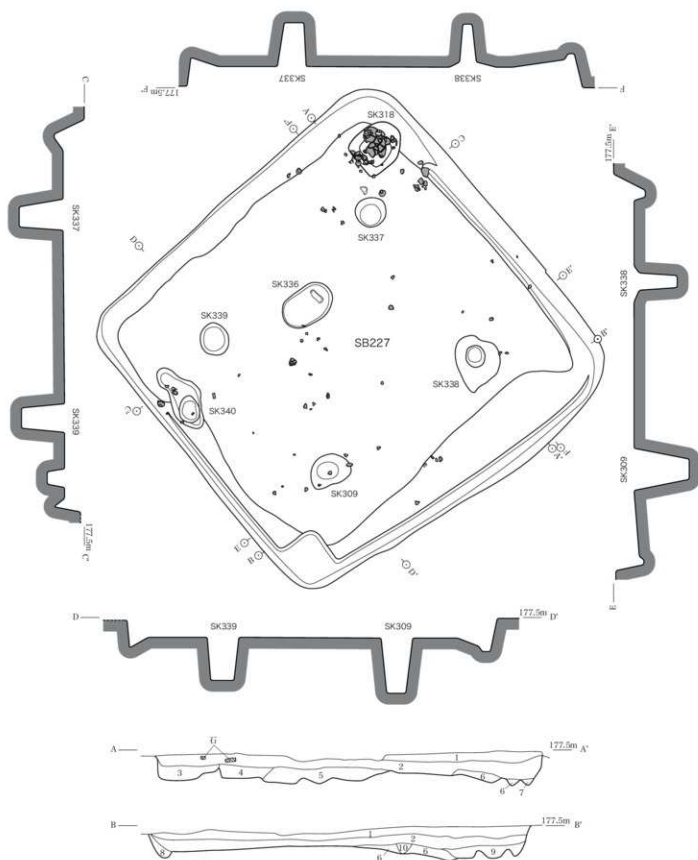


1. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土
2. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の混土
3. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/4褐色細粒砂の混土
4. 10YR3/2黒褐色細粒砂
5. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR4/3に $\delta$ に $\delta$ 黄褐色細粒砂の混土
6. 10YR3/3暗褐色細粒砂
7. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/3に $\delta$ に $\delta$ 黄褐色細粒砂の混土
8. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/3に $\delta$ に $\delta$ 黄褐色細粒砂の混土
9. 10YR3/2黒褐色細粒砂

1. 10YR3/2黒褐色細粒砂
2. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土
3. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/4暗褐色細粒砂の混土
4. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土
5. 10YR2/3黒褐色細粒砂
6. 10YR3/2黒褐色細粒砂

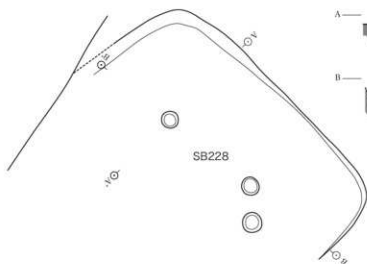
第24図 SB225・226・228(1/50)



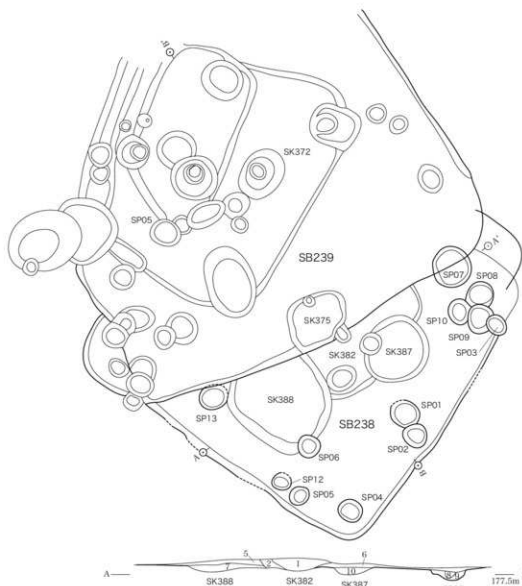


- |   |   |
|---|---|
| 1. 10YR2/2紫褐色細粒砂と10YR2/3紫褐色細粒砂の混土               | 6. 10YR4/3に白く黄褐色細粒砂と10YR3/2紫褐色細粒砂の混土            |
| 2. 10YR2/2紫褐色細粒砂と10YR3/2紫褐色細粒砂の混土               | 7. 10YR3/2紫褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土               |
| 3. 10YR2/2紫褐色細粒砂と10YR3/2紫褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土 | 8. 10YR3/2紫褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土               |
| 4. 10YR3/2紫褐色細粒砂と10YR2/3紫褐色細粒砂の混土               | 9. 10YR2/2紫褐色細粒砂と10YR3/2紫褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土 |
| 5. 10YR2/2紫褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土               | 10. 10YR2/2紫褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の混土              |

第25図 SB227(1/50)

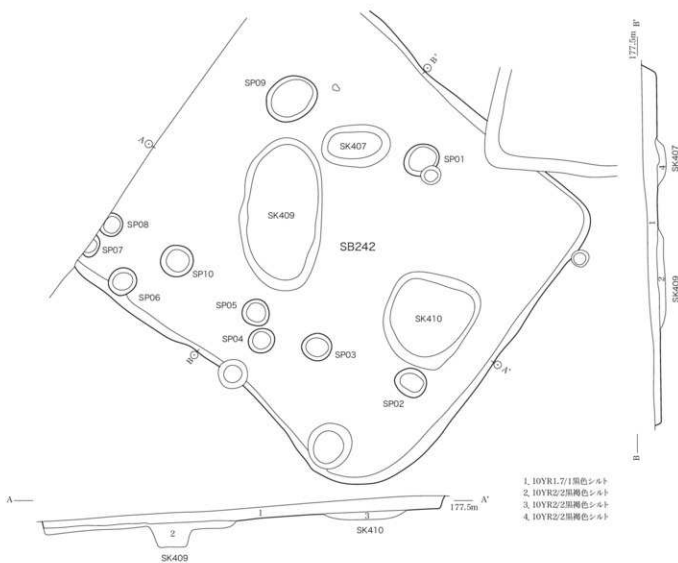


第26図 SB228(1/50)

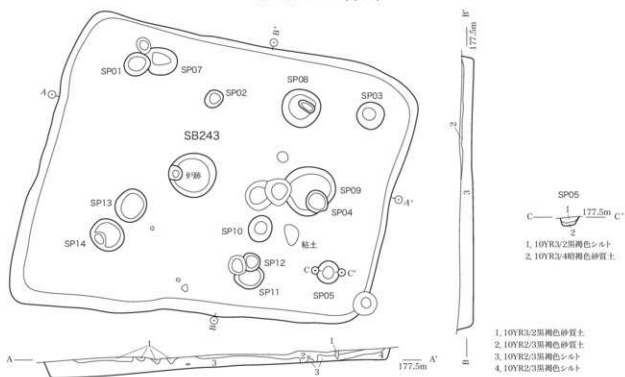


- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| 1. 10YR2/3黄褐色シルト                      | 8. 10YR3/3暗褐色砂質土                       |
| 2. 10YR4/2灰黄褐色シルト                     | 9. 10YR3/3暗褐色シルト10YR5/3に灰・黄褐色土を混状に含む   |
| 3. 10YR3/3暗褐色シルト粗粒砂を少量含む              | 10. 10YR4/3黄に灰・黄褐色シルト10YR3/2暗褐色土を混状に含む |
| 4. 10YR3/3暗褐色シルト粗粒砂を少量含む              | 11. 10YR3/2暗褐色シルト10YR8/4灰黄褐色粗粒砂を混状に含む  |
| 5. 10YR4/4褐色シルト10YR3/3暗褐色土を混状に含む      | 12. 10YR3/4暗褐色シルト                      |
| 6. 10YR4/2灰黄褐色シルト10YR3/2暗褐色土を混状に含む    | 13. 10YR1/1黒色シルト10YR2/2黒色土を混状に含む       |
| 7. 10YR5/3に灰・黄褐色シルト10YR6/6明黄褐色土を混状に含む | 14. 10YR3/4暗褐色シルト粗粒砂を少量含む              |

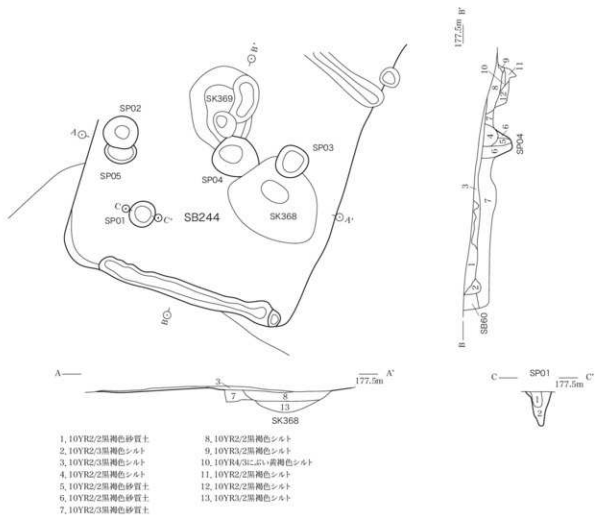
第27図 SB238・239(1/50)



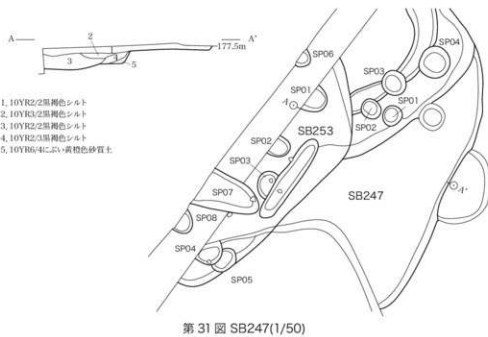
第28図 SB242(1/50)



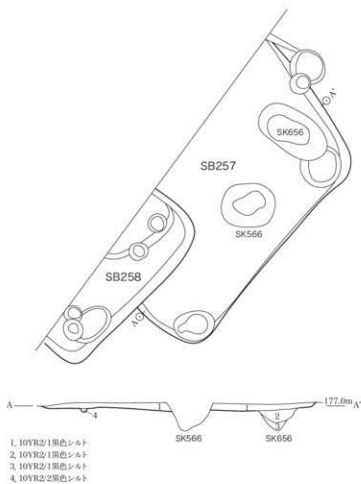
第29図 SB243(1/50)



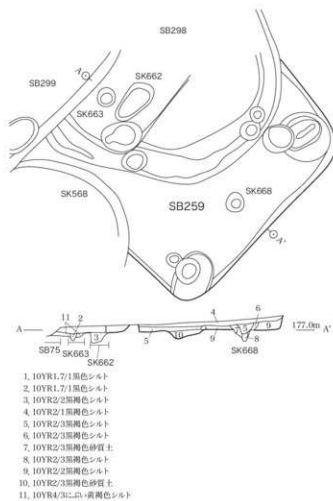
第30図 SB244(1/50)



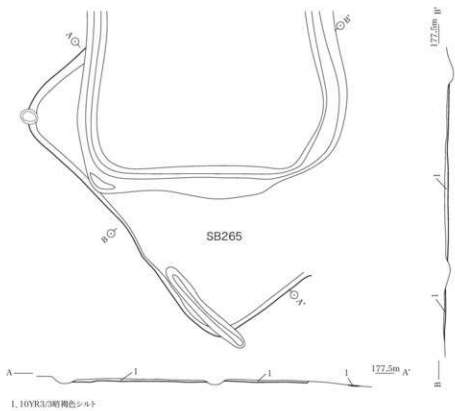
第31図 SB247(1/50)



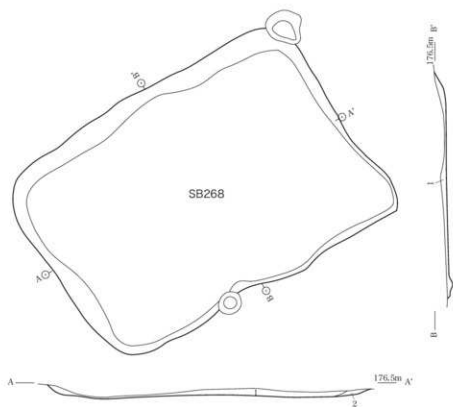
第32図 SB257(1/50)



第33図 SB259(1/50)

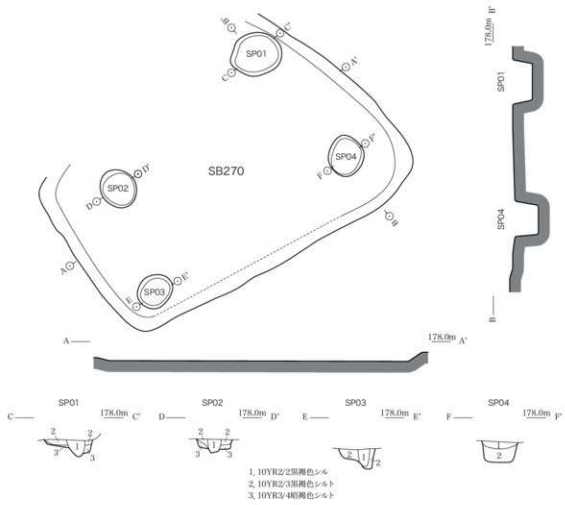


第34図 SB265(1/50)



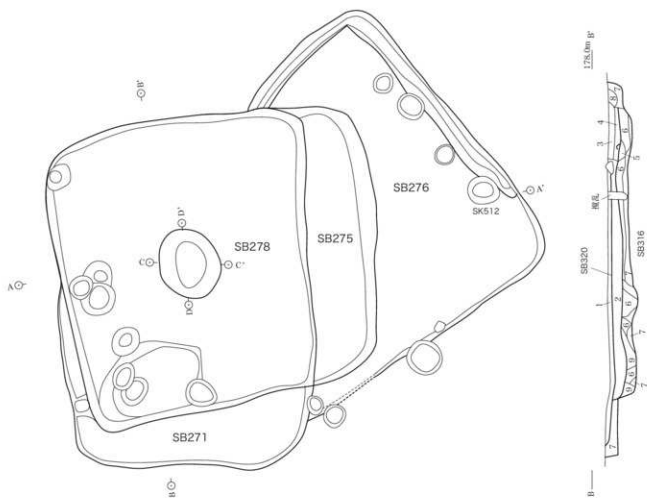
- 1, 10YR2/2黒褐色シルト層物、炭化物を少量含む
- 2, 10YR2/2黒褐色シルト10YR3/4暗褐色土を層状に含む

第35図 SB268(1/50)



- 1, 10YR2/2黒褐色シルト
- 2, 10YR2/3黒褐色シルト
- 3, 10YR3/4暗褐色シルト

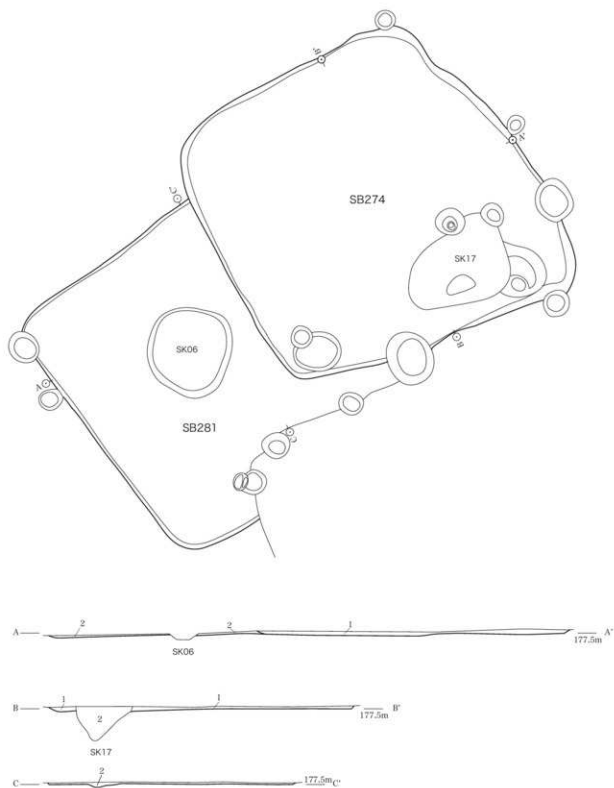
第36図 SB270(1/50)



- |  |  |
|--|--|
| <p>1, 10YR2/2黒褐色シルト粗粒砂を多く含む</p> <p>2, 10YR2/2黒褐色シルト10YR5/6黄褐色粗粒砂を多く含む</p> <p>3, 10YR3/2黒褐色シルト10YR3/1黒褐色土を現状に含む</p> <p>4, 10YR3/2黒褐色シルト10YR3/1黒褐色土を第3層より多く、現状に含む</p> <p>5, 10YR3/2黒褐色シルト粗粒砂若干含む。</p> <p>6, 10YR3/4暗褐色シルト10YR2/1黒色土</p> <p>7, 10YR4/6褐色砂質土粗粒砂を多く含む</p> | <p>8, 10YR2/3黒褐色シルト10YR4/2褐色粗粒砂を現状に含む</p> <p>9, 10YR5/6黄褐色シルト10YR5/6黄褐色粗粒砂を多く含む</p> <p>10, 10YR3/1黒褐色砂質土10YR7/6粗粒砂を現状に多く含む</p> <p>11, 10YR3/3暗褐色砂質土粗粒砂を多く含む</p> <p>12, 10YR3/2黒褐色シルト粗粒砂を若干含む</p> <p>13, 10YR4/4褐色シルト粗粒砂を多く含む</p> |
|--|--|



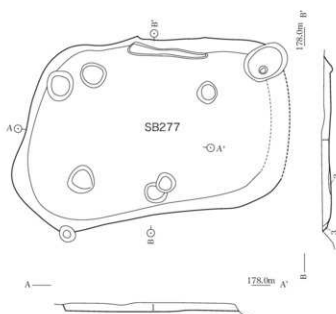
第 37 図 SB271・275・276・278(1/50)



1. 10YR5/3に多い黄褐色シルト粗粒砂を若干含む
2. 10YR4/4褐色シルト粗粒砂を若干含む
3. 10YR2/1黒色シルト10YR4/3に多い黄褐色土を層状に含む

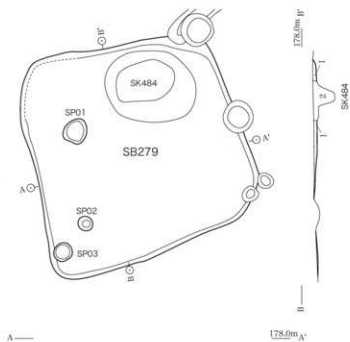
第 38 図 SB274・281(1/50)





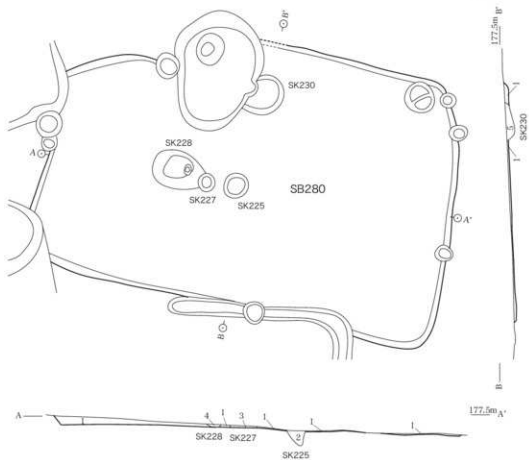
- 1, 10YR3/4暗褐色シルト10YR5/3に濃い黄褐色土を現状に含む
- 2, 10YR3/4暗褐色砂質土粗粒砂若干含む
- 3, 10YR3/3暗褐色シルト5YR5/6明赤褐色土。灰化物を少量含む

第39図 SB277(1/50)



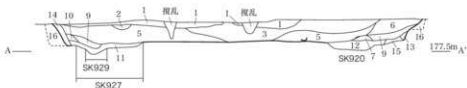
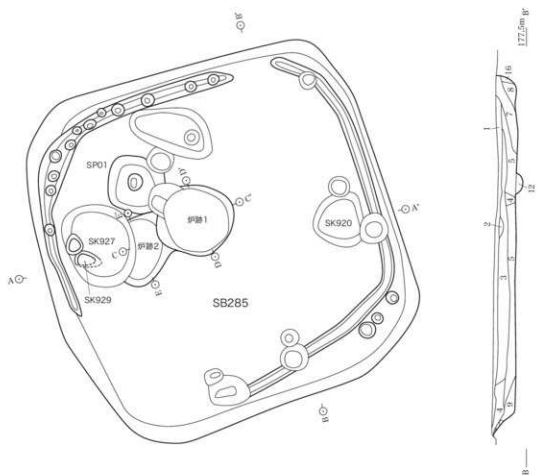
- 1, 10YR3/4暗褐色砂質土10YR3/2暗褐色砂を現状に含む
- 2, 10YR2/3暗褐色シルト粗粒砂若干含む

第40図 SB279(1/50)

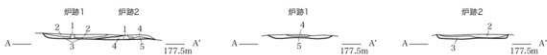


- 1, 10YR4/3に濃い黄褐色砂質土粗粒砂を多く含む。灰化物を微量含む
- 2, 10YR2/3暗褐色シルト
- 3, 10YR3/3暗褐色シルト
- 4, 10YR3/3暗褐色シルト
- 5, 10YR2/3暗褐色シルト10YR4/4褐色土を現状に含む

第41図 SB280(1/50)

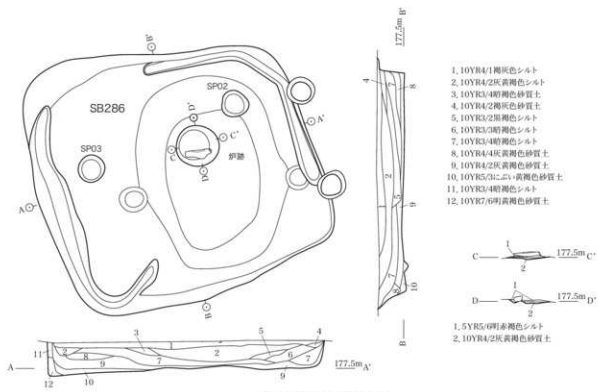


1. 10YR3/3暗褐色砂質土10YR6/6明黄褐色粗粒砂を混状に含む
2. 10YR3/3暗褐色砂質土10YR5/4に赤い黄褐色粗粒砂を混状に含む
3. 10YR3/2黒褐色砂質土10YR6/6明黄褐色粗粒砂を混状に含む
4. 10YR3/4暗褐色シルト10YR4/2赤い黄褐色粗粒砂, 10YR7/4に赤い黄褐色粗粒砂を混状に含む
5. 10YR3/2暗褐色砂質土10YR6/2明黄褐色粗粒砂, 10YR6/8明黄褐色粗粒砂を混状に含む
6. 10YR3/3暗褐色砂質土10YR4/4暗褐色粗粒砂を混状に含む, 炭化物を少量含む
7. 10YR3/4暗褐色砂質土粗粒砂, 10YR4/4暗褐色砂を混状に含む, 焼土を少量含む
8. 10YR3/4暗褐色シルト粗粒砂, 10YR6/4に赤い黄褐色砂を混状に含む
9. 10YR3/2黒褐色砂質土粗粒砂, 10YR6/4に赤い黄褐色砂を混状に含む
10. 10YR3/3暗褐色シルト10YR5/6黄褐色砂を混状に含む
11. 10YR3/2暗褐色砂質土10YR4/6褐色砂, 10YR6/8明黄褐色砂を混状に含む
12. 10YR3/2暗褐色シルト10YR4/4暗褐色土, 10YR6/4に赤い黄褐色砂, 10YR6/6明黄褐色砂を混状に含む
13. 10YR3/3暗褐色シルト10YR5/6黄褐色砂を混状に含む
14. 10YR5/6黄褐色砂質土10YR6/8明黄褐色砂を混状に含む
15. 10YR5/6黄褐色砂質土
16. 10YR4/6褐色砂質土

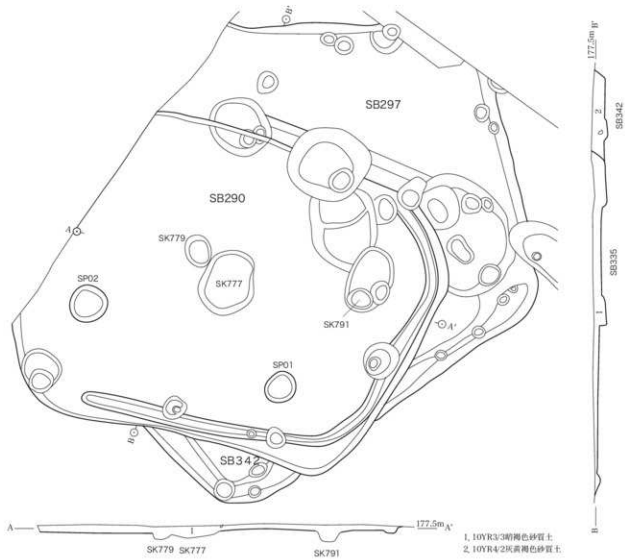


1. 10YR4/6褐色砂質土粗粒砂を多く含む
2. 5YR5/6明黄褐色シルト焼土を多く含む, 10YR5/6黄褐色粗粒砂を若干含む
3. 10YR2/3黒褐色砂質土5YR5/6明黄褐色土を少量含む, 粗粒砂を多く含む
4. 5YR5/8明黄褐色シルト焼土を多く含む, 10YR5/6黄褐色粗粒砂を若干含む
5. 10YR5/6黄褐色砂質土

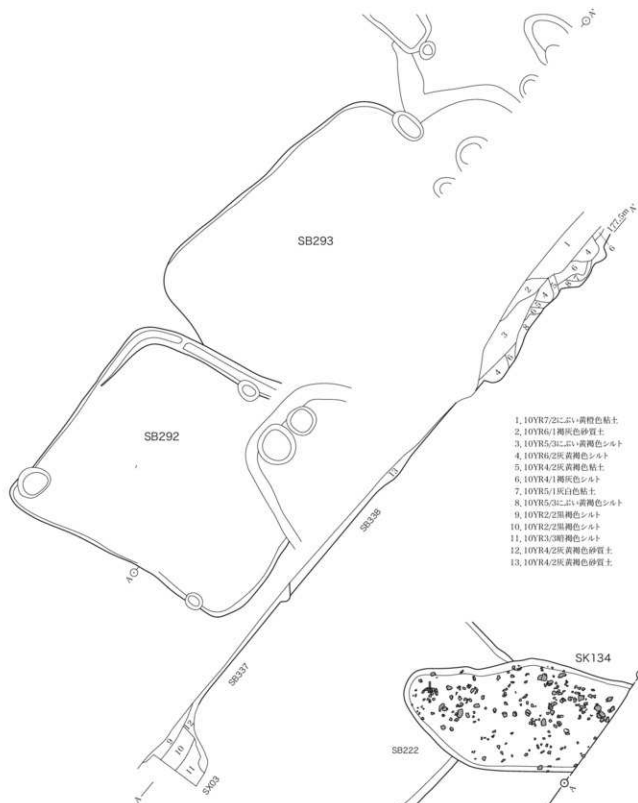
第42図 SB285(1/50)



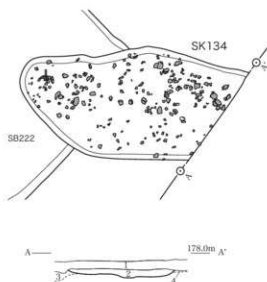
第43図 SB286(1/50)



第44図 SB290・297(1/50)



第45図 SB292・293(1/50)



1. 表土
2. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の層土
3. 10YR4/3に多い黄褐色粗粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の層土
4. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の層土

第46図 02B区SK134(1/50)

## 2. 古墳時代後期

古墳時代後半の遺構が対象となる。この時期の遺構は調査域全体に検出された。

### a. 竪穴住居・掘立柱建物

南部地区

#### (1)00A 区

##### SB011(第 47 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-7°-E)。比較的大形で長軸 7.2m 短軸 6.2m を測る。柱穴、周溝は確認されない。近年までの耕作による削平により遺存状況は悪い。遺構北辺に竈が検出され、これを中心に床面に焼土と粘土粒の混入土が広がる。竈本体は良好に確認されなかった。出土遺物は少ない。

##### SB012(第 48 図)

上位段丘に位置する。長軸は東西方向をとる。SB011に切られ、遺存状況は悪い。遺構北辺に竈が検出され、床面上北東隅に焼土が検出される。竈本体は良好に確認されなかった。周溝は検出されず、柱穴は 4 基検出された。出土遺物は少ない。

##### SB014(第 49 図)

上位段丘に位置する。耕作による削平により遺存状況は悪い。遺構北辺に竈が検出され、竈本体は良好に確認されなかった。周溝は部分的に検出された。柱穴は 3 基検出された。出土遺物は少ない。

#### (2)03A 区

##### SB025(第 50 図)

上位段丘に位置する。削平により遺存状況は悪い。竈、柱穴は検出されない。周溝が部分的に確認された。床面上で須恵器などが少量出土した。

#### (3)01B 区

##### SB027(第 52 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-13°-E)。長軸 5.8m 短軸 5.7m を測る。耕作による削平により遺存状況は悪い。床面上南東隅に焼土が検出される。遺構北辺に竈が検出されたが、竈本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土が混じる土層が検出された。周溝は南西辺などに部分的に検出された。柱穴は 4 基検出された。遺物は床面上、竈下の落ち込み、貯蔵穴と考えられる土坑などから比較的まとまって出土した。

##### SB028(第 51 図)

上位段丘に位置する。耕作による削平により遺存状況は悪い。竈は確認されなかった。周溝は検出されず、柱穴は 1 基検出された。出土遺物は少ない。

#### (4)01C 区

##### SB031(第 53 図)

上位段丘に位置する。北部 1/3 は 03B 区にはいる。長軸は南北方向をとる(N-41°-W)。長軸 5.9m 短軸 5.3m を測る。床面中央は長軸に沿った方向で落ち込みが認められる。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土が混じる高まりが検出された。竈は若干住居外に張り出す。高まりの中より、須恵器と支柱石が出土した。周溝は竈部分を除いて壁際全体に検出された。柱穴は 4 基検出された。北角に平面方形の貯蔵穴が確認された。遺物は床面上、竈下の落ち込みなどから比較的まとまって出土した。

SB032(第54図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-8°-W)。大形の住居で長軸6.8m短軸6.5mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土が混じる高まりが検出された。竈は若干住居外に張り出す。竈下の落ち込みより須恵器、土師器がまともに出て出土した。周溝は竈部分を除いてほぼ壁際全体に検出された。柱穴は4基検出された。北東角に平面方形の貯蔵穴が確認された。遺物は床面上、竈下の落ち込みなどから比較的まともに出て出土した。

(5)03B区

SB033(第56図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-20°-W)。大形の住居で長軸6.3m短軸6.1mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土が混じる高まりが検出された。竈下の落ち込みより須恵器、土師器がまともに出て出土した。周溝は検出されなかった。柱穴は4基検出された。北東と南東隅に貯蔵穴がある。遺物は床面上、貯蔵穴から少量出土した。

SB034(第55図)

上位段丘に位置する。削平が著しく、遺存状況は悪い。竈は検出されなかった。周溝は竈部分を除いてほぼ壁際全体に検出された。柱穴は2基検出された。遺物は少量検出された。

SB036(第57図)

上位段丘に位置する。竈は検出されなかった。周溝は部分的に検出された。柱穴は検出されなかった。遺物は少量出土した。

SB037(第58図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-34°-W)。ほぼ正方形の大形の住居で長軸6.7m短軸6.6mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土が混じる高まりが検出された。高まり中より支柱石と須恵器、土師器がまともに出て出土した。周溝は竈部分などを除いて全周する。柱穴は2基検出された。北隅に貯蔵穴がある。遺物は床面上、竈下及び周囲から比較的多量に出土した。

SB038(第59図)

上位段丘に位置する。削平が著しく、遺存状況は悪い。竈は検出されなかった。周溝、柱穴は検出されなかった。遺物は少量出土した。

SB039・O42(第60図)

上位段丘に位置する。竪穴住居2棟が重複しており、新旧関係は古SB042→新SB039である。SB042は長軸を南北方向にとる(N-21°-W)。長軸4.3m短軸3.8mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土が混じる高まりが検出された。SB039は長軸を南北方向にとる(N-23°-W)。大形の住居で長軸6.4m短軸6.0mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土が混じる高まりが検出された。北隅に貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。両住居とも周溝は検出されなかった。SB039の柱穴はSB042の床面で4基検出された。

SB041(第62図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-8°-E)。長軸5.5m短軸5.3mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に高まりが検出された。周溝は竈部分などを除いて検出部分は全周する。柱穴は1基検出された。北東隅に貯蔵穴がある。

遺物は床面上、電下及び周囲から出土した。

SB044(第61図)

上位段丘に位置する。長軸は東西方向をとる(N-70°-W)。長軸5.3m 短軸5.0mを測る。甕は検出されなかった。周溝は全周する。柱穴は2基検出された。遺物は遺構埋土中より床面より浮いた状態で出土した。

(6)04Db区

SB051(第63図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-12°-W)。長軸5.2m 短軸5.1mを測る。甕、周溝は検出されなかった。柱穴は4基検出された。遺物は床面上から少量出土した。

SB052(第64図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-9°-E)。平面長方形で長軸5.2m 短軸3.9mを測る。甕、周溝、柱穴は確認されなかった。削平が著しく、遺存状況は悪い。遺物は床面上から出土した。

(7)04Cb区

SB060(第65図)

上位段丘に位置する。甕本体は良好に確認されず、甕を中心に焼土混じりの高まりが検出された。柱穴、周溝は検出されなかった。北東隅に貯蔵穴がある。遺物は床面上から少量出土した。

SB062(第66図)

上位段丘に位置する。SB063に切られる。削平により遺存状況は悪い。周溝、甕、柱穴は検出されなかった。遺物は少量出土した。

SB063(第66図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-17°-E)。削平により遺存状況は悪い。長軸5.7m 短軸4.0mを測る。遺構北辺に甕が検出されたが、本体は良好に確認されず、甕を中心に焼土の混じった高まりが検出された。周溝、柱穴は検出されなかった。遺物は床面上で少量出土した。

SB065(第67図)

上位段丘に位置する。中世遺構によって大部分が消失する。遺構北辺に甕が検出されたが、甕本体は良好に確認されず、甕を中心に焼土と粘土の混じった高まりが検出された。周溝、柱穴は検出されなかった。遺物は床面上から少量出土した。

北部地区

(1)01D区

SB201(第68図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる(N-21°-E)。遺構北辺に甕が検出されたが、本体は良好に確認されず、甕を中心に高まりが検出された。周溝は東辺のみ検出された。柱穴は2基検出された。北東隅に貯蔵穴がある。遺物は床面上、電下及び周囲から少量出土した。

SB202(第69図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる(N-38°-W)。遺構北辺に甕が検出されたが、本体は良好に確認されず、甕を中心に高まりが検出された。周溝は北辺で確認できなかった。柱穴は検出されなかった。遺物は床面上から少量出土した。

SB203(第71図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる。竈、柱穴、周溝は確認できなかった。遺物は床面上から少量出土した。

SB204(第70図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。遺構北辺に竈が検出されたが、竈本体は良好に確認されず、竈を中心に高まりが検出された。柱穴、周溝は確認できなかった。遺物は床面上、竈下から少量出土した。

SB205(第70図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に焼土が検出された。柱穴は2基検出された。周溝は確認できなかった。遺物は床面上から少量出土した。

SB206(第70図)

上位段丘に位置する。大部分が調査区外となる。削平が著しく、遺存状況は悪い。竈、柱穴、周溝は確認できなかった。遺物は床面上から少量出土した。

SB207(第72図)

掘立柱建物である。上位段丘に位置する。2間×2間で2.5m×2.8mの小形の建物である。時期を確定できないが、調査区内に他の時期の建物が存在しないことから、当該時期に所属するものとする。

(2)02A区

SB208(第73図)

下位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-33°-W)。長軸6.0m 短軸5.6mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土の高まりが検出された。周溝は東辺と南辺の一部に確認された。柱穴は4基検出された。遺物は埋土中、床面上、竈下及びその周囲から出土した。

SB209(第74図)

下位段丘に位置する。竈、周溝は確認できなかった。柱穴は1基検出された。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

SB210(第74図)

下位段丘に位置する。小形の住居でSB209によって大部分切られる。竈は北辺に確認され、焼土が検出された。柱穴、周溝は検出されなかった。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

SB211(第76図)

下位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-2°-W)。長軸5.0m 短軸4.9mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈下の落ち込みのみ確認された。周溝は西辺のみ検出された。柱穴は2基検出された。遺物は埋土中、床面上から出土した。

SB212(第77図)

下位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-23°-W)。長軸5.5m 短軸5.2mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されなかった。周溝、柱穴は検出されなかった。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

SB214(第75図)

下位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる(N-69°-W)。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土の高まりが検出



された。周溝は検出されなかった。柱穴は2基検出された。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

SB215(第78図)

下位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる(N-8°-E)。長軸4.5m 短軸4.4mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、竈本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土の高まりが検出された。周溝、柱穴は検出されなかった。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

(3)03C区

SB230(第79図)

下位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。竈、周溝は確認されなかった。柱穴は1基検出された。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

(4)04Ab区

SB215(第81図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。斜面部分は近世以降の削平で消失している。竈、柱穴は検出されない。東辺に幅広い周溝がある。遺物は床面上から少量出土した。

SB266(第80図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-34°-W)。長軸4.1m 短軸3.8mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土の高まりが検出された。周溝は確認されなかった。柱穴は3基検出された。遺物は埋土中、床面上、竈下及びその周囲から出土した。

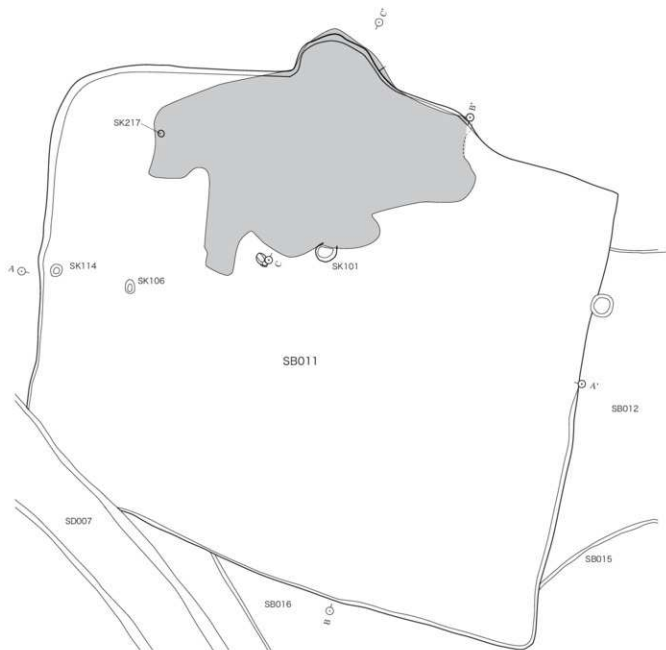
SB267(第80図)

上位段丘に位置する。長軸は東西方向をとる(N-65°-W)。長軸4.3m 短軸4.1mを測る。遺構西辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土の高まりが検出された。周溝は南辺に確認された。柱穴は検出されなかった。遺物は埋土中、床面上、竈下及びその周囲から出土した。

b. 土坑

03B区SK206(第82図)

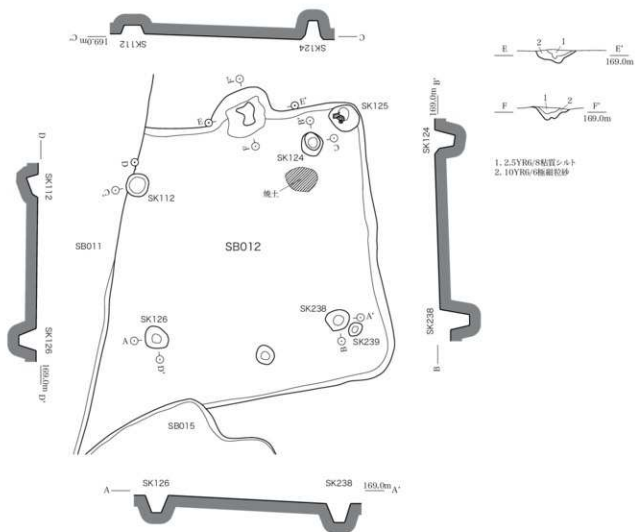
03B区のSB035の南側に位置する。長径2.8m 短径2.5m 深さ0.2mである。削平により浅く、底面は平である。埋土中より、比較的まとまって土師器、須恵器が出土した。(酒井俊彦)



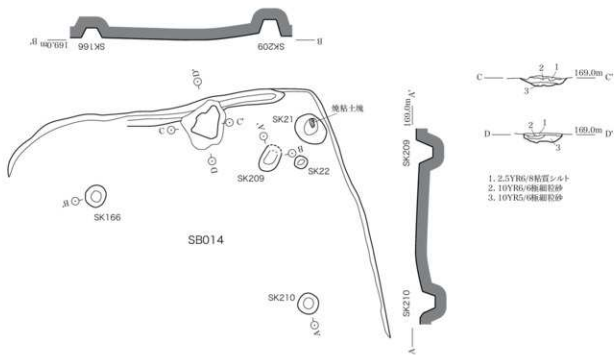
- |                              |                          |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. 10YR5/3に富み・黄褐色土           | 5. 10YR4/3に富み・黄褐色土       |
| 2. 10YR5/3に富み・黄褐色土、機土塊多し     | 6. 1.2割以上が機土の入りかき(SK106) |
| 3. 7.5YR4/3黄褐色土、黄褐色土ブロック多く散在 | 7. 2.5Y3/2黄褐色土(SK114)    |
| 4. 10YR3/2黄褐色土に1が見入          |                          |



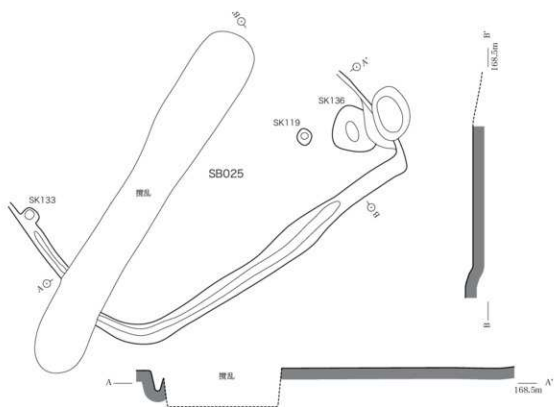
- |                       |
|-----------------------|
| 1. 2.5YR6/8橙色シルト質粘土   |
| 2. 10YR5/4に富み・黄褐色極細粒砂 |
| 3. 10YR5/3に富み・黄褐色細粒砂  |
| 4. 10YR5/3に富み・黄褐色中粒砂  |
| 5. 10YR6/4明黄褐色シルト     |
| 6. 10YR5/6黄褐色細粒砂      |
| 7. 10YR6/6明黄褐色中粒砂     |



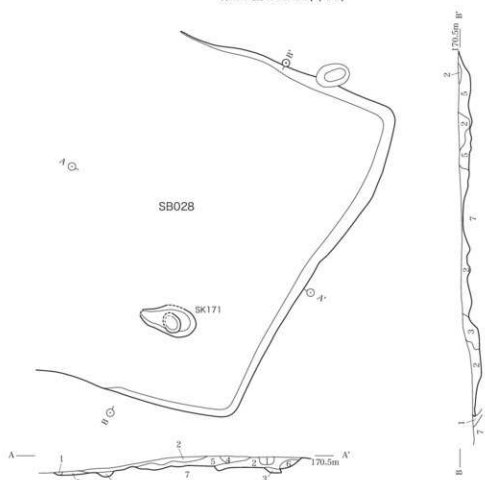
第 48 図 SB012(1/50)



第 49 図 SB014(1/50)

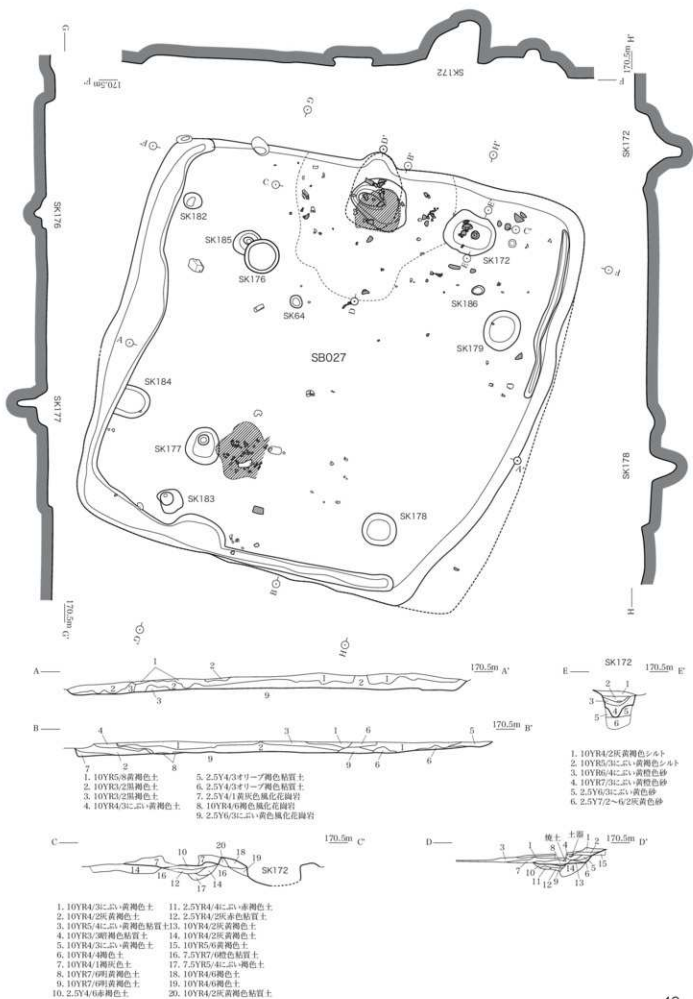


第50图 SB025(1/50)

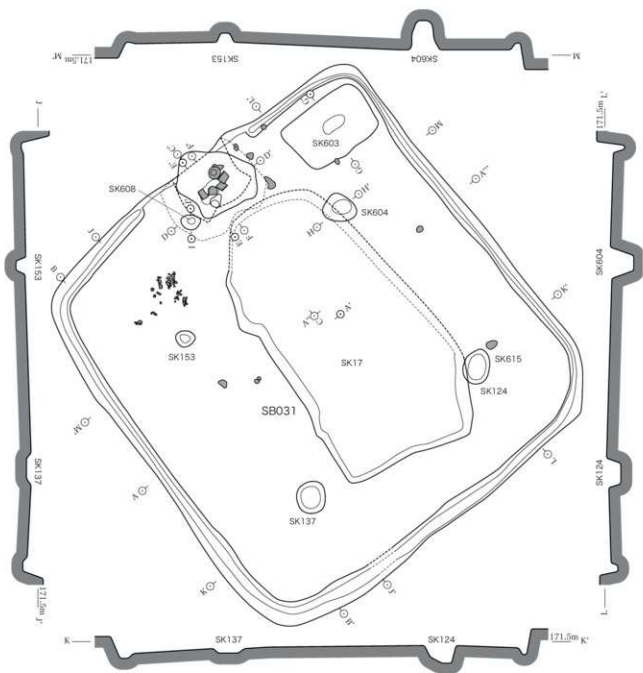


- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 10YR3/1 灰褐色土   | 5. 10YR5/4 红土黄褐色土 |
| 2. 10YR4/2 灰黄褐色土  | 6. 10YR4/6 褐色土    |
| 3. 10YR4/3 红土黄褐色土 | 7. 10YR5/4 红土黄褐色土 |
| 4. 10YR5/8 黄褐色土   |                   |

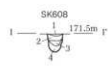
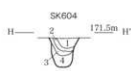
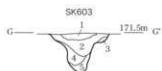
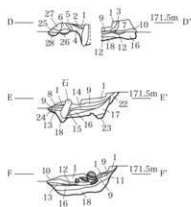
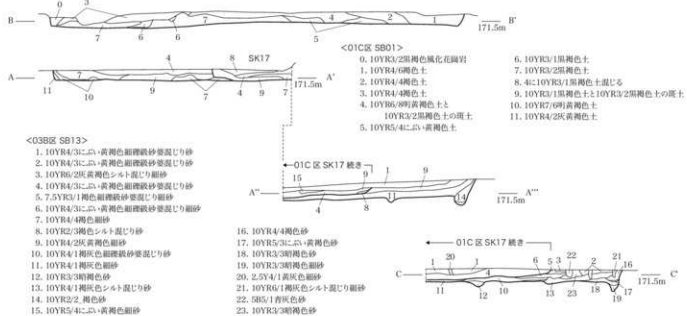
第51图 SB028(1/50)

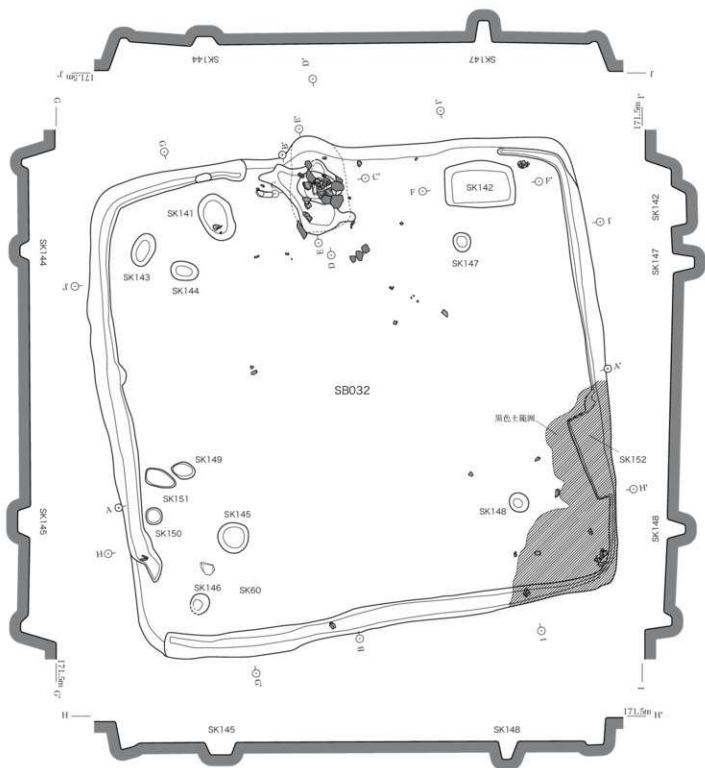


第52図 SB027(1/50)



第 53 図 SB031(1/50)

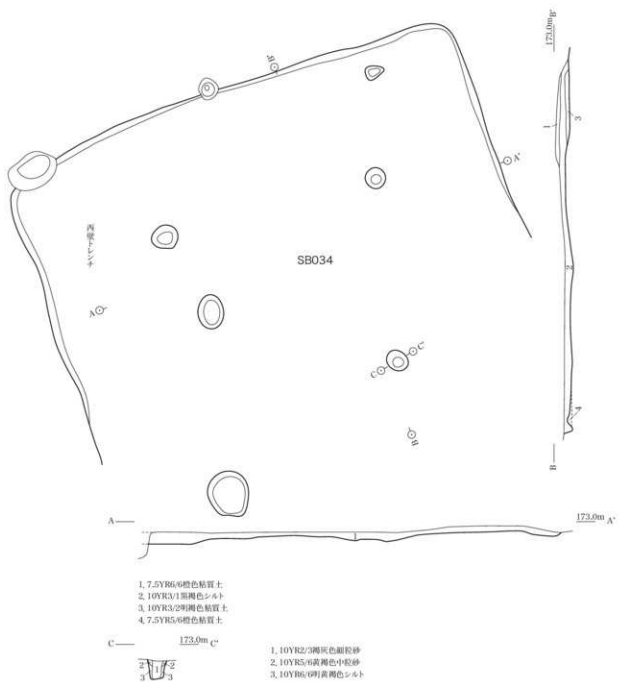
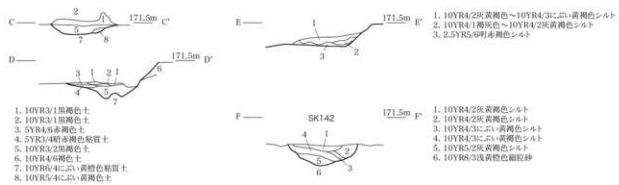




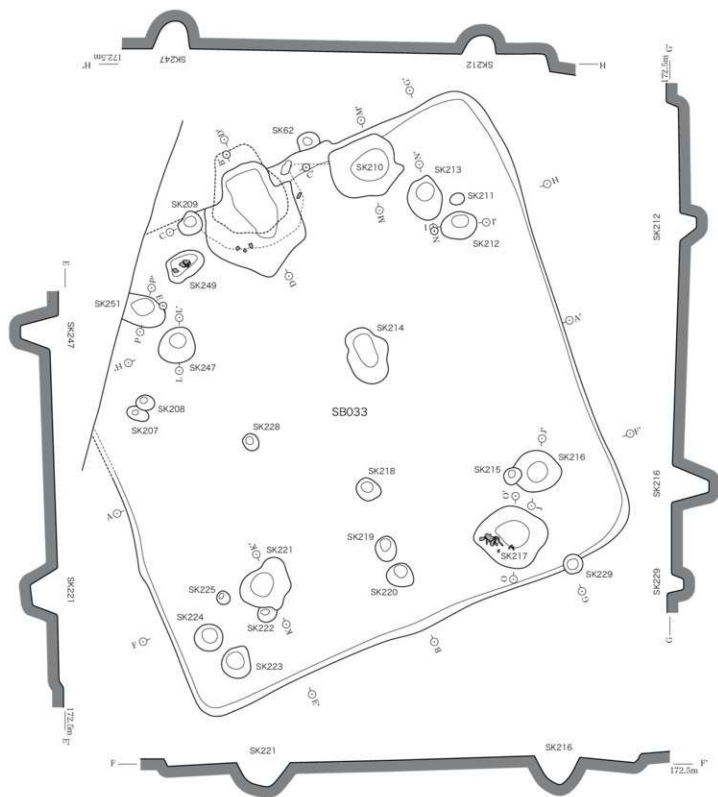
- |                 |                  |                                 |                                 |
|-----------------|------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 1. 10YR6/8明黄褐色土 | 8. 10YR3/2蓝褐色土   | 15. 10YR4/4褐色土                  | 22. 10YR4/2灰黄褐色土                |
| 2. 10YR5/2灰黄褐色土 | 9. 10YR5/6黄褐色土   | 16. 10YR5/4C <sub>25</sub> 黄褐色土 | 23. 10YR4/2灰黄褐色土                |
| 3. 10YR5/6黄褐色土  | 10. 10YR3/1蓝褐色土  | 17. 10YR3/1蓝褐色土                 | 24. 10YR3/3C <sub>25</sub> 黄褐色土 |
| 4. 10YR5/2灰黄褐色土 | 11. 10YR3/1蓝褐色土  | 18. 10YR4/3C <sub>25</sub> 黄褐色土 | 25. 10YR4/2灰黄褐色土                |
| 5. 10YR5/6黄褐色土  | 12. 10YR3/3M黄褐色土 | 19. 10YR3/2蓝褐色土                 | 26. 10YR4/4褐色土                  |
| 6. 10YR5/2灰黄褐色土 | 13. 10YR4/4褐色土   | 20. 7.5YR3/3M黄褐色土               | 27. 10YR4/2灰黄褐色土                |
| 7. 10YR5/6黄褐色土  | 14. 10YR6/6明黄褐色土 | 21. 7.5YR3/2蓝褐色土                |                                 |

第54图 SB032(1/50)

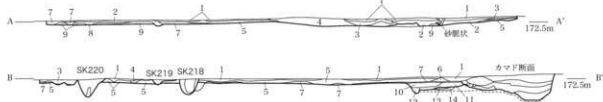




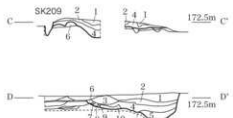
第55図 SBO34(1/50)



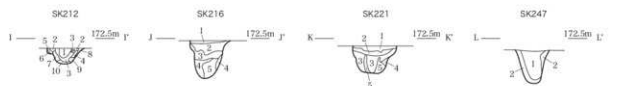
第56図 SB033(1/50)



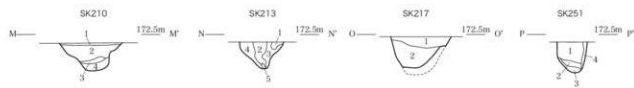
- |                            |                          |                       |
|----------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1. 7.5YR3/1黒褐色砂            | 6. 5Y6/2灰オリーブ色細砂         | 11. 10YR6/3(こ)い・黄褐色細砂 |
| 2. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり砂      | 7. 2.5Y5/1黄灰色細砂          | 12. 2.5Y4/1黄灰色細砂      |
| 3. 2.5Y5/1黄灰色シルト混じり細砂      | 8. 10YR4/3(こ)い・黄褐色ヤハ混じり砂 | 13. 10YR6/2灰黄褐色細砂     |
| 4. 7.5YR5/4(こ)い・褐色シルト混じり細砂 | 9. 2.5Y5/1黄灰色細砂          | 14. 10YR6/3(こ)い・黄褐色細砂 |
| 5. 10YR5/2灰黄褐色細砂           | 10. 10YR6/2灰黄褐色細砂        |                       |



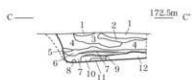
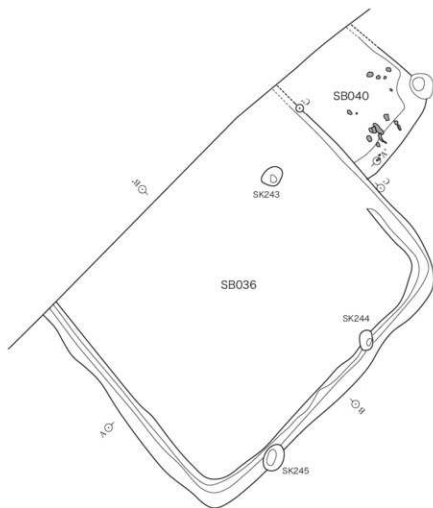
- |                       |
|-----------------------|
| 1. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり砂 |
| 2. 10YR3/2灰褐色砂        |
| 3. 2.5YR5/8明赤褐色細砂質黄土  |
| 4. 10YR3/4暗褐色細砂       |
| 5. 10YR4/2灰黄褐色ヤハ混じり細砂 |
| 6. 7.5YR5/4(こ)い・褐色砂   |
| 7. 2.5YR5/8明赤褐色細砂質黄土  |
| 8. 7.5YR5/3(こ)い・褐色砂   |
| 9. 7.5YR6/4(こ)い・褐色細砂  |
| 10. 2.5Y6/3(こ)い・黄色細砂  |



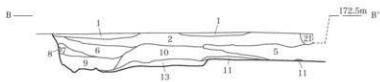
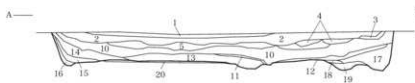
- |                        |                      |                      |                            |
|------------------------|----------------------|----------------------|----------------------------|
| 1. 10Y5/1灰色細砂          | 1. 10YR3/1褐色砂        | 1. 10YR4/2灰黄褐色細砂     | 1. 10YR4/3(こ)い・黄褐色シルト混じり細砂 |
| 2. 10Y5/1灰色砂           | 2. 10YR4/4褐色細砂       | 2. 10YR3/4暗褐色細砂      | 2. 10YR6/2灰黄褐色シルト混じり細砂     |
| 3. 7.5YR4/4褐色細砂        | 3. 10YR3/3暗褐色細砂      | 3. 7.5YR2/褐色細砂       |                            |
| 4. 2.5Y6/2灰黄色細砂        | 4. 10YR6/4(こ)い・黄褐色細砂 | 4. 7.5YR5/9明褐色細砂     |                            |
| 5. 10YR4/2灰黄色細砂        | 5. 7.5YR3/3暗褐色細砂     | 5. 10YR4/3(こ)い・黄褐色細砂 |                            |
| 6. 7.5YR3/1褐色シルト混じり砂   |                      |                      |                            |
| 7. 2.5Y7/3灰黄色細砂        |                      |                      |                            |
| 8. 5YR6/6棕色細砂          |                      |                      |                            |
| 9. 2.5YR3/3灰黄色細砂       |                      |                      |                            |
| 10. 2.5Y6/2灰黄色シルト混じり細砂 |                      |                      |                            |



- |                   |                      |                      |                  |
|-------------------|----------------------|----------------------|------------------|
| 1. 10YR3/3暗褐色細砂   | 1. 7.5YR5/1黄灰色細砂     | 1. 10YR2/3暗褐色砂       | 1. 7.5YR5/2灰褐色細砂 |
| 2. 5Y3/2(オ)リーブ灰色砂 | 2. 10YR4/2暗灰色細砂      | 2. 10YR5/3(こ)い・黄褐色砂質 | 2. 7.5YR4/2灰褐色細砂 |
| 3. 10YR3/4褐色砂     | 3. 2.5Y5/3黄灰色細砂      |                      | 3. 7.5YR5/2灰褐色細砂 |
| 4. 10YR4/4褐色細砂    | 4. 7.5YR6/4(こ)い・棕色細砂 |                      | 4. 2.5Y6/1黄灰色細砂  |
|                   | 5. 2.5Y6/2灰黄色細砂      |                      |                  |

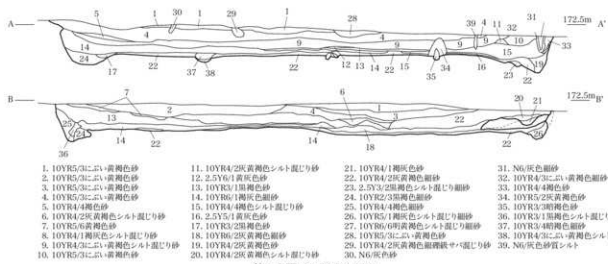
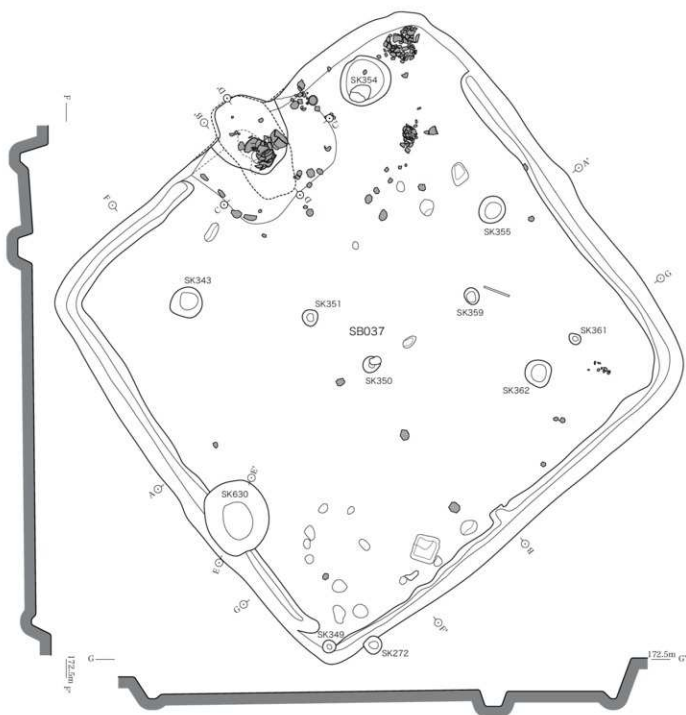


1. 10YR4/3に多い黄褐色細礫鉄屑+炭じり砂
2. 10YR4/1褐色細礫鉄屑+炭じり砂
3. 10YR4/3に多い黄褐色細礫鉄屑+炭じり砂
4. 2.5Y4/1黄灰色細礫鉄屑+炭じり細砂
5. 10YR5/2灰黄褐色砂
6. 7.5YR5/3に多い褐色細砂
7. 7.5YR3/1黒褐色細砂
8. 7.5YR4/4褐色
9. 7.5YR5/4に多い褐色シロト炭じり細砂
10. 10YR8/2に多い赤褐色細砂
11. 7.5YR8/4灰黄褐色シロト炭じり細砂



1. 2.5Y5/2暗灰黄色細礫鉄屑+炭じり砂
2. 10YR5/2灰黄褐色細礫鉄屑+炭じり砂
3. 10YR6/4に多い黄褐色細砂
4. 7.5YR3/1黒褐色細砂
5. 10YR4/2灰黄褐色砂
6. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色
7. 10YR3/2黒褐色細砂
8. 10YR4/2灰黄褐色細砂
9. 10YR3/2黒褐色細砂
10. 10YR4/2灰黄褐色シロト炭じり砂
11. 10YR6/2灰黄褐色細砂
12. 10YR3/1黒褐色細砂
13. 2.5Y4/2暗灰黄色シロト炭じり砂
14. 10YR4/3に多い黄褐色砂
15. 10YR3/3黄褐色細砂
16. 10YR6/4に多い赤褐色シロト炭じり砂
17. 10YR3/3黄褐色細砂
18. 10YR6/4に多い赤褐色細砂
19. 10YR5/4に多い黄褐色細砂
20. 10YR6/5に多い赤褐色砂
21. 10YR4/1褐色色砂

第 57 図 SB036・440(1/50)

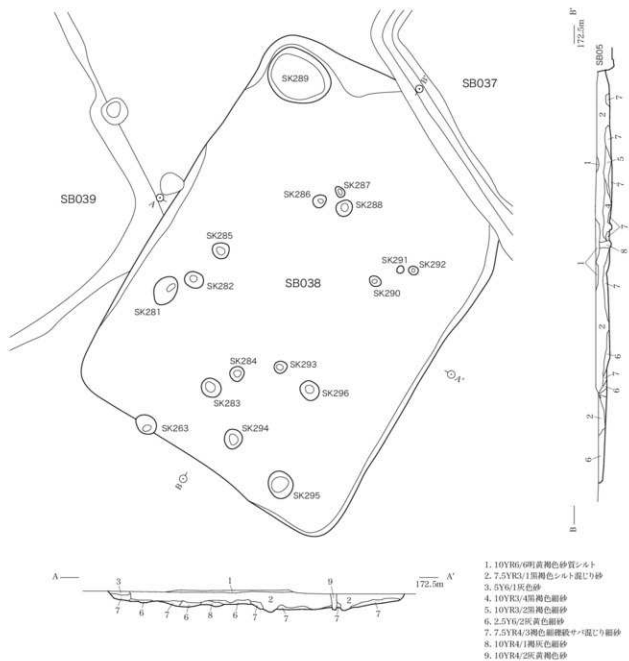


- |                        |                       |                          |                         |
|------------------------|-----------------------|--------------------------|-------------------------|
| 1. 10YR5/3に多い黄褐色砂      | 11. 10YR4/2灰黄褐色シト混じり砂 | 21. 10YR4/1褐色砂           | 31. N6/灰色細砂             |
| 2. 10YR5/3に多い黄褐色砂      | 12. 2.5Y/6/1黄灰色砂      | 22. 10YR4/2灰黄褐色細砂        | 32. 10YR4/3に多い黄褐色細砂     |
| 3. 10YR5/3に多い黄褐色砂      | 13. 10YR3/1黒褐色砂       | 23. 2.5Y/3/2黒褐色シト混じり細砂   | 33. 10YR4/4褐色砂          |
| 4. 10YR5/3に多い黄褐色砂      | 14. 10YR6/1褐色細砂       | 24. 10YR2/3黒褐色細砂         | 34. 10YR5/2灰黄褐色砂        |
| 5. 10YR4/4褐色砂          | 15. 10YR4/4褐色シト混じり砂   | 25. 10YR4/4褐色細砂          | 35. 10YR3/3褐色砂          |
| 6. 10YR4/2灰黄褐色シト混じり砂   | 16. 2.5Y/5/1黄灰色砂      | 26. 10YR5/1褐色シト混じり細砂     | 36. 10YR3/1褐色シト混じり砂     |
| 7. 10YR5/3に多い黄褐色砂      | 17. 10YR3/2黒褐色砂       | 27. 10YR6/0暗黄褐色シト混じり細砂   | 37. 10YR3/4褐色細砂         |
| 8. 10YR4/1褐色シト混じり砂     | 18. 10YR6/2灰黄褐色砂      | 28. 10YR5/3に多い黄褐色砂       | 38. 10YR4/3に多い黄褐色シト混じり砂 |
| 9. 10YR4/3に多い黄褐色シト混じり砂 | 19. 10YR4/2灰黄褐色細砂     | 29. 10YR4/2灰黄褐色細砂粘々+混じり砂 | 39. N6/灰色砂質シト           |
| 10. 10YR5/3に多い黄褐色砂     | 20. 10YR4/2灰黄褐色シト混じり砂 | 30. N6/灰色砂               |                         |

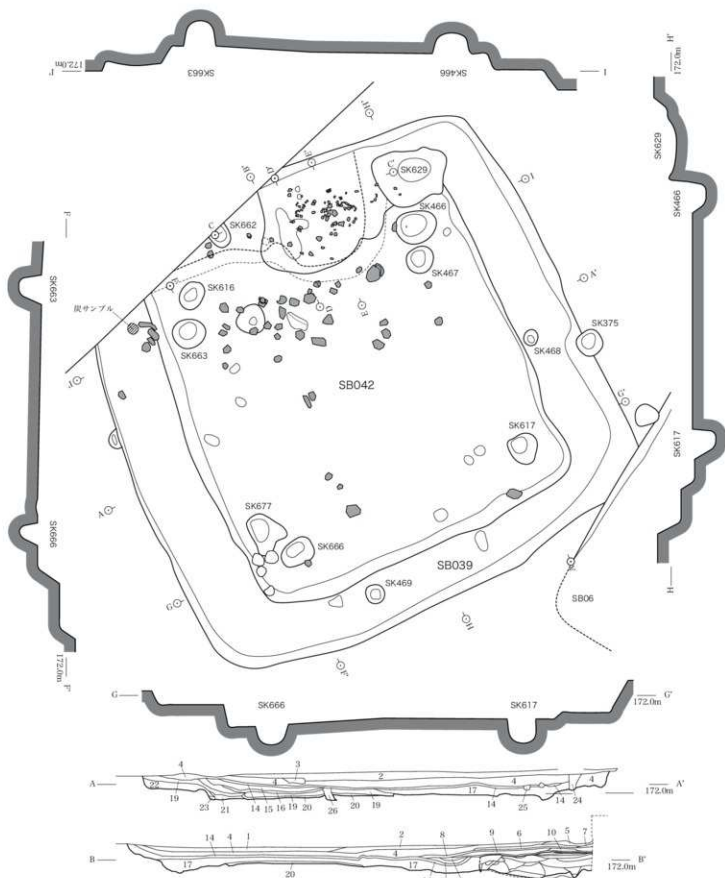
第58図 SB037(1/50)



第58図 SB037(1/50)



第59図 SB038(1/50)

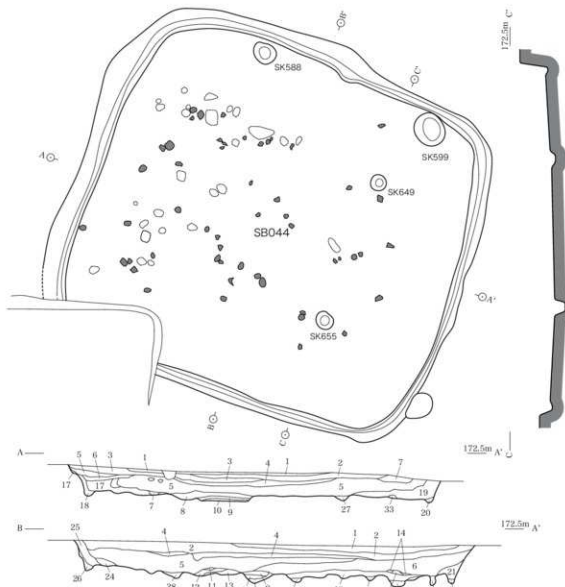


- |                   |                       |                     |                     |
|-------------------|-----------------------|---------------------|---------------------|
| 1. 10YR4/3に土、黄褐色砂 | 8. 10YR2/2灰褐色細砂       | 15. 10YR4/3に土、黄褐色細砂 | 21. 10YR4/1褐色細砂     |
| 2. 10YR4/3に土、黄褐色砂 | 9. 10YR4/2灰黄褐色細砂      | 16. 2.5Y5/1黄灰色細砂    | 22. 10YR2/2灰褐色砂     |
| 3. 10YR5/3に土、黄褐色砂 | 10. 5YR4/4に土、黄褐色砂(塊上) | 17. 10YR4/25黄褐色砂    | 23. 10YR5/3褐色細砂     |
| 4. 10YR4/2灰黄褐色砂   | 11. 2.5Y2/1黒色細砂       | 18. 10YR4/3に土、黄褐色細砂 | 24. 10YR4/2灰黄褐色砂    |
| 5. 10YR5/1褐色細砂    | 12. 2.5Y6/2灰黄色粘付シルト   | 19. 2.5Y4/1黄灰色砂     | 25. 2.5Y3/3暗オリーブ色細砂 |
| 6. 10YR4/1褐色細砂    | 13. 7.5YR5/4に土、褐色砂    | 20. 2.5Y5/1黄灰色細砂    | 26. 10YR4/2灰黄褐色細砂   |
| 7. 10YR5/2灰黄褐色細砂  | 14. 2.5Y5/1黄灰色細砂      |                     |                     |

第60図 SB039(1/50)

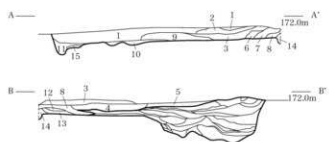
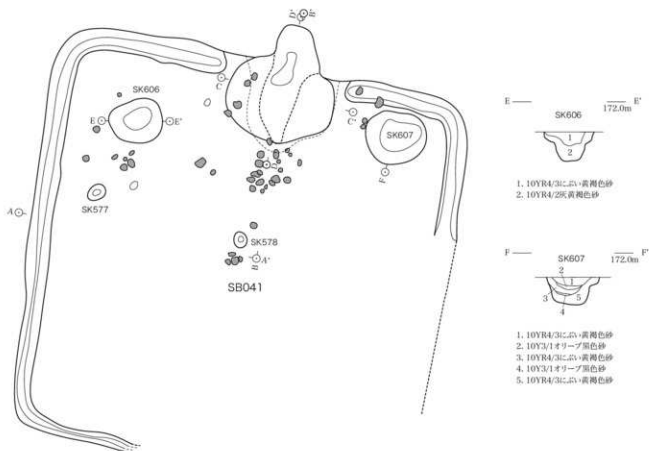


第60図 SB039(1/50)

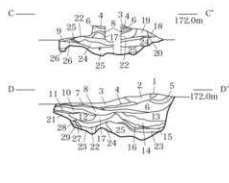


第61図 SB044(1/50)



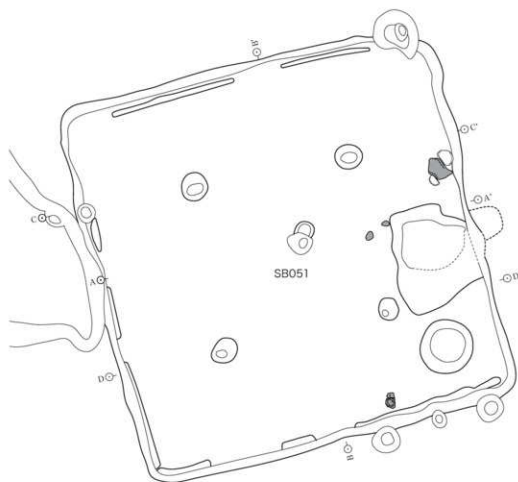


- 10YR4/1黄灰色細粒鉄砂変混じり砂
- 10YR6/3に多い灰色細砂
- 2.5Y5/2黄灰色細粒鉄砂変混じり砂
- 2.5Y5/1黄灰色細粒鉄砂変混じり砂
- 2.5Y6/1黄灰色細粒鉄砂変混じり砂
- 10YR6/2灰黄褐色細砂
- 2.5Y5/1黄灰色細粒鉄砂変混じり砂
- 10YR5/3黄褐色砂
- 10YR6/3に多い黄褐色シト混じり細砂
- 2.5Y4/1黄灰色細粒鉄砂変混じり細砂
- 2.5Y3/2黄オリーブ褐色シト混じり細砂
- 10YR3/3褐色シト混じり砂
- 7.5Y4/1灰色
- 2.5Y4/1黄灰色細砂
- 2.5Y5/2黄灰色細粒鉄砂変混じり細砂



- 5Y4/1灰色細粒鉄砂変混じり砂
- 10YR5/1黄灰色細粒鉄砂変混じり砂
- 2.5Y6/1黄灰色細砂
- N6/1灰色細砂
- 10YR3/1黄褐色砂
- 10YR6/2灰黄褐色細砂
- 10YR6/1黄褐色砂
- 10YR6/3に多い黄褐色細砂
- 10YR5/1黄褐色
- 10YR4/1黄灰色細粒鉄砂変混じり砂
- 10YR4/1黄灰色細粒鉄砂変混じり砂
- 2.5Y3/1褐色
- 7.5YR5/4に多い褐色細砂
- 10YR6/1黄褐色細砂
- 10YR5/1黄褐色細砂
- 10YR6/1黄褐色細砂
- 10YR5/1黄褐色細砂
- 10YR5/1黄褐色細砂
- 10YR5/1黄褐色細砂
- 7.5YR4/1黄褐色シト混じり細砂
- 10YR5/1黄褐色細砂
- 10YR5/2灰黄褐色細粒鉄砂変混じり細砂
- 2.5YR4/3褐色細砂
- 10YR3/2褐色砂
- 10YR4/1黄褐色シト混じり砂
- 10YR5/1黄褐色細砂
- 7.5Y5/1灰色細砂
- 7.5Y4/4褐色砂
- 10YR4/1黄褐色二酸化マンガンを凝
- 10YR5/2灰黄褐色シト混じり砂

第 62 図 SBO41(1/50)



- 1. 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト
- 2. 10YR3/1黒褐色シルト
- 3. 10YR3/2灰褐色粘質土
- 4. 10YR5/4に多い黄褐色粘質土

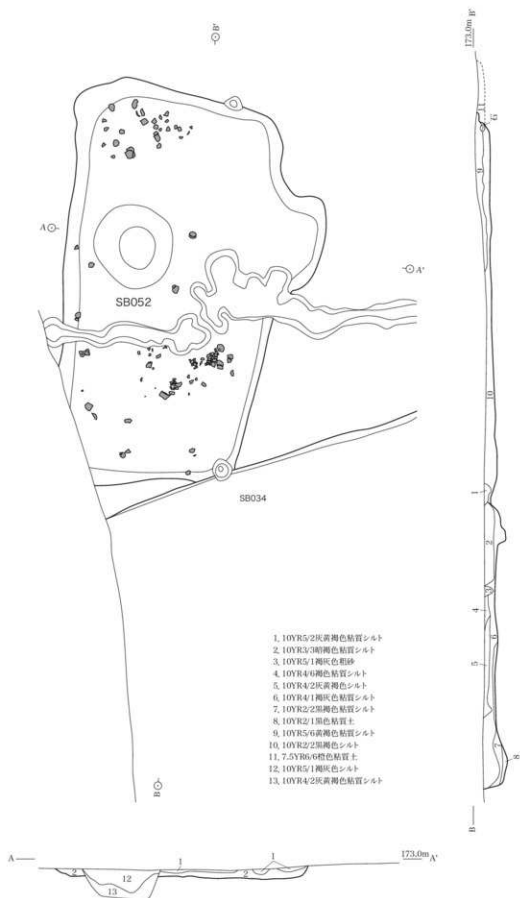


- 1. 10YR2/3黒褐色砂質土
  - 2. 10YR4/6褐色砂質土
  - 3. 10YR3/2灰褐色シルト
  - 4. 10YR2/3黒褐色土
- 1. 10YR2/3黒褐色砂質土
  - 2. 10YR5/6黄褐色粗粒砂
  - 3. 10YR6/9明黄褐色粗粒砂

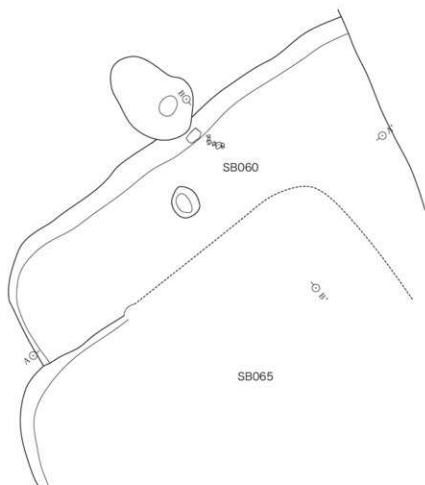


- 1. 10YR2/3黒褐色粘質土
  - 2. 10YR2/3黒褐色粘質土
- 1. 10YR2/3黒褐色砂質土
  - 2. 10YR2/2黒褐色シルト
  - 3. 10YR5/6黄褐色粗粒砂

第 63 図 SB051(1/50)

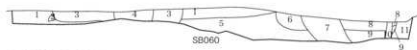


第64図 SB052(1/50)



A—

174.5m<sub>A</sub>



- 1, 10YR8/3浅黄褐色粗粒砂砾<L>まる
- 2, 10YR8/1灰E中粒砂鉄分混
- 3, 10YR8/3浅黄褐色粗粒砂
- 4, 10YR8/1灰E粗粒砂
- 5, 10YR4/4褐色粗粒砂
- 6, 10YR5/3灰色-黄褐色中粒砂
- 7, 10YR4/1褐色粗粒砂
- 8, 10YR4/3灰色-黄褐色
- 9, 10YR3/4暗褐色粗粒砂
- 10, 10YR7/1灰白シルト
- 11, 10YR4/4褐色粗粒砂

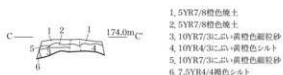
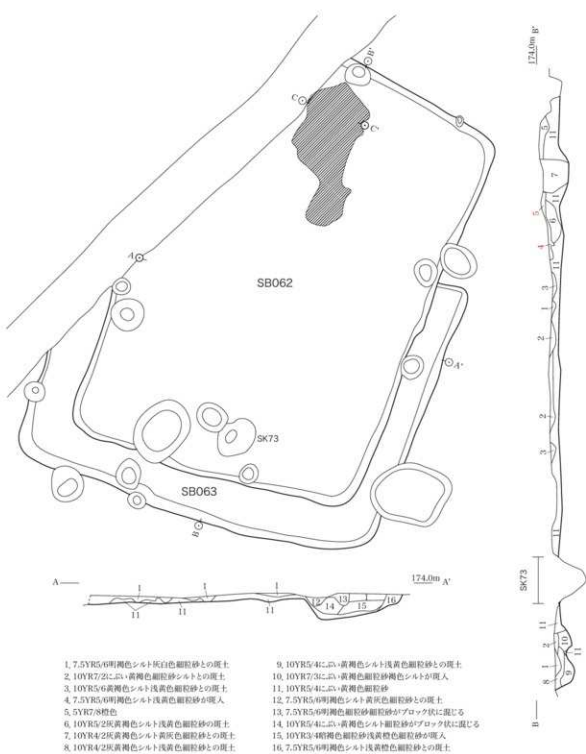
B—

174.5m<sub>B</sub>

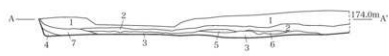
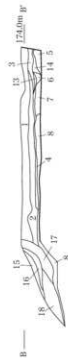
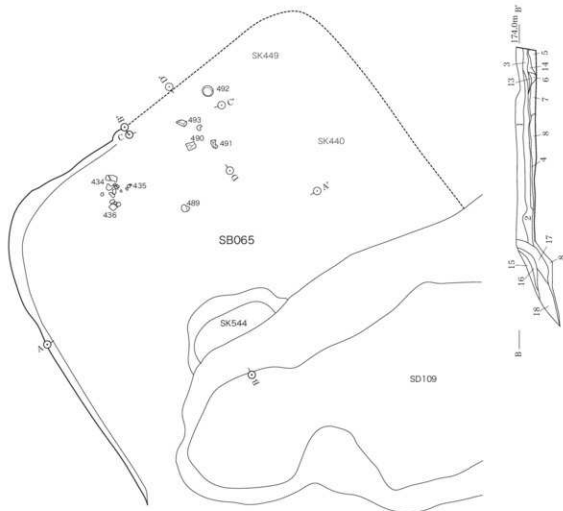


- 1, 10YR4/4暗褐色粗粒砂
- 2, 10YR6/4灰色-黄褐色粗粒砂
- 3, 10YR6/4灰色-黄褐色粗粒砂
- 4, 10YR6/3灰色-黄褐色粗粒砂
- 5, 10YR8/1灰白粗粒砂鉄分混
- 6, 10YR6/4灰色-黄褐色粗粒砂
- 7, 10YR8/1灰白粗粒砂

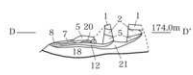
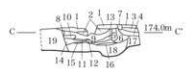
第65図 SB060(1/50)



第 66 図 SB062-063(1/50)

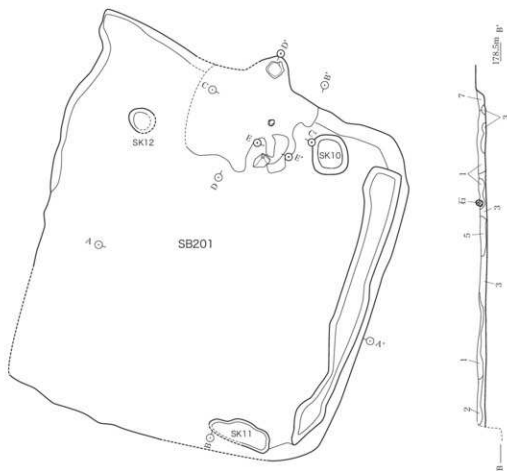


- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1. 10YR5/1 褐色細粒砂   | 10. 10YR5/4c 赤褐色シルト  |
| 2. 10YR5/6 黄褐色中粒砂  | 11. 10YR5/2 黄褐色中粒砂   |
| 3. 10YR4/2 黄褐色粗粒砂  | 12. 10YR4/6 褐色砂質シルト  |
| 4. 10YR5/2c 赤褐色粗粒砂 | 13. 2.5YR4/6 赤褐色粗粒砂  |
| 5. 10YR4/1 褐色シルト   | 14. 10YR4/1 褐色細粒砂    |
| 6. 2.5YR4/6 赤褐色シルト | 15. 10YR8/2 灰白色砂利    |
| 7. 10YR4/2 黄褐色粗粒砂  | 16. 10YR7/1 灰白色粗粒砂   |
| 8. 10YR4/1 褐色細粒砂   | 17. 10YR4/2 黄褐色粗粒砂   |
| 9. 10YR4/1 褐色細粒砂   | 18. 10YR8/1 灰白色砂質シルト |

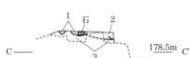


- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1. 10YR8/2 灰白色細粒砂   | 12. 10YR7/4c 赤褐色細粒砂  |
| 2. 10YR6/2 黄褐色細粒砂   | 13. 10YR7/2c 赤褐色細粒砂  |
| 3. 10YR6/1 褐色細粒砂    | 14. 10YR2/1 黒色炭化物層   |
| 4. 10YR1/1 褐色細粒砂    | 15. 10YR1/7/1 黒色炭層   |
| 5. 2.5YR5/8 赤褐色細粒砂  | 16. 7.5YR5/6 黄褐色中粒砂  |
| 6. 10YR7/2c 赤褐色細粒砂  | 17. 10YR7/1 灰白色シルト   |
| 7. 2.5YR8/1 灰白色細粒砂  | 18. 10YR5/2 黄褐色砂質シルト |
| 8. 2.5YR5/8 赤褐色細粒砂  | 19. 10YR6/2 黄褐色細粒砂   |
| 9. 10YR7/2c 赤褐色細粒砂  | 20. 10YR6/8 赤褐色シルト   |
| 10. 10YR6/6 黄褐色細粒砂  | 21. 7.5YR5/6 黒色中粒砂   |
| 11. 10YR7/2c 赤褐色細粒砂 |                      |

第 67 図 SB065(1/50)



1. 10YR3/1 黒褐色細粒砂
2. 10YR2/1 黒色シルト
3. 10YR3/2 黒褐色細粒砂
4. 10YR3/2 黒褐色細粒砂
5. 10YR6/4c 赤黄褐色細粒砂
6. 10YR6/6 赤褐色細粒砂
7. 10YR3/2 黒褐色細粒砂

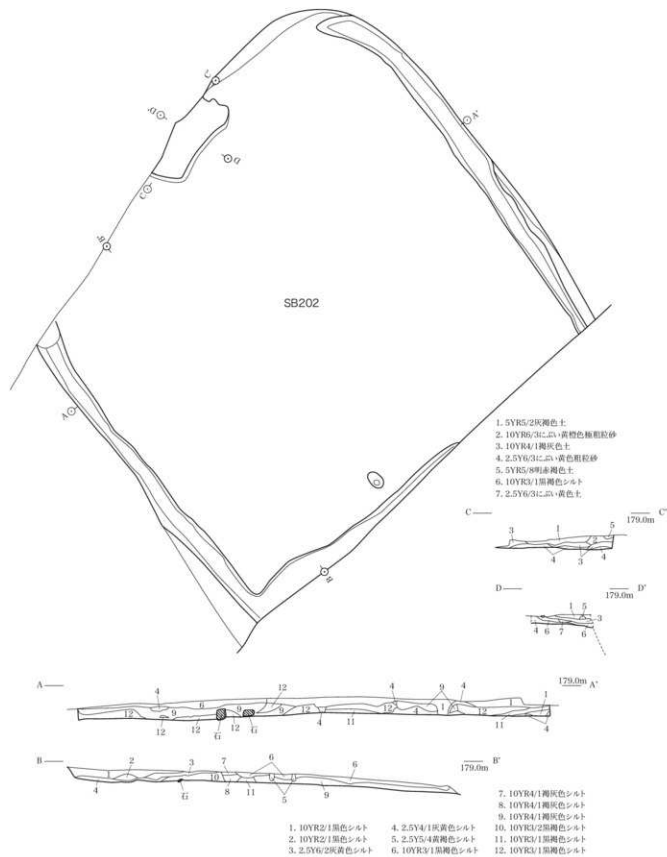


1. 10YR7/8 黄褐色粘質土
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
3. 10YR3/2 黒褐色シルト
4. 10YR2/1 黒色シルト



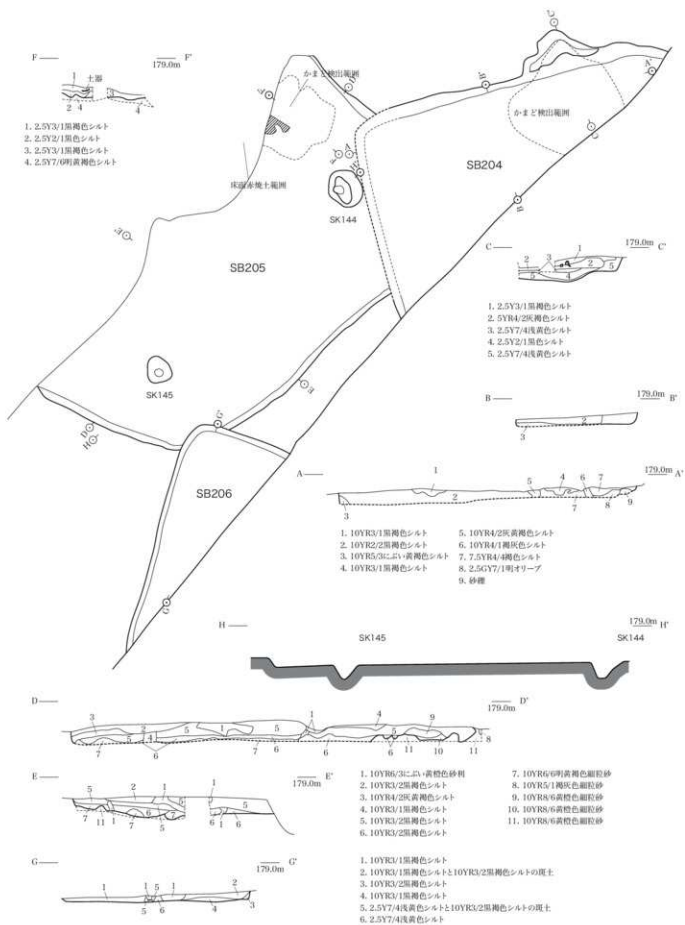
1. 2.5Y7/8 黄褐色中粒砂
2. 2.5YR5/6 暗赤褐色中粒砂

第 68 図 SB201(1/50)

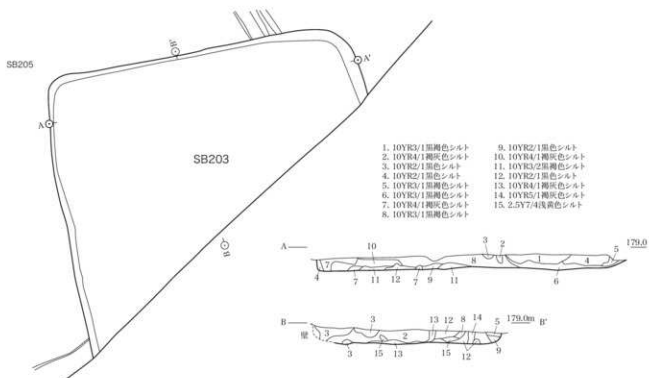


第69図 SB202(1/50)

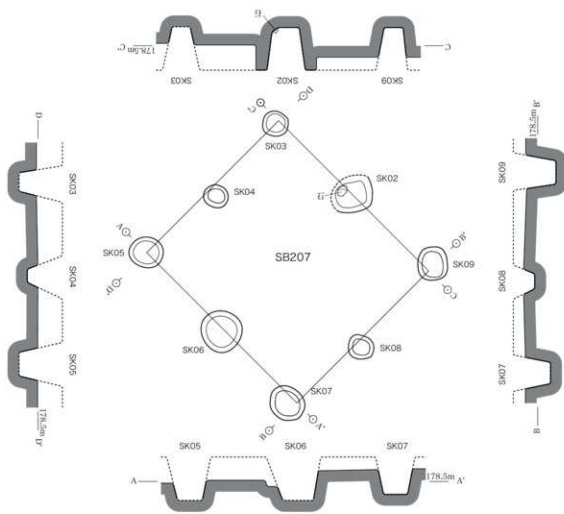




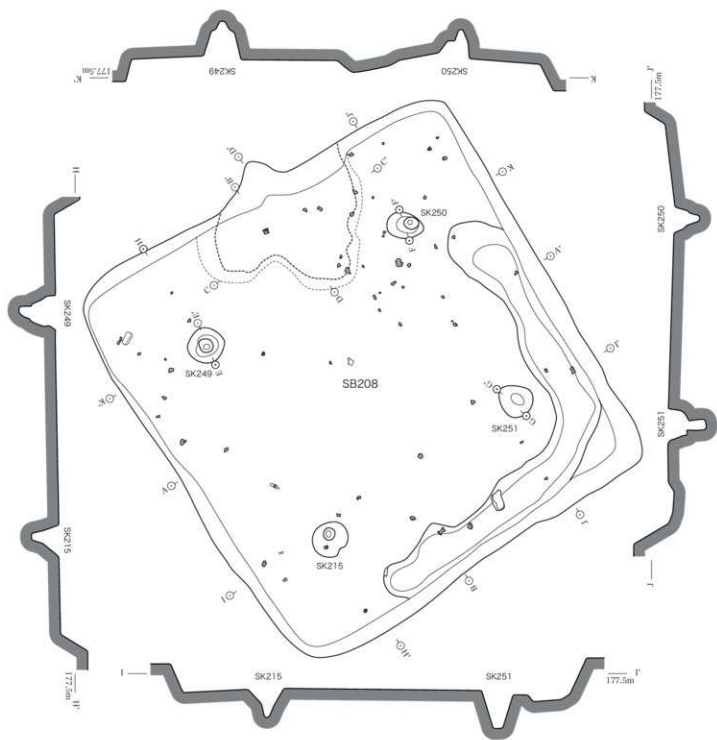
第70図 SB204-206(1/50)



第 71 図 SB203(1/50)

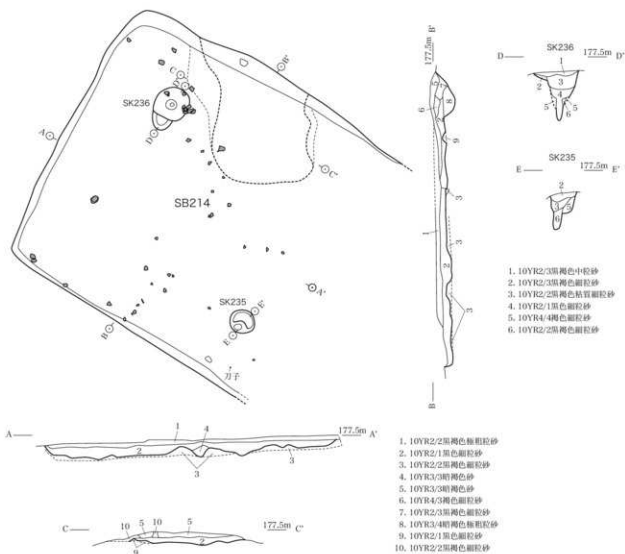


第 72 図 SB207(1/50)

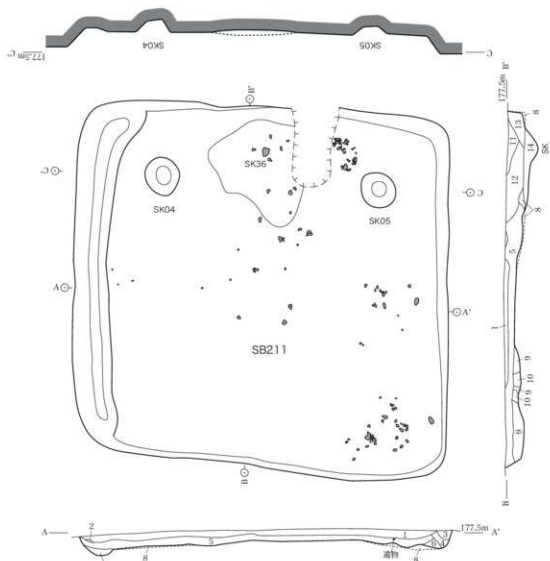


第73圖 SB208(1/50)



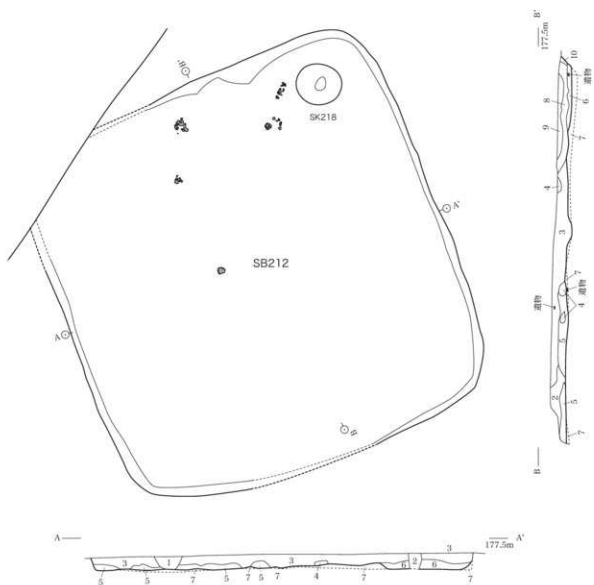


第75圖 SB214(1/50)



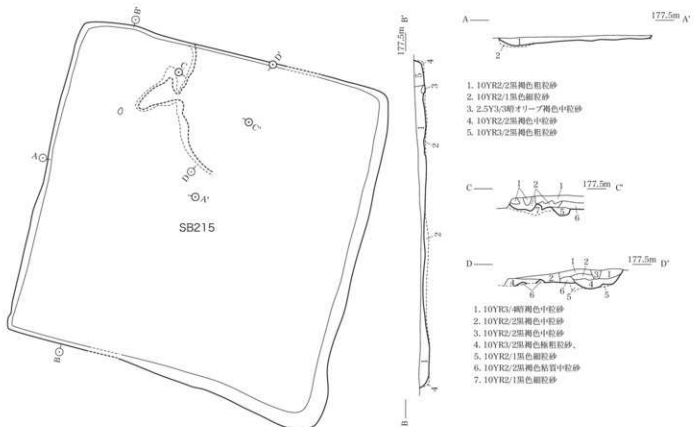
- |                              |                       |
|------------------------------|-----------------------|
| 1. 10YR2/3紫褐色粗粒砂             | 8. 10YR2/2紫褐色粘質極細粒砂   |
| 2. 10YR2/1黒色粗粒砂              | 9. 10YR2/1暗褐色極細粒砂     |
| 3. 2.5Y3/2黒褐色極細粒砂            | 10. 10YR2/2紫褐色細粒砂     |
| 4. 10YR2/1黒色極細粒砂             | 11. 10YR2/2紫褐色粗粒砂     |
| 5. 10YR2/2紫褐色風化花崗岩5mm大を含む粗粒砂 | 12. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粗粒砂 |
| 6. 10YR2/1黒色風化花崗岩5mm大を含む粗粒砂  | 13. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粗粒砂 |
| 7. 10YR1.7/1黒色粘質極細粒砂         | 14. 10YR2/1黒色粗粒砂      |

第76図 SB211(1/50)

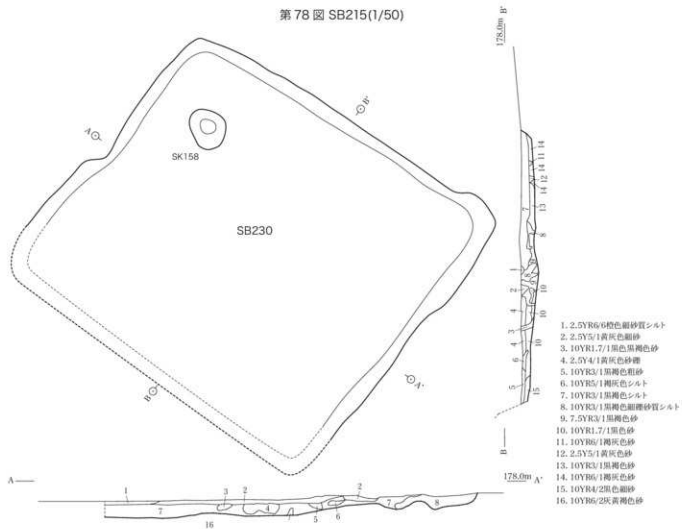


- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 7.5YR3/2黑褐色粗粒砂  | 6. 10YR2/1黑色細粒砂   |
| 2. 10YR3/2黑褐色細粒砂   | 7. 10YR2/2黑褐色細粒砂  |
| 3. 7.5YR2/2黑褐色極粗粒砂 | 8. 10YR3/4暗褐色細粒砂  |
| 4. 10YR4/6褐色中粒砂    | 9. 10YR3/3暗褐色中粒砂  |
| 5. 10YR2/2黑褐色中粒砂   | 10. 10YR2/2黑褐色中粒砂 |

第 77 圖 SB212(1/50)

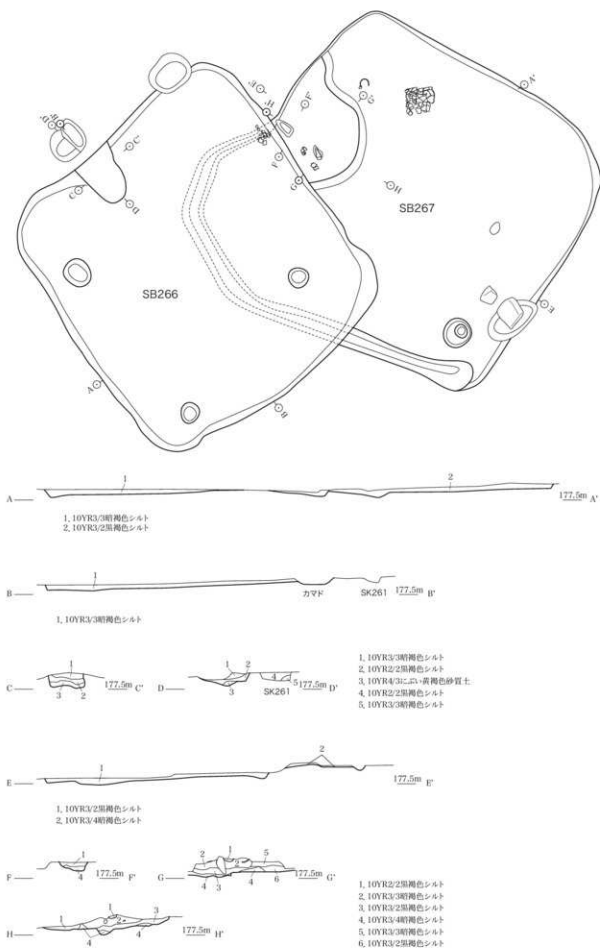


第78図 SB215(1/50)

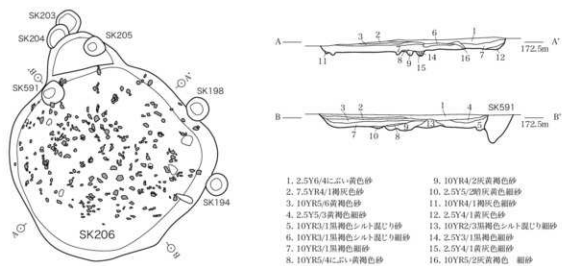
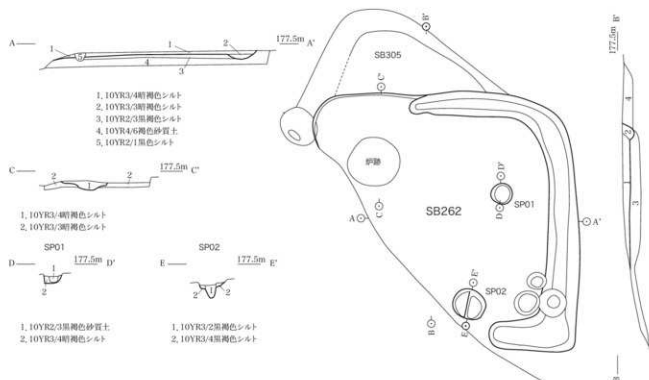


第79図 SB230(1/50)





第 80 図 SB266・267(1/50)



## 第5節 古代の遺構

ここでは7世紀後半から平安時代初期にかけての時期の遺構が対象となる。主要な竪穴住居を取り上げる。

南部地区

(1)00A区

SB018(第83図)

上位段丘の斜面に近接した位置にある。小形の竪穴住居で長軸2.7m短軸2.3mを測る。長軸は南北方向である(N-22°-W)。南向き斜面に位置し、南半の削平が著しい。北辺に長い煙出しをもつ竈がある。竈の構造は確認されなかった。支脚及び竈掘り込みより土師器甕などが出土した。

(2)03B区

SB043(第84図)

上位段丘面に位置する。削平により遺存状況は悪く、南半は消失している。北辺に竈の高まりと支脚の一部を検出した。周溝、柱穴は確認されなかった。床面上より須恵器等が出土した。

(3)04Cb区

SB064(第85図)

上位段丘面上である。削平と中世遺構に切られ、遺存状況は悪い。周溝、柱穴、竈は検出されなかった。出土遺物は少量である。

北部地区

(1)02B区

SB226(第24図)

上位段丘端に位置する。近年の耕作で遺存状況は悪い。段丘斜面の削平により、西半は消失している。東辺に竈があり、竈下の落ち込みを検出した。周溝、柱穴は確認できない。南東隅に貯蔵穴の土坑を検出した。床面と竈下の落ち込みより比較的まとまって土師器、須恵器が出土する。

(2)04Ab区

SB263(第87図)

上位段丘に位置する。削平により遺存状況は悪い。長軸は南北方向である(N-0°-W)。長軸3.6m短軸3.3mを測る。竈は検出されなかった。柱穴4基を確認する。周溝は全周する。出土遺物は少量である。

SB272(第86図)

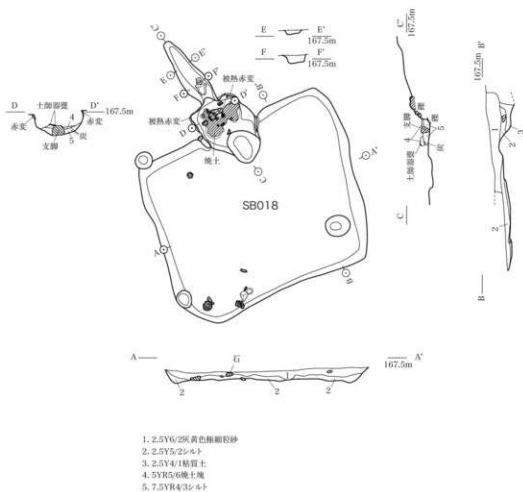
上位段丘に位置する。削平が著しく、遺存状況は悪い。長軸は東西方向である(N-53°-W)。長軸4.4m短軸3.4mを測る。竈、周溝は検出できない。柱穴は2基確認された。出土遺物は少量である。

SB278(第37図)

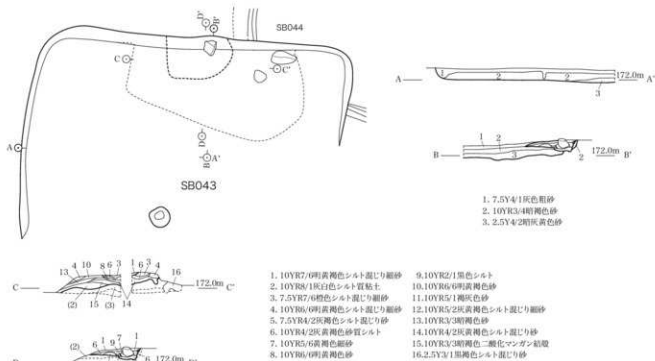
上位段丘に位置する。削平が著しく、遺存状況は悪い。長軸は南北方向である(N-3°-W)。長軸4.3m短軸4.0mを測る。竈、周溝、柱穴は検出できない。出土遺物は少量である。

SB287(第88図)

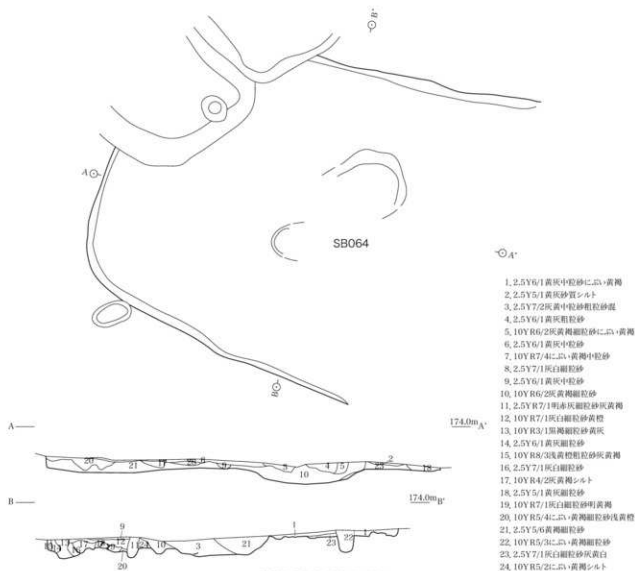
上位段丘に位置する。斜面に接し、削平が著しく、遺存状況は悪い。竈、周溝、柱穴は検出できない。出土遺物は少量である。(酒井俊彦)



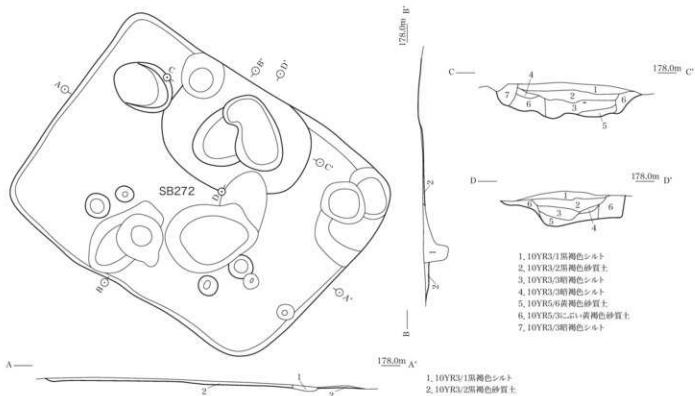
第83図 SB018(1/50)



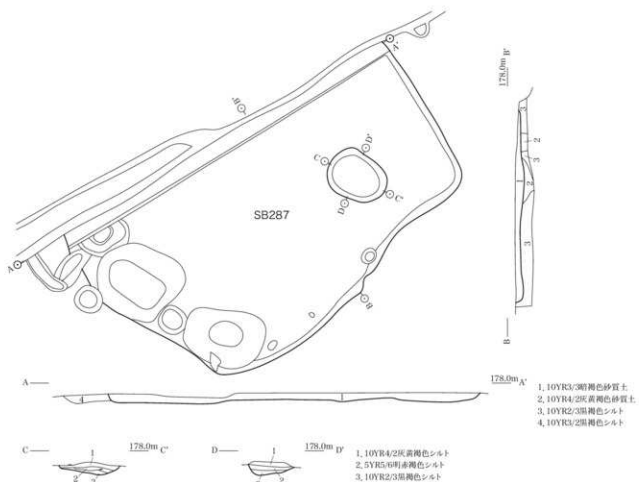
第84図 SB043(1/50)



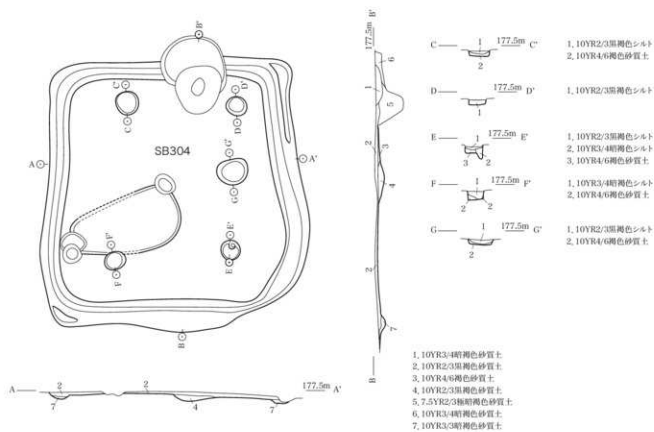
第85図 SB064(1/50)



第86図 SB272(1/50)



第87図 SB263(1/50)



第88図 SB287(1/50)

## 第6節 中世の遺構

この時期の遺構は12世紀後半から16世紀代を対象とする。主な遺構としては掘立柱建物、溝、土坑、井戸がある。

### 1. 掘立柱建物・竪穴状建物

#### (1)01A区

調査区北部に掘立柱建物の一群が検出された。下位段丘上に位置する。

##### SBO06(第90図)

もっとも北に位置する。2×4間(4.8m×5.8m)、長軸N-59°-Wである。削平により北辺の柱穴は検出されない。遺物は少量で、中世12-13世紀の山茶碗が柱穴から出土した。

##### SBO07(第92図)

西端に位置する。1×2間(2.6m×4.3m)、長軸N-36°-Eである。遺物は検出されないが、この時期と考える。

##### SBO08(第93図)

SBO07に並列する。1×2間(1.7m×4.4m)、長軸N-28°-Wである。遺物は検出されないが、この時期と考える。

##### SBO09(第94図)

SBO06と並列する。1×3間(2.3m×6.6m)、長軸N-70°-Wである。遺物は少量であるが、柱穴内より13世紀代の山茶碗が検出された。

##### SBO10(第91図)

SBO08と並列する。1×1間(2.2m×3.1m)、長軸N-32°-Eである。遺物は少量であるが、柱穴内より13世紀代の山茶碗が検出された。

#### (2)00A区

調査区南半に掘立柱建物が検出され、出土遺物と方位からこの時期に属す。すべて、上位段丘上である。

##### SBO20

3棟集中する中の一棟である。1×1間(2.2m×2.0m)、長軸N-33°-Eである。遺物は検出されなかった。

##### SBO21

単独で西部に位置する。1×1間(2.3m×1.8m)、長軸N-52°-Eである。遺物は検出されなかった。時期を確定できないが、方位などからこの時期に属す。

##### SBO22(第95図)

3棟から離れた位置にある。1×2間(2.7m×3.0m)、長軸N-61°-Eである。遺物は少量であるが、柱穴内より中世の土師器皿が検出された。

##### SBO23(第96図)

3棟から離れた位置にある。1×1間(2.8m×3.2m)、長軸N-37°-Eである。遺物は柱穴内より山茶碗、土師器皿が検出された。

##### SBO24

近接した3棟のひとつである。1×2間(2.4m×3.3m)、長軸N-51°-Wである。遺物は検出されなかった。軸方向と位置からこの時期とする。

#### (3)03A区

SB026(第97図)

単独で検出された。1×2間(2.6m×2.5m)、長軸N-1°-Eである。遺物は少量であるが、柱穴内より中世の土師器皿が検出された。建物の大きさに比べて柱穴の幅が大形である。軸方向は、約10m東に南北に走る中世溝と一致する。

(4)01B区

上位段丘上に位置する。2棟検出された。

SB029(第98図)

調査区内北部で検出された。1×1間(3.2m×3.6m)、長軸N-4°-Eである。遺物は柱穴内より土師器皿が検出された。

SB030(第99図)

調査区中央部で検出された。1×2間(3.2m×4.1m)、長軸N-86°-Wである。遺物は柱穴内より古瀬戸施軸陶器、山茶碗が検出された。

(5)03B区

柱穴と考えられる土坑が検出されているが、大部分は時期不明の柵列の柱穴である。中世の掘立柱建物の柱穴と確認できたものは少ない。上位段丘面に位置する。

SB048(第100図)

2×2間(2.7m×3.7m)、長軸N-47°-Eである。遺物は柱穴内より土師器皿、山茶碗が検出された。短軸は北東側の集落を巡る大溝の方向と一致する。

(6)04Da区

04B区から04D区は中世の集落が展開する部分である。柱穴が多数密集するが、掘立柱建物として確定できるものは少ない。集落の西側は上位段丘、東側は低位段丘で、両方の面で掘立柱建物は検出されている。

SB054(第101図)

調査区南東隅で検出され、東辺の一部が調査区外となる。3×3間(5.0m×5.3m)、長軸N-53°-Eである。遺物は柱穴内より15世紀後半の古瀬戸施軸陶器鍋皿類、山茶碗が検出された。短軸は南西側の集落を巡る大溝の方向と一致する。柱列間に柱穴が重複し、立て替えが行われている。

SB055(第89図)

竪穴状の建物である。長軸5.0短軸3.3m深さ0.2mを測る。長軸は南北方向(N-31°-W)をとる。柱穴は確認できない。中央やや北寄りに炭化物の集中が認められた。埋土中より14世紀後半から15世紀前半の古瀬戸施軸陶器、山茶碗が出土した。

(7)04Ca区

SB056(第102図)

調査区東隅で検出され、低位段丘面に位置する。2×3間(4.8m×5.9m)、長軸N-46°-Wである。遺物は柱穴内より14-15世紀の古瀬戸施軸陶器碗皿類、山茶碗が検出された。短軸は集落を分割する中央の溝群の方向と一致する。検出された9基の柱穴のうち4基に柱根が確認された。

SB057(第104図)

調査区中央で検出され、上位段丘面に位置する。大形の建物で、柱穴は大径である。13基の柱穴のうち2基で礎板、1基で礎板と柱根が遺存した。1基の柱穴が重複していることから、1回立て替えられた可能性がある。2×5間(4.7m×9.3m)、長軸N-51°-Eである。遺物は



柱穴内より14世紀後半から15世紀前半の古瀬戸施軸陶器碗皿類、山茶碗が検出された。長軸は集落を分割する中央の溝群の方向と一致する。

#### SB058(第103図)

調査区北部で検出され、低位段丘面に位置する。集落周囲の溝より外側にある。1×2間(4.0m×4.6m)、長軸N-34°-Wである。検出された6基の柱穴のうち柱根が依存するもの、礎石を遺存するもの各1基が確認された。遺物は柱穴内より14-15世紀の古瀬戸施軸陶器碗皿類、山茶碗が検出された。短軸は集落を分割する中央の溝群の方向と一致する。

#### SB066

調査区中央で検出され、上位段丘面に位置する。2×5間(3.5m×7.0m)、長軸N-54°-Eである。長軸は集落を分割する中央の溝群の方向と一致する。遺物は柱穴内より14世紀後半～15世紀前半の古瀬戸施軸陶器碗皿類、山茶碗が少量検出された。

#### SB067

調査区中央で検出され、上位段丘面に位置する。2×6間(3.3m×8.6m)、長軸N-57°-Eである。長軸は集落を分割する中央の溝群の方向と一致する。遺物は柱穴内より14世紀後半～15世紀の古瀬戸施軸陶器碗皿類、山茶碗が少量検出された。

## 2. 土坑

この時期の柱穴は調査範囲全体に多数検出された。主要な遺構のみ取り上げる。

#### 04Ca区SK964(第105図)

中世集落のほぼ中央で検出された。長軸85cm 短軸71cm 深さ37cmを測る。常滑窯産の大甕がつぶれた状態で出土した。本来は正立していたものと考えられる。遺物の時期から15世紀後半である。水だめなどの可能性がある。

#### 04Cb区SK100(第107図)

中世集落の中央北寄りで検出された。長軸319cm 短196cm 深さ41cmを測る。遺構内より、14世紀後半から15世紀前半の山茶碗、古瀬戸施軸陶器類がまとめて出土した。これらは焼土や礫に混じって出土している。

#### 04Cb区SK500(第106図)

中世集落の中央北寄りで検出された。長軸128cm 短83cm 深さ37cmを測る。中央部分を近年の溝で切られる。遺構内より13世紀代の古瀬戸施軸陶器四耳壺2個体、山茶碗がまとめて出土した。

#### 04Cb区SK352(第108図)

中世集落の中央西寄りで検出された。残存部で長7.0mである。底面は平坦である。15世紀末の古瀬戸施軸陶器が少量出土する。大きな落ち込みに近い形状で、性格は不明である。

#### 02A区SK19(第109図)

調査区北部、赤津川河谷の斜面の縁に接する。低位段丘に位置する。長軸265cm 短263cm 深さ107cmを測る。15世紀代の山茶碗・皿が少量出土する。性格は不明である。

#### 02B区SK58(第110図)

調査区北部の中世の遺構が集中する部分で検出された。上位段丘斜面下の低位段丘上に位置する。段丘斜面下に平行して走るSD207と一連のものと考えられる。長軸345cm 短275cm 深さ71cmを測る。遺構埋土中より15世紀後半の古瀬戸施軸陶器碗皿類、山茶碗

がまとまって出土した。性格は不明である。

### 3. 溝

04B区から04D区にかけて中世の遺構が集中、展開する。中世後半15世紀から16世紀前半には集落周囲に大溝を巡らせ、集落内中央を溝で分割する。主要な溝をとりあげ、他は一覧表にあげる。集落西側の大溝群を西側大溝群、東側を東側大溝群、集落中央の南西・北東方向に走る溝群を中央溝群とする。

#### a. 西側大溝群

SD053(第111-113図)

04Db区から04Da区に北西から南東に走る。Db区側は1条でDa区にかけて2条に分岐する様に見えるが、断面観察により分岐部分(SD054)が最も古く、次にそこから位置を変えたのがSD053であり、これが2時期に分かれ、計3小時期にわたる事が確認された。Db区側で最大幅6.8m、Da区で4.0m、深さ1.2mを測る。溝埋土は、基本的に上層が埋め立てのブロック土、下層が粘質土である。Db区では上層に埋め立て時の礫が多量にはいる。

SD054(第111・113図)

04Db区から04Da区に北西から南東に走る。SD053より古い。Db区ではSD053と同一位置をはしるものと考えられる。最大幅3.5m、深さ1.1mを測る。溝埋土は、上層が埋め立てのブロック土、下層が粘質土である。遺物は15世紀代の古瀬戸施軸陶器類が少量出土した。

SD055(第111・114図)

04Db区から04Da区に北西から南東に走る。切り合いはなく、1時期の遺構である。北西端の平面形は若干ふくらむ。SD054ほぼ平行して走る。最大幅7.2m、深さ0.8mを測る。溝埋土は、上層が埋め立てのブロック土、下層が粘質土である。遺物は15世紀代の古瀬戸施軸陶器類が少量出土した。

#### b. 中央溝群

SD056(第118図)

集落域の中央を北東から南西に走る溝群の中心にある。Da区途中までで、SD076に切られる。最大幅2.4m、深さ0.8mを測る。溝埋土は、上層がシルト質土、下層が粘質土である。遺物は14世紀後半から15世紀代の古瀬戸施軸陶器類、山茶碗が出土した。

SD086(第115図)

集落域の中央を北東から南西に走る溝群の中心にある。北東側がやや幅広い。最大幅2.7m、深さ0.6mを測る。溝埋土は、上層がシルト質土、下層が粘質土である。出土遺物は15世紀代の古瀬戸施軸陶器類が出土した。

SD090(第117図)

集落域の中央を北東から南西に走る溝群の北東よりで 東側大溝群のSD080の延長部分の溝である。最大幅1.6m、深さ0.6mを測る。断面U字状である。出土遺物は少ない。

SD104(第120図)

集落の区画に関わらない溝とも考えられるが、一連の溝の延長部分にある。14世紀後半から15世紀前半の古瀬戸施軸陶器、山茶碗が投棄された状態で集中して検出された。

#### c. 東側大溝群

SD080(第124図)

SD084の集落内側に部分的に存在する溝である。深さ0.5mで底面が平らな落ち込み状である。出土遺物は14世紀後半から15世紀代の古瀬戸施軸陶器類、山茶碗が出土した。

SD083(第124・125図)

溝群の中心となる溝である。SD084の上層部分で掘り返しに相当する。断面では、SD084の西側斜面に重複する形で走る。出土遺物は14世紀後半から15世紀代の古瀬戸施軸陶器類、山茶碗が出土した。

SD084(第121・124・125図)

溝群の中心となる溝である。04Cb区で最大幅8.9m、深さ1.4mを測る。溝埋土は上層がシルト質の埋め戻し土、下層が黒色粘質土である。04Cb区では溝中央に杭列が溝の走る方向に一列検出され、中・上層で加工痕のある木材などが出土した。遺構はやや湾曲しながらほぼ南北に走り、Ca区南端ではほぼ直角に東に折れる。遺物は14世紀後半から16世紀初頭までの古瀬戸施軸陶器類、山茶碗が出土した。

SD089(第116図)

集落域の北東側を北西から南東に走る溝である。SD115と同一線上にあるが、南東側は削平により消失しているものと考えられる。最大幅2.7m、深さ0.7mを測る。遺物は15世紀代の古瀬戸施軸陶器類が出土した。

SD092(第119図)

集落内から東方向に走る溝である。SD084の集落外側に屈曲する部分と平行する。集落内では幅が狭く、大溝と平行する部分は広くなる。出土遺物は14世紀後半から15世紀代の古瀬戸施軸陶器類、山茶碗が出土した。

SD093(第122図)

溝群の南端のみに確認される。新しい溝の掘り返しによって確認されるのはこの部分であるが、溝群の中心となる溝である。最大幅4.3m、深さ0.7mを測る。杭列と棒状加工材が出土した。

SD105(第126図)

溝群の東側に位置する。北端部より、南北方向から南西方向へ湾曲して集落の周囲を巡る。北端部は東西に長軸をもつ大形の土坑状で、平面形が膨らんだ形状である。長軸19.3m、短軸8.7m、深さ1.2mを測る。埋土は上中層がブロック状の埋め戻し土が主体である。遺物は15世紀代の古瀬戸施軸陶器類、山茶碗が出土した。

SD115(第123図)

集落域の北東側を北西から南東に走る溝である。調査区端で検出されたが、SD089と同一線上にあり、同時期に存在した溝と考える。最大幅3.6m、深さ0.9mを測る。遺物は15世紀代の古瀬戸施軸陶器類が少量出土した。

d. 小溝群

中世集落の東側大溝群の東側に展開する小溝群である。04B区から04Ca区東半部の低位段丘面に位置する。水田に伴う遺構と考えられる。

SD079 SD99 SD100 SD116-139(第127・128図)

全体として南北方向に並列する溝群である。北部の一部と南側では北東-南西方向である。04B区では東西に数m-10m程度の間隔で4列の溝が並ぶ。検出面は、基盤土である黒ボク土で、この面で最大幅1-1.5m、深さは0.5m以下、大部分は0.2-0.3mである。埋土は、灰白色ないし淡黄色の中粒～粗粒砂である。流水による堆積と考えられる。出土遺物は、14世紀代の山茶碗と少量の古墳時代須恵器土師器である。SD116は、上層より19世紀中葉の瀬戸窯産施

軸陶器の描鉢が投棄した状態で出土した。

e. その他の溝

SD007(第129図)

00A区の中央で検出された、コの字状に屈曲する溝である。幅1.2m深さ0.2mである。削平が著しく遺存状況は悪い。一部で焼土が検出される。14世紀代の山茶碗が少量出土している。

#### 4. 井戸

中世の井戸は5基確認された。すべて南部地区、03B区から04Ca区に集中する。

SE01(第130図)

上位段丘面に位置する。径1.3m、深さ1.6mを測る。掘方はほぼ垂直で、底部が描鉢状をなし、円礫による石組が遺存する。埋土中に薄い板材が出土したことから、本来上部に関しては、板材による平面が方形の井戸側であったと考える。最低面に完形の山茶碗が出土した。遺物より、13世紀前半の時期に属する。

SE02(第131図)

上位段丘面に位置する。径1.4m、深さ1.0mを測る。平面が方形で、掘方はほぼ垂直である。底面の四隅の板材支柱と井戸側板材が部分的に遺存し、支柱を有する板材による井戸側であったと考える。最低面に完形の瀬戸窯産施軸陶器が出土した。遺物より、15世紀後半の時期に属する。

SE03(第132図)

上位段丘面に位置する。径1.6m、深さ1.1mを測る。平面が方形で、掘方は垂直に近い。井戸側板材が部分的に遺存し、板材による平面方形の井戸側であったと考える。遺物より、15世紀後半の時期に属する。

SE04(第134図)

04Ca区の南東辺で検出した。下位段丘面に位置する。大形で径2.9m、深さ1.9mを測る。掘方は円形で、埋土はシルトのブロック土が主体となる。井戸側は四隅に支柱を有する平面方形の板材を2段以上に組んでいる。板材は厚さ4-5cmのもので一辺3ないし4枚縦に並べている。板材は最下段のみ遺存する。板を支える棧は3段確認できる。井戸底面で桶1段を出土した。井戸側中央で竹棒が直立した状態で検出された。遺物より15世紀後半の時期に属する。

SE07(第133図)

SE04に近接して検出された。下位段丘面に位置する。径1.1m、深さ0.5mを測る。平面が円形で、浅い掘方である。埋土は細粒砂である。井戸側は薄い桶材で底面がある。井戸としての機能に不明な点があるが、湧水があるため井戸とする。時期は15世紀後半の時期に属すると考える。

#### 5. その他の遺構

性格が不明な主な遺構をあげる。

SX014(第135図)

03B区の中世集落側で検出された。落ち込み状の遺構で、平面不定形、底面は大きく凹凸する。埋土より帯水していたと考えられる。出土遺物から15世紀末から16世紀初頭の時期である。

SX015(第136図)

03B 区の中世集落側で検出された。SX014 と同じ性格の遺構と考えられる。落ち込み状の遺構で、平面不定形、底面は大きく凹凸する。埋土より帯水していたと考えられる。出土遺物から 15 世紀末から 16 世紀初頭の時期である。

SX019( 第 138 図)

04Db 区の中世集落大溝である SD053 に接して検出された。落ち込み状の遺構で、底面は凹凸がある。径 2.7m、深さ 0.4m を測る。埋土中より 14-15 世紀の古瀬戸施軸陶器、山茶碗がまとも出土した。

SX025( 第 137 図)

04B 区の北端、惣作川に面する下位段丘に位置する。直径 10.3m 以上深さ 0.9m の土坑状である。埋土は砂質分が多い。底面に近い層位で 12 世紀代の山茶碗まとも出土した。

## 6. 包含層

中世の遺物包含層を扱う。

01A 区西斜面 ( 第 139 図)

赤津川河谷の東側斜面に相当する。基本層序は a 黄褐色土 b 黒褐色土 c 灰黄色土 d 黒色土である。a 中世遺物包含層、b 縄文時代包含層であり、c 及び d は無遺物層である。14 世紀代の古瀬戸施軸陶器、山茶碗が少量出土した。

00A・02C 区南斜面 ( 第 140 図)

01A 区と 02D 区の下位段丘へ下る斜面である。上層の黄褐色土、中層の褐色土層などから 14 世紀後半から 15 世紀代の山茶碗、古瀬戸施軸陶器類が出土した。

04E 区南東斜面 ( 第 141 図)

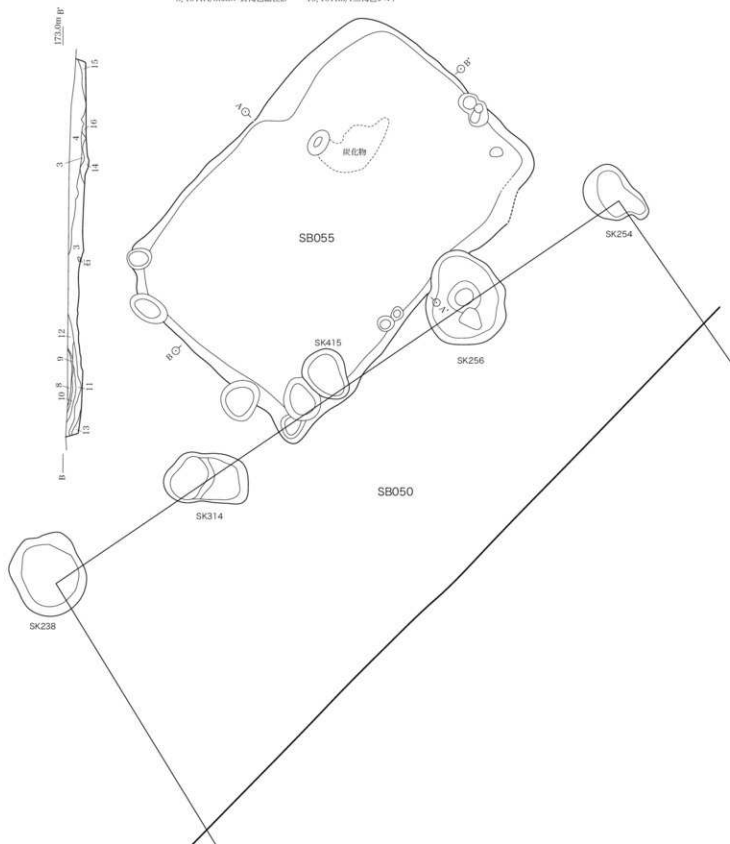
門前川の北西斜面にあたる。基本層序は a 褐色粘質土 ( 現耕作土 ) b 灰褐色粘質土 ( 旧耕作土 ) c 砂質土である。基盤面に近い部分より杭列を検出した。斜面に対して谷側に傾斜させて打たれているものが大部分である。出土遺物から、中世の時期に属すと考えられる。谷埋土中より、自然木、加工痕がある木材、木製品が検出された。また、全層序より 13 ~ 15 世紀の古瀬戸施軸陶器、山茶碗が出土した。

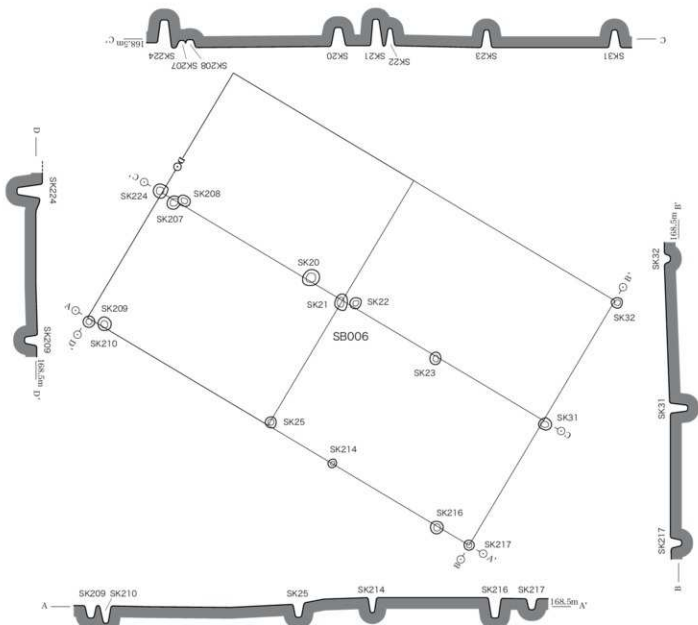
02A 区北西斜面 SX201 202 203( 第 142 図)

赤津川の傾斜面である。切り合いのある斜面削り出しで、基本層序は a 黄褐色土 b 黒褐色土である。b より 14 世紀代の山茶碗が出土した。( 酒井俊彦 )

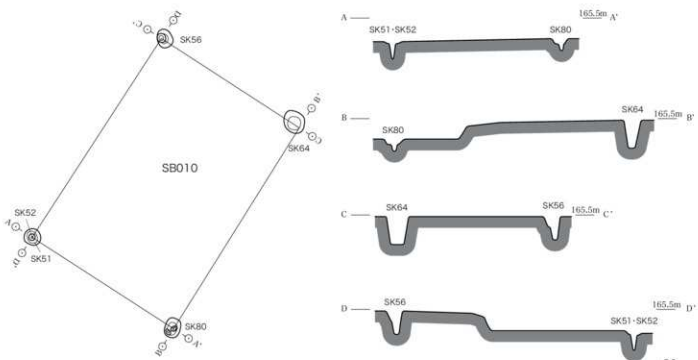


- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1, 10YR4/1 褐色細粒砂      | 9, 10YR2/1 灰色炭化物層   |
| 2, 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂    | 10, 10YR5/5 灰黄褐色シルト |
| 3, 10YR5/3 に近い 灰褐色粗粒砂 | 11, 10YR4/1 褐色シルト   |
| 4, 10YR3/1 黒褐色シルト     | 12, 10YR5/2 灰黄褐色シルト |
| 5, 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂    | 13, 10YR7/6 明黄褐色粗粒砂 |
| 6, 10YR7/1 灰白色粗粒砂     | 14, 10YR3/1 黒褐色シルト  |
| 7, 10YR5/6 黄褐色粘質シルト   | 15, 10YR5/6 黄褐色シルト  |
| 8, 10YR4/3 に近い 黄褐色粗粒砂 | 16, 10YR3/1 黒褐色シルト  |

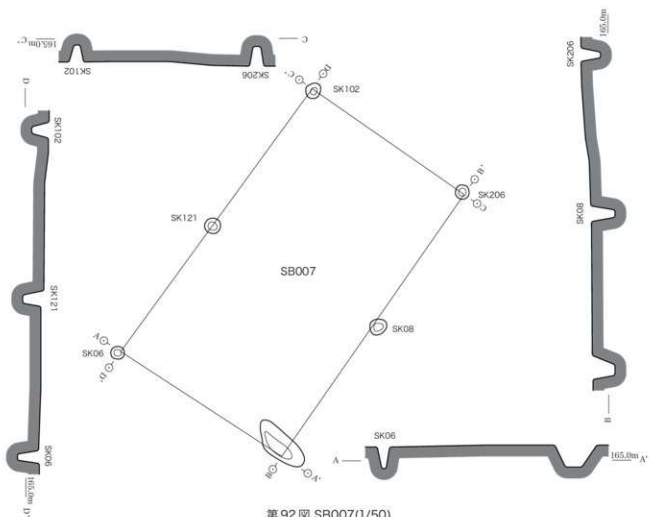




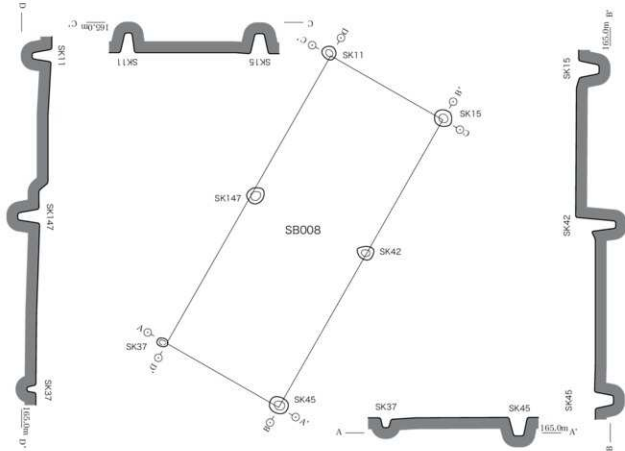
第90图 SB006(1/50)



第91图 SB010(1/50)

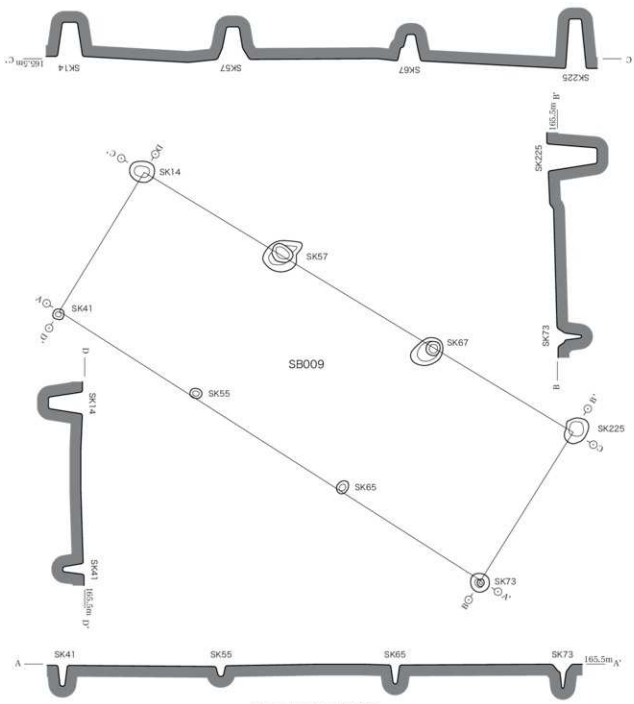


第92图 SB007(1/50)

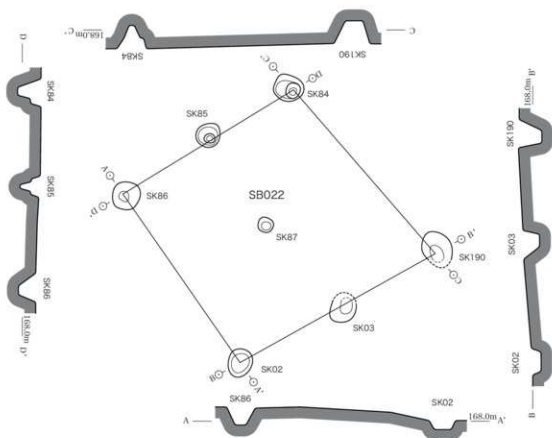


第93图 SB008(1/50)

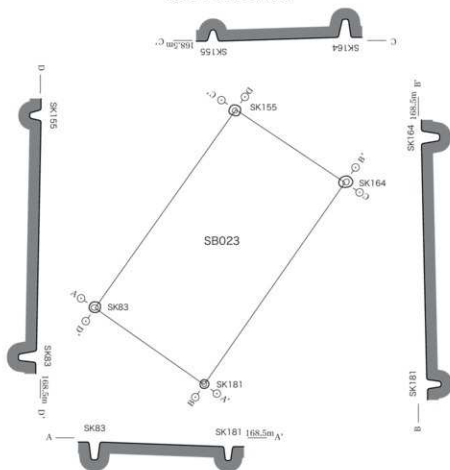




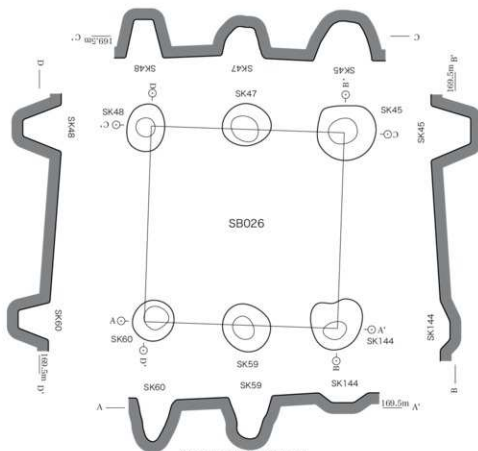
第94圖 SB009(1/50)



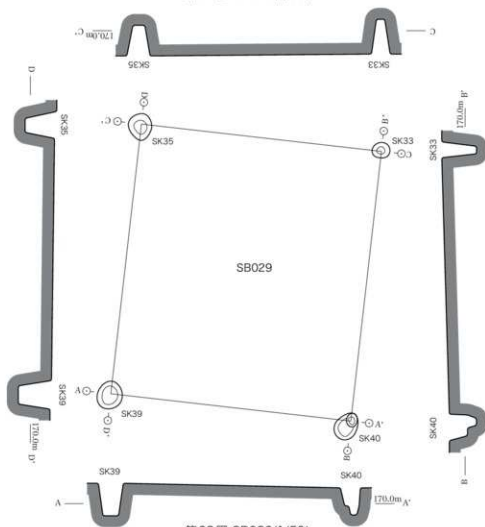
第95图 SB022(1/50)



第96图 SB023(1/50)

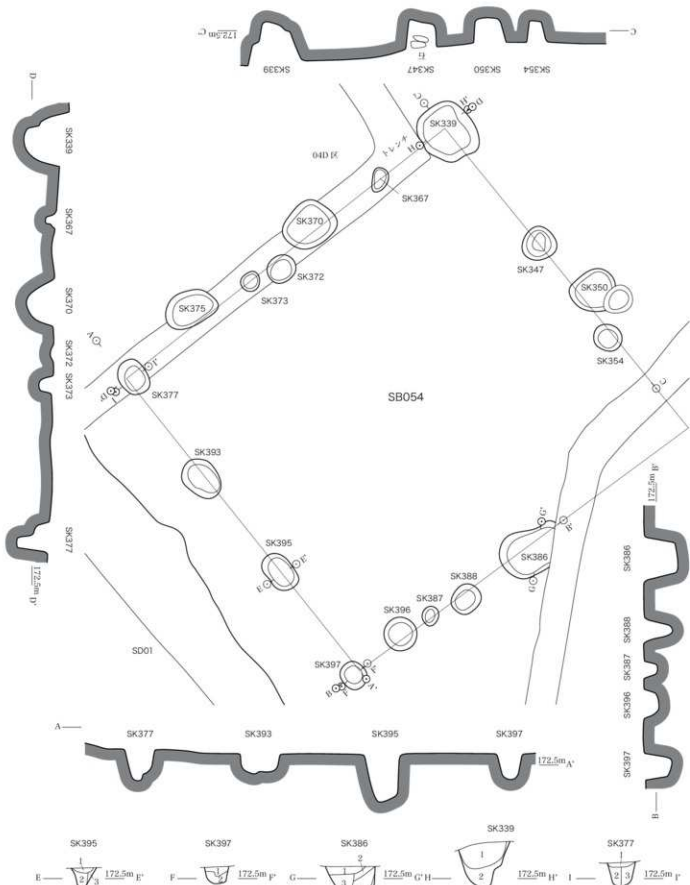


第97图 SB026(1/50)



第98图 SB029(1/50)





- 1, 10YR8/1 灰白色細粒砂
- 2, 10YR5/3 に近い 黄褐色シルト
- 3, 10YR8/2 灰白色細粒砂



- 1, 10YR6/9 明黄褐色粘質土
- 2, 10YR3/1 灰褐色シルト



- 1, 10YR4/3 に近い 黄褐色細粒砂
- 2, 10YR6/3 に近い 黄褐色細粒砂
- 3, 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 4, 10YR6/3 に近い 黄褐色シルト
- 5, 10YR4/3 に近い 黄褐色シルト

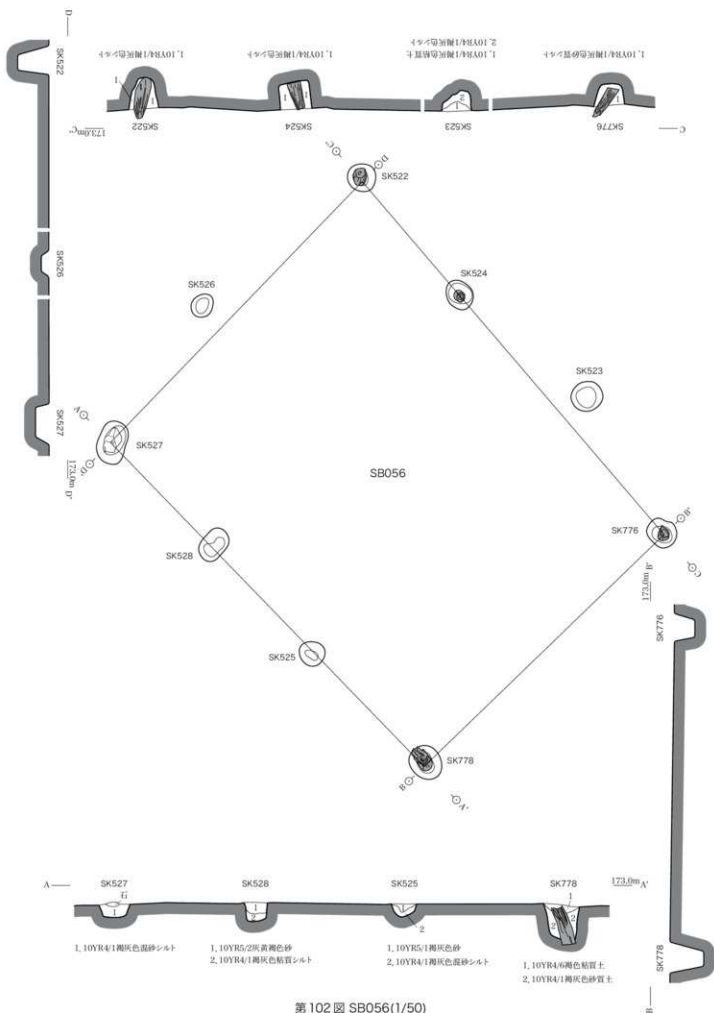


- 1, 10YR4/3 に近い 黄褐色砂質シルト
- 2, 10YR3/3 明褐色シルト



- 1, 10YR4/6 黄褐色粗粒砂
- 2, 10YR5/6 黄褐色シルト
- 3, 10YR6/9 明黄褐色シルト

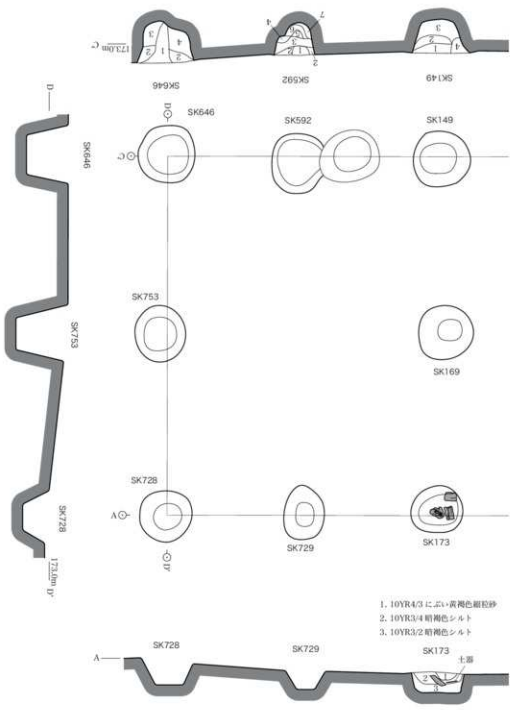
第 101 図 SB054(1/50)



第102図 SB056(1/50)



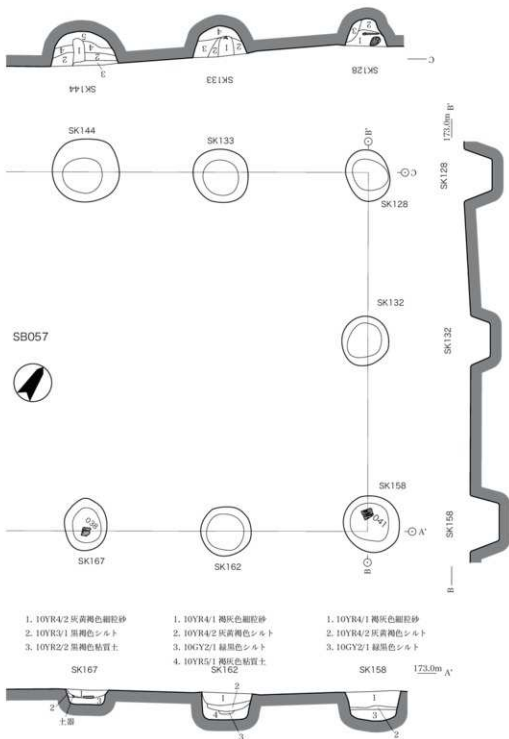
1. 10VR52 炭褐色粗粒砂  
2. 10VR42 炭褐色シルト  
3. 10VR32 暗褐色シルト  
4. 10VR63 にぶい黄褐色粗粒砂  
5. 10VR53 にぶい黄褐色シルト  
6. 10VR52 炭褐色粗粒砂  
7. 10VR63 にぶい黄褐色シルト



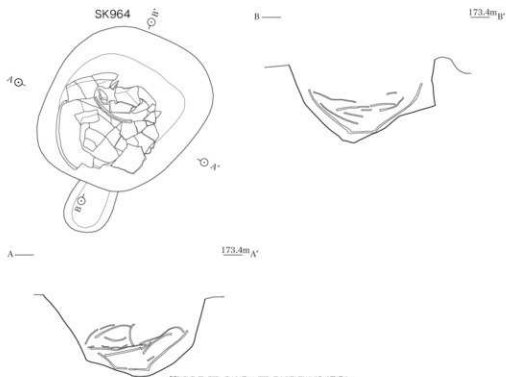
1. 10VR43 にぶい黄褐色粗粒砂  
2. 10VR34 暗褐色シルト  
3. 10VR32 暗褐色シルト



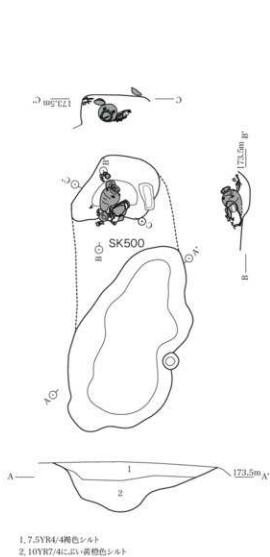
- |                    |                    |                    |
|--------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 | 1. 10YR4/1 褐色細粒砂   | 1. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 |
| 2. 10YR3/1 黒褐色シルト  | 2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト | 2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト |
| 3. 10YR2/2 黒褐色粘質土  | 3. 10GY2/1 緑黑色シルト  | 3. 10GY2/1 緑黑色シルト  |
| 4. 10YR5/1 褐色粘質土   | 4. 10YR5/1 褐色粘質土   | 4. 10YR4/1 褐色細粒砂   |



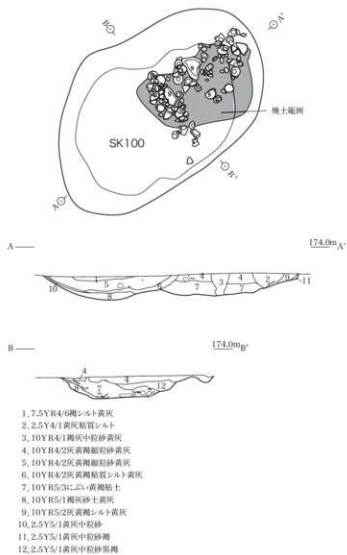
第104図 SB057(1/50)



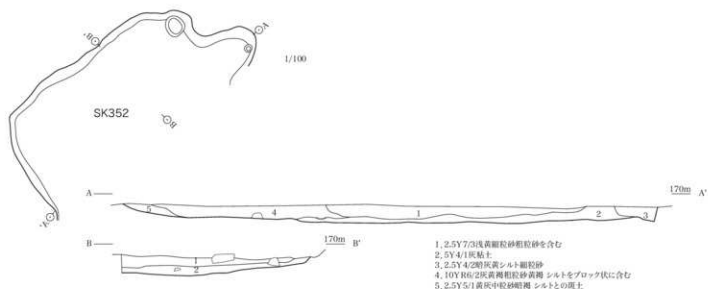
第105図 04Ca区 SK964(1/50)



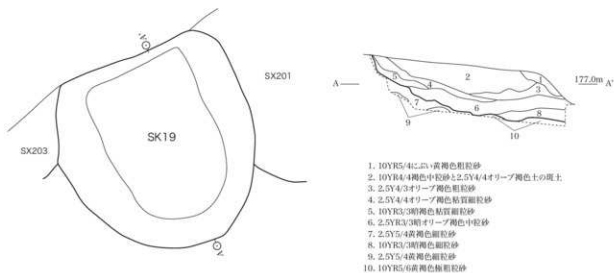
第106図 04Cb区 SK500(1/50)



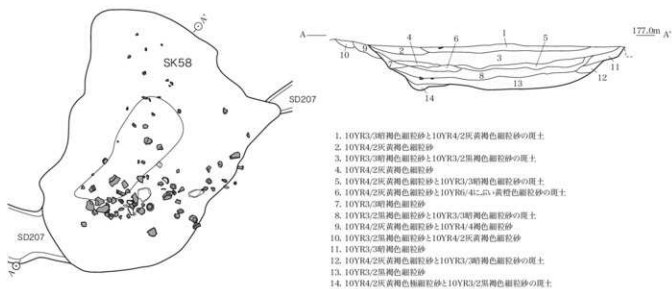
第107図 04Cb区 SK100(1/50)



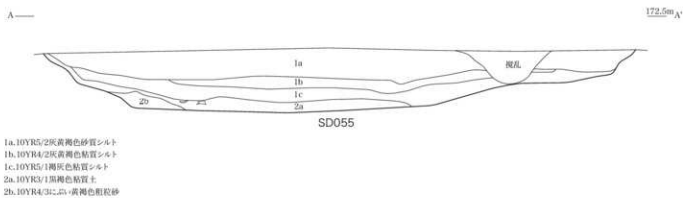
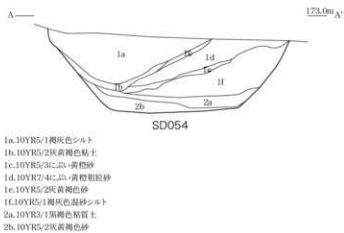
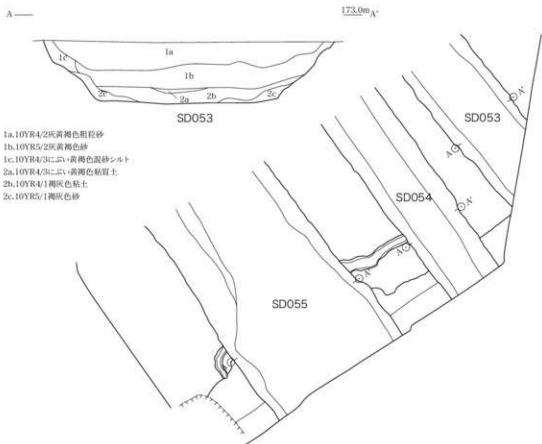
第108図 04Cb区 SK352(1/50)



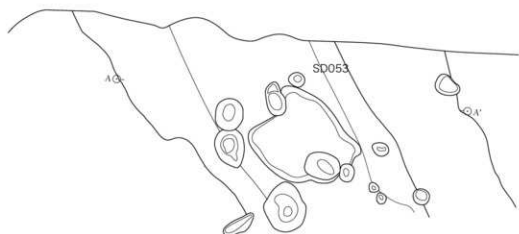
第109図 02A区 SK19(1/50)



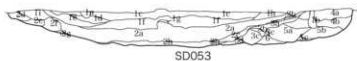
第110図 02B区 SK58(1/50)



第111図 SD053-055断面図(1/50)



A—

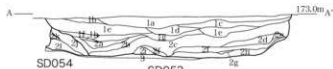
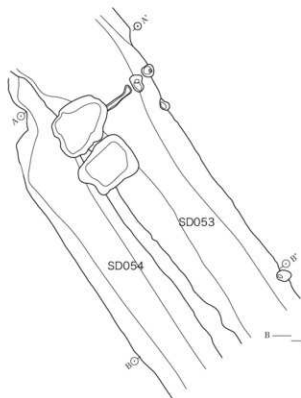


SD053

174.00 A'

- 1a, 10Y R 4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 1b, 10Y R 5/1 褐色粘質シルト
- 1c, 10Y R 6/1 灰黄褐色シルト
- 1d, 10Y R 4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 1e, 10Y R 5/3 に多い黄褐色粘質シルト
- 1f, 10Y R 5/2 灰黄褐色粘質シルト
- 1g, 10Y R 6/2 灰黄褐色粘質シルト
- 1h, 10Y R 4/1 褐色シルト
- 1i, 10Y R 4/2 灰黄褐色シルト
- 2a, 10Y R 4/3 に多い黄褐色粘質土
- 2b, 10Y R 5/1 褐色シルト
- 2c, 10Y R 5/1 褐色粘質シルト
- 2d, 10Y R 3/1 灰褐色粘質シルト
- 2e, 10Y R 4/1 褐色粘質シルト
- 2f, 10Y R 5/3 に多い黄褐色粘質シルト
- 2g, 10Y R 4/1 褐色粘質シルト
- 2h, 10Y R 4/1 褐色粘質土
- 3a, 10Y R 5/1 褐色粘質シルト
- 3b, 10Y R 4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 3c, 7.5Y R 5/4 に多い褐色粘質土
- 3d, 10Y R 6/3 に多い黄褐色粘質土
- 3e, 7.5Y R 5/4 に多い黄褐色粘質土
- 4a, 10Y R 5/3 に多い黄褐色粘質シルト
- 4b, 10Y R 5/2 灰黄褐色粘質シルト
- 4c, 10Y R 3/1 灰褐色粘質土
- 4d, 10Y R 3/1 灰褐色粘質土
- 5c, 10Y R 6/2 灰黄褐色シルト
- 6, 7.5Y R 5/4 に多い褐色粘質土

第112図 SD053断面図(1/50)



SD054

SD053

- 1a, 10Y R 6/2 灰黄褐色シルト
- 1b, 10Y R 5/3 に多い黄褐色シルト
- 1c, 10Y R 5/3 に多い黄褐色シルト
- 1d, 10Y R 4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 1e, 10Y R 7/1 灰白色粘質シルト
- 1f, 10Y R 4/2 灰黄褐色シルト
- 1g, 10Y R 4/1 褐色粘質シルト
- 1h, 10Y R 4/1 褐色シルト
- 2a, 10Y R 7/1 灰白色シルト
- 2b, 10Y R 7/2 灰黄褐色シルト
- 2c, 10Y R 6/2 灰黄褐色シルト
- 2d, 10Y R 5/2 褐色粘質シルト
- 2e, 10Y R 4/1 褐色粘質シルト
- 2f, 10Y R 4/1 褐色粘質シルト
- 2g, 10Y R 4/2 灰黄褐色シルト
- 2h, 10Y R 7/2 に多い黄褐色粘質シルト
- 2i, 10Y R 7/1 灰白色粘質シルト
- 2j, 10Y R 4/2 灰黄褐色シルト
- 2k, 10Y R 5/1 に多い黄褐色シルト
- 2l, 10Y R 4/2 灰黄褐色シルト
- 3, 10Y R 7/1 灰白色粘質シルト

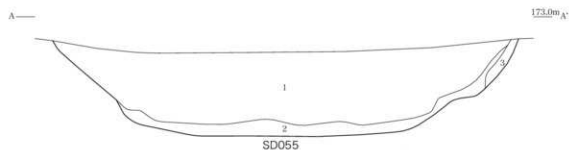


SD054

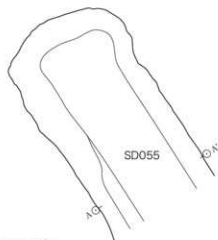
SD053

- 1a, 7.5Y R 5/6 明褐色粘質土
- 1b, 10Y R 4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 1c, 10Y R 5/3 に多い黄褐色粘質シルト
- 2a, 10Y R 4/1 褐色粘質粘質土
- 2b, 10Y R 4/1 褐色粘質粘質土
- 3a, 7.5Y R 5/6 明褐色粘質土
- 3b, 7.5Y R 5/4 に多い褐色粘質土
- 3c, 10Y R 4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 3d, 10Y R 5/3 に多い黄褐色粘質シルト
- 3e, 10Y R 4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 3f, 10Y R 5/2 灰黄褐色粘質粘質土
- 3g, 10Y R 5/2 灰黄褐色粘質粘質土
- 4a, 10Y R 5/1 褐色粘質粘質土
- 4b, 10Y R 3/1 灰褐色粘質土
- 4c, 10Y R 4/2 灰黄褐色粘質土
- 4d, 10Y R 5/2 灰黄褐色粘質粘質土

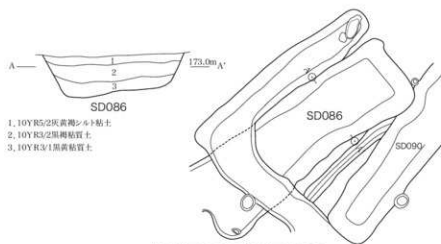
第113図 SD053-054断面図(1/50)



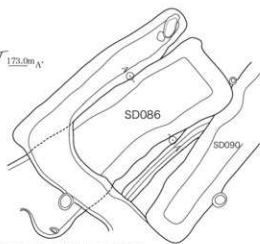
1. 10YR5/2灰黄褐色粗粒砂
2. 10YR3/1灰褐色粘质土
3. 10YR6/3黄褐色砂质土



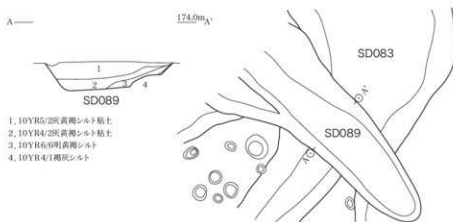
第 114 图 SD055 断面图 (1/50)



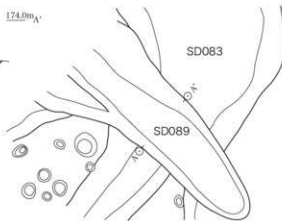
1. 10YR5/2灰黄褐色中粒粘土
2. 10YR3/2黑褐色粘质土
3. 10YR3/1黑黄粘质土



第 115 图 SD086 断面图 (1/50)



1. 10YR5/2灰黄褐色中粒粘土
2. 10YR4/2灰黄褐色中粒粘土
3. 10YR6/6暗黄褐色中粒粘土
4. 10YR4/1黄褐色中粒粘土

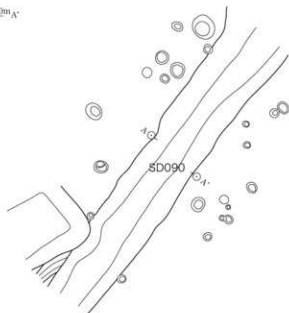


第 116 图 SD089 断面图 (1/50)

A— 174.0m A'



- 1, 10Y R4/2灰黄褐色シルト
- 2, 10Y R5/1黄灰粘土
- 3, 10Y R6/3赤褐色・黄褐色粘土
- 4, 10Y R4/1黄灰粘質シルト
- 5, 10Y R3/1黄褐色粘土

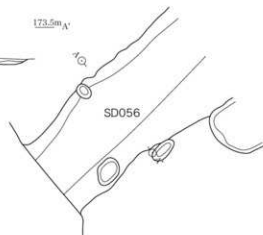


第117図 SD090 断面図 (1/50)

A— 173.5m A'

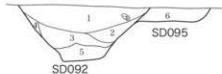


- 1, 10Y R5/2灰黄褐色砂質土
- 2, 10Y R5/1黄灰色シルト包含層
- 3, 10Y R3/1黄褐色粘質シルト
- 4, 10Y R4/1黄灰色黄砂シルト



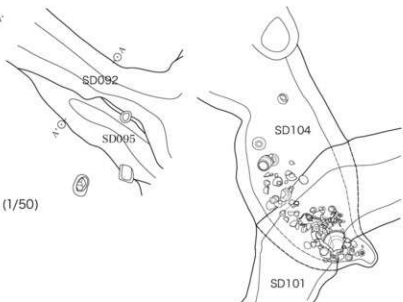
第118図 SD056 断面図 (1/50)

A— 174.0m A'

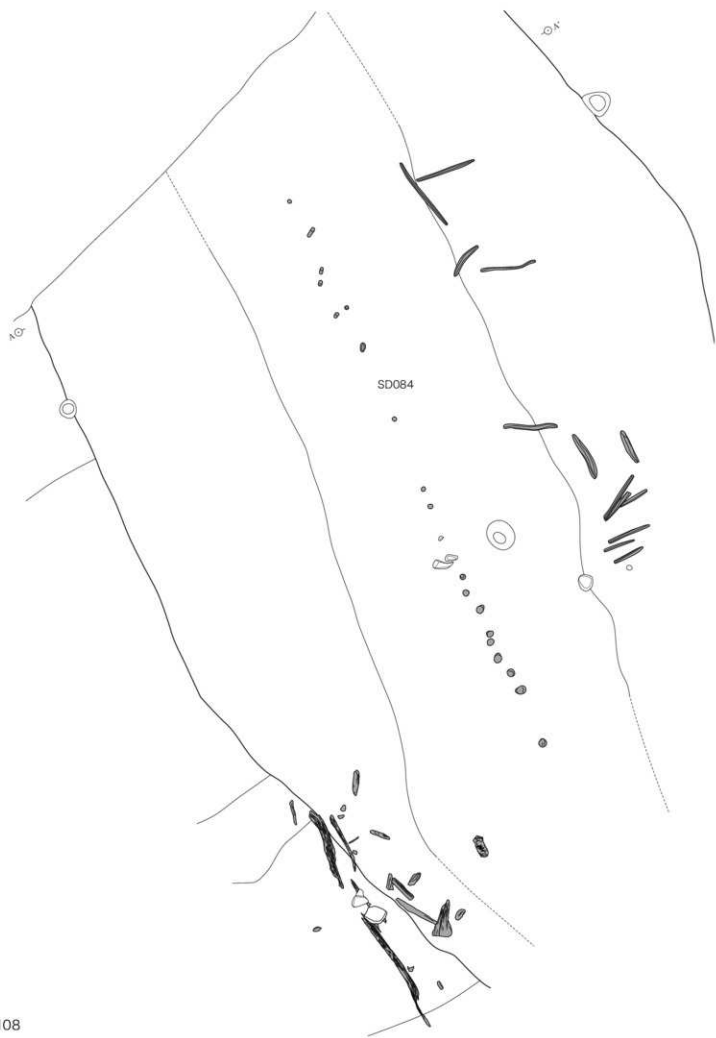


- 1, 10Y R3/2黄褐色粘質シルト
- 2, 10Y R2/1黄褐色粘質シルト
- 3, 10Y R5/1粘質土
- 4, 10Y R4/1粘質土
- 5, 10Y R5/1粘質土
- 6, 5Y 5/3灰オリーブ

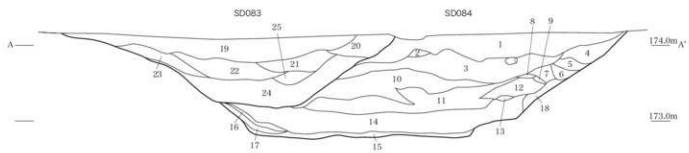
第119図 SD092 断面図 (1/50)



第120図 SD104 遺物出土状態図 (1/50)

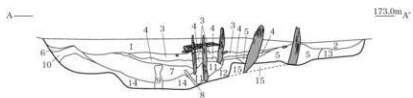
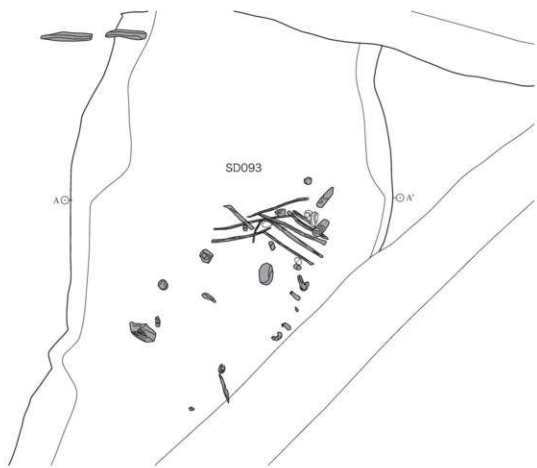






- |                       |                         |                      |
|-----------------------|-------------------------|----------------------|
| 1, 10YR7/1灰白色細粒砂      | 10, 10YR4/1褐色細粒砂        | 19, 10YR5/2灰黄褐色中粒砂   |
| 2, 10YR5/1褐色細粒砂       | 11, 10YR2/1黒色粘質シルト      | 20, 10YR5/2黄褐色中粒砂    |
| 3, 10YR4/1褐色細粒砂       | 12, 10YR6/1褐色細粒砂        | 21, 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト |
| 4, 10YR3/3暗褐色細粒砂      | 13, 2.5GYR6/1オリーブ灰色シルト  | 22, 2.5Y6/1灰白色細粒砂    |
| 5, 10YR3/3暗褐色粘質シルト    | 14, 10YR2/1黒色粘質シルト      | 23, 2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂   |
| 6, 10YR4/6褐色シルト       | 15, 2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルト | 24, 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト |
| 7, 10YR4/2灰黄褐色シルト     | 16, 10YR6/1褐色細粒砂        | 25, N3.0暗灰色シルト       |
| 8, 10YR4/2灰黄褐色シルト     | 17, 10YR5/1褐色細粒砂        |                      |
| 9, 2.5GYR6/1オリーブ灰色シルト | 18, 2.5GYR7/1明オリーブ灰色シルト |                      |



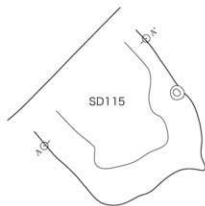


- 1, 10YR3/2黄褐色炭砂粘質土
- 2, 10YR6/2黄褐色砂質シルト
- 3, 10YR6/3C.2.5黄褐色砂質土
- 4, 10YR5/1暗灰色粘質土
- 5, 10YR4/1暗灰色炭砂粘質土
- 6, 10YR6/3C.2.5黄褐色砂質土
- 7, 10YR3/2黄褐色粘質シルト
- 8, 10YR6/2黄褐色砂
- 9, 5Y5.2灰イロープ色粘質土
- 10, 10YR2/1黄褐色粘質土
- 11, 10YR4/2黄褐色炭砂粘質土
- 12, 10YR4/1暗灰色粘質土
- 13, 10YR2/1灰色粘質土
- 14, 10YR7/1灰白色粘質土
- 15, 5Y6/1灰色粘質土

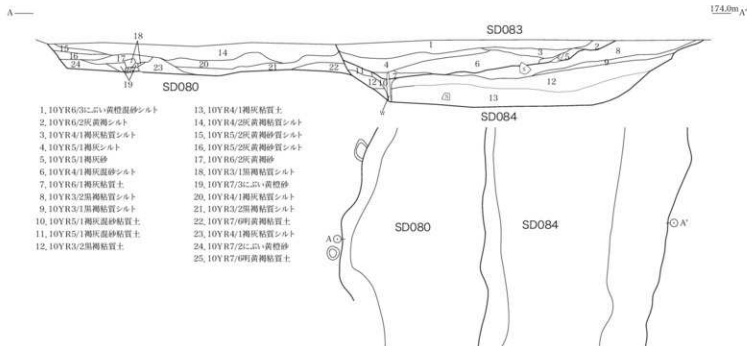
第 122 図 SD093(1/50)



- 1, 10YR4/3(2)に多い黄褐色シルト
- 2, 10YR7/6明黄褐色粗粒砂
- 3, 10YR7/1灰白粗粒砂

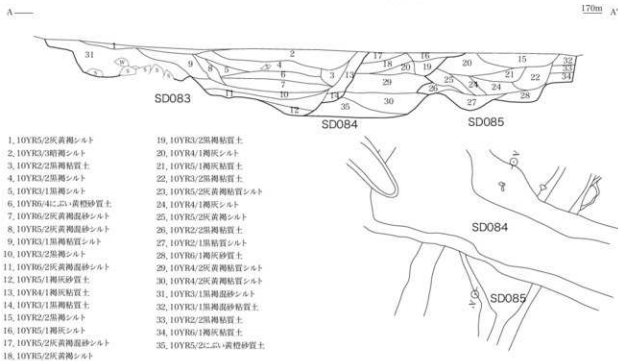


第123図 SD116断面図(1/50)



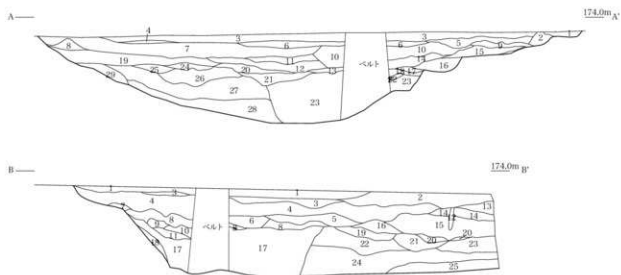
- 1, 10YR6/2(2)に多い黄褐色シルト
- 2, 10YR6/2灰黄褐色シルト
- 3, 10YR4/1褐色粘質土
- 4, 10YR5/1褐色シルト
- 5, 10YR5/1褐色粘砂
- 6, 10YR4/1褐色粘砂シルト
- 7, 10YR4/1褐色粘質土
- 8, 10YR3/2灰黄褐色粘質シルト
- 9, 10YR3/1灰黄褐色粘質シルト
- 10, 10YR5/1褐色粘砂粘質土
- 11, 10YR5/1褐色粘砂粘質土
- 12, 10YR3/2灰黄褐色粘質土
- 13, 10YR4/1褐色粘質土
- 14, 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト
- 15, 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト
- 16, 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト
- 17, 10YR6/2灰黄褐色砂
- 18, 10YR3/1灰黄褐色粘質シルト
- 19, 10YR7/3(2)に多い黄褐色砂
- 20, 10YR4/1褐色粘質シルト
- 21, 10YR3/2灰黄褐色粘質シルト
- 22, 10YR7/6明黄褐色粘質土
- 23, 10YR4/1褐色粘質シルト
- 24, 10YR7/2(2)に多い黄褐色砂
- 25, 10YR7/6明黄褐色粘質土

第124図 SD080-083-084断面図(1/50)

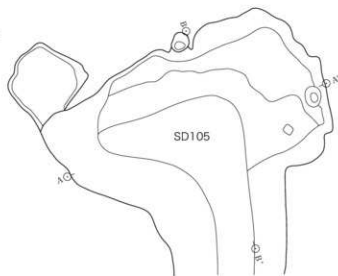


- 1, 10YR5/2灰黄褐色シルト
- 2, 10YR3/3暗褐色シルト
- 3, 10YR2/2灰褐色粘質土
- 4, 10YR3/2灰褐色シルト
- 5, 10YR3/1灰褐色シルト
- 6, 10YR6/4(2)に多い黄褐色砂質土
- 7, 10YR6/2灰黄褐色粘砂シルト
- 8, 10YR5/2灰黄褐色粘砂シルト
- 9, 10YR3/1灰黄褐色粘質シルト
- 10, 10YR3/2灰褐色シルト
- 11, 10YR6/2灰黄褐色粘砂シルト
- 12, 10YR5/1褐色粘砂質土
- 13, 10YR4/1褐色粘質土
- 14, 10YR3/1灰黄褐色粘質土
- 15, 10YR2/2灰褐色シルト
- 16, 10YR3/1褐色シルト
- 17, 10YR5/2灰黄褐色粘砂シルト
- 18, 10YR5/2灰黄褐色シルト
- 19, 10YR3/2灰褐色粘質土
- 20, 10YR4/1褐色シルト
- 21, 10YR5/1褐色粘質土
- 22, 10YR3/2灰褐色粘質土
- 23, 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト
- 24, 10YR4/1褐色シルト
- 25, 10YR5/2灰黄褐色シルト
- 26, 10YR2/2灰褐色粘質土
- 27, 10YR2/1暗褐色粘質シルト
- 28, 10YR6/1褐色粘質土
- 29, 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト
- 30, 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト
- 31, 10YR3/1灰黄褐色粘質シルト
- 32, 10YR3/1褐色粘砂粘質土
- 33, 10YR2/2灰褐色粘質土
- 34, 10YR6/1褐色粘質土
- 35, 10YR5/2(2)に多い黄褐色砂質土

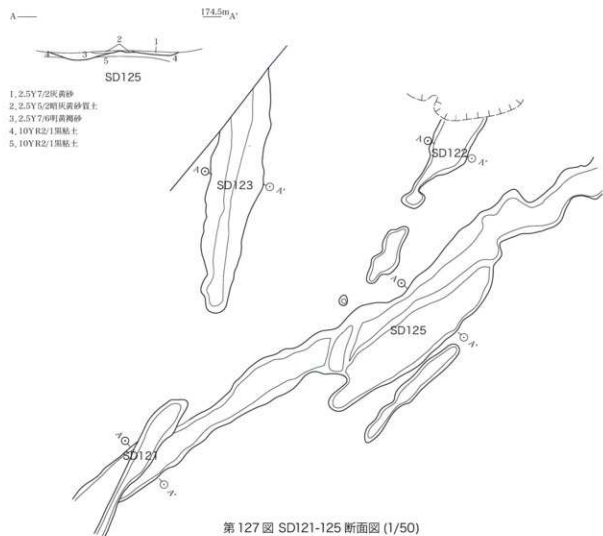
第125図 SD083-084-085断面図(1/50)



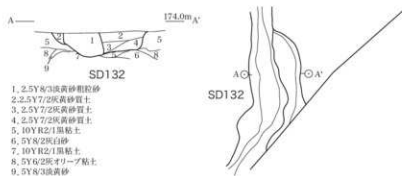
- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 1, 10YR5/1 褐色シルト      | 16, 10YR7/2に多い黄褐色砂       |
| 2, 10YR3/1 黒褐色シルト     | 17, 10YR2/1 黒褐色シルト       |
| 3, 10YR6/3に多い黄褐色シルト   | 18, 10YR5/2灰黄褐色シルト       |
| 4, 10YR6/1 褐色砂        | 19, 10YR6/2灰黄褐色シルト粗粒砂を含む |
| 5, 10YR4/1 褐色泥炭シルト    | 20, 10YR7/2に多い黄褐色砂       |
| 6, 10YR4/1 褐色シルトまっている | 21, 10YR7/1 褐色砂          |
| 7, 10YR3/1 黒褐色シルト     | 22, 10YR2/1 黒褐色シルト       |
| 8, 10YR6/3に多い黄褐色シルト   | 23, 10YR3/1 黒褐色粘土        |
| 9, 10YR4/1 褐色シルト      | 24, 10YR6/1 褐色シルト        |
| 10, 10YR3/1 黒褐色シルト    | 25, 10YR6/1 褐色シルト        |
| 11, 10YR4/1 褐色シルト     | 26, 10YR2/1 黒褐色粘土        |
| 12, 10YR5/2 灰黄褐色シルト   | 27, 10YR2/1 黒褐色粘土        |
| 13, 10YR6/3に多い黄褐色砂    | 28, 10YR5/2 灰黄褐色シルト      |
| 14, 10YR2/1 黒褐色土粗粒砂   | 29, 10YR3/2 黒褐色粘土        |
| 15, 10YR4/1 褐色泥炭シルト   |                          |



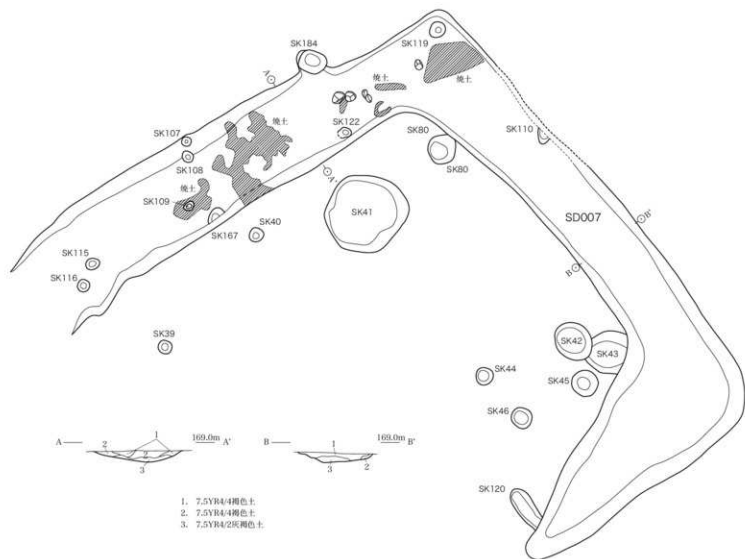
第126図 SD105 断面図 (1/50)



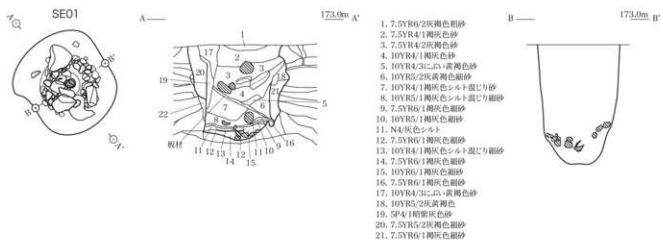
第 127 圖 SD121-125 断面図 (1/50)



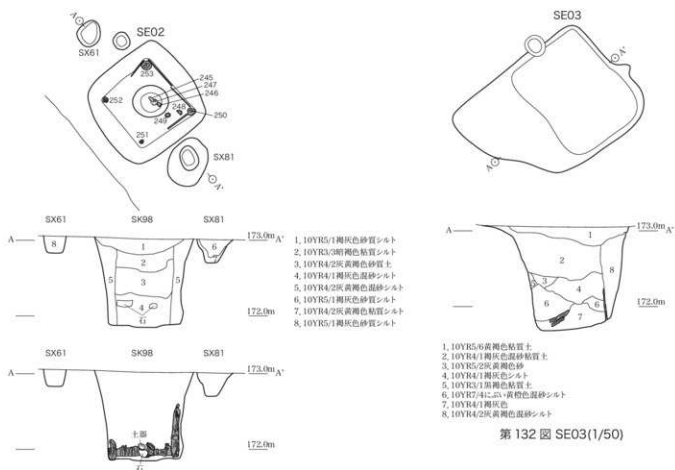
第 128 圖 SD132 断面図 (1/50)



第129图 SD007(1/50)

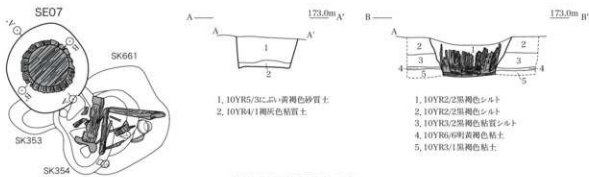


第 130 図 SE01(1/50)



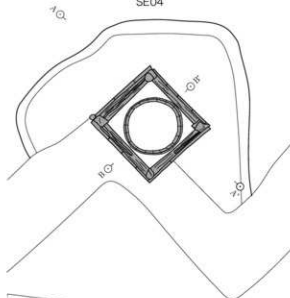
第 132 図 SE03(1/50)

第 131 図 SE02(1/50)

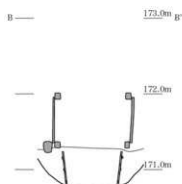
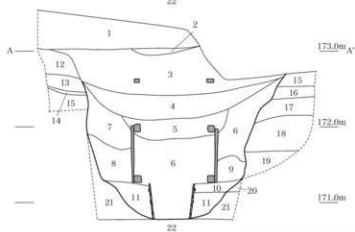
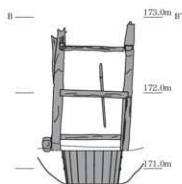
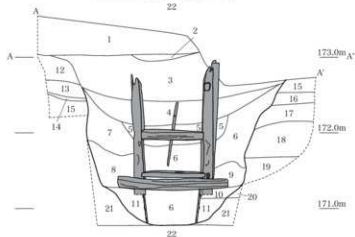
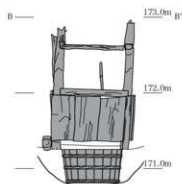
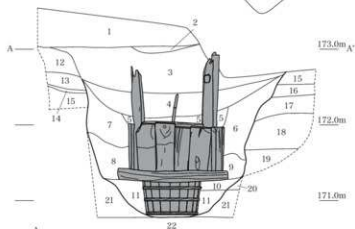


第 133 図 SE07(1/50)

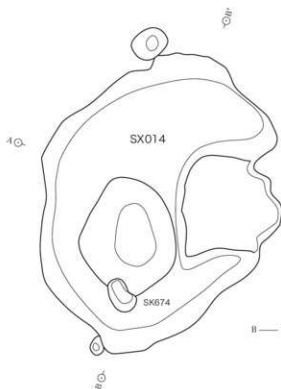
SE04



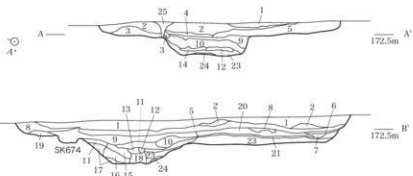
- 1, 10YR5/3 褐色粘質土
- 2, 2.5Y7/2 灰黄色粘質土
- 3, 2.5Y7/2 灰黄色粘質土
- 4, 10YR4/3 褐色粘質土
- 5, 10YR7/3 褐色粘質土
- 6, 10YR4/3 褐色粘質土
- 7, 10YR5/3 褐色粘質土
- 8, 10YR4/3 褐色粘質土
- 9, 10YR3/2 黄褐色粘土
- 10, 5Y6/2 黄オリーブ色粘土
- 11, 10YR6/3 褐色粘質土
- 12, 10YR7/3 褐色粘質土
- 13, 10YR7/1 灰白色粘土
- 14, 10YR6/1 灰褐色粘質土
- 15, 10YR5/2 灰褐色粘土
- 16, 10YR6/4 黄褐色粘質土
- 17, 10YR2/1 灰色粘土
- 18, 10YR4/3 褐色粘質土
- 19, 10YR5/3 褐色粘質土
- 20, 10YR6/1 灰褐色粘土
- 21, 10YR7/1 灰白色粘土
- 22, 10YR7/1 灰白色粘土



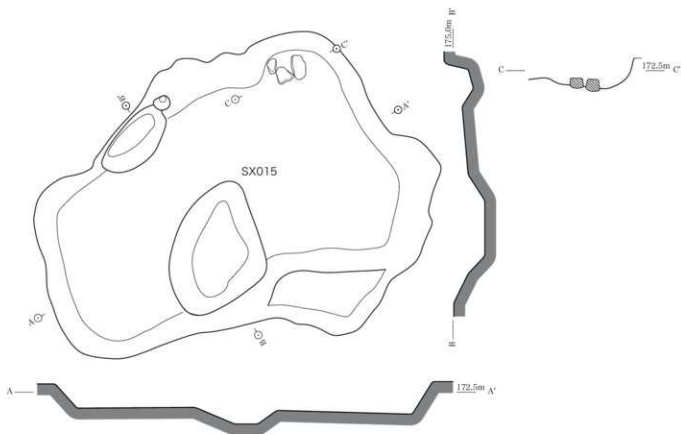




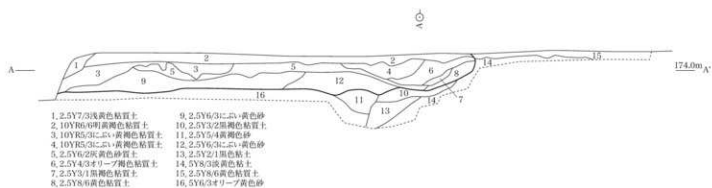
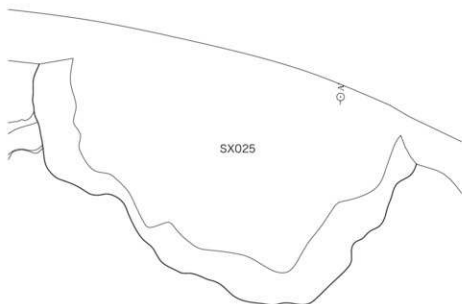
1. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり砂
2. 10YR3/1灰褐色シルト混じり細砂
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト混じり砂
4. 2.5Y6/1黄灰色砂
5. 10YR5/1黄灰色砂
6. 10YR3/1黄褐色砂質シルト
7. 2.5Y5/1黄灰色細粒鉄サビ混じり細砂
8. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト混じり砂
9. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト混じり細砂
10. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり砂
11. N5灰褐色シルト混じり砂
12. 2.5Y6/2灰黄色細砂
13. 2.5Y4/1黄灰色砂
14. 2.5Y6/2灰黄色細砂
15. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト混じり砂
16. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト混じり細砂
17. 10YR6/1黄褐色シルト混じり細砂
18. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト
19. 10YR5/2灰黄褐色細砂
20. 10YR6/2灰黄褐色細粒鉄サビ
21. 10YR4/1黄灰色細粒鉄サビ
22. 2.5Y6/2灰黄色シルト混じり細砂
23. 10YR3/2灰黄褐色細砂
24. 10YR3/1黄褐色細砂
25. 10YR7/2C5.5黄褐色シルト混じり細砂



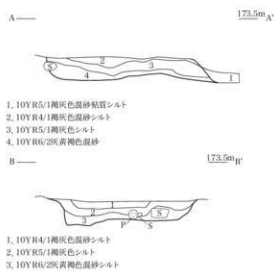
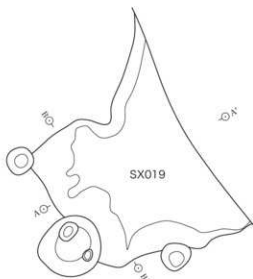
第135図 SX014(1/50)



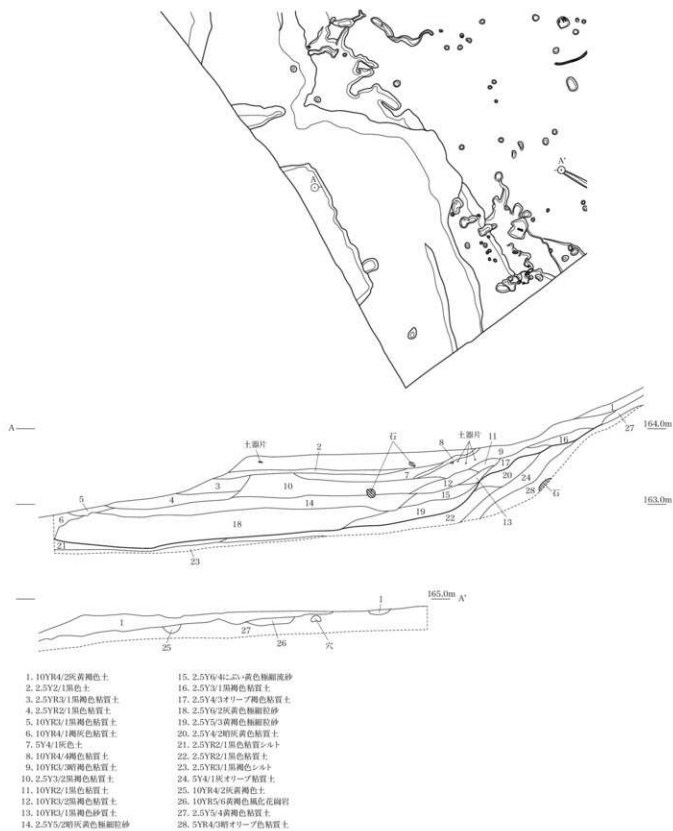
第136図 SX015(1/50)



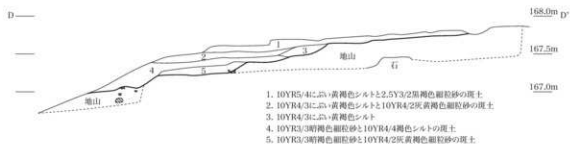
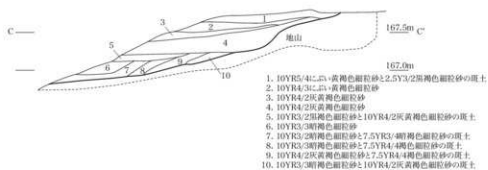
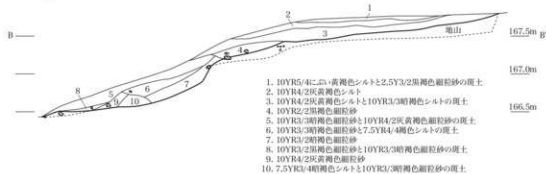
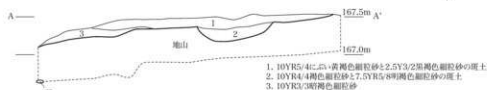
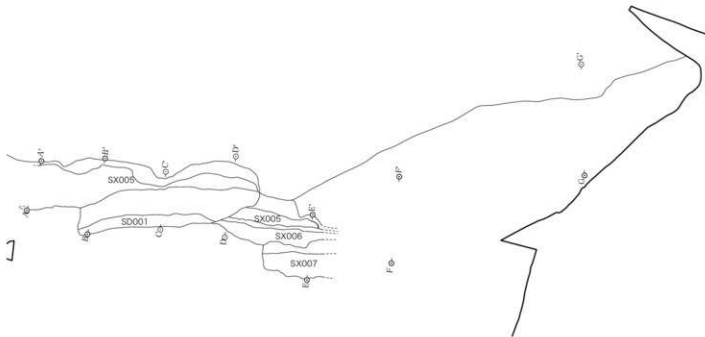
第137図 SX025(1/50)

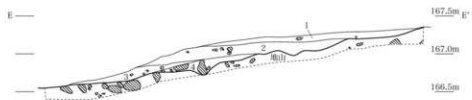


第138図 SX019(1/50)

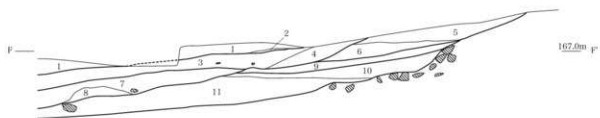


第 139 図 01A 区西斜面 (1/50)

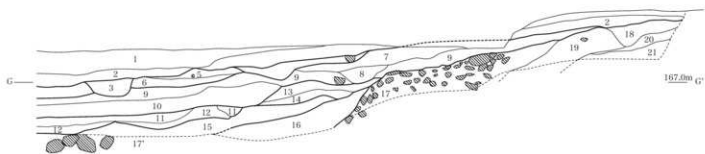




1. 10YR5/4cに多い黄褐色シルト
2. 10YR5/4cに多い黄褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの頁土
3. 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR3/3暗褐色細粒砂の頁土
4. 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR3/3暗褐色粗粒砂の頁土

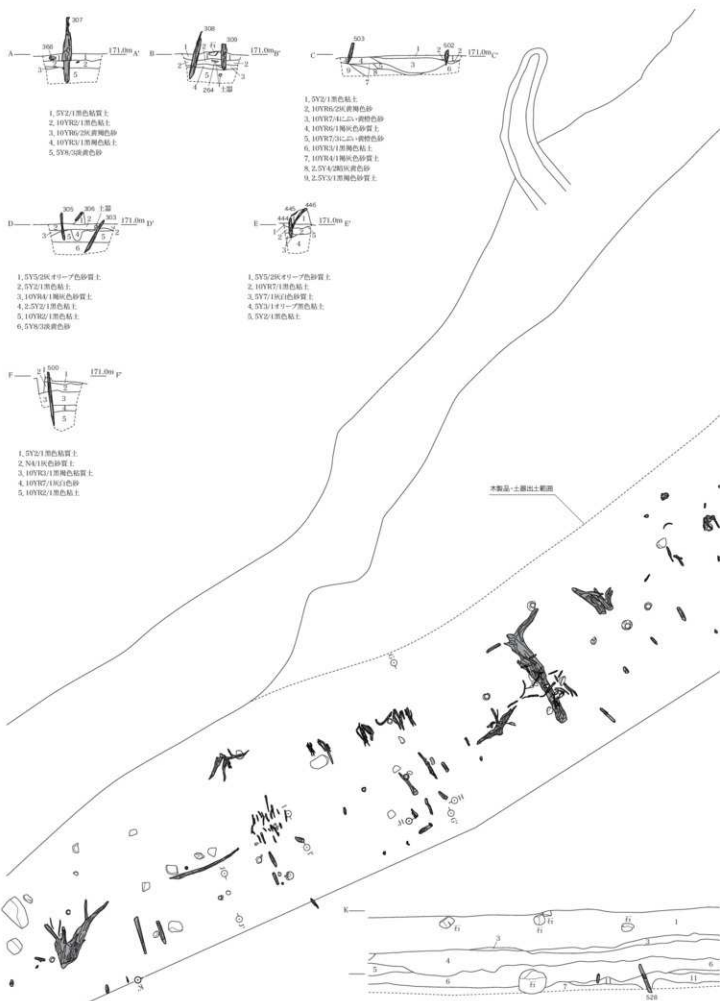


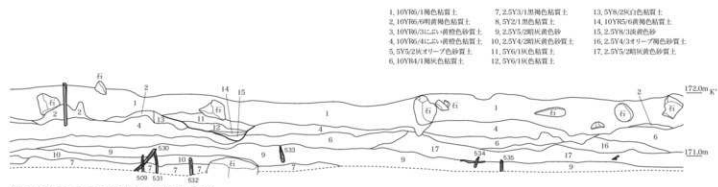
- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 10YR4/3cに多い黄褐色シルト      | 7. 10YR3/1黒褐色粘質シルト |
| 2. 10YR4/1褐色シルト           | 8. 10YR2/1黒色粘質シルト  |
| 3. 10YR4/3cに多い黄褐色粘質シルト    | 9. 2.5Y6/4cに多い黄色粘土 |
| 4. 10YR4/4褐色粘質シルト         | 10. 5Y8/1灰白色細砂     |
| 5. 7.5YR5/6明褐色シルト、砂粒多く混じる | 11. 5YR/2灰白色粘質砂～粘礫 |
| 6. 7.5YR5/6明褐色粘質シルト       | 12. 砂礫層            |



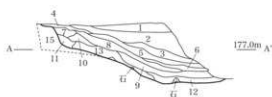
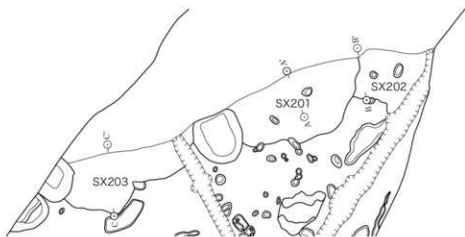
- |                          |                             |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1. 10YR5/3cに多い黄褐色粗粒粘質シルト | 11. 2.5Y6/4cに多い黄色粘土         |
| 2. 10YR4/3cに多い黄褐色シルト     | 12. 2.5Y7/4暗黄色シルト           |
| 3. 10YR4/3cに多い黄褐色シルト     | 13. 2.5Y6/4cに多い黄色粘土         |
| 4. 10YR5/3cに多い黄褐色シルト     | 14. 5Y8/2黄褐色細砂              |
| 5. 10YR4/3cに多い黄褐色粘質シルト   | 15. 5YR/1灰白色粗砂              |
| 6. 7.5YR4/4褐色粘質シルト       | 16. 砂礫層1(砂片化した砂礫が主体)        |
| 7. 7.5YR5/6明褐色シルト        | 17. 砂礫層2(よどみ、人頭大の円礫、垂内礫が主体) |
| 8. 7.5YR5/6明褐色粘質シルト      | 18. 10YR5/6黄褐色粘土            |
| 9. 7.5YR5/6明褐色粘質シルト      | 19. 7.5YR6/6褐色粗細砂           |
| 10. 7.5YR4/4褐色粘土         | 20. 7.5YR5/6明褐色粗砂           |
|                          | 21. 砂礫層3(よどみ、大の垂内礫が主体)      |

第140図 OOA区南斜面 (1/50)

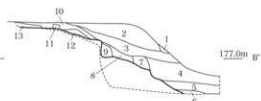




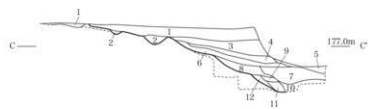
第 141 图 O4E 区杭列出土状态 (1/60)



1. 10YR5/2灰黄褐色細粒砂
2. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
3. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/2灰褐色細粒砂の混土
4. 10YR3/1黒褐色細粒砂
5. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
6. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
7. 10YR5/4Lに、黄褐色細粒砂
8. 10YR2/1黒色細粒砂
9. 10YR2/2黒褐色細粒砂
10. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
11. 10YR5/4Lに、黄褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
12. 10YR3/2灰褐色細粒砂
13. 10YR3/2灰褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の混土
14. 10YR5/4Lに、黄褐色細粒砂
15. 10YR5/4Lに、黄褐色細粒砂



1. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
2. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
3. 10YR3/2灰褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の混土
4. 10YR2/2黒褐色細粒砂
5. 10YR2/1黒色細粒砂
6. 10YR4/1黒灰色細粒砂
7. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/2灰褐色細粒砂の混土
8. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の混土
9. 10YR3/2灰褐色細粒砂
10. 10YR2/2黒褐色細粒砂
11. 10YR3/2灰褐色細粒砂と10YR6/4Lに、黄褐色細粒砂の混土
12. 10YR5/4Lに、黄褐色細粒砂
13. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR5/4Lに、黄褐色細粒砂の混土



1. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
2. 10YR3/2灰褐色細粒砂
3. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
4. 10YR4/1黒灰色細粒砂
5. 10YR5/3Lに、黄褐色細粒砂
6. 10YR3/1黒褐色細粒砂
7. 10YR3/1黒褐色細粒砂
8. 10YR4/3Lに、黄褐色細粒砂
9. 10YR2/1黒色細粒砂
10. 10YR2/2黒褐色細粒砂
11. 10YR2/2黒褐色細粒砂
12. 10YR3/2灰褐色細粒砂

第 142 図 SX201-203(1/50)



## 第7節 近世の遺構

近世の遺構は南部地区 04Cb 区・04Da 区、北部地区 02B 区で確認された。主に掘立柱建物、落ち込み状の遺構である。

### 1. 掘立柱建物

SB050(第 89 図)

04Da 区東側で検出された。北西辺のみ確認でき、大部分は調査区外である。北西辺で 4 間 9.0m(N-58°-W)である。柱穴内より、15 世紀代山茶碗、近世陶磁器類が少量出土している。SB053

04Ca 区北西側で検出された。南東辺のみ確認でき、大部分は調査区外である。南東辺で 4 間 7.9m(N-45°-E)である。柱穴内より、近世陶磁器類が少量出土している。

SB230(第 143 図)

02B 区南西端、低位段丘面に位置する。1×3 間(3.3m×9.1m)長軸 N-31°-W。近世以降と考えられる階段状の削り出しの斜面に長軸方向が一致する。柱穴内から古瀬戸施軸陶器と山茶碗少量が出土した。建物の方向性と規模からこの時期と考える。

### 2. 溝

SD003(第 144 図)

00A 区の低位段丘におりる南斜面で検出された。残存長 7.6m 幅 0.4m 深さ 0.2m を測る。ほぼ直線的な溝である(N-17°-W)。南半と北端で底部を抜いた筒状の半胴甕を土管状に並べ、暗渠とした状態で検出した。建物の付属施設と推定される。半胴甕は近世 18 世紀末から 19 世紀初頭の時期に属する。

SD115(第 145 図)

04B 区から 04Ca 区で検出された中世水田に伴う溝群の一部である。溝の上面掘り込みから近世 19 世紀代の播鉢がまともって検出された。中世溝の上層部分から近世まで機能していたと考える。

### 3. 井戸

南部地区で 2 基の井戸を検出した。いずれも上位段丘に位置し、石組である。

SE05(第 146 図)

04Cb 区中央で検出された。径 1.3m、深さ 0.9m である。上位段丘に位置する。湧水層は浅く、石組み下部で達する。石組はほぼ円形に不揃いの円礫と一部角礫を配置する。埋土は細粒砂で、中世古瀬戸施軸陶器と 17 世紀代の瀬戸窯産施軸陶器が検出された。

SE06(第 147 図)

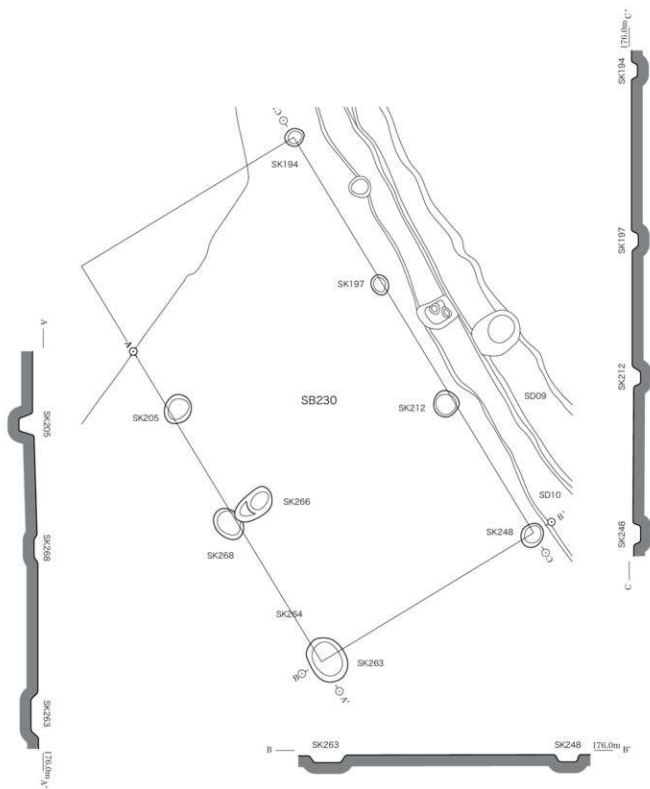
04B 区で検出された。径 1.5m、深さ 1.0m を測る。上位段丘に位置する。湧水層は浅く、石組み下部で達する。石組は角礫を円形に配置する。埋土は粗粒砂である。遺物は検出されず、井戸の形状から近世の時期と考える。

### 4. 落ち込み状遺構

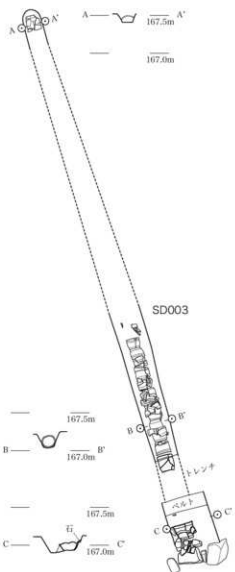
SX024(第 148 図)

04Cb 区南東部で検出された。浅い落ち込みで、残存の長軸で 4.3m、短軸 3.7m、深さ 0.1m

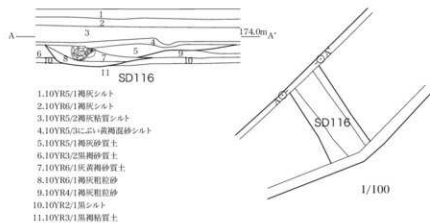
である。埋土は粗粒砂が主体で、礫に混じて近世瀬戸窯産施釉陶器類が比較的まとまって出土した。(酒井俊彦)



第143図 SB230(1/50)

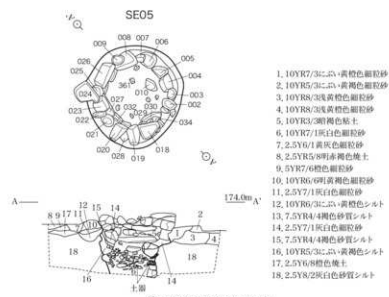


第144図 SD003(1/50)



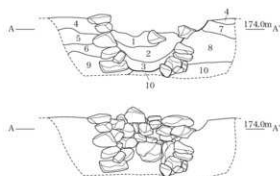
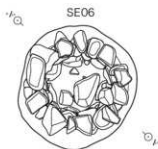
- 1.10YR5/1褐灰シルト
- 2.10YR6/1褐灰シルト
- 3.10YR5/2褐灰粘質シルト
- 4.10YR5/3(2)赤い黄褐色粘質シルト
- 5.10YR5/1褐灰砂質土
- 6.10YR3/2黒褐色砂質土
- 7.10YR6/1灰黄褐色砂質土
- 8.10YR6/1褐灰粗粒砂
- 9.10YR4/1褐灰粗粒砂
- 10.10YR2/1黒シルト
- 11.10YR3/1黒褐色粘質土

第145図 SD003断面図(1/50)



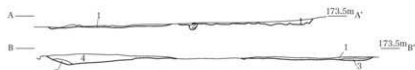
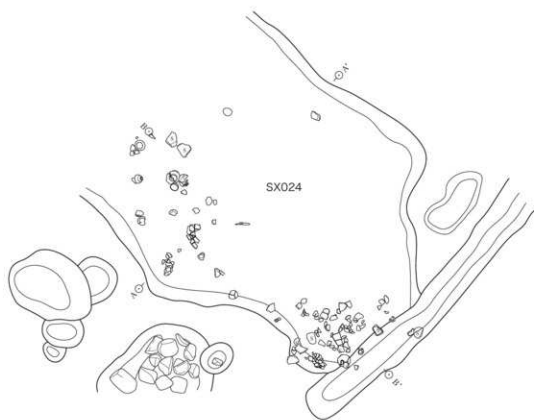
- 1.10YR7/3(2)赤い黄褐色粗粒砂
- 2.10YR5/3(2)赤い黄褐色粗粒砂
- 3.10YR8/3(2)黄褐色粗粒砂
- 4.10YR8/3(2)黄褐色粗粒砂
- 5.10YR3/2(2)褐色粘土
- 6.10YR7/1(2)灰白色粗粒砂
- 7.2.5YR/1(2)灰白色粗粒砂
- 8.2.5YR/8(2)明赤褐色粘土
- 9.5YR7/6(2)橙色粗粒砂
- 10.10YR6/6(2)黄褐色粗粒砂
- 11.2.5Y/1(2)灰白色粗粒砂
- 12.10YR6/3(2)赤い黄褐色シルト
- 13.7.5YR4/4(2)褐色粘質シルト
- 14.2.5Y/1(2)灰白色粗粒砂
- 15.7.5YR4/4(2)褐色粘質シルト
- 16.10YR5/3(2)赤い黄褐色シルト
- 17.2.5Y/8(2)橙色粘土
- 18.2.5Y/2(2)灰白色粘質シルト

第146図 SE05(1/50)



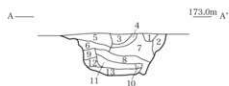
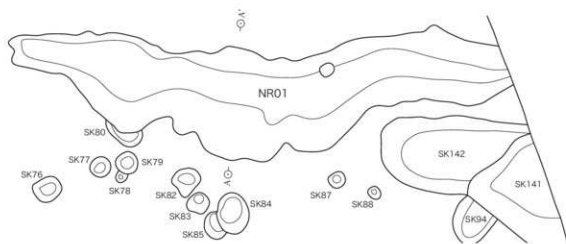
- 1.10YR3/2(2)黒褐色砂質土
- 2.10YR4/2(2)灰黄褐色砂質土
- 3.10YR7/2(2)赤い黄褐色砂
- 4.10YR7/2(2)赤い黄褐色砂
- 5.2.5Y/7(2)灰黄色砂
- 6.2.5Y/6(2)赤い黄褐色砂
- 7.2.5Y/6(2)赤い黄褐色砂
- 8.2.5Y/6(2)灰黄色砂
- 9.2.5YR/8(2)黄褐色粘土
- 10.2.5Y/2(2)明灰黄色砂

第147図 SE06(1/50)



- 1, 2.5Y4/2暗灰黄细砂
- 2, 2.5Y5/2暗灰黄中粒砂
- 3, 5Y6/1灰小粒砂
- 4, 2.5Y5/1黄中粗粒砂
- 5, 5Y5/1灰粘土

第 148 图 SX024(1/50)



- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1, 5Y6/1灰色粗砂       | 8, 5Y7/1灰白色小砾       |
| 2, N7/灰白色粗砂        | 9, 2.5Y3/1黄色小砾      |
| 3, 10YR6/4红棕色黄褐色粗砂 | 10, N7/灰白色粗砂        |
| 4, 10Y4/1灰色粗砂      | 11, 10YR7/2红棕色黄褐色粗砂 |
| 5, 2.5Y5/1黄灰色粗砂    | 12, 5Y4/1灰色小砾       |
| 6, 2.5Y4/1黄灰色粗砂    | 13, 5Y4/1灰色砂        |
| 7, 7.5Y7/1灰白色小砾    |                     |

第 149 图 NR01(1/50)

## 第8節 自然流路その他

### 1. 自然流路

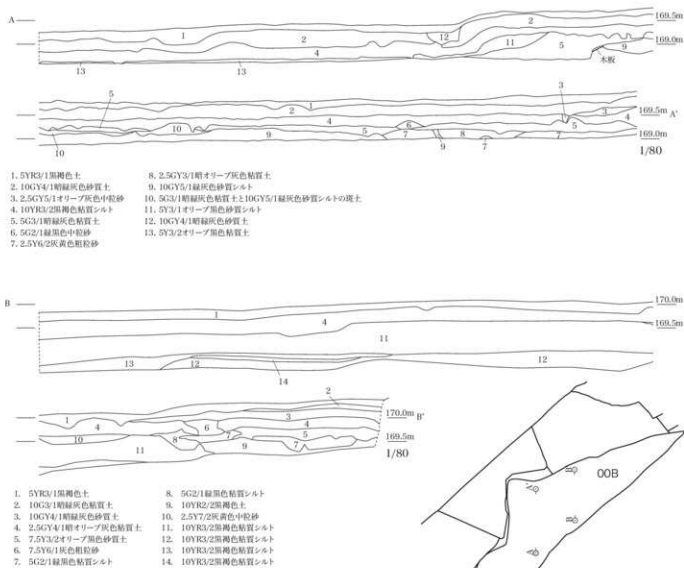
調査区域内で数条の自然流路が検出されている。

#### NRO1(第149図)

ほぼ東西に走る一時的な流水による流路痕跡である。残存長6.3m、幅1.4m、深さ0.6mを測る。埋土は粗粒砂と細礫である。遺物は山茶碗などが少量検出された。

### 2. 門前川河谷

OOB区は門前川の河谷の一部と考えられるが、旧地形は湿地で現耕作土面下は帯水による堆積が認められる。基本層序はa 現耕作土(粘質土)b 砂質土またはシルトである(第150図)。bには湿地性の植物遺体が多く混じる。(酒井俊彦)



第150図 OOB区断面図(1/50)

## 第3章 遺物

### 第1節 土器・陶磁器類

主に縄文時代から近世末までの時代の土器、陶器、磁器を対象とする。一部、陶製品も含む。

#### 1. 縄文時代の遺物

南部地区

SB001(第151図)

1は炉穴と考えられる土坑より出土した。平緑で、いわゆるキャリバー型の深鉢である。口縁下に平行して指による押圧痕列が1条施される。口縁部と体部の境界に1条の隆帯を有し、その上部が浅い沈線が施される。中期後半の時期である。

SB003(第151図)

8は深鉢口縁部で外面直下に押圧痕による文様がある。中期の時期と考える。

SB017(第151図)

9-12は竪穴住居の炉の土坑内より出土した。キャリバー型の深鉢で口縁形態は不明である。胴部上部に隆帯による横方向の波形の文様を有する。中期後半の時期と考える。

O1A区SK125(第151図)

2-7はSB002に重複する土坑内から出土した。SB002は縄文中期である。2は平緑の口縁端部外面を若干肥厚させ、板状具の先端で連続刺突文を施している深鉢である。3-5は粗製深鉢で粘土の輪積痕が口縁直下であり、口縁部の粘土が外側にはみだす。6は体部で沈線文が施される。7は底部の端部外面が張り出す深鉢である。これらは、晩期前半の時期に属する。

O3B区・O4E区包含層(第151図)

調査区南東側の門前川河谷の包含層中から出土した。13-19は渦巻文の隆帯と沈線で構成される文様である。キャリバー型の器形で波状口縁である。O3B区の河谷上端より集中して検出された。20-24は胴部破片であるが、キャリバー型の器形で波状口縁の深鉢と考えられる。刺突列を施される横方向の隆帯と沈線文で構成される文様である。O4E区のやや深い位置から出土した。25-30は深鉢胴部破片で、縦と斜めの沈線文を有する深鉢である。中期後半の時期と考える。

O4B区包含層(第151図)

O4B区北端の黒ゴク土上面包含層で検出された。狭い範囲で少量のみの出土である。31は無文粗製深鉢の胴部から底部である。32は深鉢胴部で沈線文を有する。後期と考えられる。

北部地区

O1D区包含層(第152-153図)

O1D区北端の赤津川河谷の斜面の包含層から出土した。33-49は平行沈線による眼鏡状文を有する平緑の深鉢の口縁である。平行沈線の区画内に連続斜沈線文を施す。50-60は渦巻文と連続斜沈線文で構成される文様を有する深鉢口縁である。平緑(50-55)と波状口縁(56-60)がある。63は口縁部の上下に口縁に平行する2条の隆帯を巡らす深鉢である。64は口縁部に連続斜沈線を施し、口唇に連続刺突文を有する。65は内傾する口唇に平行沈線を施す。66は口縁部に平行する2条の破線状の連続刺突文を施す。61-62は沈線文と縄文で構成される文様の深鉢胴部である。突起を有する。67は沈線による楕円状の文様を有する。68-123は縦沈線と連続斜沈線で構成される文様を胴部に有する深鉢である。棒状の施文具で粗い文様を有す

るものと、細い施文具で細かい文様のものがある。一部の個体の口縁は33-49の眼鏡状文である。124-130は隆帯による文様を有する深鉢胴部である。124-126は連続刺突を施される。131-132は縄文を施される。133は隆帯を有し、磨き調整を施される。134は粗い縄文が施されるものである。135-139は深鉢底部である。平底で138は本葉痕を有し、136-139は胴部に縦方向沈線文が施される。140は台付き深鉢の底部で、台部に透かしがある。141は舟底形の小形の浅鉢である。側面に櫛歯状の器具による沈線文が施される。33-62、67-130、135-140は中期後半の時期に属す。65は後期前半、66は晩期前半の時期と考えられる。131-133-140は後期の可能性が高い。134は前期と考えられる。(酒井俊彦)

## 2. 弥生時代の遺物

遺物のほとんどは遺構のある北部地区に集中する。

南部地区

NRO1(第154図)

142は中世以降の自然流路で混入したものである。壺の胴部で、内外面ハケ調整痕が残り、胴屈曲部に1条の凹線文を施す。中期後半の時期と考える。

北部地区

SB219(第154図)

竈穴住居埋土中より出土した。143は壺口縁部、144は波状文を施される高杯の杯部である。弥生後期の時期に属する。

SB220(第154図)

竈穴住居埋土中より集中して検出された。146は櫛状具による内面に刺突文列を施される大口壺口縁部である。147は球形の胴部で短い外反する口縁の壺である。148は断面くの字状に屈曲する口縁を有する壺である。149-150は大形の壺底部である。149は外面にハケ調整痕を残す。151-162は壺口縁部である。口縁部がくの字状に外反する。157は口唇に刺突列を施される。内面はナデ調整でハケ目を残すものは少ない。外面はハケ調整痕を明瞭に残すものがある(158-161)。163-166は台付甕である。163の内面はナデ調整、口縁、胴上部はハケ調整痕を横方向にナデ消す。164は高台内外面ナデ調整、165はハケ調整痕を残す。166は細かい削り調整あるいは磨き調整である。167-170は高杯である。167は波状文と沈線文を施される。168-170脚部で櫛状具による横沈線あるいは刺突列との組み合わせの文様を施される。171は底部のみであるが、鉢と考えられる。172は小形の甕で、内面にハケ調整が認められ、口縁が短く外反する器形である。173は蓋である。174-175はミニチュア土器である。また、土製品として銅鐸型土製品が出土している(第234図2523)。これらは後期の時期に属する。

SB270(第154図)

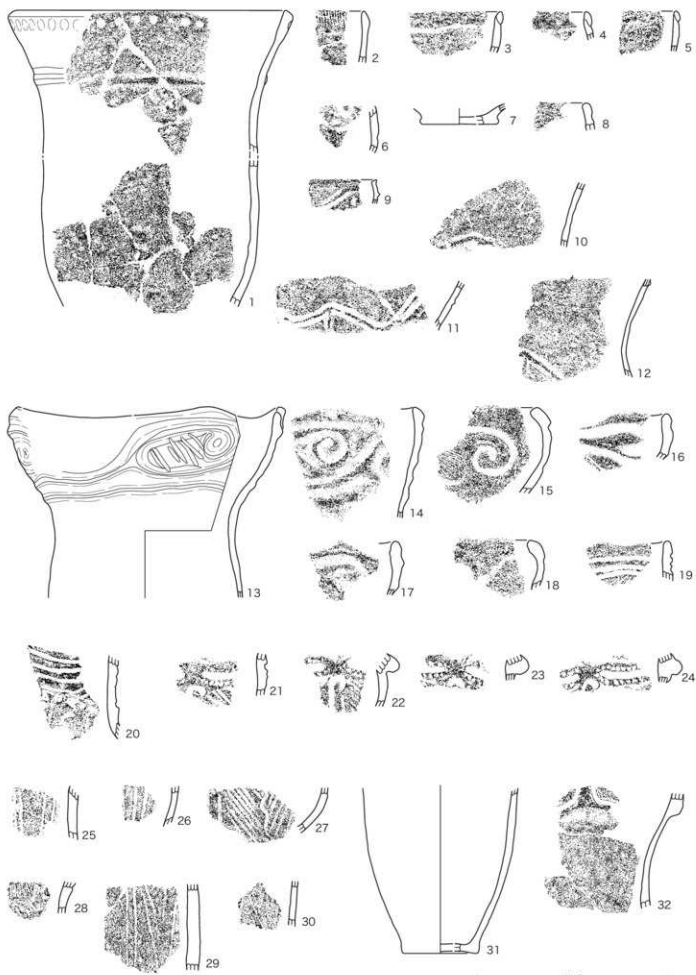
176は高杯脚部である。横沈線および刺突列による文様構成である。後期の時期である。

O4Ab区SK944(第154図)

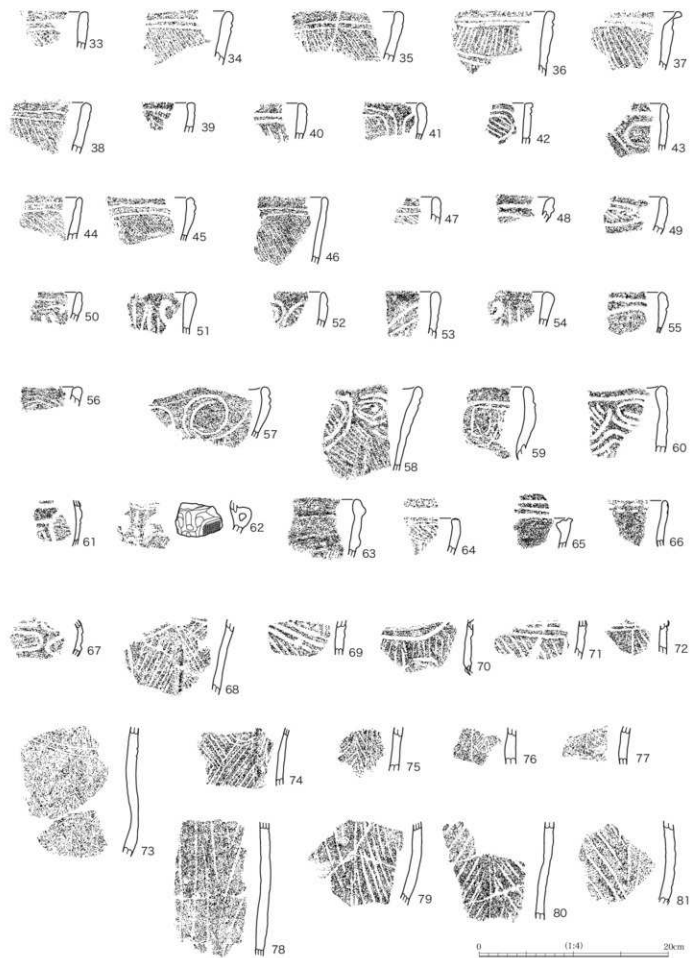
145は壺口縁部である。器形より、中期後半の時期に属する。

SD212(第175図)

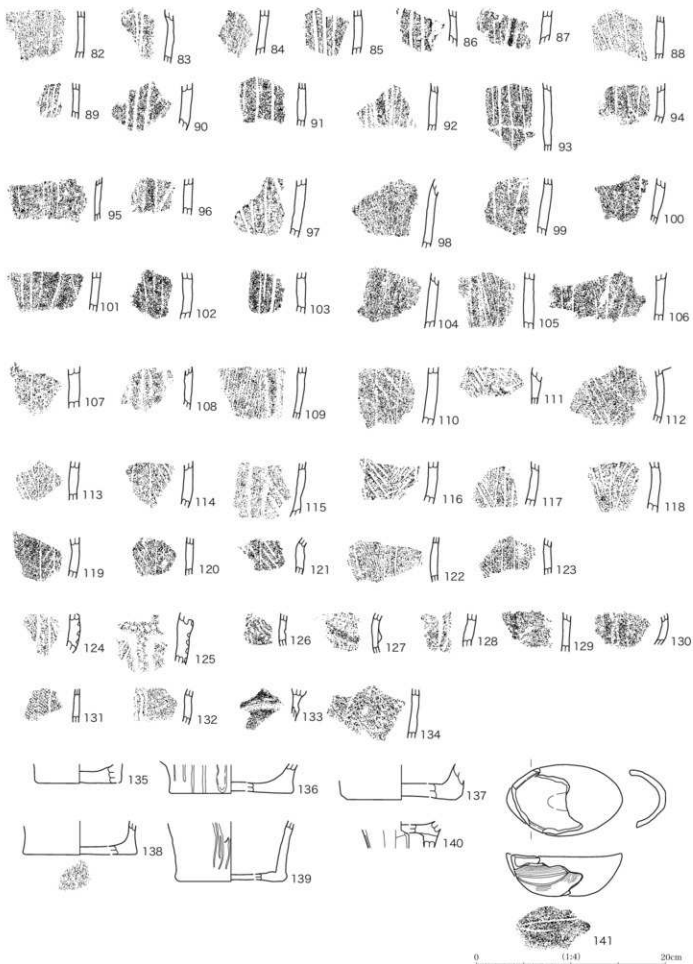
古墳時代遺物とともに、弥生土器が若干出土した。主に高杯が検出された(709-715)。有段の杯部のもので波状文を施される。脚部には沈線文等の文様があり、円形の透かしを施される。(酒井俊彦)



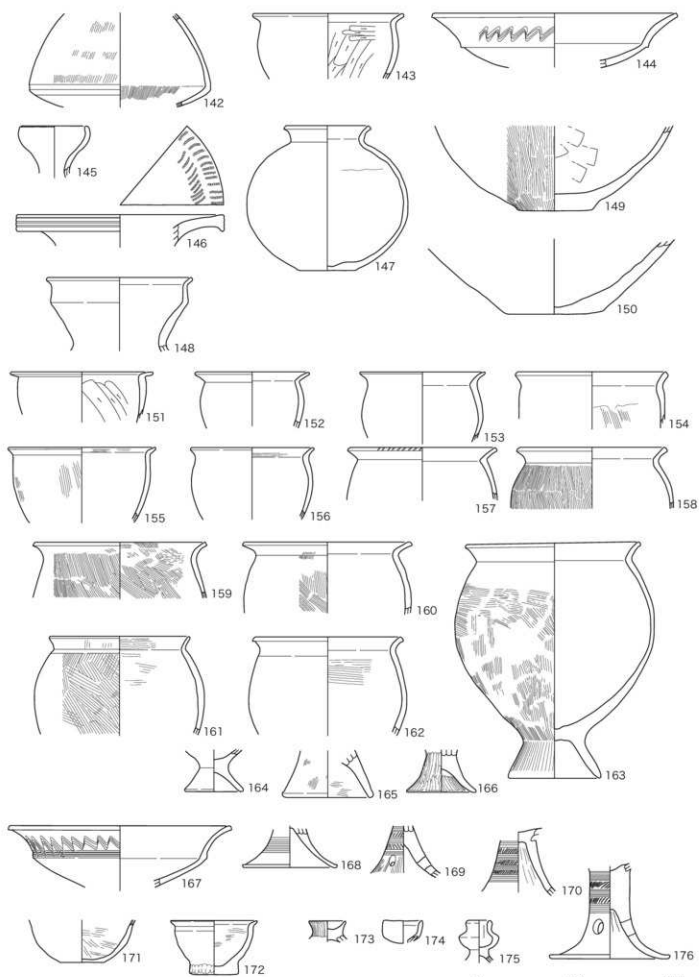




第152図 縄文土器(2)



第153図 縄文土器(3)



第 154 图 弥生土器

0 10 20cm

### 3. 古墳時代の遺物

この時期の遺物として3世紀末から7世紀中葉の時期の遺物を対象とする。煩瑣を避けるため、主な遺物について記述上の分類を行っておく。

#### 土師器

甕 A 広口甕。口縁が外反ないし外傾する。

- B 広口甕で口縁端部を拡張し、凹線文を加えるなど装飾がある。
- C 小形の甕で口頸部が直口あるいは外反する。
- D 小形の甕で口頸部が内湾する。

甕 A 口縁部がくの字状に外反する。台を有するものと無いものがある。

- B 外反した口縁部が屈折して、端部が付きだす。いわゆるS字甕である。
- C 口縁部が緩く外反し、胴部は球形からやや長胴のものである。
- D 口縁部の外反が強く長胴形のものである。

#### 須恵器

杯 A 丸底で蓋受けのかえりを有する。

- B 体部が直線的に立ち上がり、底部との境界に稜がはいる。
- C Bに高台が付くもの。
- D 深く、丸い体部のもの。

杯蓋 A 丸い天井部で、口縁が立ち上がり境界に稜がはいる。頂部に宝珠を有する。

- B Aと同じ形状で、宝珠を有しない。
- C 扁平な天井部で口縁が短く屈曲する。頂部に宝珠を有する。
- D Cと同じ形状で頂部に宝珠を有しない。

出土遺物は古墳時代全時期にわたり、調査区に広く展開する。遺物の種別ごとに記述する。

#### a. 堅穴住居

##### 南部地区

##### SB012(第155図)

須恵器は杯蓋 B(177)が検出された。蓋の稜は明瞭ではない。土師器甕 B(178)が出土している。7世紀中葉の時期に属する。

##### SB025(第155図)

須恵器はハソウ(179)が検出された。丸底のものである。土師器甕 B(180)が出土した。7世紀中葉の時期である。

##### SB027(第155図)

須恵器は台付長頸瓶の蓋(181)高杯(182 183)甕?(184)甕(185)横瓶(186)が検出された。土師器は甕 C(187-193)D(914)がある。甕 Cはハケ調整痕を残さない。188 189は短い口縁である。190-193は平底である。194は内面がナデ調整で外面はハケ調整痕が頸部意外に明瞭に残る。これらは7世紀前半の時期と考えられる。

##### SB031(第155図)

須恵器は高杯(196)ハソウ(197)甕(195 198)が検出された。196は口縁端部が外反する。197は丸底である。195は体部に叩き目をもつ。198は体部が焼成時に歪んでいる。土師器は甕 C(199-201)が検出された。201は内外面ハケ調整痕を残さない、短い口縁部のものである。196と198は甕の高まりの埋土中より出土した。これらは6世紀末から7世紀初頭の時期と考

える。

SBO32(第156図)

須恵器は杯A(202-206)杯蓋B(207-208)高杯(209)が出土した。203-207はやや口径の大きいものである。土師器は甕C(211-216)高杯(210)が出土した。基本的に内面のハケ調整痕はナデ調整によって消される。底部は平底である。6世紀後半の時期に属す。

SBO33(第156図)

須恵器は杯A(219-220)が出土している。土師器は甕C(221)が出土した。6世紀後葉の時期に属す。

SBO34(第161図)

須恵器は杯蓋B(353)甕(358)が出土した。杯蓋は東山111号窯式と考えられる。甕は外面叩き目を施される。土師器は甕A(354-355)高杯(356-357)が出土した。高杯は杯部碗状のものと同様のものがある。

SBO35(第156-157図)

須恵器は杯A(222-224)杯蓋A(225-226)B(227-233)が出土した。杯はいずれも口縁の高く垂直に立ち上がる形態である。蓋は口縁が高く垂直に立ち上がるものである。これらは東山218号窯式から東山11号窯式の時期である。土師器は甕C(235-247)台付甕脚部(248)鉢(249)が出土した。基本的に内外面調整痕を残さないが、241は外面ハケ調整痕が明瞭である。236は口縁が内湾気味になる。底部はやや尖った形態で底面の面積が狭い。242は丸底に近い。249は口縁がわずかに外反する。5世紀後半の時期と考える。

SBO36(第158図)

須恵器は杯A(249)杯蓋(250)が出土した。249は東山111号様式、250は5世紀代である。土師器は甕C(251-256)が出土した。5世紀代の時期に属する。

SBO37(第159図)

須恵器は杯A(282-288)高杯(289)甕(291)壺類(292)瓶類蓋(290)が出土した。282-283は5世紀後半、284-292は6世紀末の時期である。290は小径の瓶類の蓋である。292は壺あるいは瓶の底部である。土師器は甕C(293-302)が出土した。調整痕を残さないものが多い。301は底部に木葉痕を有する。5世紀代の須恵器は混入であり、全体として6世紀末の時期と考える。

SBO38(第158図)

須恵器は杯A(257)杯蓋(258-259)が出土した。257と258は6世紀中葉の時期、259は5世紀後半の時期に属する。

SBO39(第158図)

須恵器は杯A(260-264)杯蓋A(265)が出土した。263はやや大径で東山61号窯式、他は東山44号窯式である。土師器は甕C(266-272)甕(273)が出土した。267-268は外反がわずかである。273は把手の部分である。これらは6世紀後半の時期に属する。

SBO40(第158図)

土師器が出土している。甕C(274-279)は調整痕をのこさない。手づくね土器(280-281)は小形の鉢の形態である。6世紀代の時期と考えられる。

SBO41(第160図)

須恵器は杯A(303-305)高杯(306-310)が出土した。304-305-307-309は東山44号窯式の時期に属する。306は少し古い時期である。土師器は甕C(307-309-311)が出土した。調整

痕はあまり残らない。これらは7世紀初頭の時期に属する。

SB042(第160図)

須恵器は杯A(312)高杯(313)ハソウ(314)が出土した。312はやや大径で東山61号窯式の時期である。313は6世紀代である。土師器は甕C(315)が出土した。口縁部は短く、わずかに外反する。これらは6世紀代と考えられる。

SB044(第160図)

須恵器は杯A(316 317)蓋A(319)B(318)高杯(320-324)が出土した。316は東山111号窯式、317 318は6世紀後半、320-324は5世紀後半の時期に属する。土師器は甕A(325 327)台付甕脚部(326 328)高杯(329 330)が出土した。318 319は混入の可能性があり、5世紀後半の時期と考える。

SB051(第161図)

土師器は甕A(331-333)高杯(337-340)鉢(334 335)手づくね土器(336)が出土した。甕Aは調整痕があまり残らない。高杯は杯部碗形の337と大形の有段の338-340がある。杯は丸底にちかいかい平底と丸底のものがある。337は鉢である。赤塚福年の松河戸Ⅱ式の時期に属する。

SB052(第161図)

土師器は甕A(341-346)台付甕(347)高杯(348-351)甕(352)が出土した。甕は調整痕があまり残さない。347は甕AないしBである。高杯は杯部が碗型のものである。

SB060(第162図)

須恵器は杯蓋B(359 360)が出土した。359は5世紀代、360は6世紀代である。土師器は甕C(361)が出土した。

SB061(第162図)

須恵器は杯A(362)と杯蓋B(363)が出土した。362は7世紀前葉、363は5世紀代の時期に属する。

SB063(第162図)

須恵器は杯A(364)が出土した。7世紀前葉の時期に属する。

SB065(第162図)

須恵器は長頸瓶(365)が出土している。土師器は甕C(366-368)甕底部(369 370)が出土している。6世紀後半に属すものと考ええる。

北部地区

SB201(第163図)

須恵器は高杯(371)が出土した。土師器は甕C(372)が出土している。7世紀代と考える。

SB202(第163図)

須恵器は杯A(373)が出土した。7世紀前葉の時期である。土師器は甕(374 376)鉢(375)が出土した。375はやや外反する体部で外面にハケ調整痕を有する。375 376は底部に木葉痕を有する。

SB204(第163図)

須恵器は杯A(377)が出土する。7世紀前半の時期である。土師器は甕C(378-380)甕底部(381-383)が出土した。382 383は底面に木葉痕を有する。

SB205(第163図)

須恵器は杯A(384)高杯(385)が出土した。7世紀前半の時期に属する。土師器は鉢(386)甕(387)が出土した。387は広い鈔を有するものである。

SB206(第163図)

須恵器は高杯(388)が出土した。7世紀前半に属する。土師器は甕底部(389)が出土した。

SB208(第163図)

須恵器は杯A(390-392)杯蓋B(394-395)器種不明(393)が出土した。これらは7世紀前半で、395は5世紀代の時期に属し、混入したと考える。土師器は甕C(396)鉢(397)甕(398)が出土した。

SB209(第164図)

須恵器は杯A(399)高杯(400)が出土した。7世紀前半の時期に属する。土師器は甕A(401)が出土した。

SB210(第164図)

須恵器は杯A(402)高杯(403)が出土した。402は東山111号窯式の時期に属する。

SB211(第164図)

須恵器は杯A(405-406-408)鉢(407)が出土した。7世紀前半の時期に属する。土師器は甕C(409-416)甕(417-418)手づくね(419-421)が出土した。412-413は同一個体の可能性があり、底部に木葉痕を有する。417は甕把手である。

SB212(第164図)

須恵器は杯A(422)杯蓋B(423-425)高杯(426)が出土した。422は平底である。423は底面に木葉痕を有する。これらは7世紀前半の時期に属する。土師器は甕C(427-428)が出土した。

SB213(第165図)

土師器は壺A(429)壺B(430)甕A(431)鉢(432-434)蓋(433)が出土した。429は口縁部の内外面にハケ調整痕を残す。432は凹圧痕を残す。435は内外面にハケ調整痕を残し、少量の2次的に火を受けるなど、甕としての機能を持つ可能性がある。廻間I式の時期に属す。

SB214(第165図)

土師器は甕C(435-437)が出土した。廻間I式の時期に属す。

SB216(第165図)

土師器甕A(438-441)台付甕(442)壺C(443)高杯(444)不明(445)が出土した。445は内外面ナデ調整で口縁部のみで鉢の可能性もある。尾張地方編年の廻間II式期の時期である。

SB218(第165図)

土師器壺(446)ミニチュア(447)が出土している。古墳時代前半の時期と考える。

SB221(第165図)

土師器壺(448)甕A(449-451)台付甕(452-453)高杯(454-458)器台(459)が出土している。448はやや長胴で壺Cあるいは壺Dと考える。452は口縁端が内折して受口状である。高杯は内外面丁寧な磨き調整が施される。459は杯部が受口状で側面に円形透かしを施される。廻間IIまたはIIIの時期である。

SB222(第166図)

土師器は壺B(460-465)壺A(466)甕A(467)B(468)鉢(471)が出土した。466は体部に文様があるが、口縁部には文様が施されない。469は甕AまたはBの脚部、470は有段高杯で混入と考える。廻間II式の時期と考える。

SB223(第166図)

土師器壺(472-475)鉢(473-474)が出土した。472は有段の壺である。鉢は小形のものであ

る。廻間Ⅰ - Ⅱの時期である。

SB227(第166図)

土師器は壺(476) 甕A(478) 高杯(481) 小型壺(482-483) 鉢(484-498) 器台(490-491)が出土した。477はハケ調整痕が全面にあり、同調整具の横方向沈線文が施される。479-480は甕ABの脚部である。廻間Ⅱ式の時期である。

SB230(第167図)

須恵器は蓋B(492-493)が出土した。これらは7世紀前半の時期に属する。土師器は台付甕脚部(494) 高杯(495) 器台(496)があるが、混入である。

SB237(第167図)

土師器高杯(497)が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB243(第167図)

土師器壺B(499) 甕(498)が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB246(第167図)

須恵器杯A(501)が出土した。7世紀前半の時期である。

SB250(第167図)

土師器器台(500)が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB251(第167図)

土師器甕B(502)が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB253(第167図)

土師器甕A(503)が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB262(第167図)

土師器甕A(504)が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB266(第167図)

須恵器は蓋C(505) 蓋B(506)が出土した。505は混入と考える。土師器は甕C(507-510) 鉢(511)が出土した。これらは7世紀前半の時期と考える。

SB267(第167図)

須恵器は杯A(512-513)が出土した。東山61号窯式の時期である。土師器は甕C(515-517)が出土した。甕B(515)は混入と考えられる。

SB275(第167図)

土師器は甕A(518) 台付甕(519-520)が出土した。

SB276(第167図)

土師器甕A(522) 鉢(523)が出土した。古墳時代前半の時期である。須恵器杯D(521)は8世紀前半の時期で混入と考える。

SB285(第168図)

土師器壺B(524) 壺(525) 台付甕(526) 高杯(527-529) 器台(528)が出土した。526は口縁有段である。これらは廻間Ⅲ式の時期である。

SB286(第168図)

土師器甕Aは無台(531-532)と台付(533)が出土した。534は小型壺と考える。廻間Ⅱの時期である。

b. 土坑

南部地区



03Ab 区

SK112(第169図)

須恵器杯 A(535) が出土した。7 世紀中葉の時期である。

01B 区

SK45(第169図)

須恵器は杯蓋 A(536) が出土した。7 世紀前半の時期である。

03B 区

SK206(第169図)

須恵器杯 A(538) 杯蓋 B(539) が出土した。540 は器種不明胴部である。土師器は甕 A(542-548) 台付甕 (549-550) 高杯 (551-559) 鉢 (541) 器種不明 (560) が出土した。551-553 は壺底部である。560 は有段の大形高杯である。5 世紀後半の時期に属す。

SK371(第169図)

須恵器杯蓋 (561-562) が出土した。土師器は甕 C(563) 壺 (564-565) が出土した。これらは 6 世紀前半の時期に属す。

SK372(第169図)

土師器甕 A(566-568) が出土した。

SK605(第169図)

須恵器杯蓋 (569) 出土した。6 世紀中葉の時期である。

04Bd 区

SK09(第169図)

須恵器杯 D(575) が出土した。7 世紀後半である。

SK25(第169図)

須恵器杯 D(576) が出土した。7 世紀後半である。

04Ca 区

SK920(第170図)

須恵器杯蓋 A(573) が出土した。6 世紀前半の時期である。

SK961(第170図)

須恵器は杯 A(570-571) 高杯 (572) が出土した。土師器は甕 C(574) 出土した。7 世紀前半に属す。

北部地区

02B 区

SK134(第171図)

土師器は壺 B(592-597) 甕 A(598) が出土した。廻間Ⅱ式の時期である。

04Ab 区

個別の遺構から 1 点のみ出土している。

SK018(第171図)

須恵器杯蓋 B(599) が出土した。7 世紀前半である。

SX02(第171図)

土師器壺 A(600) が出土した。古墳時代前半である。

SK393(第171図)

土師器壺 (605) である。

SK987(第171図)

土師器甕A(603)で古墳時代前半である。

SK1020(第171図)

土師器甕C(602)が出土した。古墳時代後半である。

SK1023(第171図)

土師器甕C(601)が出土した。古墳時代後半である。

C. 溝

SD212(第172-176図)

02B区、04Ab区の溝である。弥生時代の溝であるが、上層より古墳時代前半の土師器が投棄した状態で多量に出土した。

土師器壺は、壺A(606 607 619) 壺B(616 618 620 621) 有段壺(608-615 617) 加飾胴部(622-624) 胴部下半(625-628) 底部(629-641)が出土している。甕は、甕A(642-677 679-682) 甕B(698-708) 台部(683-697) 出土している。高杯(716-728)は杯部有稜のもの(716-718)と杯部碗状のもの(721 722)のものがある。723は稜の部分か鈎状になり、杯部に透かしがある。器台(729-734)は透かしを有するものが多い。鉢は外反する口縁のもの(735)と皿状のもの(736 737)があり、小型の鉢は口縁部が外反するもの(761-764)と半球状のもの(765-768)がある。小型壺(739-760)は短頸壺(739 742-745 754-757) 長頸壺(746-748 753)がある。758は脚付きである。769-772は蓋である。

D. 包含層 その他

SD103(第170図)

中世の溝埋土中より出土した。須恵器杯A(577 578) 杯蓋B(579)が出土した。7世紀前半のじきである。土師器は甕C(580)が出土した。

SD140(第170図)

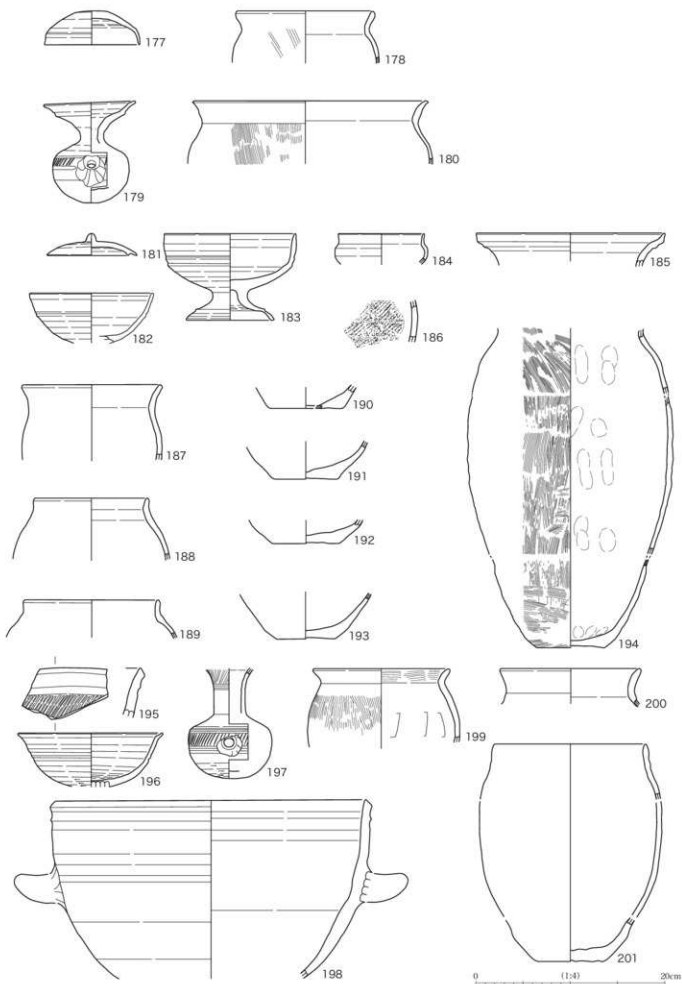
中世の溝埋土中より出土した。須恵器杯蓋C(581)が出土した。

04Ca区(第170図)

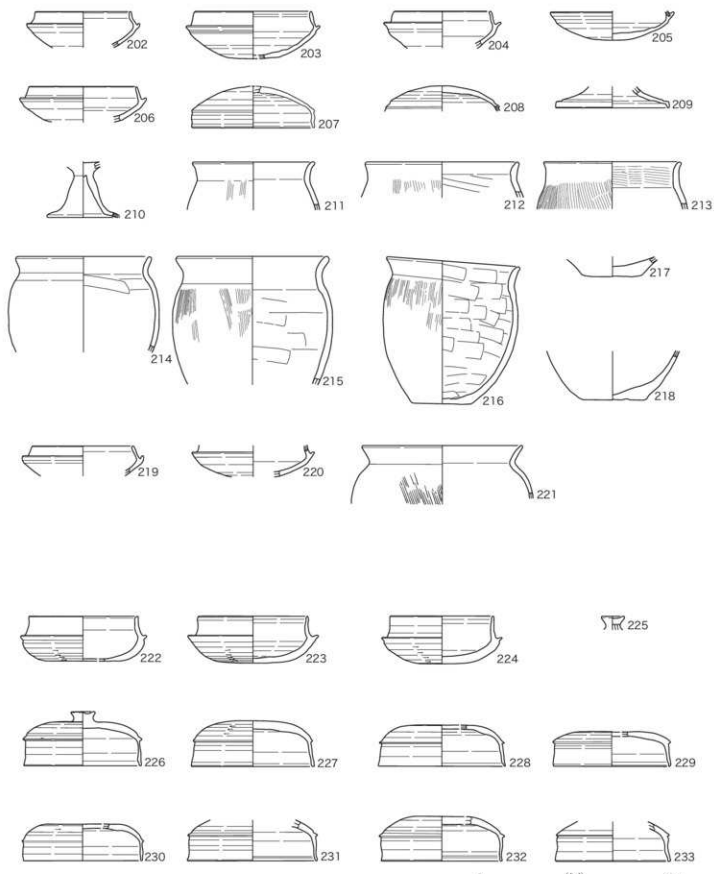
基盤面上層の黒ボク土より出土した。須恵器は杯A(582 583)が出土した。6世紀前葉の時期に属す。土師器は甕A(584-589) 甕B(590) 鉢(591)が出土した。5世紀代の時期に属す。

02A区(第177図)

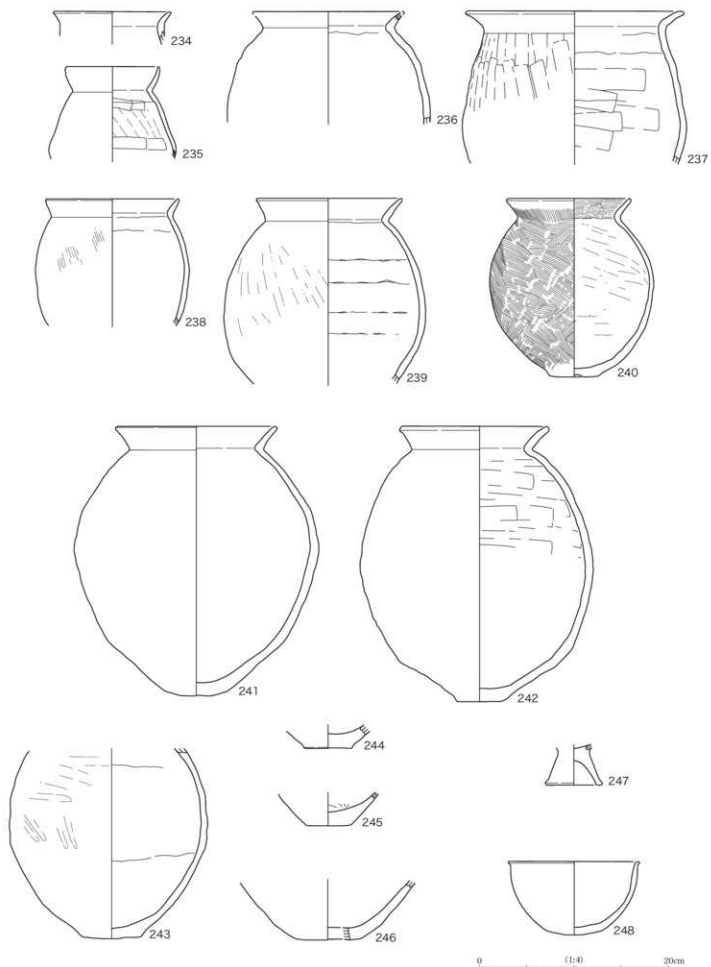
基盤上層の黒ボク土より出土した。須恵器は杯A(773-775) 高杯(776)が出土した。773 774は東山111号窯式、775は東山50号窯式の時期に属する。土師器は壺A(777 778) 二重口縁壺(779) 甕A(786-795) 甕B(784 785) 高杯(802-805) 器台(806 807)が出土した。785は器種不明である。土師器は古墳時代前半の時期である。(酒井俊彦)



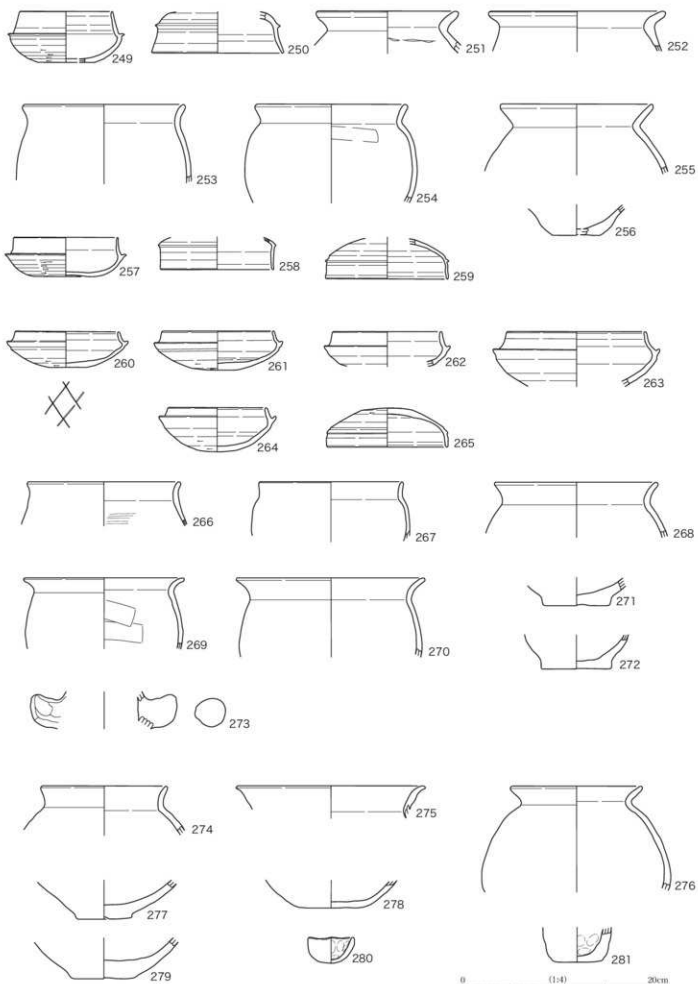
第155図 古墳時代土器(1)



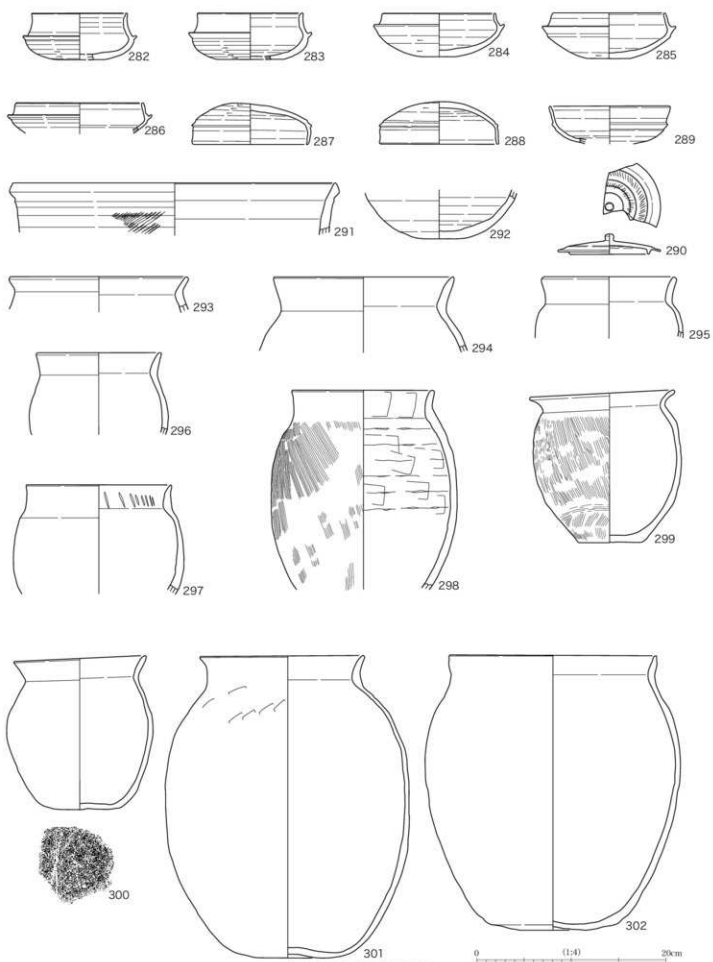
第 156 圖 古墳時代土器 (2)



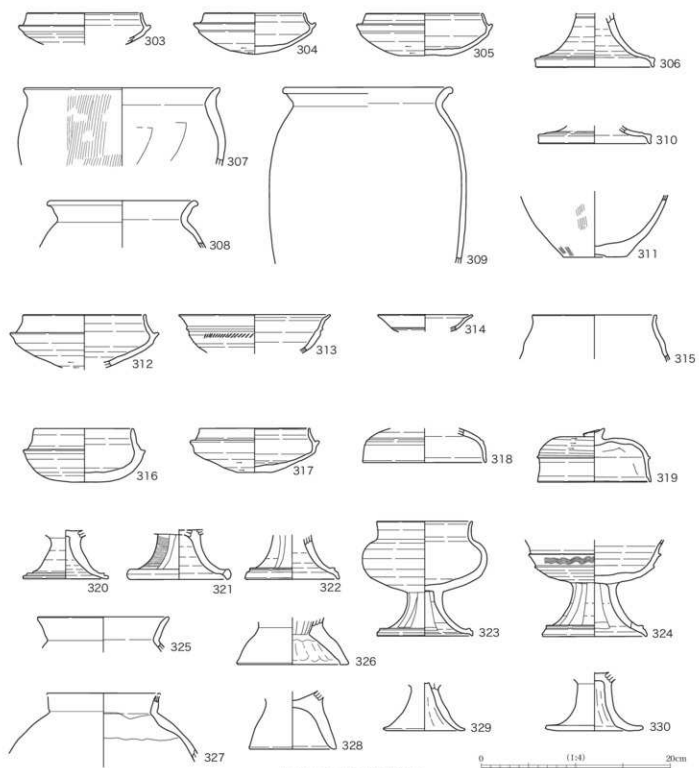
第 157 図 古墳時代土器 (3)



第 158 図 古墳時代土器 (4)

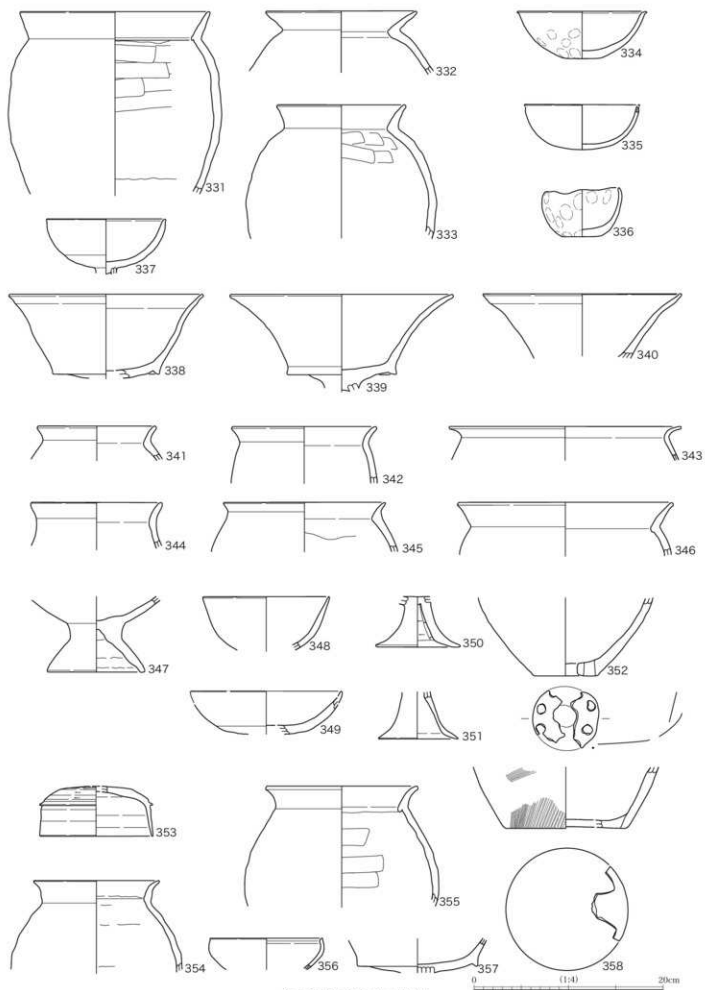


第 159 図 古墳時代土器 (5)

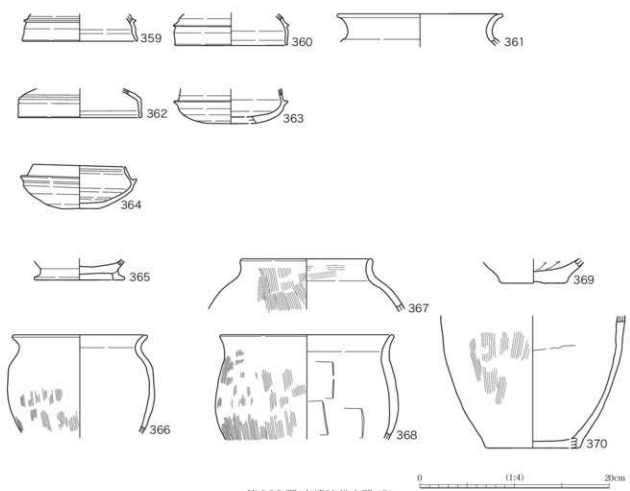


第160图 古墳時代土器(6)

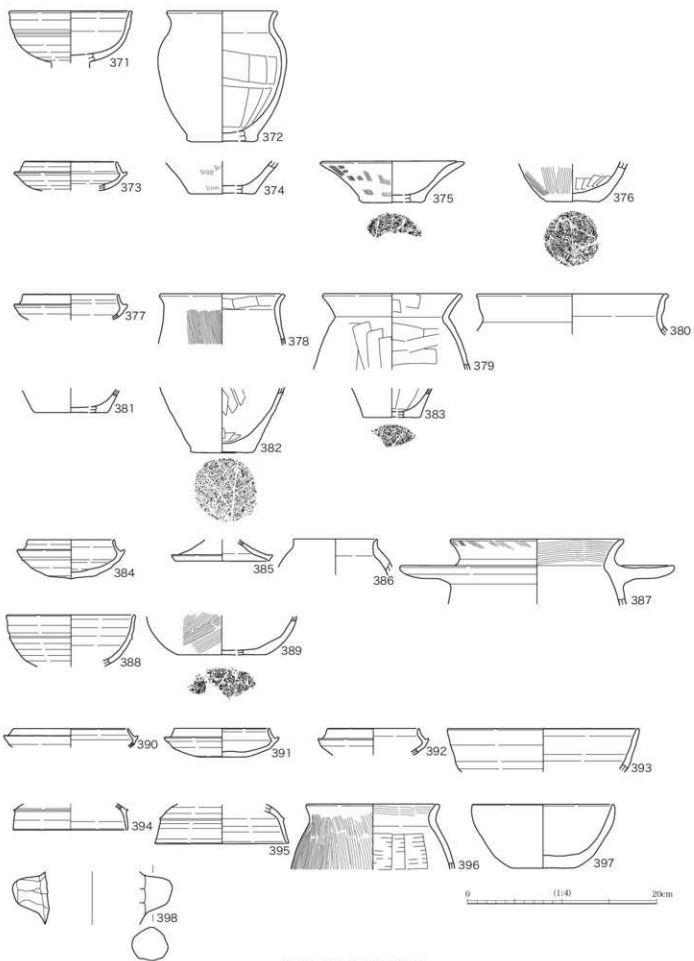




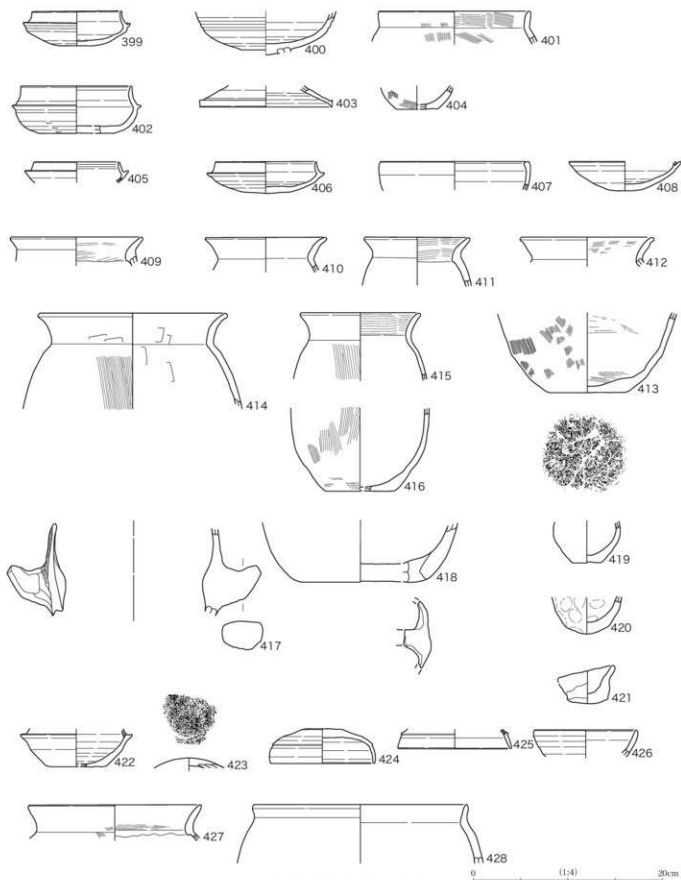
第 161 图 古墳時代土器 (7)



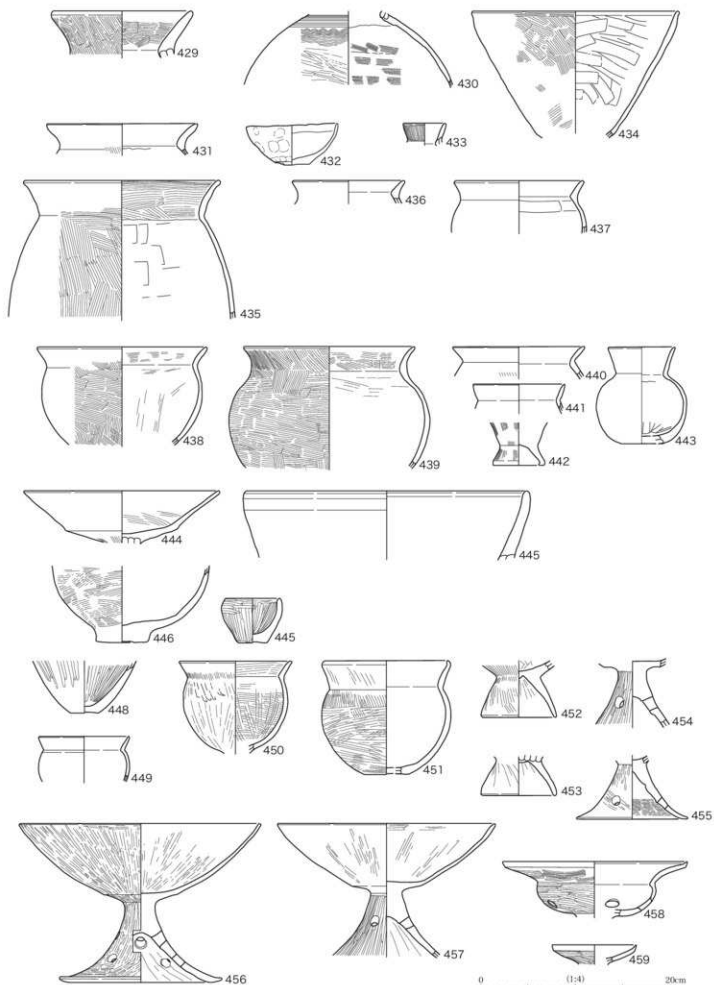
第 162 図 古墳時代土器 (8)



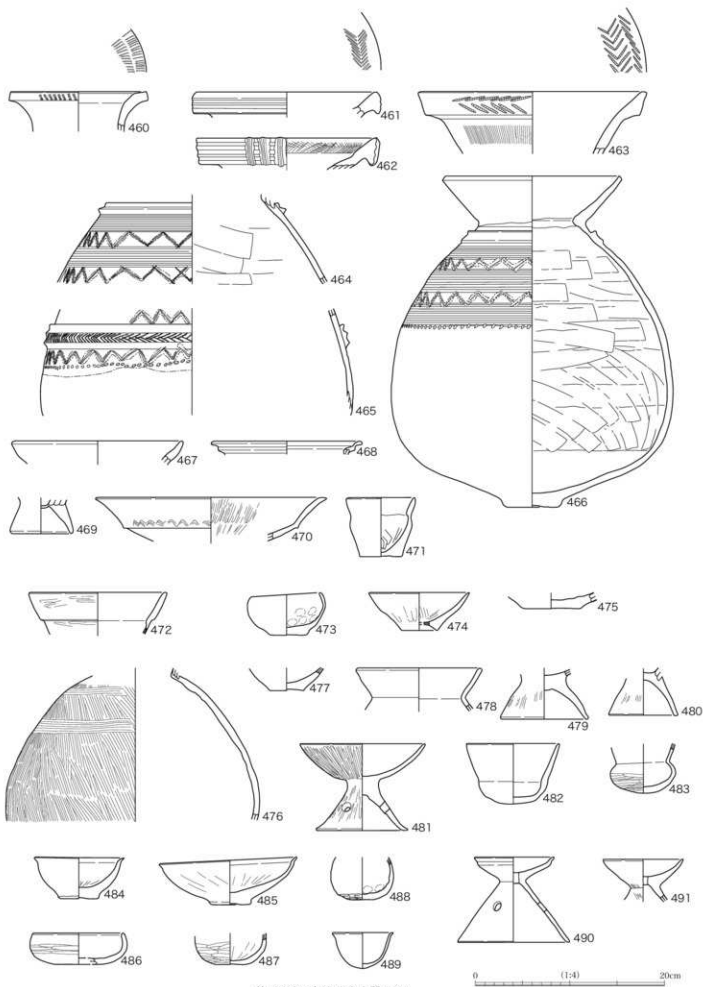
第163図 古墳時代土器(9)



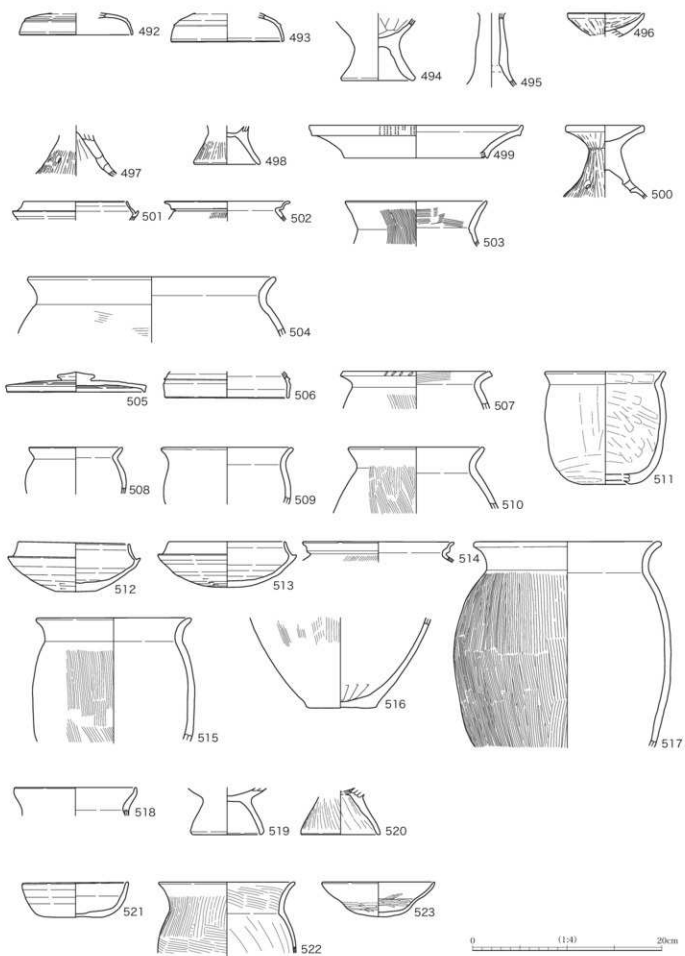
第164圖 古墳時代土器(10)



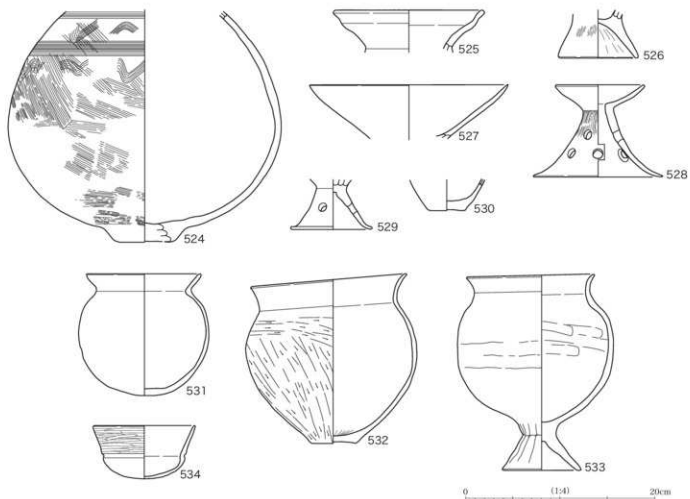
第 165 图 古墳時代土器 (11)



第166圖 古墳時代土器(12)

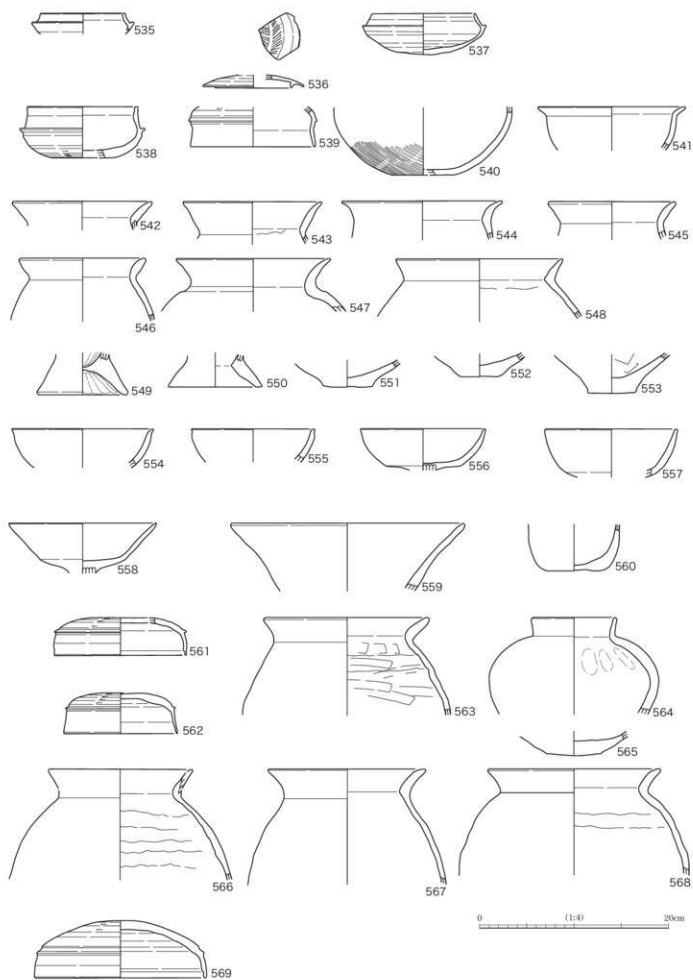


第167图 古墳時代土器(13)

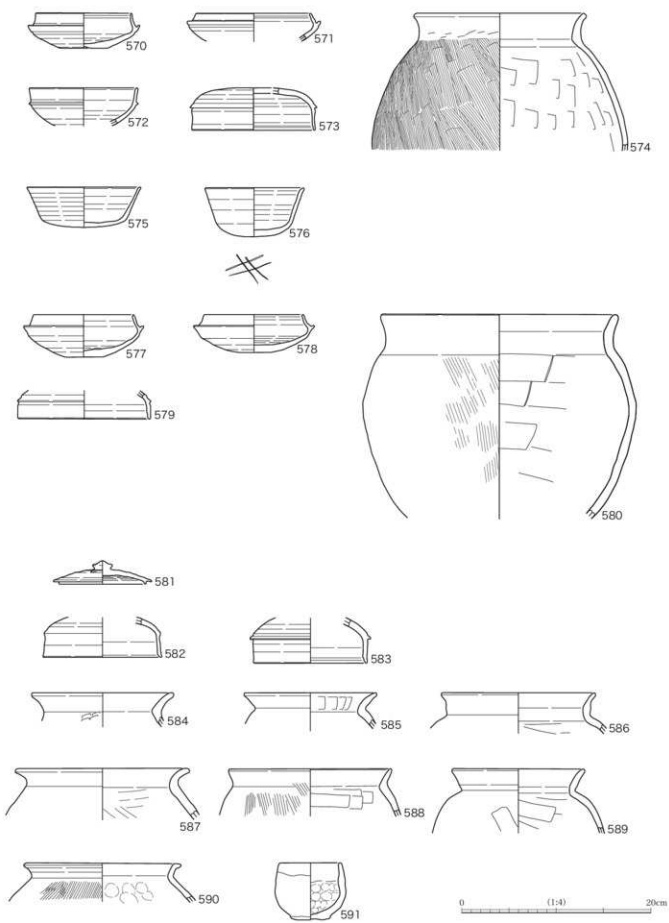


第168図 古墳時代土器(14)

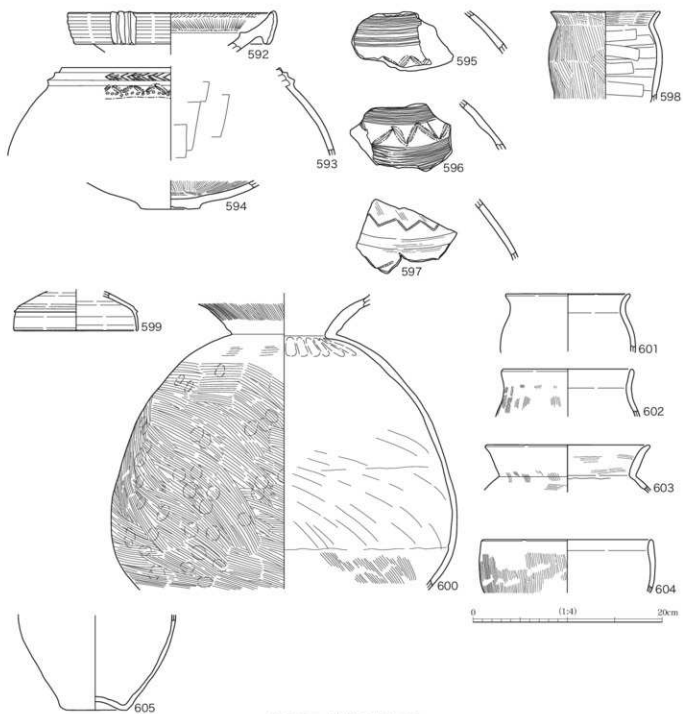




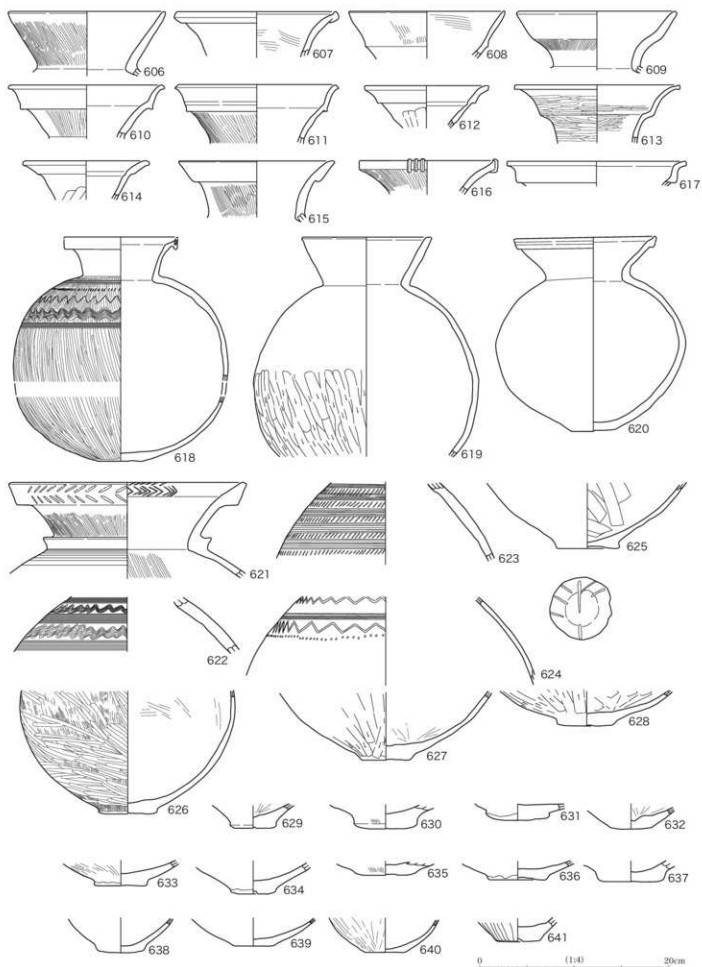
第 169 図 古墳時代土器 (15)



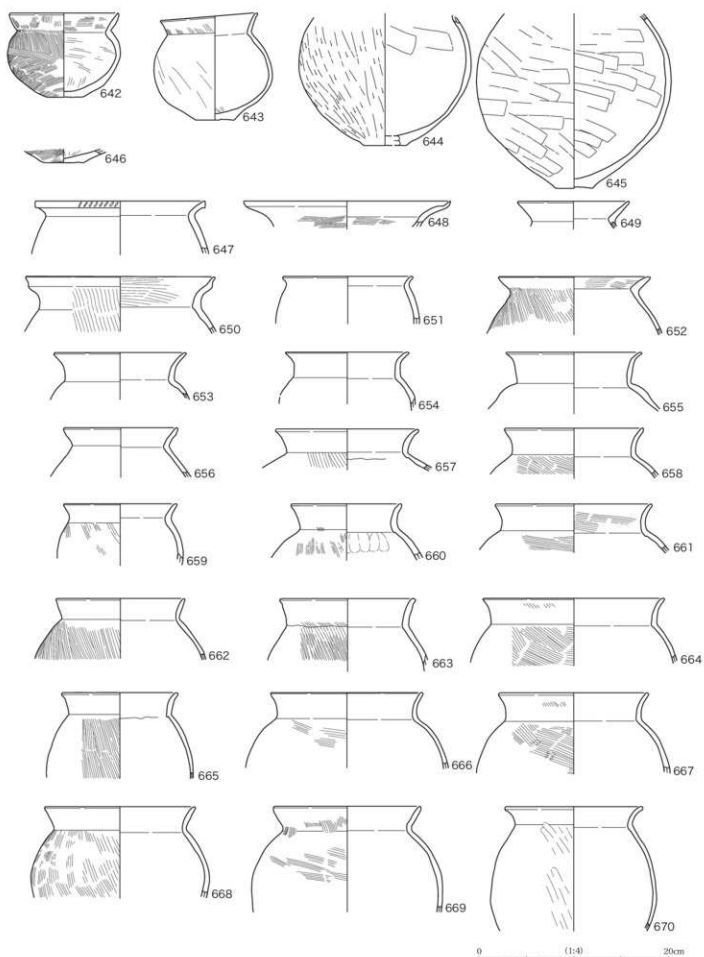
第170圖 古墳時代土器(16)



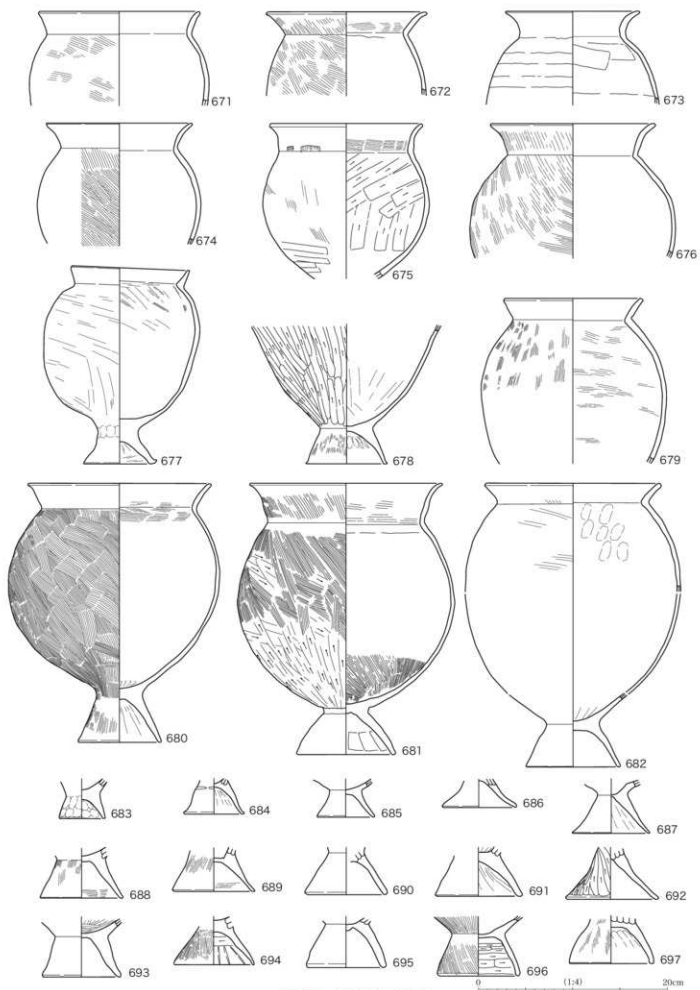
第171圖 古墳時代土器(17)



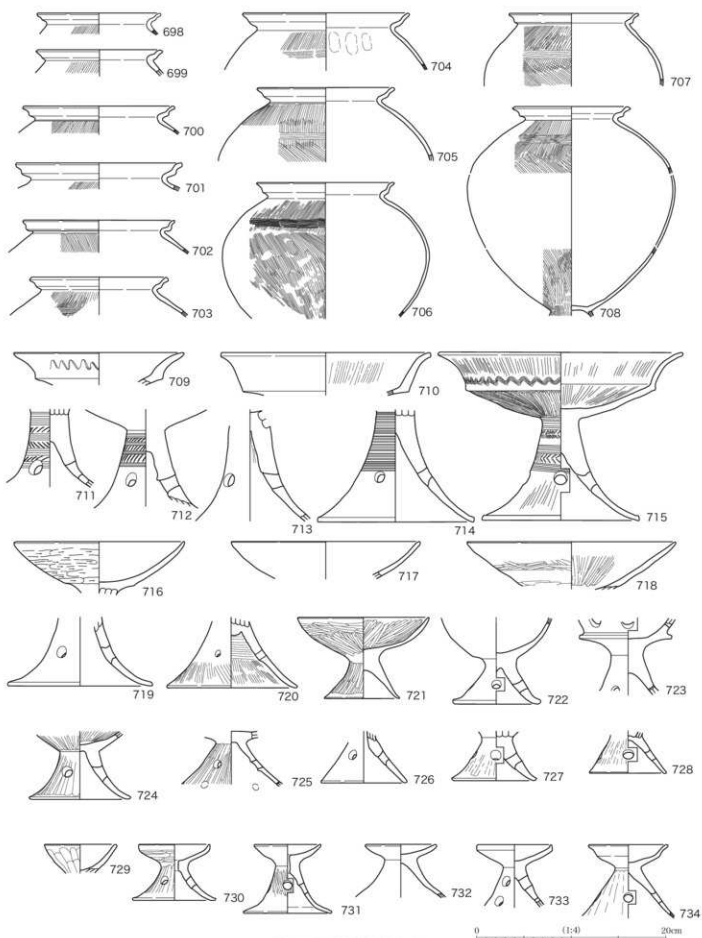
第172図 古墳時代土器(18)



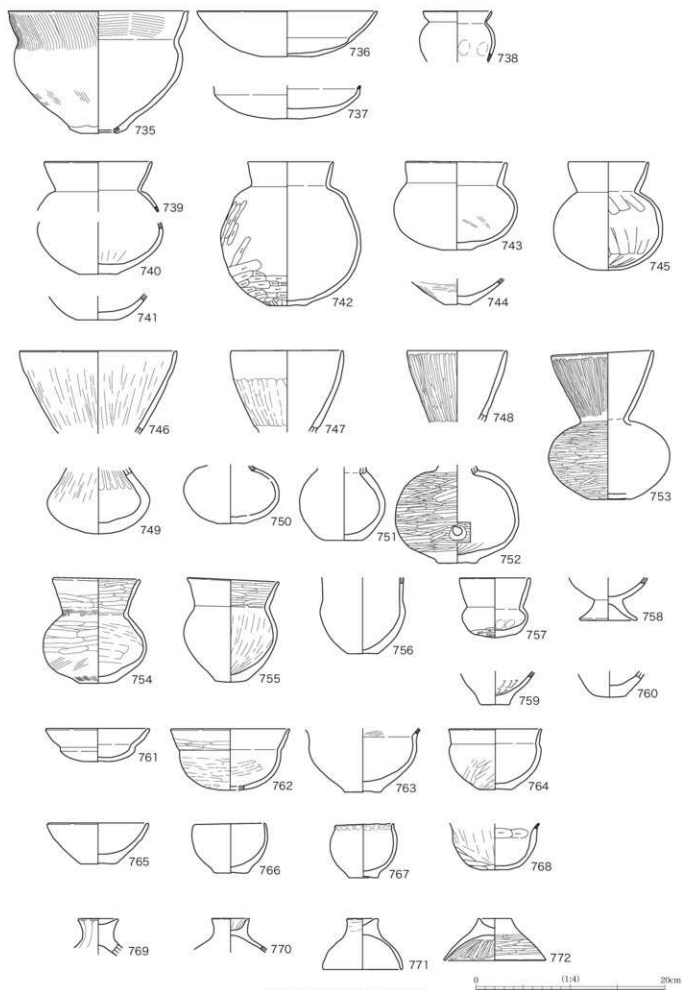
第173圖 古墳時代土器(19)



第174图 古墳時代土器(20)

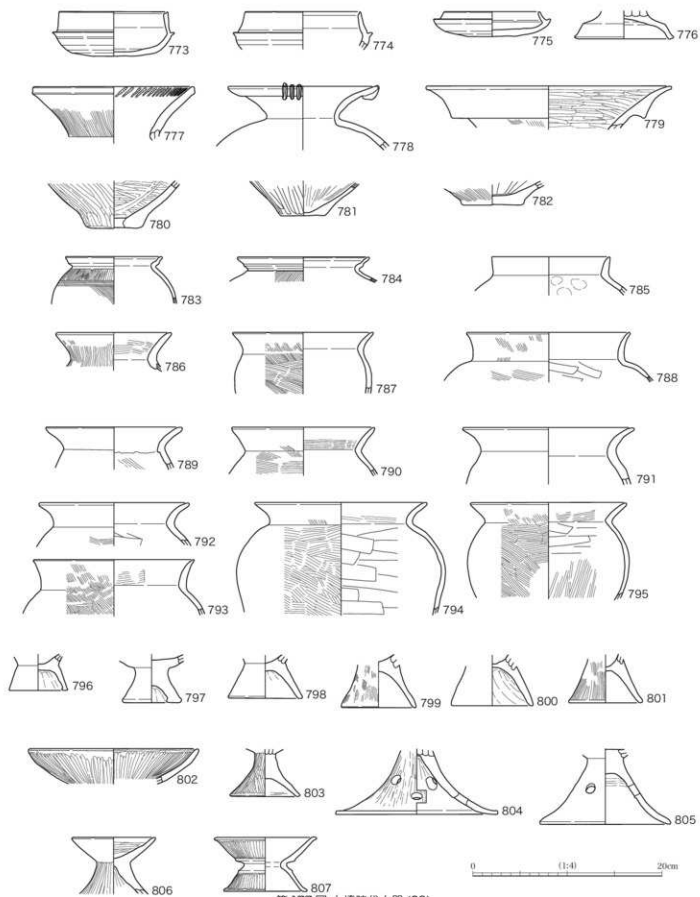


第 175 図 古墳時代土器 (21)



第 176 図 古墳時代土器 (22)





第 177 図 古墳時代土器 (23)

#### 4. 古代の遺物

この時期の遺物として7世紀末から9世紀のものを取り扱う。須恵器、土師器の説明として、古墳時代の分類を援用する。

##### a. 竪穴住居

###### 北部地区

###### SB018(第178図)

須恵器は杯D(808-809)杯蓋C(812)が出土した。また、灰軸陶器皿(811)が出土している。土師器は甕C(813)甕D(810)が出土している。これらは9世紀後半の時期に属すると考える。

###### SB043(第178図)

須恵器杯B(814)杯蓋(815-816)が出土した。8世紀後半の時期に属す。

###### SB064(第178図)

須恵器は杯D(817-818)杯蓋C(819)が出土した。土師器は甕C(820-822)甕(823)が出土した。これらは8世紀後半の時期に属す。

###### 南部地区

###### SB226(第178図)

須恵器は杯B(825)杯D(824)杯蓋C(826-828)長頸壺(829)が出土した。土師器は甕C(827)が出土した。831は甕Dの可能性がある。832は甕底部、833は鉢である。これらは9世紀後半の時期と考える。

###### SB272(第178図)

須恵器は杯B(835)が出土している。土師器は甕C(836-839)が出土した。8世紀代と考える。

###### SB287(第178図)

須恵器杯D(839)と土師器甕底部(840)が出土している。

##### b. 土坑、その他

###### 01B区SK108(第179図)

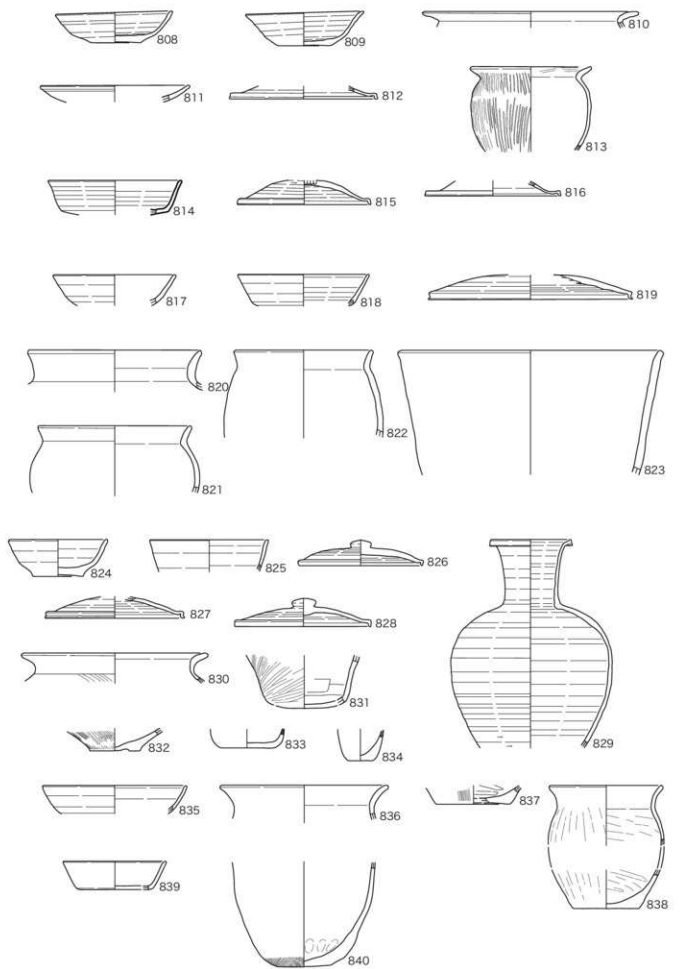
須恵器杯蓋C(841)および灰軸陶器の平瓶(843)壺類(842)が出土した。9世紀前半に属する。

###### SX026(第179図)

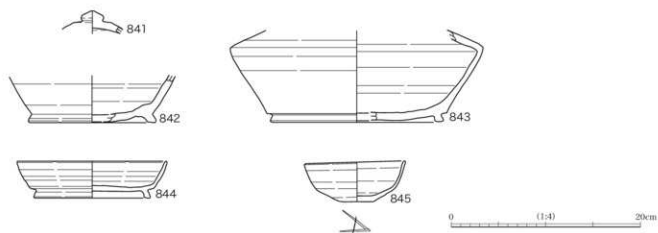
須恵器は杯D(844)が出土した。7世紀末の時期に属する。

###### 04Ab区SK0120(第179図)

須恵器は杯D(845)が出土した。8世紀初頭に属する。(酒井俊彦)



第178图 古代土器(1)



第179图 古代土器(2)

## 5. 中世の遺物

この時期の遺物として、12世紀から16世紀代のものを取りあげる。調査区全体で遺構が確認され、時期的に幅広く、種別、器種ともに各種のものが出土している。記述の煩瑣を避けるため、主要な瀬戸美濃窯産の陶器についてあらかじめ分類を行っておく。また、瀬戸美濃窯産陶器(古瀬戸陶器)および山茶碗の型式編年は藤沢良祐氏の編年に基づく。注(1)

碗 A 体部は内湾しつち立ち上がる。口縁部が屈曲してたちあがる、あるいは外反するもの(天目茶碗)

B 体部は内湾しつち立ち上がり、丸みを帯びた器形のもの(丸碗)

C ハの字状に体部が広がるもの(平碗)

皿 A 口縁部の上に軸葉が掛かるもの(緑軸小皿)

B 口縁部が外に屈曲するもの(折縁小皿)

C 体部は内湾して立ち上がり丸みを帯びる器形のもの(丸皿)

D 口縁部が外反するもの(端反皿)

E 腰部が屈曲し、口縁部にかけて大きく外反するもの(腰折皿)

F 体部が直線的に開いて立ち上がり、口縁部が外反するもの(稜皿)

G 高台を有し、口縁部が外反するもの。内面に輪状の無軸部分があるもの(輪禿皿)

H 卸し目があるもの(卸皿)

鉢 A 体部は大きくハの字状に開き、内面に摺り目のあるもの(摺鉢)

B 口縁部に注口を有するもの(片口)

C 体部は円筒状あるいは胴下半が膨らむ器形で、3つの脚を有するもの(香炉)

D 体部は大きくハの字状に開き、3つの脚を有するもの(直縁大皿)

E Dの体部で口縁を外側に屈曲するもの(折縁深皿)

甕 A 短い口縁部を有する大形のもの

B 厚い器壁で、口縁部を外に折り返すもの(常滑窯産の甕)

壺 A 口径が大きく、双耳を有するもの(口広有耳壺)

B 袋状の体部で肩部に耳を有するもの(四(三)耳壺)

a. 竅穴状建物

SB055(第180図)

山茶碗(846-848)、碗C(849-850)、皿A(851)B(852)、鉢B(853)、水滴(854)が出土している。山茶碗は南部系9-10型式、施軸陶器は碗が後I・II期、他は後III・IV期である。

b. 土坑

(1) 集落外南部

南部地区南半の中世集落外の土坑出土遺物を対象とする。個々の土坑の出土遺物は少量であり、調査区で一括する。

O1A区(第180図)

山茶碗(855-861)、土師器鍋(862-863)が出土している。山茶碗は4-6型式で855-858は北部系である。862は羽釜型鍋、863は伊勢型鍋で13世紀代である。

O3Aa区(第180図)

碗A(864)が出土している。古瀬戸後期である。

03B区(第180図)

山茶碗(874)、皿A(875)、鉢A(878-879)、土師器皿(876-877)が出土した。865は南部系5型式、古瀬戸陶器は後IV期、879は大窯第1段階である。

03B区SK11(第180図)

山茶碗(865-873)が出土した。865は北部系7型式、他は南部系5・6型式である。

(2) 集落北西部

南部地区04C区、04D区で確認された溝で囲まれた中世集落内で検出された土坑内遺物で、集落中央に走る溝群より北西側のものである。少量出土の遺物については一括する。

04Cb区・04Db区(第183-184図)

山茶碗(959-985)、碗A(986-990)C(992)、平底末広碗(991)、端反碗(993)、皿A(994-998)B(999)E(1000)、入子(1001)、折縁中皿(1004)、鉢A(1012-1017)D(1002)E(1003-1005-1007)、内耳鍋(1008-1011)、花瓶(1018)、燭台(1019-1021)、匣鉢(1023-1024)、土師器鍋(1025)、土師器皿(1026-1028)が出土した。山茶碗は南部系9-10型式(959-965-974-985)、北部系II型式(966-973)である。碗Aは後I・II期と後IV期、大窯第1段階のものである。碗Cは後I期、平底末広碗は中皿期、皿Aは後IV期である。皿Bは後II期、入子は中皿期である。鉢D、Eは後III期、内耳鍋は後IV期である。鉢Aは後IV期(1012-1013)と大窯第1段階(1015-1016)同2段階(1018)である。花瓶は古瀬戸中期、燭台は古瀬戸後期である。匣鉢は古瀬戸後期である。土師器鍋は半球形内耳鍋である。土師器皿は轆轤成形である。

04Cb区SK93(第181図)

皿B(880-882)、折縁中皿(884)、小鉢(883)、鉢E(885)、盤(886)が出土した。古瀬戸後I-II期のもので、盤は古瀬戸後期である。

04Cb区SK352(第181図)

山茶碗(887-890)、平底末広碗(891)、皿B(892)、鉢A(893)、匣鉢(894)が出土した。山茶碗は南部系8-9型式、889は北部系11型式、891は中IV期、892は後III期、893は後IV期である。

04Cb区SK273(第181図)

山茶碗(895-901)、皿A(902)、鉢A(903)、土師器皿(904-907)が出土した。山茶碗は北部系11型式、他は後IV期である。土師器皿は904は大形で轆轤成形、905-907は手づくね成形である。

04Cb区SK500(第181図)

山茶碗(908-912)、壺B(913-914)が出土した。山茶碗は南部系9形式、古瀬戸四耳壺は古瀬戸前期である。

04Cb区SK100(第182図)

山茶碗(915-944)、碗A(945-946)C(947-949)、皿A(950)B(951)H(952)、小鉢(953)、鉢D(954)、手付鍋(955)、内耳鍋(956)、水滴(957)、土師器皿(958)が出土した。山茶碗は南部系9型式で、若干の北部系11型式がある(932-936-944)。古瀬戸陶器碗類および皿類は後I・II期が主である。954-956は後III期である。土師器皿は轆轤成形である。

(3) 集落南東部

南部地区04C区、04D区の溝で囲まれた中世集落内で検出された土坑内の遺物で、集落中央に走る溝群より南東側のものである。少量出土の遺物について一括する。

04Ca区・04Da区(第185-186図)

山茶碗(1029-1057)、碗A(1058-1063)C(1064)、皿A(1065-1070)B(1071-1073)、豆皿(1074)、鉢A(1076-1079)E(1075)、内耳鍋(1080-1082)、合子(1083)、茶入(1084)、壺A(1085)が出土した。山茶碗は南部系9-10型式が大部分であるが、南部系5型式(1041)、北部系11型式(1037-1040)なども出土した。碗Aは後1期(1058)と後Ⅲ・Ⅳ期、碗Cは後1期である。皿Aは後Ⅳ期が主体である。皿Bは中Ⅲ期(1071)、後Ⅱ期(1072)である。鉢Aは後Ⅳ期、鉢Eは後Ⅲ期である。内耳鍋は後Ⅲ・Ⅳ期、合子と壺Aは後Ⅳ期である。また、土師器皿(1087-1089)が出土し、1087は手づくね、1088 1089は轆轤成形である。

04Ca区 SK661(第186図)

山茶碗(1090-1102)、碗C(1103)、皿B(1105)H(1106)、折縁中皿(1108)、鉢E(1107 1109)、内耳鍋(1110)、常滑窯産甕(1111)が出土した。山茶碗は8-9形式、碗Cは後1期である。皿A、鉢A、折縁中皿は後1期である。常滑窯産甕は14世紀後半の時期である。

04Ca区 SK964(第186図)

常滑窯産甕が出土している(1086)。15世紀前半の時期である。

(4) 集落外北部

南部地区北半の中世集落外の土坑出土遺物を対象とする。個々の土坑の出土遺物は少量であり、調査区で一括する。

04Bd区・04Ca区(第187図)

皿B(1112 1113)、鉢D(1117)E(1114-1116)、仏供具(1118)が出土した。皿Bは中Ⅱ期と後Ⅲ期、鉢DEは後Ⅰ-Ⅲ期である。

04Ca区 SK21(第187図)

山茶碗(1119-1123)、碗A(1124 1125)C(1126)、皿A(1127-1131)B(1132 1133)、鉢A(1136 1139)D(1134)E(1135 1137 1138)、内耳鍋(1140)が出土した。山茶碗は南部系10型式と北部系11型式である。碗は後Ⅲ期、皿Aは後Ⅳ期である。鉢ADは後Ⅲ期、鉢Eは後Ⅳ期である。内耳鍋は後Ⅲ期である。1141は器種不明の筒型の容器で灰釉が施軸される。

(5) 北部地区

北部地区の土坑出土遺物を対象とする。個々の土坑の出土遺物は少量であり、調査区で一括する。

02B区・04Aa区(第188図)

山茶碗(1142-1156)、皿A(1157-1159)H(1162 1163)、浅碗(1160)、入子(1161)、鉢A(1166)、内耳鍋(1164)、片口小鉢(1165)が出土した。山茶碗は南部系4-5型式(1142-1144 1155 1156)と9-10型式、北部系11形式(1153 1154)がある。皿Aは後Ⅳ期である。1162は鉾目付大皿で後Ⅳ期、1163は前Ⅱ期である。浅碗は後1期、鉢Aは後Ⅳ期である。内耳鍋、片口小鉢は後Ⅲ期である。

02B区 SK58(第188図)

山茶碗(1167-1172)、碗C(1173 1174)、皿A(1175-1178)、鉢A(1180-1186)E(1179)、内耳鍋(1187 1188)が出土した。山茶碗は南部系9型式(1167)、北部系11型式である。碗Cは後Ⅱ期、皿Aは後Ⅳ期である。鉢A、内耳鍋は後Ⅳ期である。

c. 溝

(1) 集落外南部

南部地区南半の中世集落外の溝出土遺物を対象とする。

SD010(第189図)

山茶碗 9 型式(1189-1192)が出土している。

SD024(第189図)

山茶碗 5 型式(1194)、碗 A(1193) 後Ⅱ期が出土している。

SD025(第189図)

山茶碗 9 型式(1195)が出土している。

SD048(第189図)

皿 A(1196) 後Ⅱ期が出土している。

(2) 西側大溝

中世集落の北西から南東に走る西側の大溝の出土遺物を対象にする。

SD053(第189-192図)

山茶碗(1197-1225)、碗 A(1226-1234)C(1235-1238)、皿 A(1239-1249)B(1251-1260)E(1261)H(1262)、挾皿(1250)、鉢 A(1277-1290)B(1302)C(1305)D(1265 1266 1273)E(1267-1271)、卸目付大皿(1275 1276)、碗型鉢(1274)、内耳鍋(1294-1298)、洗(1299)、壺 A(1291-1293)B(1300 1301) 欄台(1304)、仏具(1306)花瓶(1307)、水滴(1308)、入子(1263)、常滑窯産甕(1309)、匣鉢蓋(1310)、匣鉢(1311 1312)、土師器皿(1313-1315)、土師器内耳鍋(1316)、瓦器の火鉢(1317)、土鍾(1318)が出土している。山茶碗は南部系 8・9 型式(1197-1199、1207-1218)北部系 10・11 型式(1200-1206 1219-1225)が出土している。碗 A は後Ⅱ期から後Ⅳ期の時期である。碗 C は後Ⅰ期から後Ⅲ期の時期である。皿 A は後Ⅱ期(1239)と後Ⅳ期である。皿 B は中Ⅲ期(1251 1252)と後Ⅱ・Ⅲ期である。皿 E は後Ⅳ期、皿 H 中Ⅲ期である。鉢 A は後Ⅳ期(1277-1280)と大窯第 1 段階(1281-1285)がある。鉢 BCD は後Ⅱ期、鉢 E は中Ⅰ期(1267)と後Ⅰ・Ⅱ期である。卸目付大皿は後Ⅳ期である。碗型鉢は後Ⅰ期である。壺 A は後Ⅳ期、壺 B は古瀬戸後期である。花瓶は中Ⅱ期である。洗は前Ⅱ期である。仏具は後Ⅳ期である。土師器皿は手づくね成形である。

SD054(第193図)

皿 A(1319)B(1320)、鉢 A(1321)D(1323)E(1322)、内耳鍋(1324)が出土した。皿 A 後Ⅳ期、皿 B 後Ⅱ期である。鉢 AD 後Ⅳ期、鉢 E 後Ⅰ期である。内耳鍋後Ⅱ期である。

SD055(第193図)

山茶碗(1325)、碗 C(1326 1327)、皿 A(1328 1329)B(1329)、鉢 A(1332 1335 1336)E(1331)、壺 A(1333)、匣鉢蓋(1334)、内耳鍋(1337)が出土した。山茶碗は南部系 9 型式である。碗、皿は後Ⅰ期から後Ⅲ期の時期、鉢 A 後Ⅳ期 B 後Ⅰ期、壺 A 古瀬戸後期である。

(3) 中央溝

中世集落の中央を北東-南西方向に二分する溝群である。

SD064 066-068 073(第193図)

少量出土の遺物を一括する。碗 A(1338)、皿 A(1339-1341)、鉢 E(1343)、折縁中皿(1342)、土師器皿(1344 1345)、常滑窯産甕(1346)が出土した。碗、皿は後Ⅲ期から後Ⅳ期である。折縁中皿は中Ⅱ期である。常滑窯産甕は 15 世紀代の時期である。

SD058(第194図)

山茶碗(1347 1348 1352 1353)、碗 A(1349)C(1350 1351)、皿 A(1354-1359)B(1360)、杯(1361)、鉢 A(1366-1370)E(1362-1365)、内耳鍋(1371)、水注(1373)、常滑窯産甕(1374)が出土した。山茶碗南部系 9 型式である。碗 A 後Ⅲ期 B 後Ⅱ期である。皿 A 後Ⅳ期 B 後Ⅱ



期である。鉢 A は後Ⅳ期である。鉢 E は中Ⅲ期から後Ⅱ期である。内耳鍋後Ⅳ期、水注は古瀬戸後期後半である。常滑窯産物は 15 世紀代である。

SD076(第 195 図)

山茶碗(1375-1380)、碗 A(1381-1383)C(1384)、皿 A(1385-1388)H(1389)、鉢 A(1393-1398)D(1390 1391)、卸目付大皿(1392)内耳鍋(1399)、仏供(1400 1401)、水滴(1402)、匣鉢(1403-1406)が出土した。碗 A は後Ⅲ期から大窯第 1 段階である。碗 C は後Ⅰ期、皿 A は後Ⅳ期である。鉢 A は後Ⅳ期から大窯第 1 段階である。鉢 D は後Ⅱ期、卸目付大皿、内耳鍋は後Ⅳ期である。仏供は中Ⅳ期と後Ⅳ期である。匣鉢は古瀬戸後期と考える。

SD056(第 196 図)

山茶碗(1407-1409)、碗 C(1410)、皿 A(1411-1413)B(1414)H(1415)、壺 A(1417)、内耳鍋(1418 1419)が出土した。碗 C は後Ⅰ期、皿 A は後Ⅳ期である。皿 B は後Ⅱ期、皿 H 壺 A 内耳鍋は後Ⅳ期である。

SD107(第 196 図)

山茶碗(1420-1422)、折縁中皿(1423)が出土している。山茶碗南部系 9 型式、折縁中皿中Ⅱ期である。

SD087(第 196 図)

山茶碗(1424 1425)、碗 A(1426)、壺 A(1428)、鉢 A(1429)、挟皿(1427)が出土した。山茶碗は北部系 11 型式と南部系 9 型式(1425)である。碗 A は後Ⅱ期、壺 A 後Ⅳ期、鉢 A 大窯第 1 段階である。

SD101(第 196 図)

山茶碗(1430-1434)、碗 A(1435 1436)C(1437)、皿 A(1438)H(1442)、丸皿(1439)、鉢 B(1443)E(1441)、折縁中皿(1440)、内耳鍋(1446)、平底末広碗(1445)、土師器皿(1446)が出土した。山茶碗は南部系 9 型式である。碗 AB は後Ⅱ・Ⅲ期である。皿は後Ⅱ・Ⅲ期である。鉢は後Ⅰ・Ⅱ期である。折縁中皿と平底末広碗は中Ⅲ期である。土師器皿は轆轤成形である。

SD104(第 197 図)

山茶碗(1447-1468)、碗 A(1469)C(1470)、皿 A(1476 1477)B(1471-1475)H(1479)、鉢 B(1482)E(1480 1481)、燭台(1483)、匣鉢(1484)が出土した。山茶碗は南部系 9-10 形式と北部系 10 形式(1462 1467)である。碗 A 中Ⅳ期、碗 C 後Ⅰ期である。皿 A は後Ⅰ期と後Ⅳ期である。皿 B は後Ⅰ期から後Ⅲ期である。皿 H は後Ⅱ期である。鉢 BE は後Ⅰ・Ⅱ期である。

#### (4) 東側大溝

中世集落の北西から南東に走る東側の大溝の出土遺物を対象にする。

SD105(第 198 図)

山茶碗(1485-1490)、碗 A(1491-1494)C(1495-1497)、皿 A(1498)、鉢 A(1501)B(1503)C(1504)E(1499 1500)が出土した。山茶碗は南部系 9-10 形式と北部系 11 形式(1486)である。碗 A は中Ⅳ期から後Ⅰ期、碗 C は後Ⅰ期である。皿 A は後Ⅱ期、鉢 A は後Ⅳ期である。鉢 B 後Ⅱ期、鉢 C は後Ⅲ期である。鉢 E は中Ⅲ期と後Ⅱ期である。1502 は手付き鍋で後Ⅰ期である。1505 1506 は釜蓋である。

SD093(第 198 図)

山茶碗(1507-1510)、碗 C(1511 1512)、皿 B(1514)、鉢 A(1517)B(1516)E(1513)、小鉢(1515)が出土した。山茶碗は南部系 9 形式と北部系 11 形式(1508 1509)である。碗、皿、鉢は後Ⅱ・Ⅲ期である。

SD081(第 198 199 図)

山茶碗(1518-1521)、碗 A(1522 1523)、皿 A(1524-1527)B(1528)E(1529)、折縁中皿(1530)、鉢 A(1536-1539)、碗型鉢(1531)、挾皿(1533)、小鉢(1532)、花瓶(1540)、仏供(1541)、釜(1542)、土師器皿(1534 1535)が出土した。山茶碗は南部系 9-10 形式である。碗 A は後 II 期と後 IV 期である。皿 AE は後 IV 期、皿 B は後 II 期である。鉢 A は後 IV 期、花瓶は後 II 期、仏供は大塚第 1 段階、釜は後 IV 期である。折縁中皿は中 III 期、碗型鉢は後 I 期である。小鉢は後 III 期である。土師器皿は轆轤成形である。

SD080(第 199 図)

山茶碗(1543-1550)、碗 A(1551-1553)C(1554 1555)、皿 A(1556 1557)、碗型鉢(1558)、鉢 A(1563-1566)、内耳鍋(1567)、挾皿(1559)、鉢(1561)、桶(1568)、鉦目付大皿(1562)が出土した。山茶碗は南部系 9-10 形式である。山茶碗は南部系 9 形式と北部系 10 形式(1549)である。碗 A は後 II 期と後 IV 期、碗 C は後 I 期である。皿 A は後 IV 期、鉢 A は後 IV 期、鉢 E は後 III 期である。鉢、内耳鍋と桶は後 IV 期である。1560 は器種不明壺である。

SD084(第 200 201 図)

山茶碗(1569-1577)、碗 A(1578-1583)C(1584-1589)、皿 A(1591-1593)B(1594-1596)、折縁中皿(1597)、鉢 A(1599 1603-1607)E(1600-1602)、桶(1608 1611)、双耳小壺(1609)、常滑窯産甕(1612)、鉢(1590)、土師器皿(1613 1614)が出土した。山茶碗は南部系 9-10 形式と北部系 11 形式(1574-1577)である。碗 A は後 II 期と後 IV 期(1582 1583)、碗 C は中 IV 期と後 II 期(1586-1589)である。皿 A は後 II 期(1591 1592)と後 IV 期、皿 B は中 IV 期から後 II 期である。桶は後 IV 期である。常滑窯産甕は 15 世紀前半の時期である。土師器皿は手づくね成形と轆轤成形である。

SD092(第 201 202 図)

山茶碗(1615 1617 1618)、灯明皿(1616)、碗 A(1619 1620)C(1621)、皿 A(1622-1629)B(1630)、丸皿(1631)、鉢 A(1641-1646)D(1637)E(1634-1636)、鉦目付大皿(1638-1640)、内耳鍋(1647)、常滑窯産甕(1648)、火鉢(1651)、挾皿(1632 1633)、土師器皿(1649 1650)が出土した。山茶碗は南部系 7・10 形式と北部系 11 形式である。碗 A は後 III 期、碗 C は後 I 期である。皿 A は後 I・II 期と後 IV 期(1625-1629)である。皿 B は後 I 期である。鉢 AD は後 IV 期、鉢 E は後 I・II 期である。鉦目付大皿、内耳鍋は後 IV 期、常滑窯産甕は 14 世紀後半の時期である。土師器皿は轆轤成形と手づくね成形である。

SD090(第 202 図)

山茶碗(1652 1653)、皿 B(1654)、鉢 A(1658 1659)、鉦目付大皿(1656 1657)、常滑窯産甕(1660)、挾皿(1655)が出土した。山茶碗 9 型式、皿 B は後 III 期である。鉢は後 IV 期である。常滑窯産甕は 15 世紀代である。

SD083(第 203 204 図)

山茶碗(1661-1671)、碗 A(1672 1673)、皿 A(1674 1675)B(1676 1977)E(1678 1679)、入子(1681)、鉢 A(1683-1690)D(1680)E(1682)、内耳鍋(1691 1692)、壺 A(1693)、釜(1694)、花瓶(1695)、水注(1696)、匣鉢(1697 1698)、土師器皿(1699 1700)、土師器鍋(1701 1702)が出土した。山茶碗は南部系 9 形式と北部系 11 形式(1666-1668)である。碗 A は後 IV 期と大塚第 1 段階である。皿 A は後 IV 期、皿 B は後 II・III 期である。鉢 AD は後 IV 期、鉢 E は中 IV 期である。壺 A、釜、内耳鍋、花瓶、水注は後 IV 期である。土師器皿は轆轤成形である。土師器鍋は半球形内耳鍋である。

SD089(第204図)

山茶碗(1703-1706)、碗C(1708)、皿A(1707)、鉢A(1711)D(1709 1710)、桶(1712)、土師器皿(1713-1718)、土師器鍋(1719)が出土した。山茶碗は南部系9-10形式である。碗Cは中皿期である。皿Aは後IV期である。鉢Aは後IV期、鉢Eは中皿期、後I期である。桶は後IV期である。土師器皿は轆轤成形である。土師器鍋は半球形内耳鍋である。

SD115(第204図)

山茶碗(1720-1722)、碗C(1723)、皿A(1724-1726)B(1727 1728)、折縁中皿(1729)が出土した。山茶碗は南部系9形式である。碗Cは後II期である。皿Aは後II・IV期である。皿Bは後III期である。折縁中皿は後II期である。

SD106(第205図)

卸目付大皿(1730)後IV期と鉢A(1731)が出土した。

SD109(第205図)

山茶碗(1732-1739)、碗A(1740)C(1742-1744)、浅鉢(1741)、皿A(1746-1749)B(1750 1751)、小鉢(1745)が出土した。山茶碗は南部系9-10形式と北部系10型式(1736)である。碗は後II・皿期、皿Aは後IV期、皿Bは中皿期、後II期である。

SD114(第205図)

山茶碗(1752-1759)、碗A(1760)、皿B(1761)、桶(1762)、土師器鍋(1763 1764)が出土した。山茶碗は南部系9形式と北部系9型式(1756)である。碗Aは後II期、皿Bは中皿期、桶は後IV期である。土師器鍋は半球形内耳鍋である。

SD097(第205図)

皿A(1766 1767)後IV期と小鉢(1765)後I期が出土した。

(5) 集落外北部

南部地区北半の中世集落外の溝出土遺物を対象とする。

SD113(第206図)

山茶碗(1768-1771)南部系9型式と皿H(1772)中皿期が出土した。

SD094(第206図)

山茶碗(1773-1775)南部系9型式が出土した。

SD079(第206図)

皿A(1776)後IV期が出土した。

SD139(第206図)

山茶碗(1777)南部系5型式が出土した。

(6) 北部地区溝

北部地区の中世溝の出土遺物である。

SD207(第207図)

山茶碗(1778-1786)、碗A(1787-1790)C(1792 1793)、皿A(1791)、鉢A(1795)B(1802)C(1803)E(1794 1796)内耳鍋(1797 1798)、水注(1804)、釜(1799 1800)が出土した。山茶碗は北部系11型式である。碗Aは後IV期から大窯第1段階、碗Cは後II期と後IV期である。皿Aは後III期、鉢A後IV期、B後III期、C後IV期、内耳鍋後IV期、釜後IV期である。

SD220(第207図)

山茶碗(1806-1808)、碗A(1809)、碗型(1810)、鉢A(1812)E(1811)、内耳鍋(1813-1815)、常滑窯産甕(1816)が出土した。山茶碗は南部系9型式と北部系11型式である。碗A後II期、

鉢A後Ⅳ期、E後Ⅲ期である。内耳鍋後Ⅲ期、常滑窯産 15世紀代である。

d. 井戸

南部地区 03B区 04Da区 04Ca区で中世の井戸が検出され、この時期の遺物が出土している。  
SEO1(第208図)

山茶碗(1817-1830 1832)、貿易磁器(1831)が出土した。山茶碗は南部系5形式と北部系5形式(1823 1824)、1832は南部系5形式の片口鉢である。1831は中国窯産青磁印花文である。12世紀代と考えられる。

SEO2(第208図)

山茶碗(1833-1835)、碗A(1836-1838)、皿A(1839-1843)B(1844)E(1845 1846)、鉢C(1849)E(1847)、水注(1848)、花瓶(1850)が出土した。山茶碗は南部系10形式と北部系10-11形式である。碗Aは後Ⅰ期から後Ⅲ期の時期である。皿Aは後Ⅰ期(1839)と後Ⅳ期、皿Bは中Ⅲ期である。皿Eは後Ⅳ期である。鉢Cは中Ⅲ期、鉢Eは後Ⅰ期である。水注と花瓶は古瀬戸後期の時期である。1851は貿易陶器と考えられるが、時期不明である。

e. 不明遺構

性格が不明な遺構より出土した遺物を対象とする。

南部地区

SXO14(第209図)

山茶碗(1852)北部系5形式が出土している。

SXO16(第209図)

皿A(1853)後Ⅳ期、鉢A(1854 1857 1858)後Ⅳ期、筒型容器(1855)、桶(1856)が出土している。

SXO20(第209図)

山茶碗(1859-1879)、皿B(1880)H(1883)、鉢C(1885)E(1882)、折縁中皿(1881)、入子(1884)、花瓶(1886)、常滑窯産(1887)鉢(1888)が出土した。山茶碗は南部系8-9形式と北部系9-10形式(1875 1879)である。皿は中Ⅱ形式、鉢Cは中Ⅳ期、鉢Eと折縁中皿は中Ⅱ期である。常滑窯産は13世紀代、鉢は14世紀代の時期である。

SXO19(第210図)

山茶碗(1889-1900)、碗A(1901 1902)C(1903-1907)、皿A(1912)B(1908-1911) H(1916)、入子(1913-1915)、鉢D(1918 1919)、碗型鉢(1917)、花瓶(1920 1921)、水滴(1922)、合子(1923)、常滑窯産(1924)が出土した。山茶碗は南部系9形式、北部系10-11形式(1896 1897)である。碗ACは後Ⅰ・Ⅱ期である。皿ABは中Ⅲ期から後Ⅱ期である。入子は中Ⅲ期である。鉢Dは後Ⅰ期、合子は後Ⅳ期である。常滑窯産は15世紀代の時期である。

SXO21(第211図)

山茶碗(1925-1933)、碗A(1936-1939)C(1940 1941)、端反碗(1942)、皿A(1943-1945)B(1946-1950)、鉢A(1954 1957)B(1955)E(1951 1952)、内耳鍋(1953)、釜(1956)、常滑窯産(1958)が出土した。山茶碗は南部系9-10形式と北部系10-11形式(1929-1931)である。1934は知多窯産片口鉢、1935は尾張型片口鉢である。碗Aは中Ⅳ期と後Ⅲ・Ⅳ期である。碗Cは後Ⅰ・Ⅱ期である。皿Aは後Ⅳ期、Bは後Ⅰ期から後Ⅲ期である。鉢Aは後Ⅲ期と大窯第1段階、鉢Bは後Ⅰ期である。内耳鍋は後Ⅲ期、釜は後Ⅳ期である。常滑窯産は15世紀の時期

である。

SX022(第211図)

山茶碗(1959-1960)、皿A(1961)、鉢A(1964)D(1962)E(1963)が出土した。山茶碗は南部系8-9型式、皿A後Ⅳ期、鉢ADEは後Ⅲ・Ⅳ期である。

SX025(第212図)

山茶碗(1965-1979)と不明土師器(1980)が出土した。山茶碗は南部系4型式である。

SX027(第212図)

水指(1981)、鉢A(1982)、土師器鍋が出土した。水指、鉢Aは大窯第1段階である。

SX028(第212図)

山茶碗(1984-1988)、碗C(1989-1990)、皿A(1991)、折縁中皿(1992)、鉢B(1995)E(1994)、内耳鍋(1993)、花瓶(1996)、常滑窯産甕(1997)が出土した。山茶碗は南部系9-10型式、北部系10型式である。碗Cは後Ⅰ期、皿A後Ⅲ期、鉢BEと折縁中皿後Ⅰ期、内耳鍋後Ⅳ期である。常滑窯産甕は14世紀代である。

SX201(第213図)

山茶碗(1998-2002)、皿H(2003)が出土している。山茶碗は南部系8-9型式と北部系10型式である。

SX203(第213図)

山茶碗(2004-2011)と不明鉢(2012)が出土している。山茶碗は8-9形式である。

SX205(第213図)

山茶碗(2013-2015)、鉢A(2016-2018)、土師器鍋(2019)が出土している。山茶碗南部7-9型式、鉢A後Ⅳ期から大窯第1段階である。

f. 包含層

遺物包含層より出土した遺物をとりあげる。

O4Ca区(第214-215図)

調査区中央部上位段丘面の包含層の資料である。山茶碗(2020-2044)、碗A(2045-2052)C(2053)、浅碗(2054)、皿A(2055-2059)B(2060-2061)、折縁中皿(2063-2064)、鉢A(2071-2072)B(2074)D(2067-2068)E(2069-2070)、碗型鉢(2065)、盤(2068)、内耳鍋(2073)、燭台(2075)、仏供(2076)、常滑窯産甕(2077-2078)、土師器鍋(2079)、土師器皿(2080)が出土した。山茶碗は南部系9-10型式、北部系10-11型式(2033-2035-2043)が出土した。碗Aは中Ⅲ期から後Ⅱ期、碗Cは後Ⅱ期である。浅碗は後Ⅱ期である。皿Aは後Ⅲ・Ⅳ期、Bは後Ⅲ期である。折縁中皿は中Ⅲ・Ⅳ期である。鉢Aは後Ⅰ期から大窯第1段階である。鉢Bは後Ⅱ期、鉢Dは後Ⅱ期から後Ⅳ期である。碗型鉢と盤は後Ⅰ期である。内耳鍋後Ⅳ期、燭台は古瀬戸後期である。仏供は中Ⅳ期である。常滑窯産甕は2077が15世紀代、2078が13世紀代の時期である。

OOA区O2C区(第216図)

調査区の南東から南側の中世包含層の出土遺物である。山茶碗(2081-2083)、灯明皿(2084)、碗C(2086)、皿A(2087)、小鉢(2088)、鉢C(2092)、壺B(2089)、筒型容器(2090)、内耳鍋(2094)、釜(2091)、土師器鍋(2095)が出土した。山茶碗は南部系9型式(2082)、北部系10-11型式(2081-2083)が出土した。碗Cは後Ⅲ期、皿A中Ⅳ期、壺Bは後Ⅱ期である。内耳鍋後Ⅱ期である。

#### 02B区(第216図)

下位段丘面の黒ボク土の包含層の資料である。山茶碗(2096-2104)、皿A(2105-2108)、鉢A(2110)内耳鍋(2109)、合子蓋(2111)が出土した。山茶碗は南部系9型式(2103)、北部系11型式が出土した。皿A後II期(2105)と後IV期である。鉢A、内耳鍋は後IV期である。

#### 04Ab区(第216図)

旧自然河道の出土遺物である。山茶碗(2112-2116)南部系9型式、碗A(2117)後II期、鉢C(2118)後IV期である。

#### g. 河谷包含層

河谷の包含層の出土遺物である。

#### 01A区(第217図)

赤津川の河谷斜面の包含層資料である。山茶碗(2119-2121)、皿A(2124)H(2122)、花瓶(2125)が出土した。山茶碗南部系9型式、皿A後II期である。

#### 00B区(第217図)

門前川河谷の包含層資料である。山茶碗(2126-2133)、皿A(2134)、小杯(2135)が出土した。山茶碗南部系4-11型式、皿A後IV期である。

#### 01C区(第217図)

門前川河谷の包含層資料である。山茶碗(2136-2142)、常滑窯産片口鉢(2143)が出土した。山茶碗は南部系5-9型式、2143は14世紀代である。

#### 04E区(第218-221図)

門前川河谷の中世包含層資料である。河谷斜面の枕列の最下層より出土する。山茶碗(2144-2182)が出土した。南部系山茶碗5-9型式(2148-2150 2152 2153 2156-2182)、北部系4-7形式(2144-2147 2151 2154 2155)である。

また、中世包含層より上層で出土した遺物を一括する(第214-216図)。山茶碗(2183-2265)、碗A(2266-2271)C(2272-2276)、平底末広碗(2277)、皿A(2278-2285)B(2286-2292)H(2293-2295)、鉢E(2296)、内耳鍋(2298-2301)、洗(2302)、筒型容器(2304)、水注(2305)、天目台(2306)、土師器鍋(2307-2309)が出土した。山茶碗は南部系4-10型式(2184 2185 2193-2238 2242 2243 2245-2265)、北部系4-5 10型式(2183 2186-2192 2239 2244)である。2241は片口鉢で12世紀代である。2240は南部系山茶碗8型式で、施釉される。碗Aは後II期から後IV期である。碗Cは後II期である。皿Aは後II期から後IV期である。皿Bは後II期から後III期である。皿Hは2293が中III期、2294は後II期、2295は後III期である。鉢Eは後II期、内耳鍋後III期(2297)と後IV期である。洗が前I期、筒型容器は後II期である。水注は古瀬戸前期である。土師器鍋は伊勢型鍋で13世紀代から14世紀代である。

#### h. 貿易磁器

調査区全体から出土した中国産を中心とした貿易磁器を一括する。

#### 青磁(第222図)

蓮弁文碗(2310-2318 2327 2328)、劃面文碗(2321-2323)、青磁皿(2329-2332)が出土している。竜泉窯産で13世紀代である。皿は底部に蓮弁文、劃面文を有する。

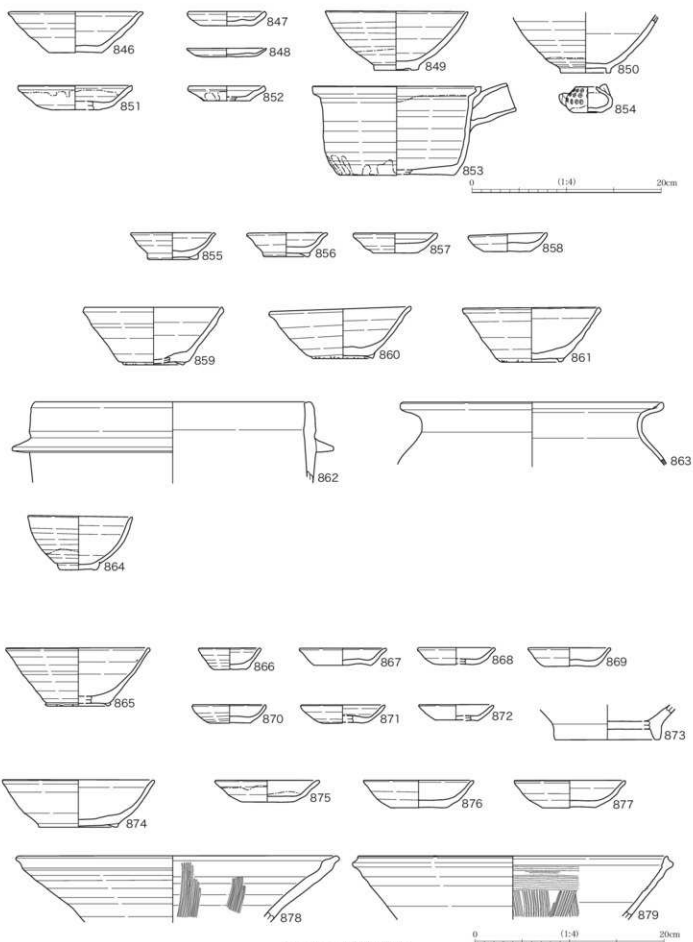
#### 白磁(第222図)

玉縁口縁碗(2319 2320)、蛇の目の軸刺の碗(2324)、不明碗底部(2333 2334)、皿底部

(2325 2326) が出土している。2319 2320 は福建省産 11 世紀から 12 世紀代、2324 は広東省産 13 世紀代である。( 酒井俊彦 )

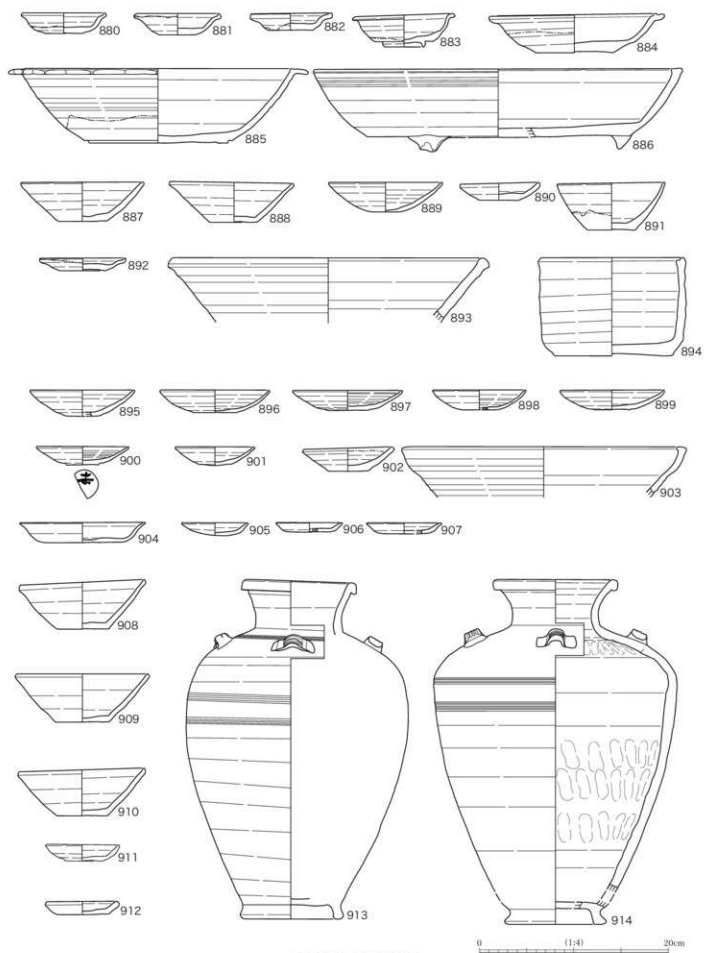
註

- 1) 瀬戸美濃窯産陶器類に関しては藤沢良祐氏の分類・編年によるものである。  
藤沢良祐 1986「瀬戸大窯発掘調査報告」『研究紀要』V 瀬戸市歴史民俗資料館  
藤沢良祐 1987「本業焼の研究 (1)」『研究紀要』VI 瀬戸歴史民俗資料館  
藤沢良祐 1988「本業焼の研究 (2)」『研究紀要』VII 瀬戸歴史民俗資料館  
藤沢良祐 1989「本業焼の研究 (3)」『研究紀要』VIII 瀬戸歴史民俗資料館  
藤沢良祐 1991「瀬戸古窯址群 II - 古瀬戸後期様式の編年」『研究紀要』X 瀬戸歴史民俗資料館

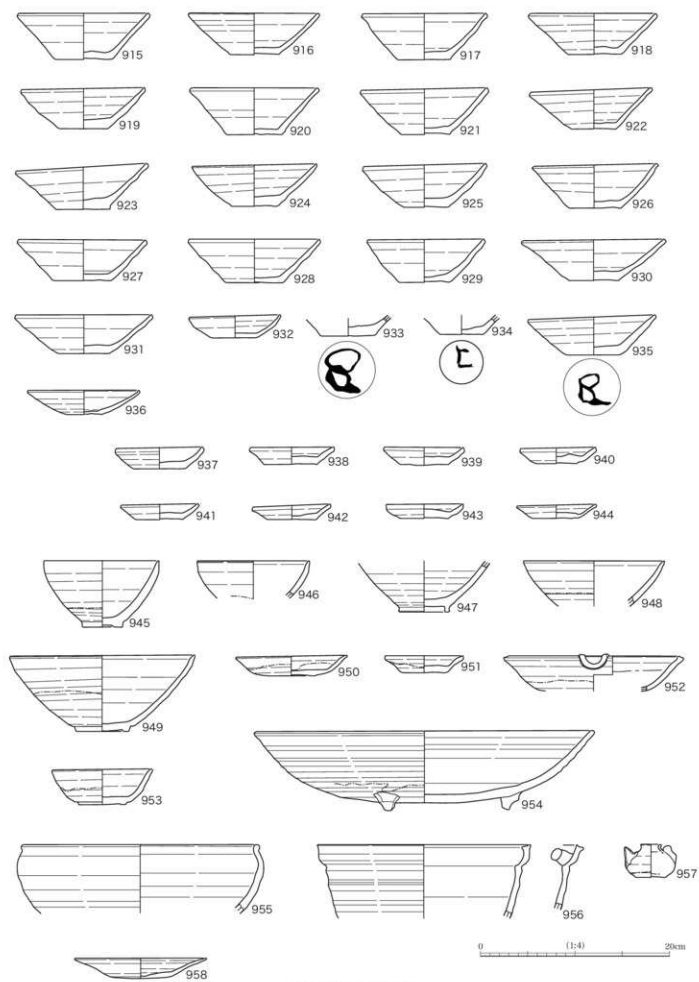


第180图 中世土器(1)

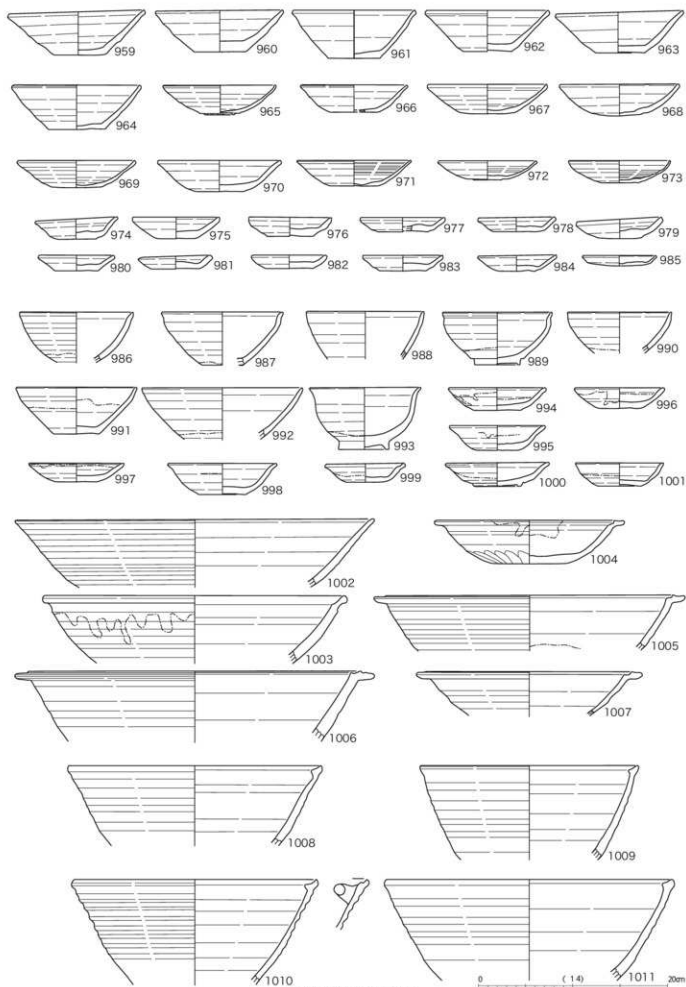




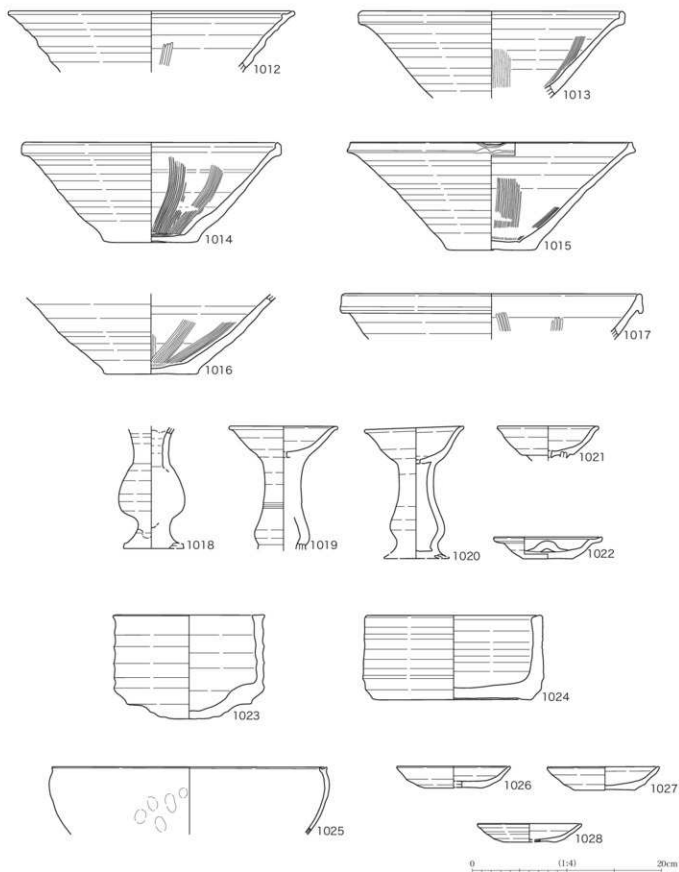
第 181 图 中世土器 (2)



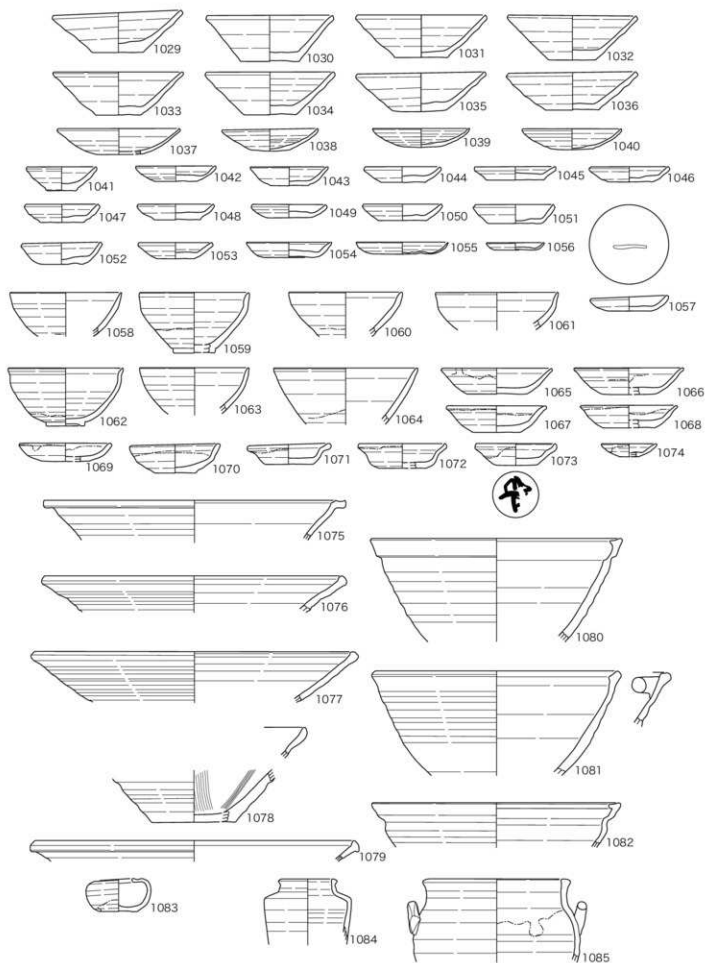
第182圖 中世土器(3)



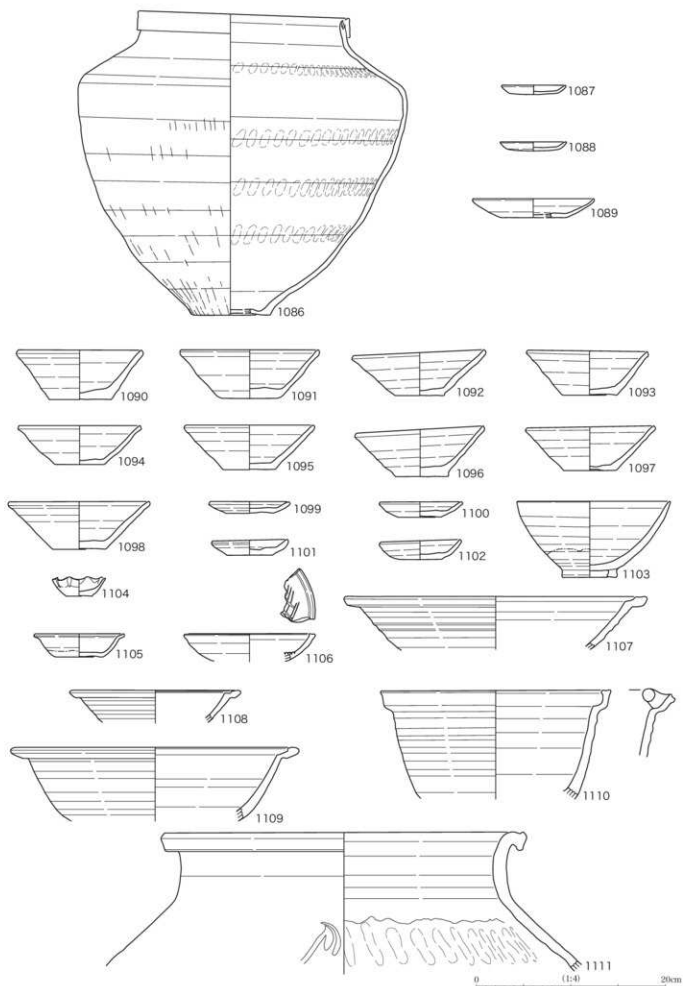
第183图 中世土器(4)



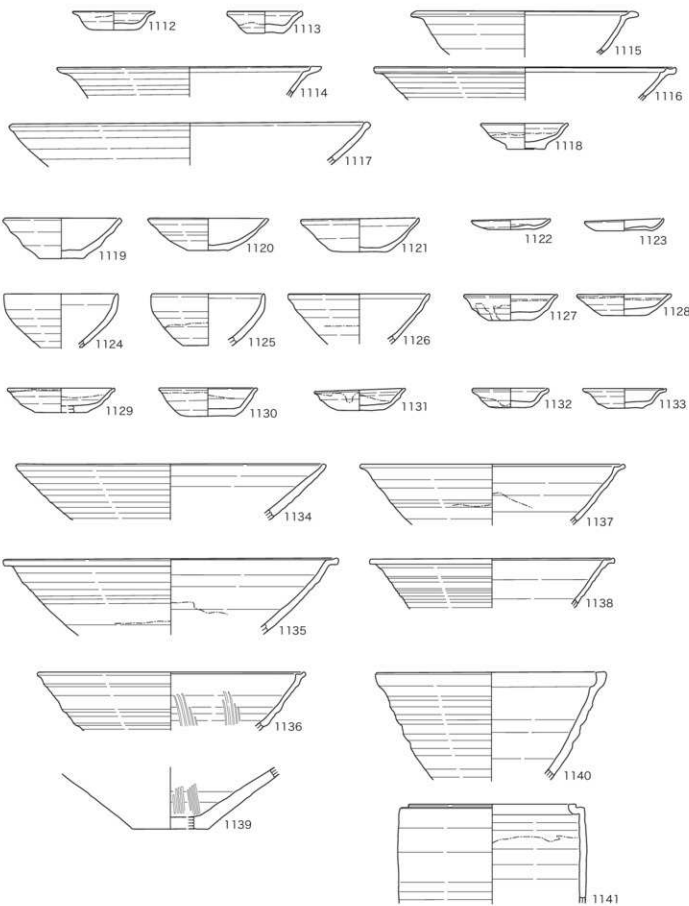
第184圖 中世土器(5)



第185图 中世土器(6)

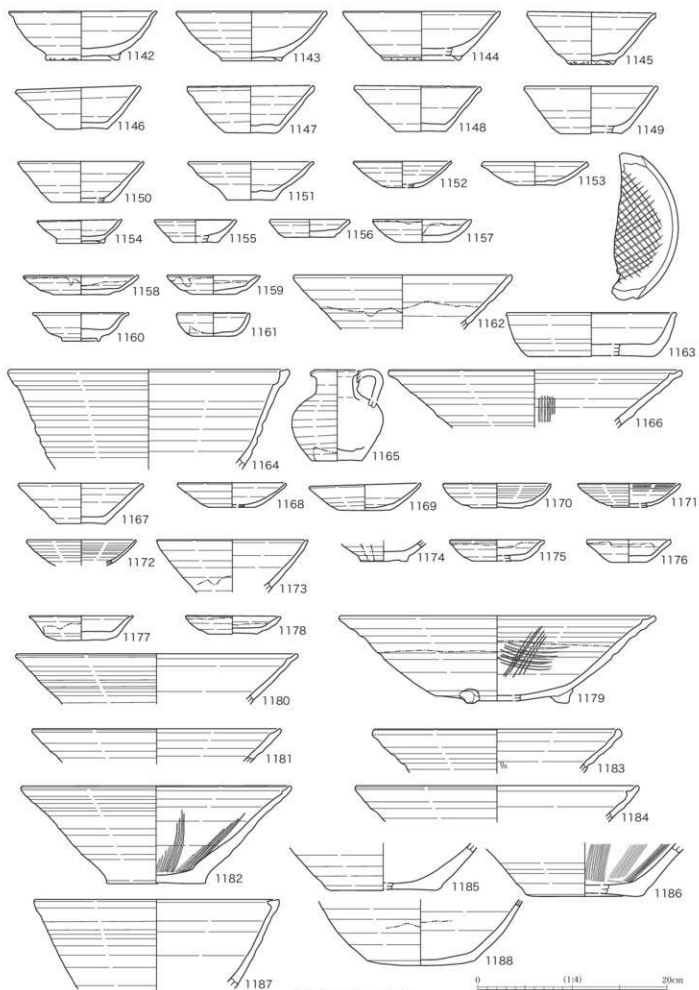


第186圖 中世土器(7)

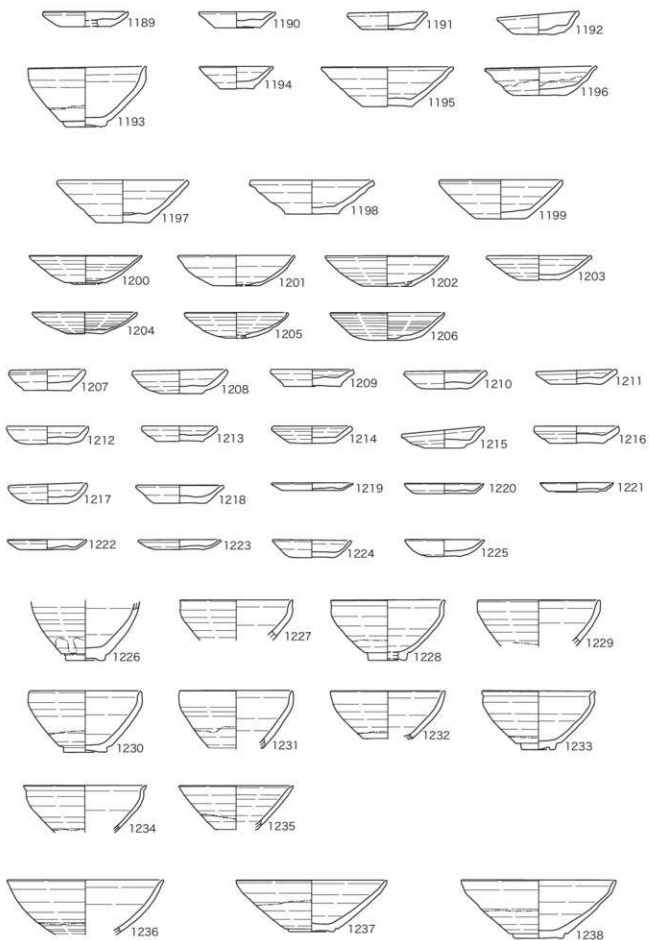


第187图 中世土器(8)

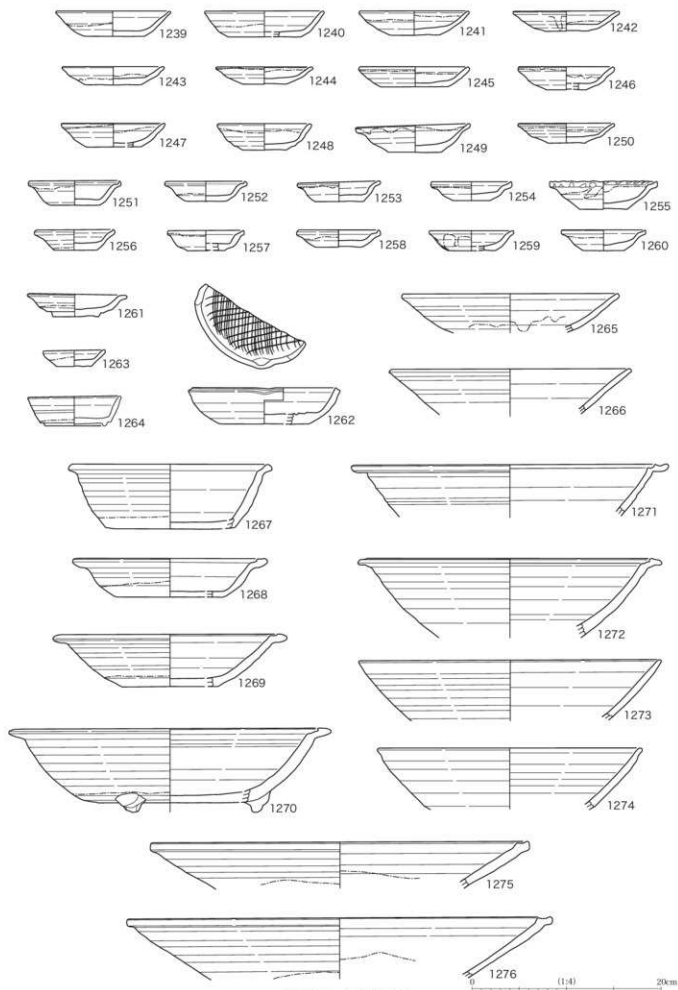
0 10 20cm



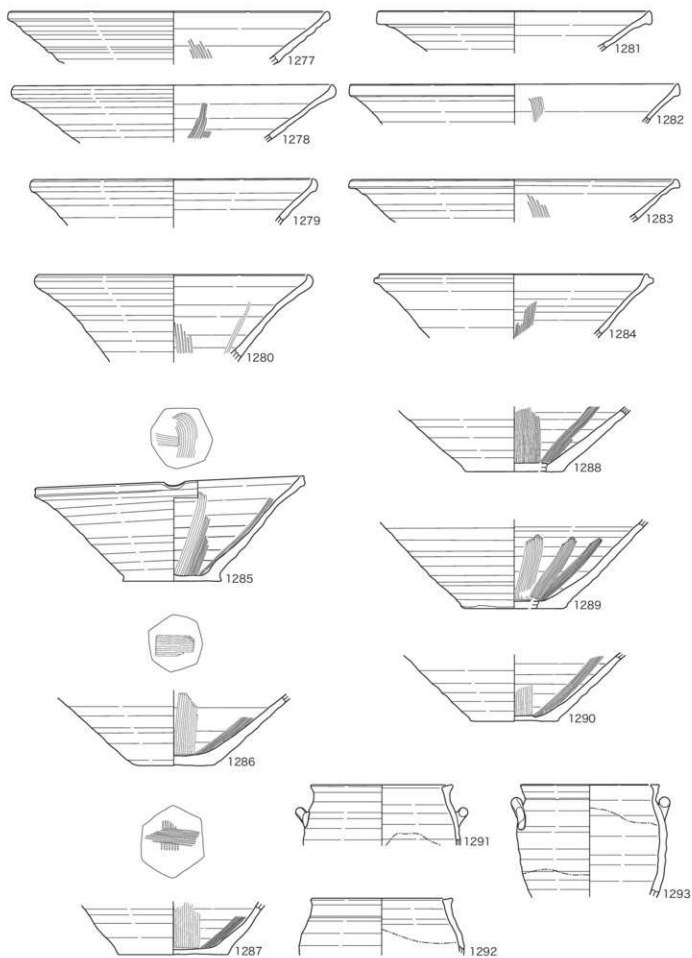




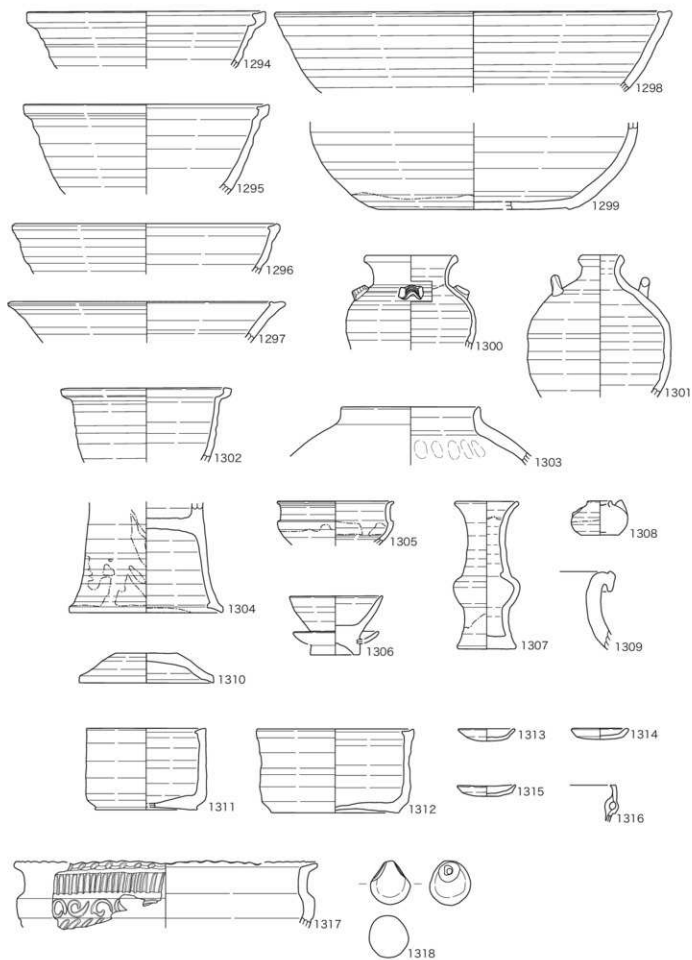
第189圖 中世土器(10)

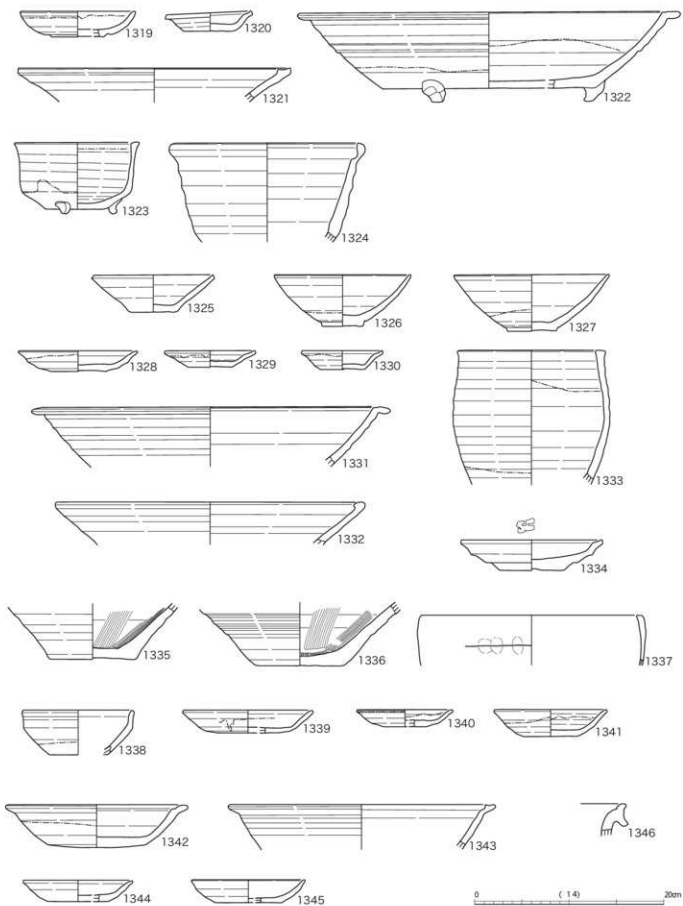


第190圖 中世土器(11)

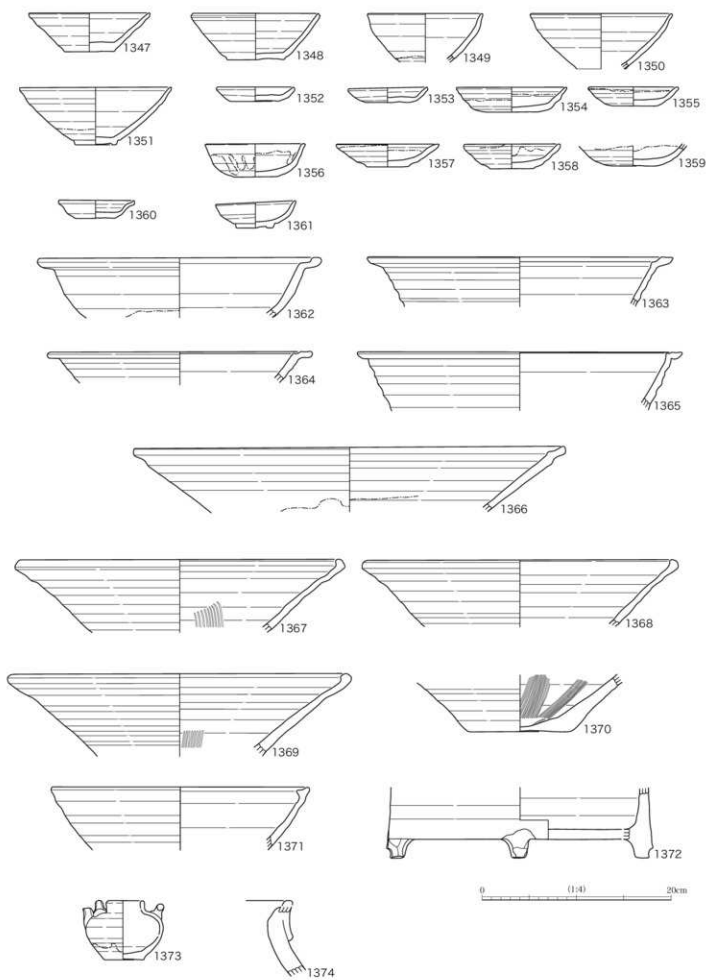


第 191 图 中世土器 (12)

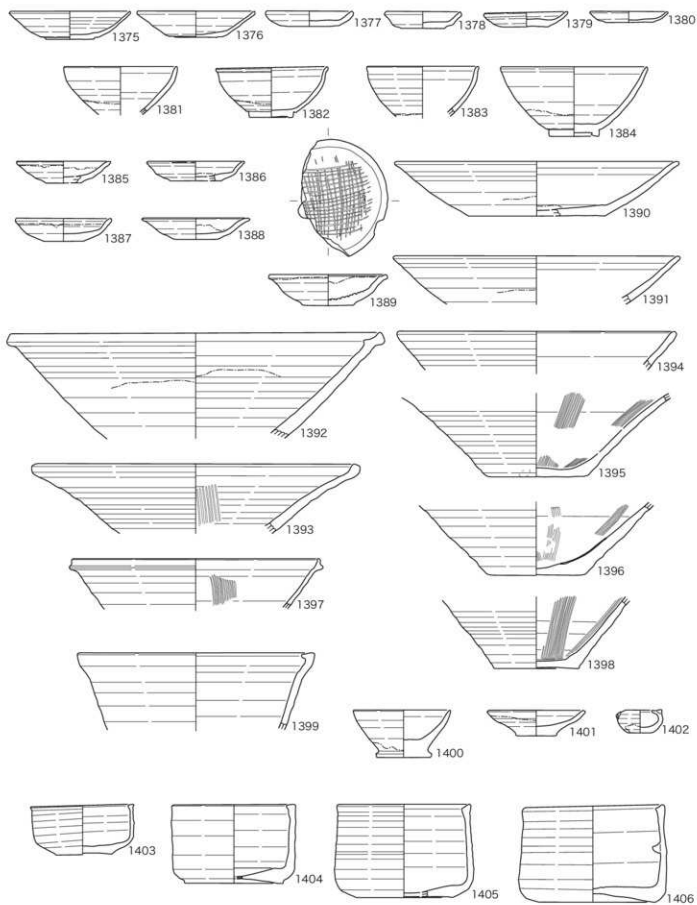




第 193 图 中世土器 (14)

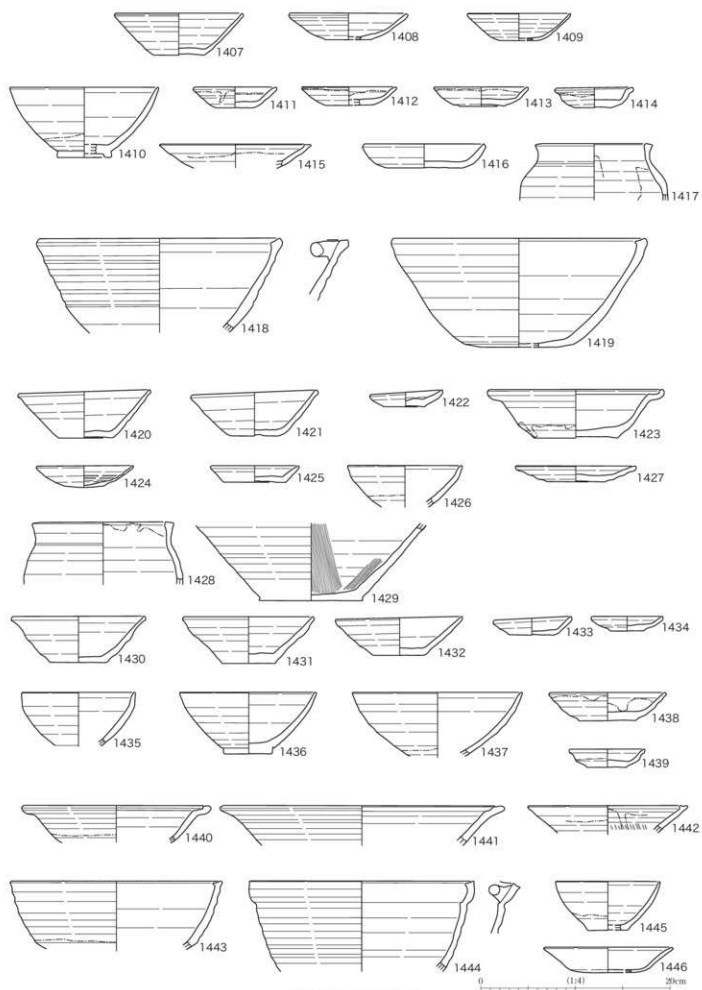


第194圖 中世土器(15)

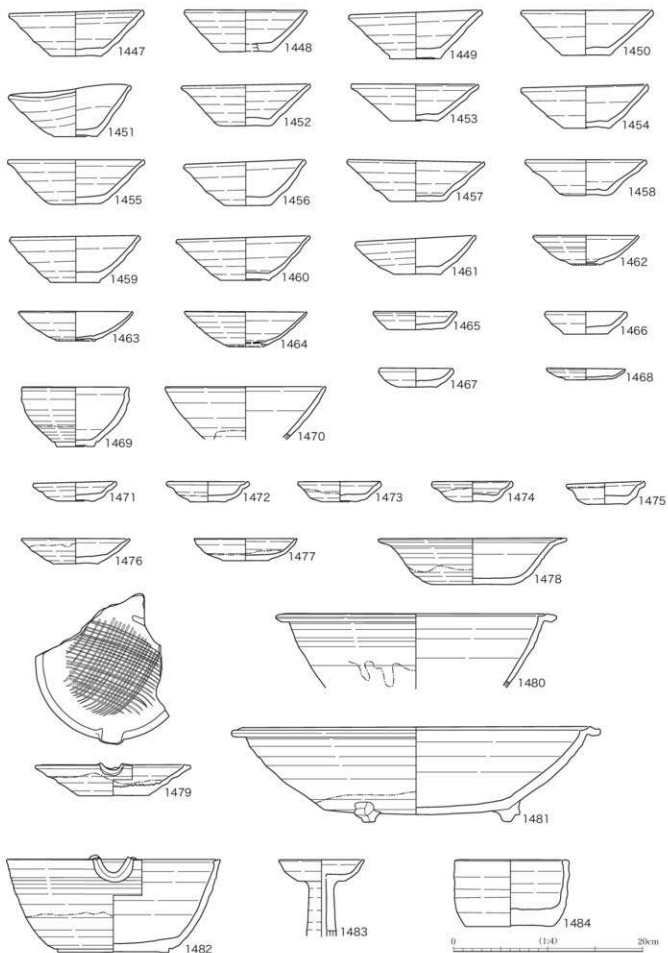


第 195 图 中世土器 (16)

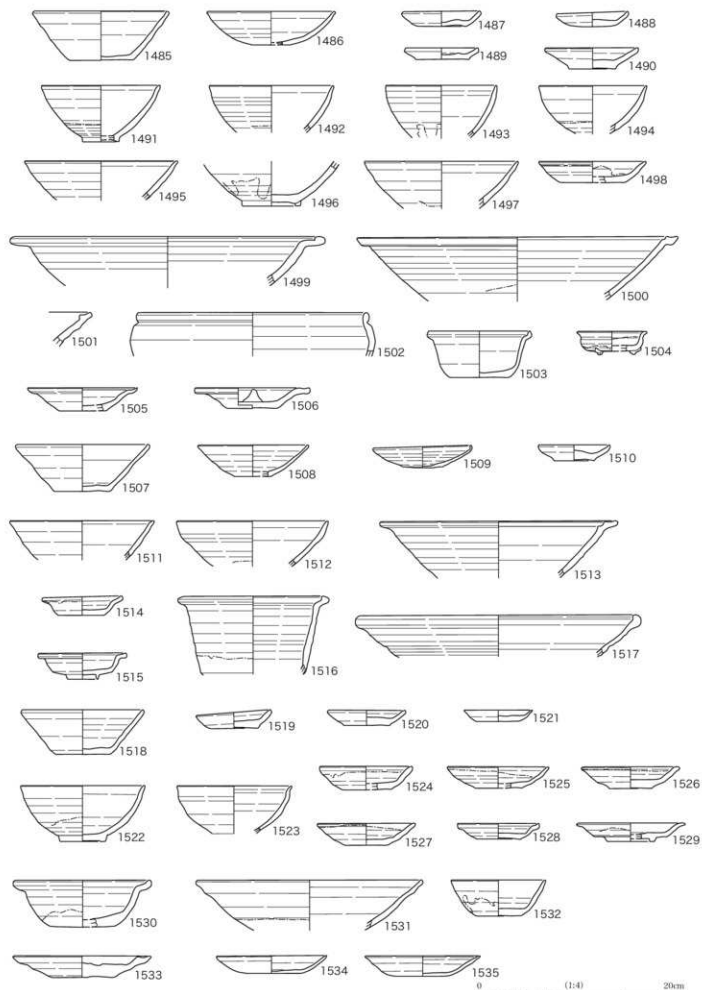
0 10 20cm

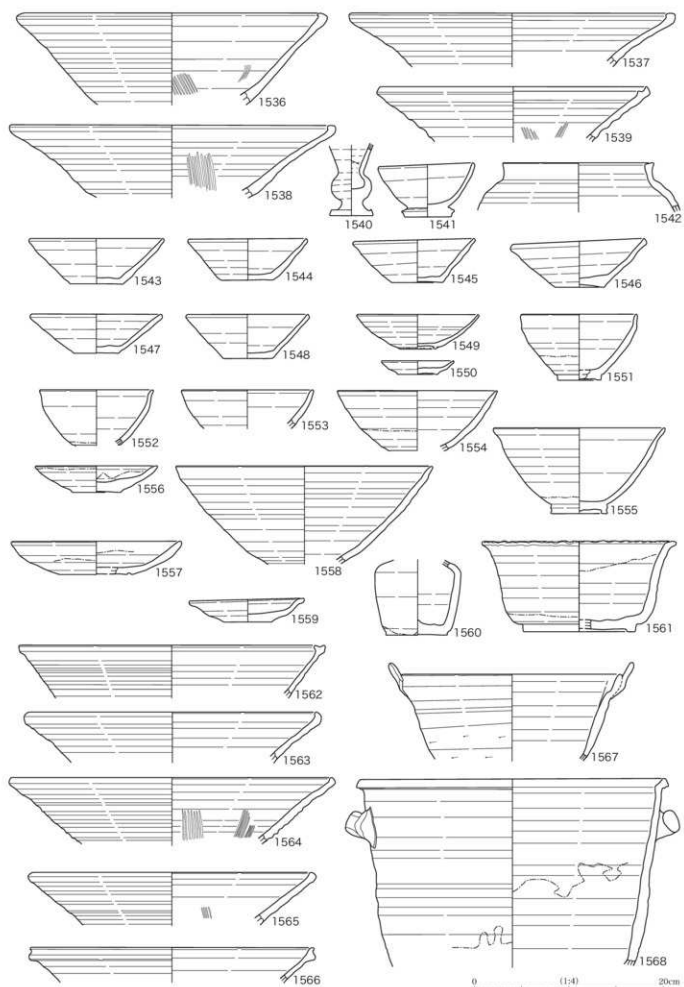




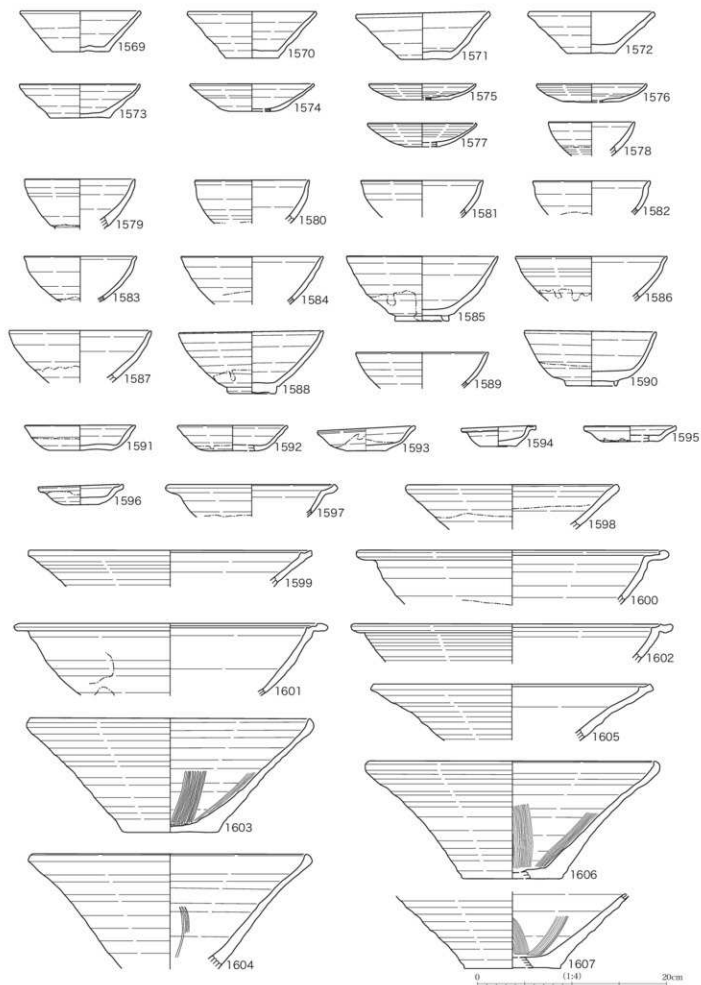


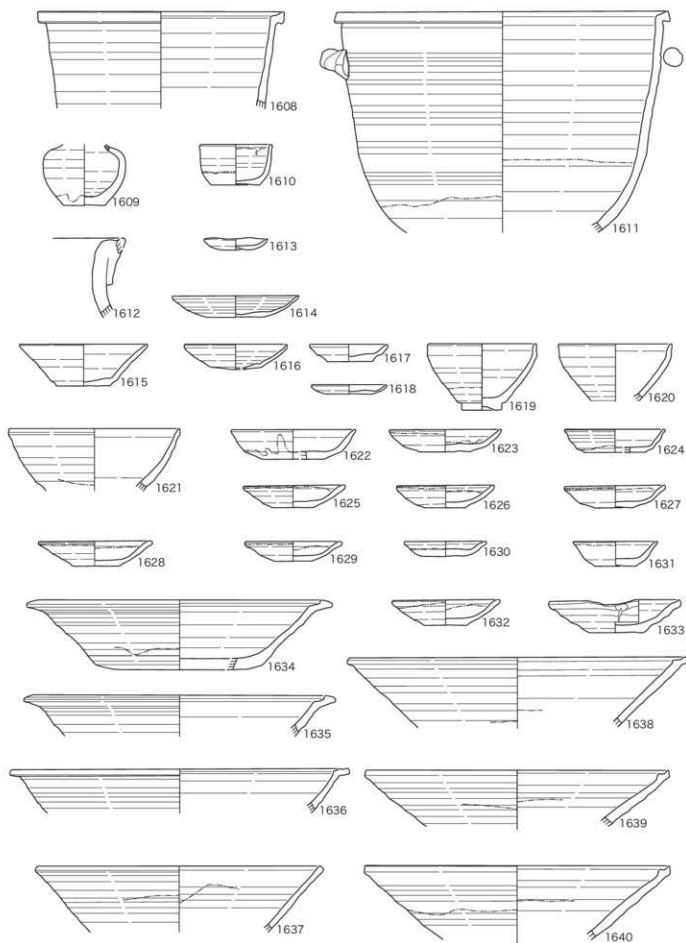
第 197 图 中世土器 (18)





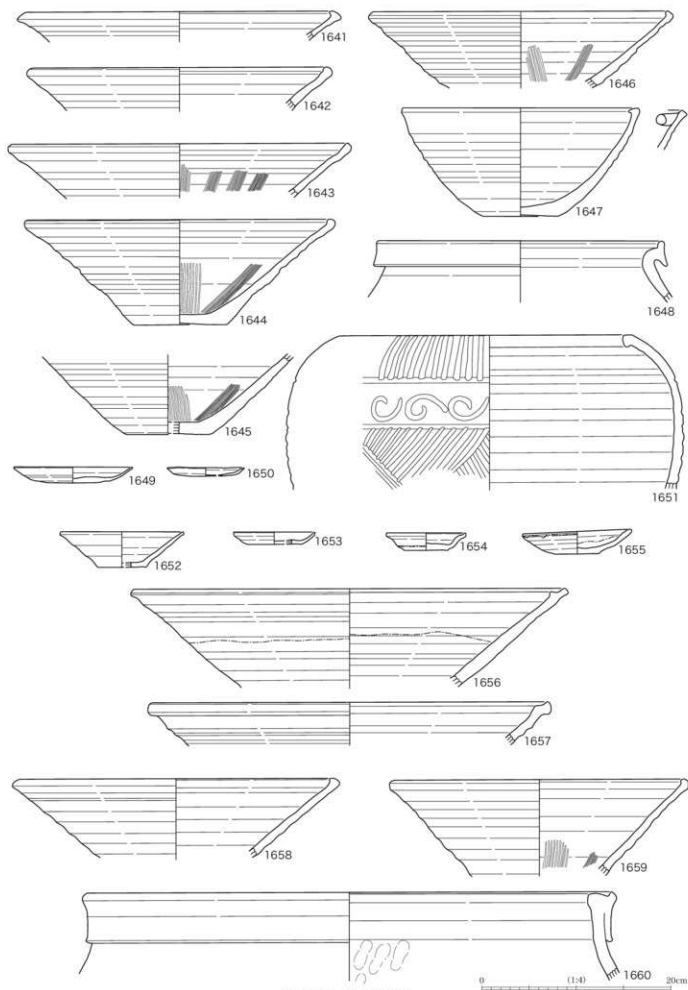
第199图 中世土器(20)

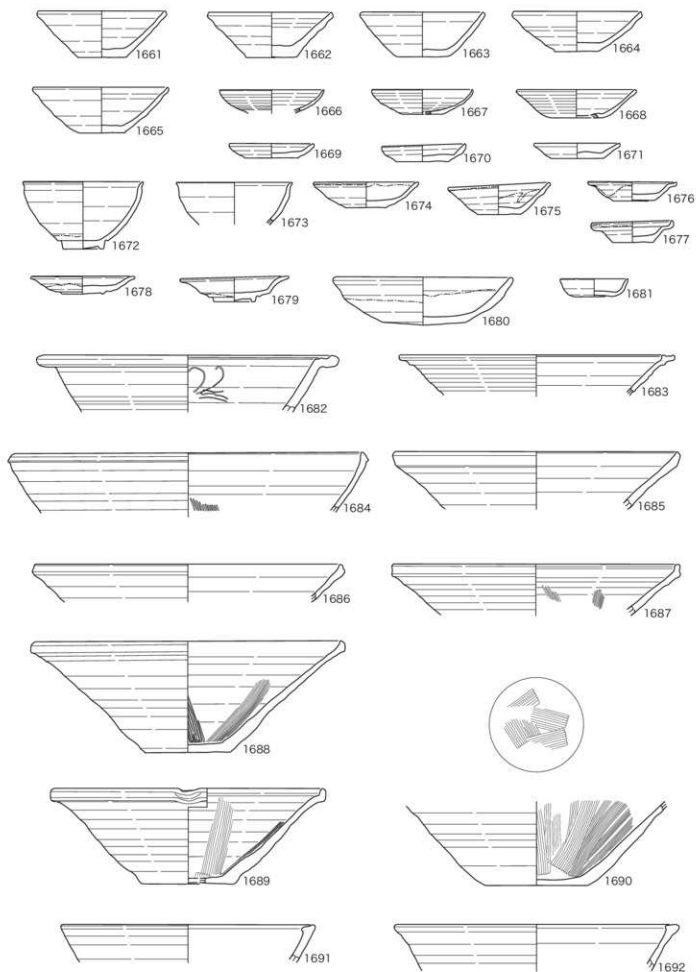




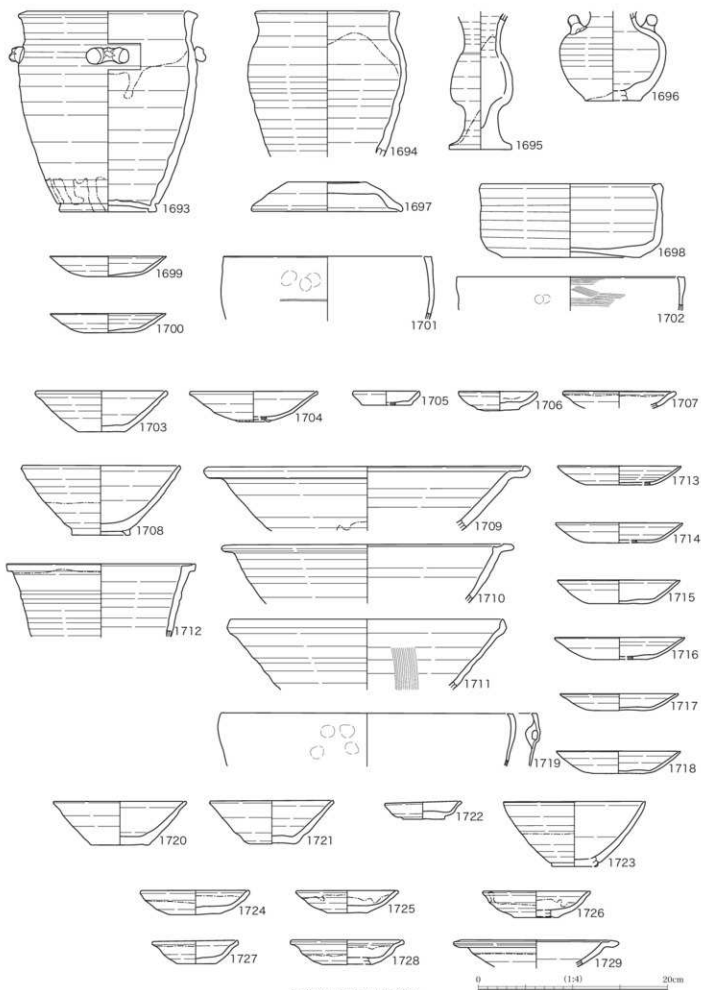
第 201 图 中世土器 (22)

0 10 20cm



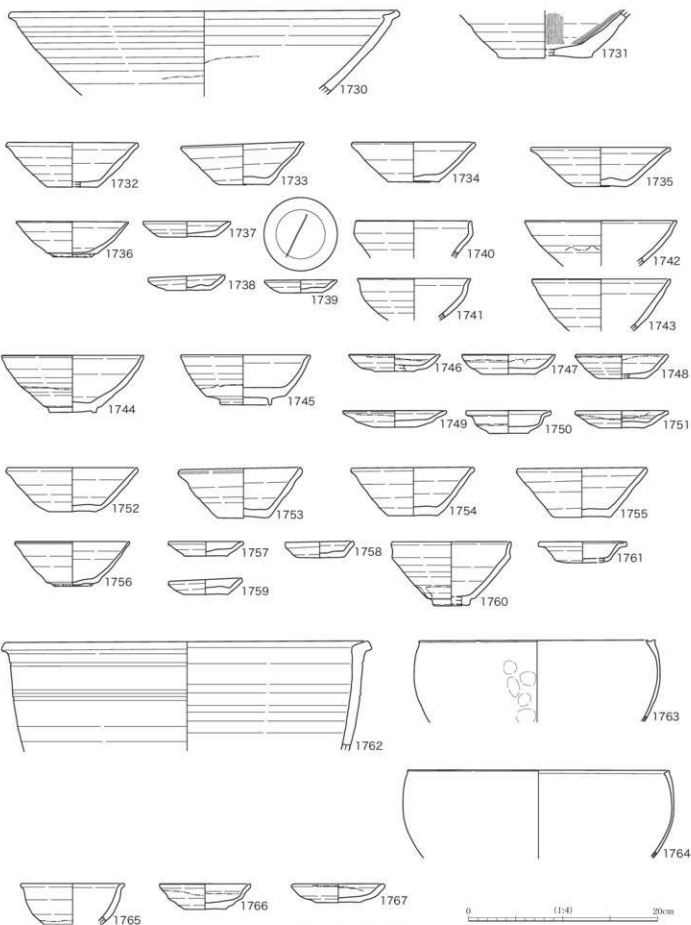


第 203 図 中世土器 (24)

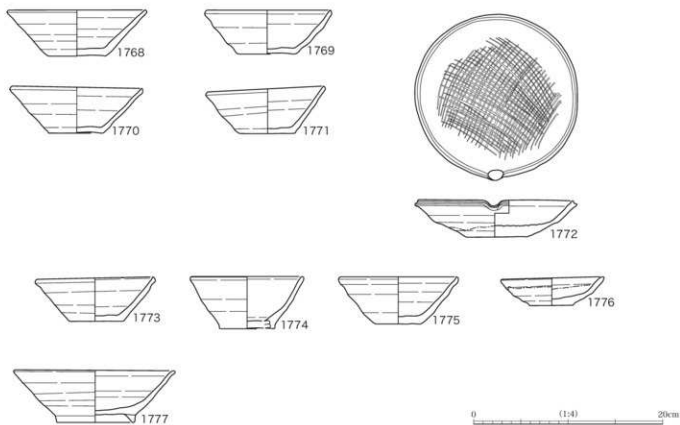


第 204 图 中世土器 (25)

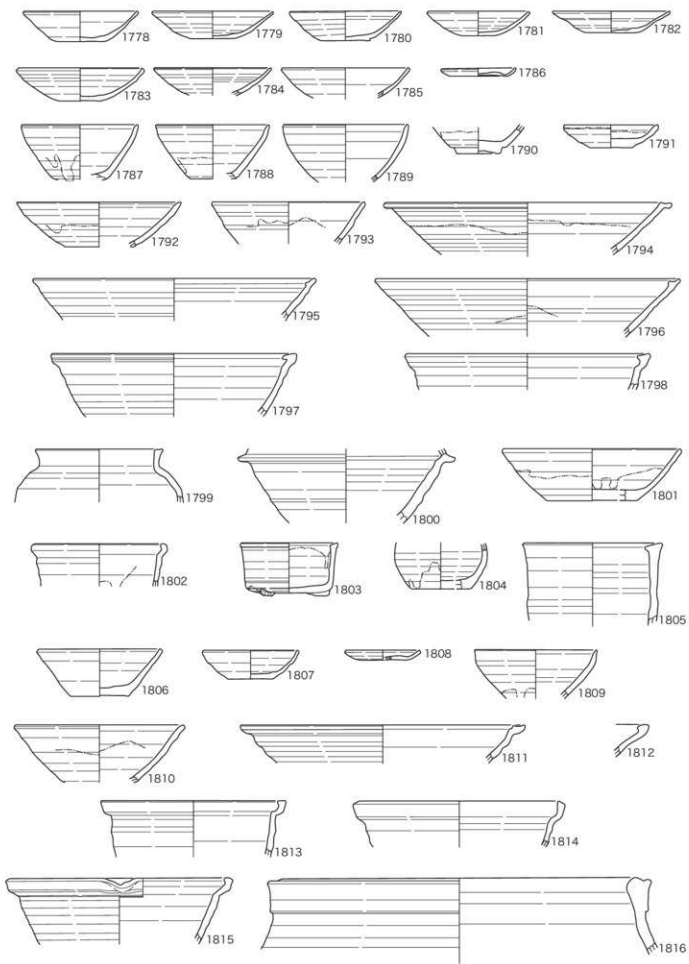




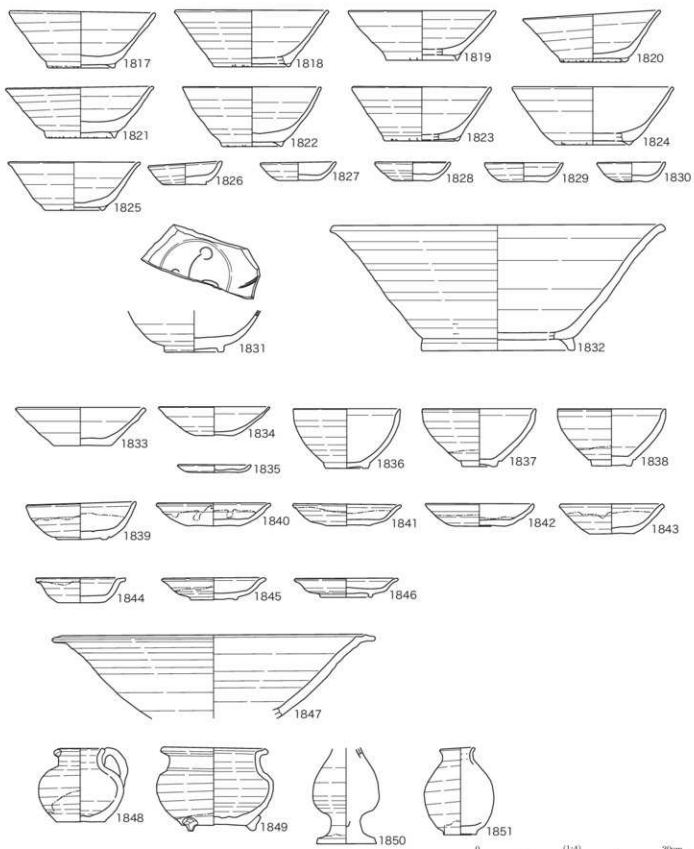
第 205 图 中世土器 (26)



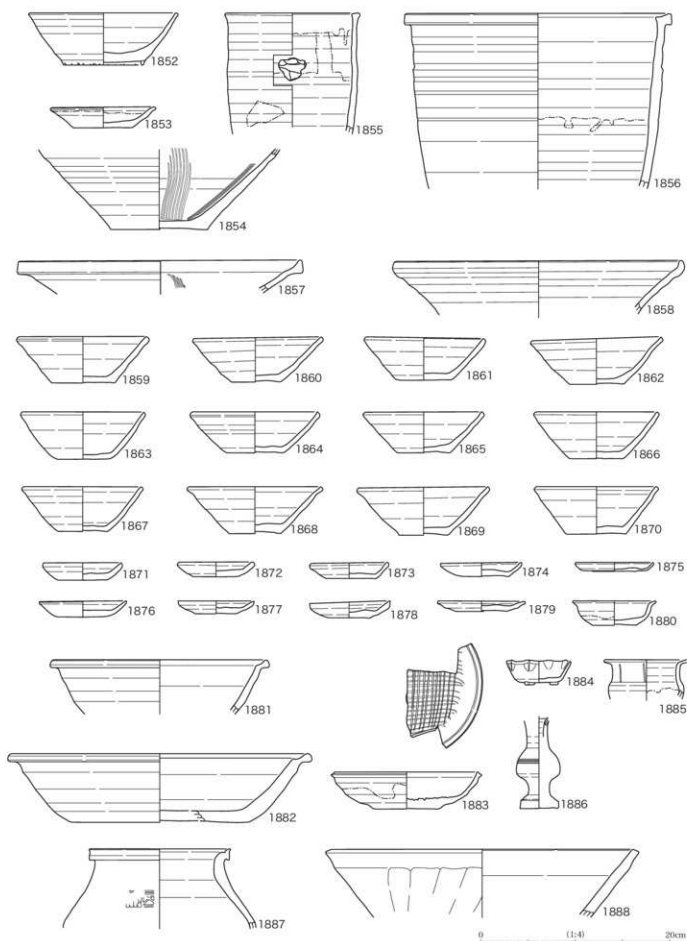
第 206 図 中世土器 (27)



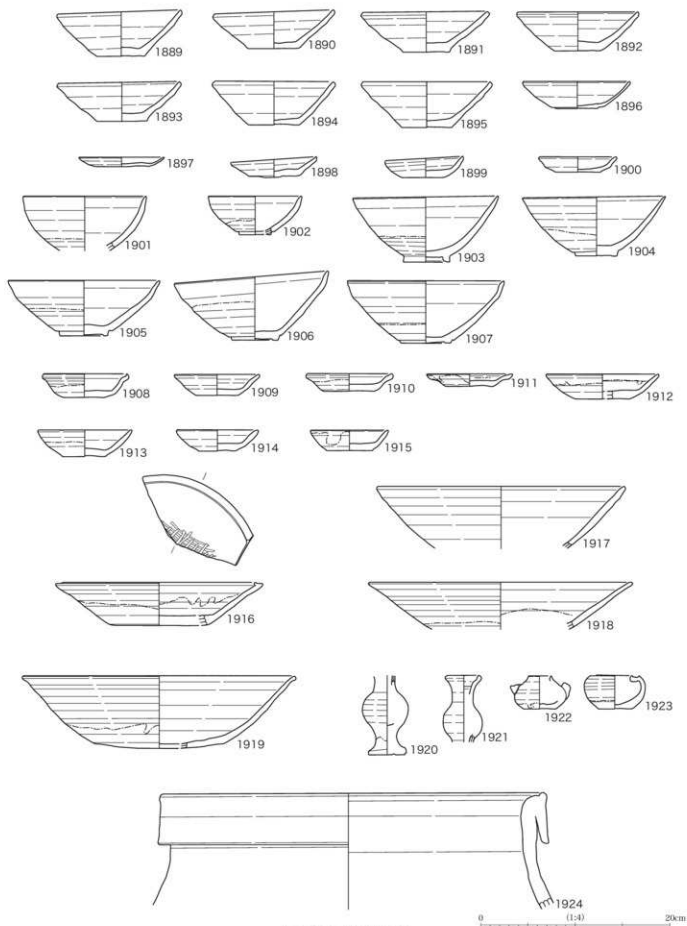
第 207 图 中世土器 (28)



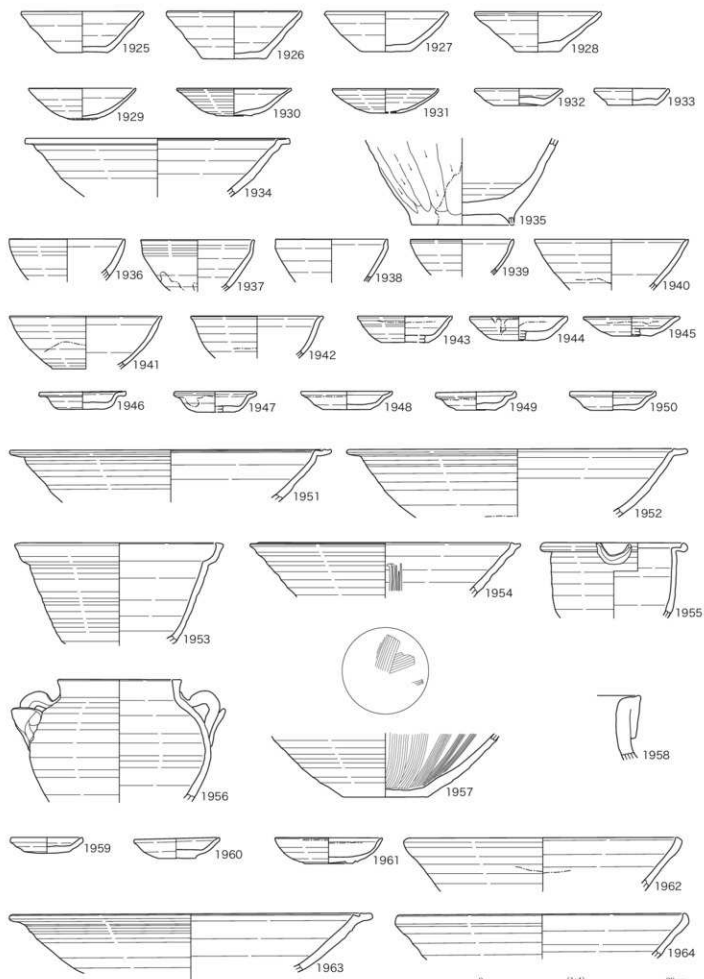
第 208 图 中世土器 (29)



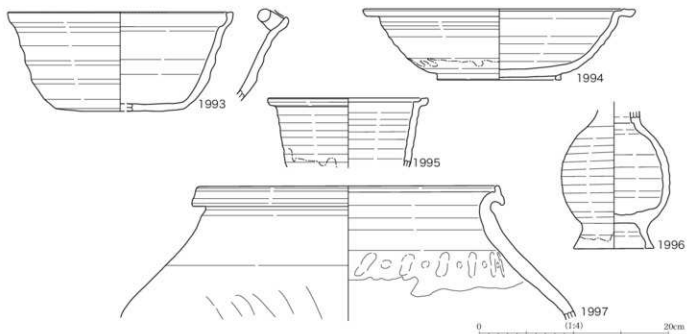
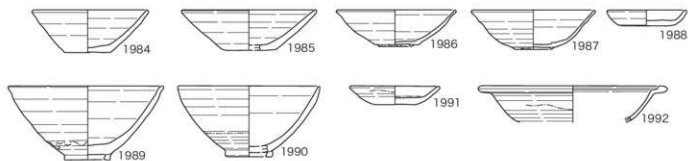
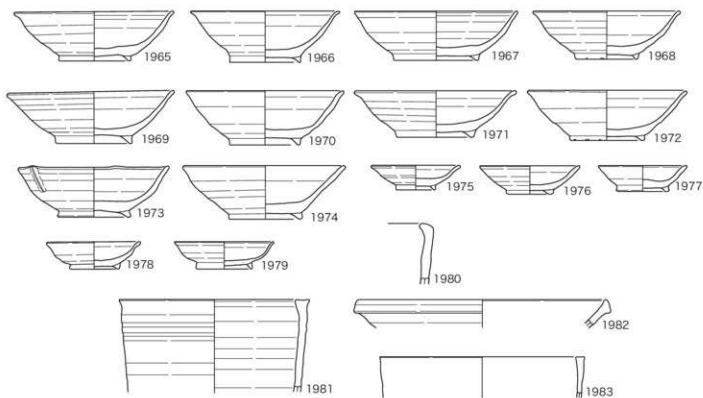
第 209 图 中世土器 (30)



第 210 図 中世土器 (31)

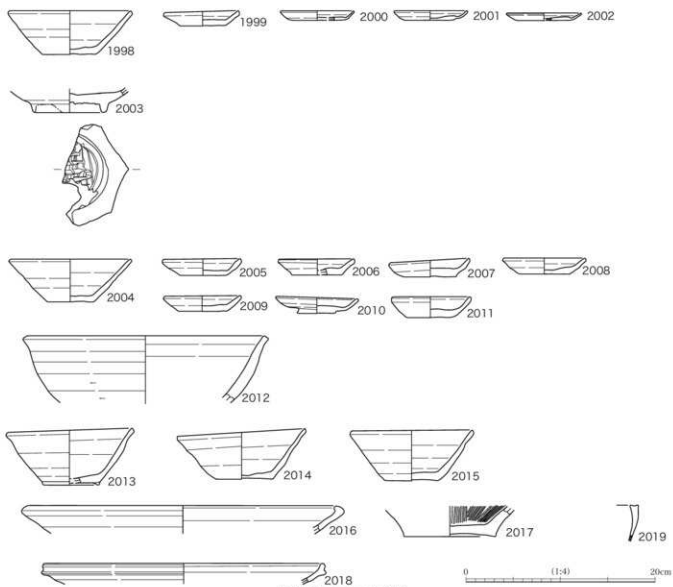


第 211 图 中世土器 (32)

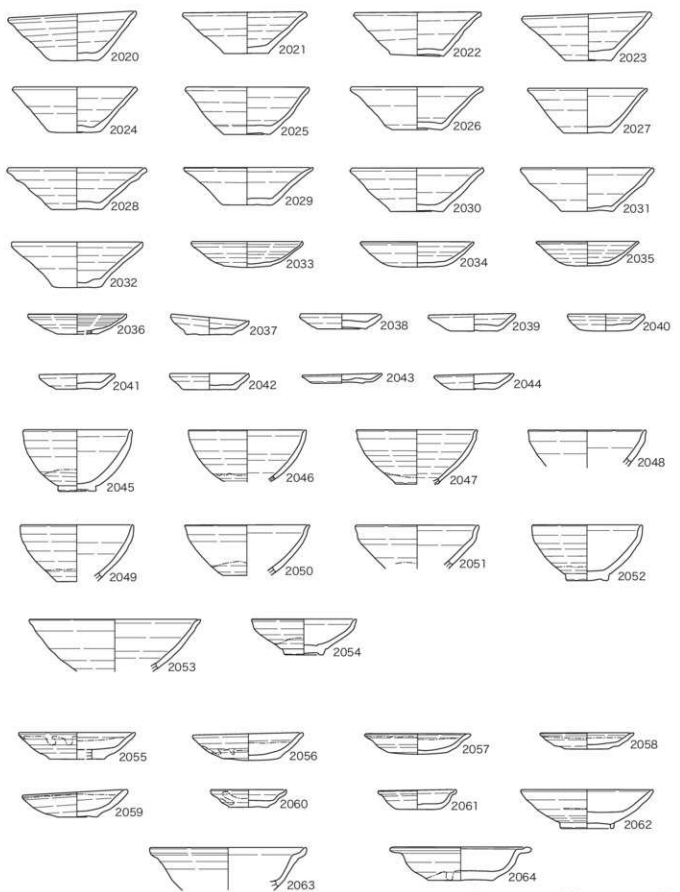


0 20cm  
(1:4)

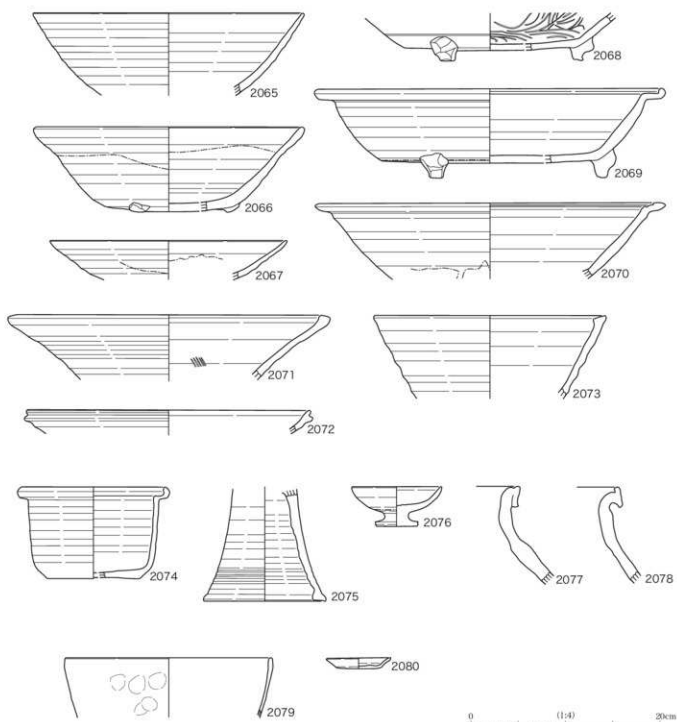




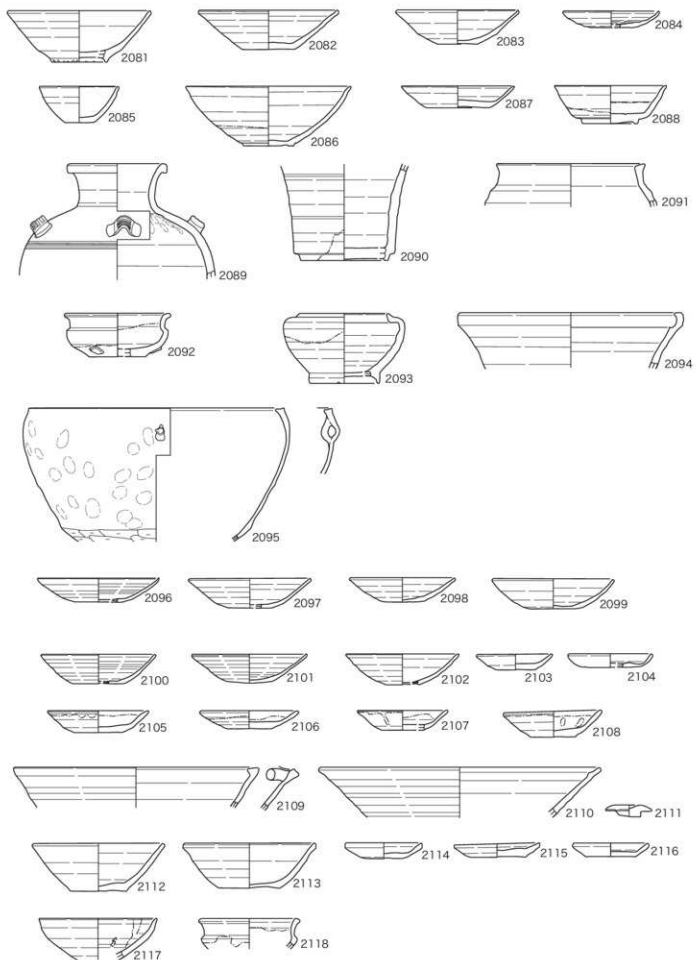
第 213 图 中世土器 (34)



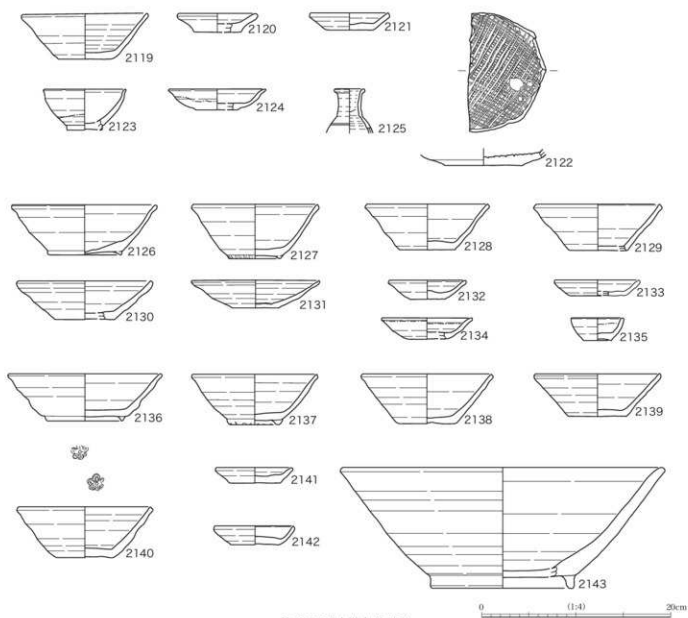
第 214 図 中世土器 (35)



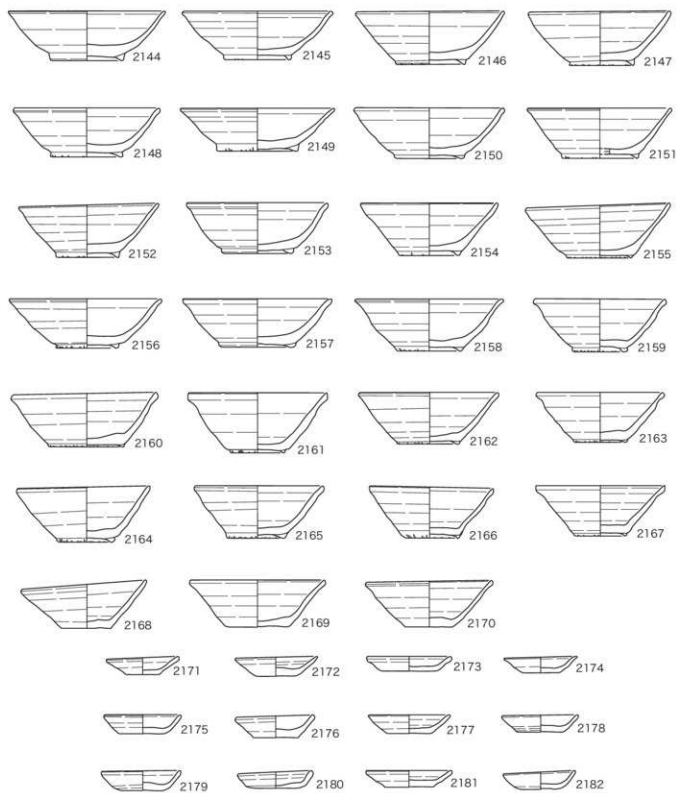
第 215 图 中世土器 (36)



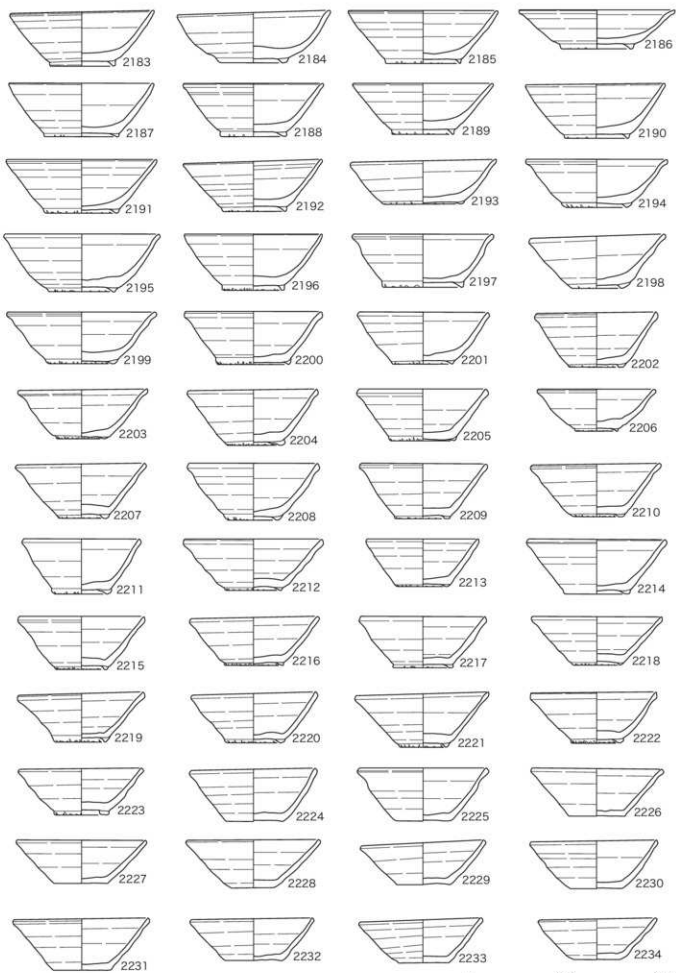
0 (1:4) 20cm



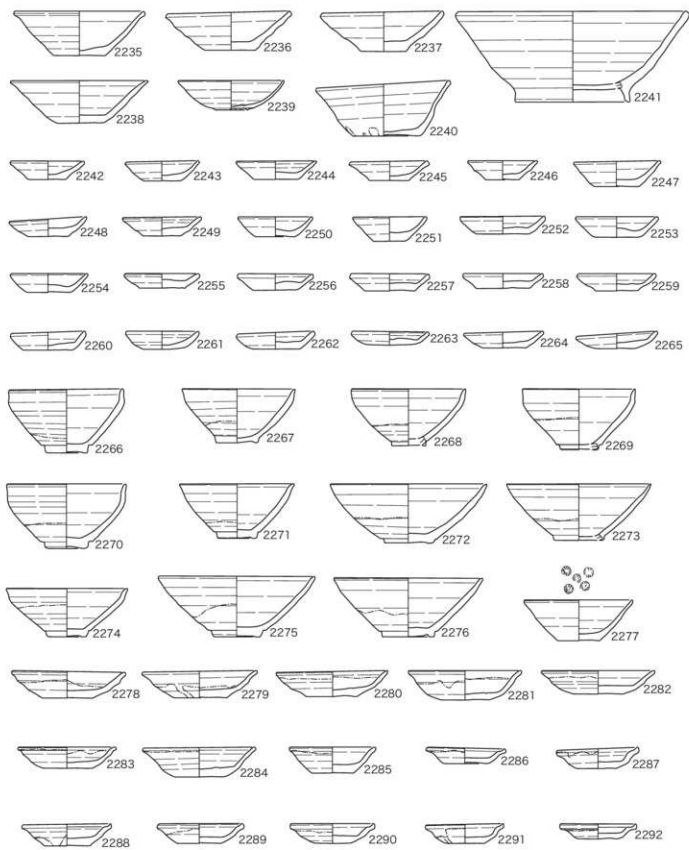
第 217 图 中世土器 (38)



第 218 図 中世土器 (39)

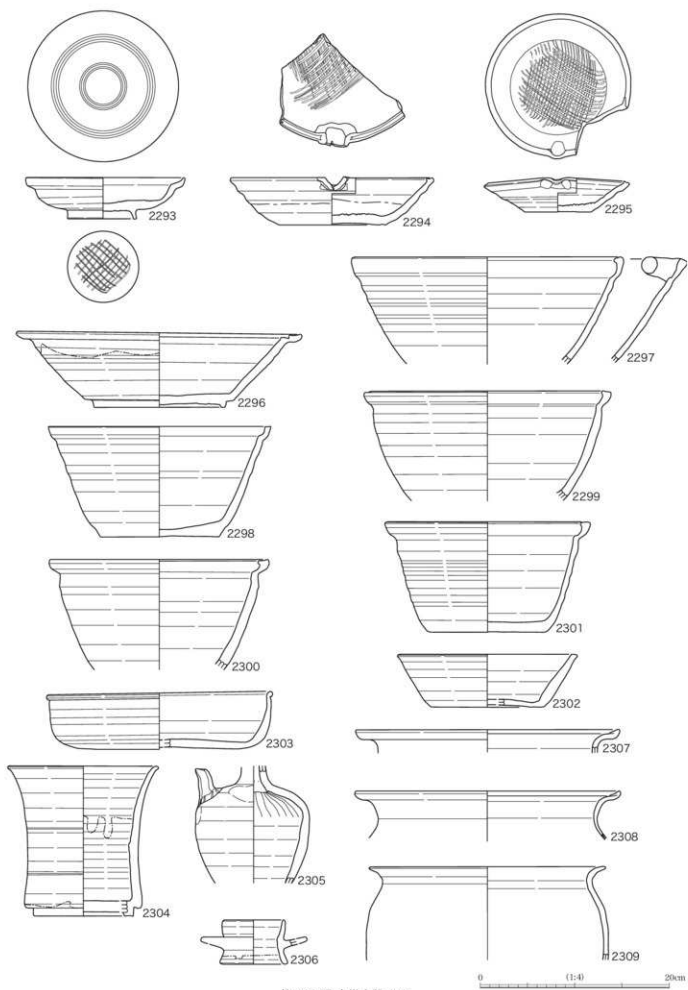


第 219 图 中世土器 (40)

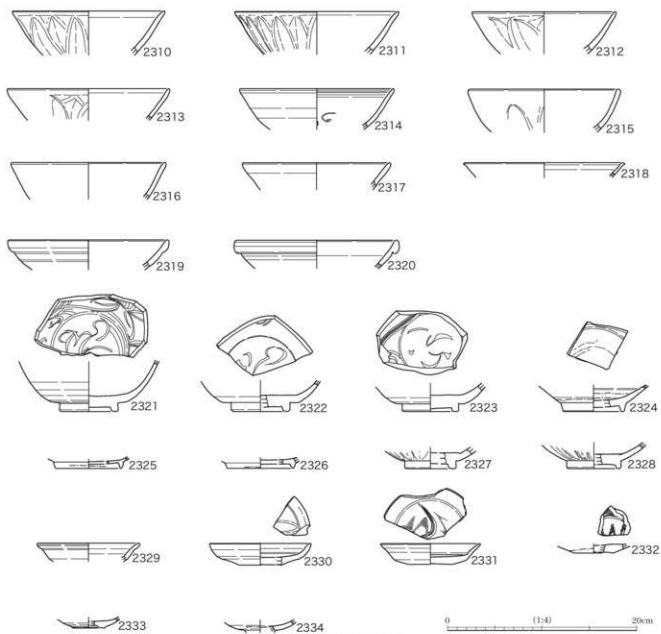


第 220 图 中世土器 (41)





第 221 图 中世土器 (42)



## 6. 近世の遺物

17世紀代から19世紀中葉までの遺物を対象とする。

### a. 土坑

南部地区より出土した。

#### 03Ab区 04Cb区 04Db区 (第223図)

筒型碗(2335 2336)、志野丸皿(2337-2341)、鉄絵皿(2342)、黄瀬戸(2343)、徳利(2344)、片口(2345)、不明鉢(2346)、灯明具(2347)、不明片口(2348)、半胴甕(2349)、搦鉢(2350)、匣鉢(2351-2354)、土師器釜(2355)が出土した。2335は17世紀代である。志野丸皿、鉄絵皿は17世紀後半から18世紀初頭の時期である。黄瀬戸、片口は17世紀代である。半胴甕は18世紀代である。搦鉢は連房式登窯7小期である。

### b. 溝

南部地区より出土したものを対象とする。

#### SD003(第224 225図)

半胴甕(2356-2375)が出土した。大形(2356-2360)と小形(2361-2375)の2種類に分かれる。連房式登窯6小期18世紀後半の時期に属する。

#### SD030(第225図)

天目茶碗(2376-2379)、小碗(2380)、志野丸皿(2381 2382)、輪禿皿(2383 2384)、鉄絵皿(2385)、搦鉢(2386)が出土している。天目茶碗連房式登窯4・5小期、志野丸皿・鉄絵皿同3小期である。輪禿皿は18世紀後半である。搦鉢は連房式登窯4小期である。

#### SD110(第225図)

匣鉢(2387)、土師器鍋(2388 2389)が出土した。

#### SD116(第226図)

搦鉢(2390-2400)、半胴甕(2401-2403)が出土した。搦鉢は18世紀前半(2390 2391)と19世紀中葉(2392-2400)の時期のものがある。半胴甕は18世紀後半から19世紀前葉の時期に属す。

#### SD123(第226図)

輪禿皿(2405)と搦鉢(2404)が出土している。連房式登窯5小期の時期である。

### c. 井戸

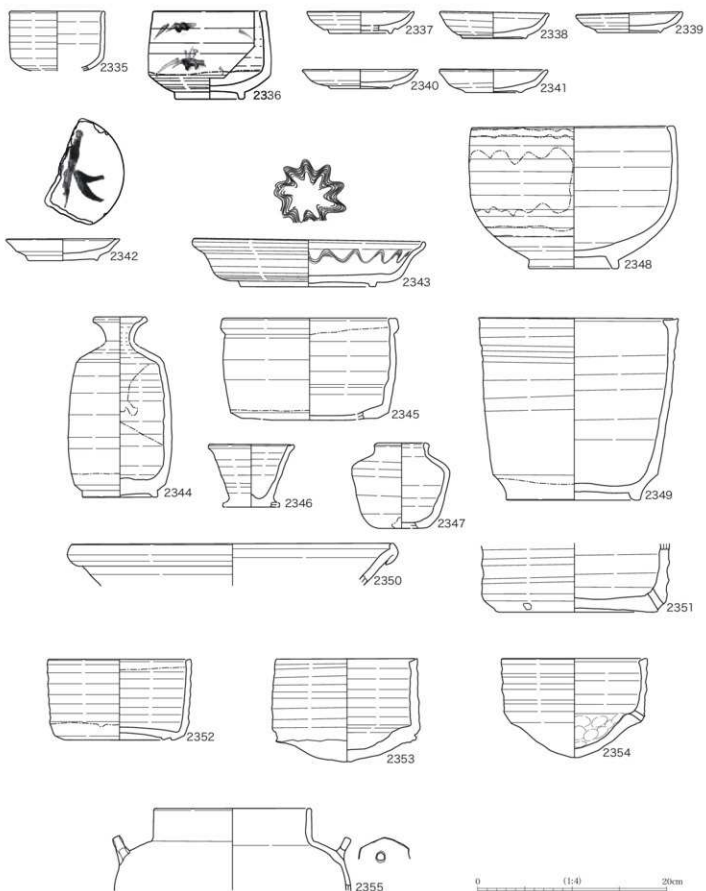
#### SE05(第227図)

志野丸皿(2406)、折縁皿(2407)、筒型香炉(2408)、鉦目付大皿(2409)、搦鉢(2410)、土師器皿(2411 2412)が出土した。志野丸皿は17世紀代である。折縁皿、搦鉢は16世紀末である。鉦目付大皿、筒型香炉は古瀬戸後期であり、混入の可能性がある。

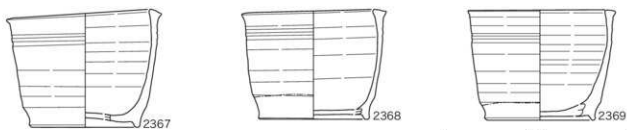
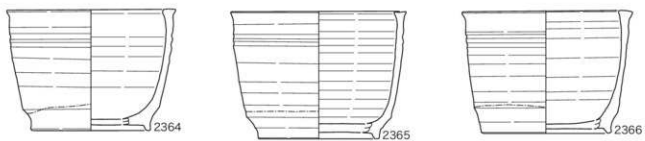
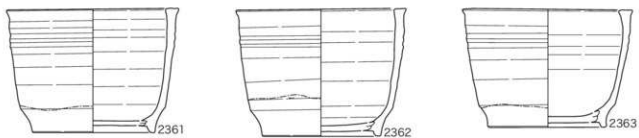
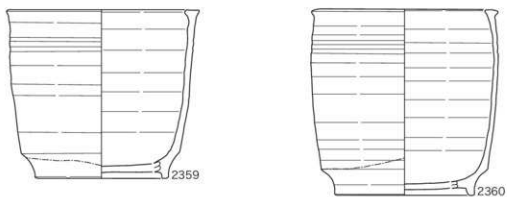
### d. 落ち込み状遺構

#### SX023(第228図)

天目茶碗(2413-2418)、丸碗(2419-2421)、筒型碗(2422)、志野丸皿(2423-2428)、輪禿皿(2429 2430)、鉄絵皿(2431)、黄瀬戸(2432)、搦鉢(2433 2435)、片口(2434)、茶入れ(2438)、土師器鍋(2440-2443)が出土した。天目茶碗、丸碗、筒型碗は連房式登窯3-5小期である。丸皿、輪禿皿、鉄絵皿は筒型碗は連房式登窯3-5小期である。土師器鍋は、半球形内耳鍋である。(酒井俊彦)

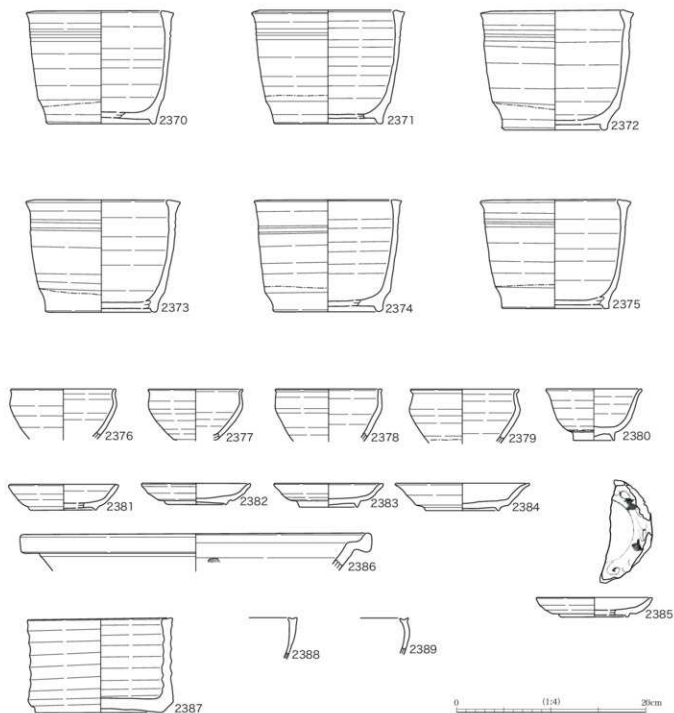


第223图 近世土器 (1)

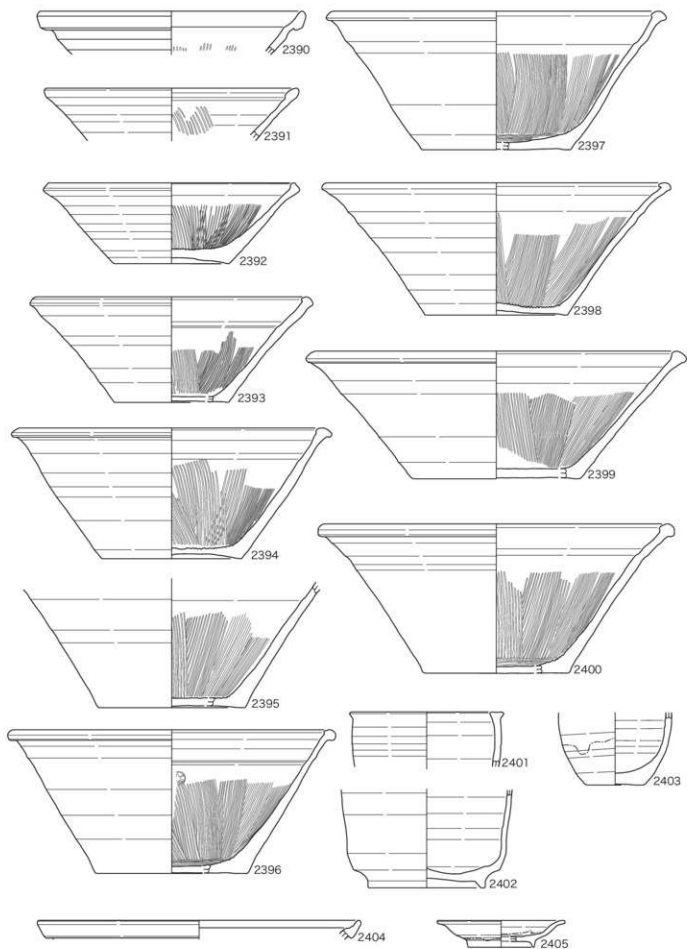


第224图 近世土器(2)

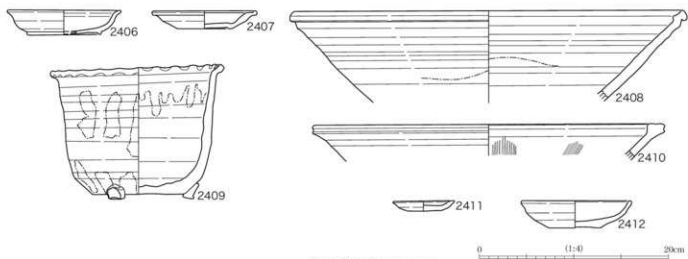
0 (1:4) 20cm



第225圖 近世土器 (3)

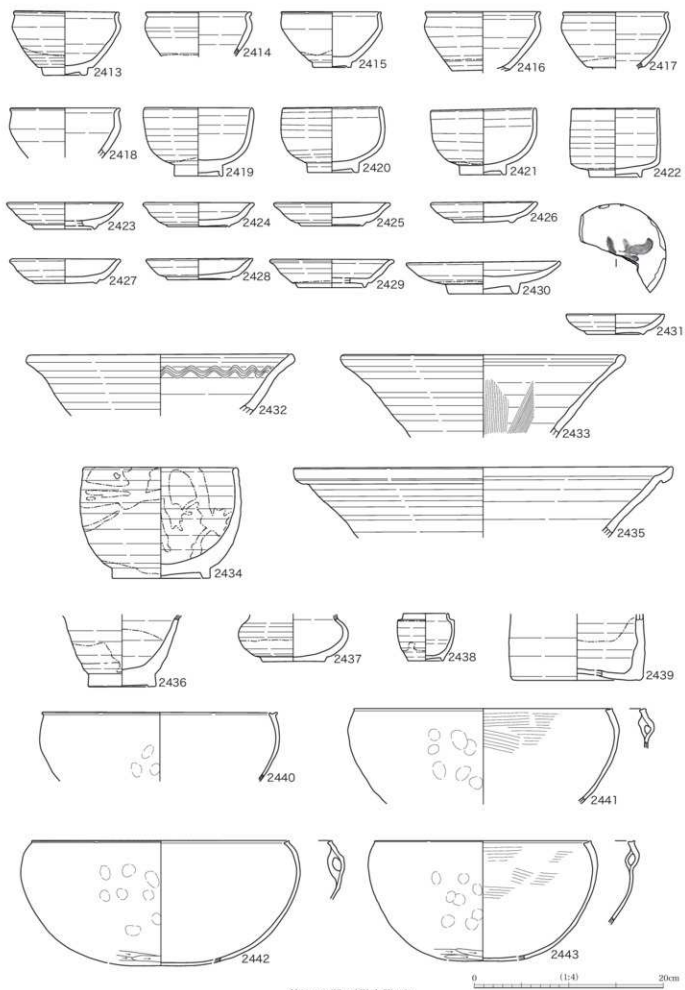


第 226 图 近世土器 (4)



第 227 图 近世土器 (5)





第228图 近世土器(6)

## 7. 墨書土器

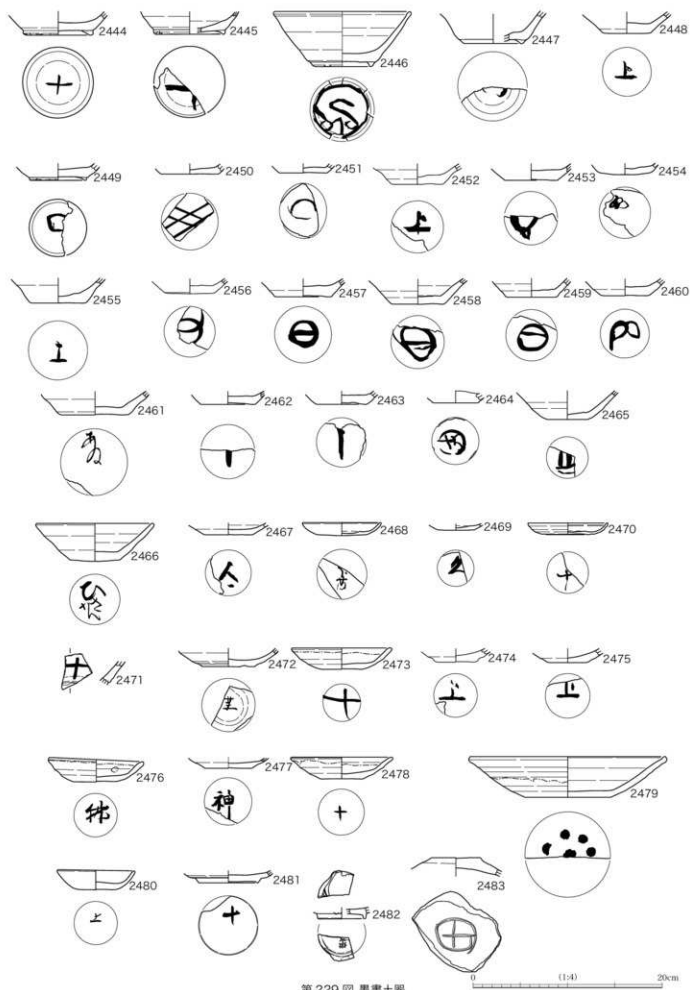
調査区全体の遺構内外より出土した、墨書または刻書を有する土器陶器類を一括する。

### a. 中世 (第 224 図)

山茶碗について南部系 6-7 型式 (2444-2449)、同 9 形式 (2450-2466)、北部系 10-11 型式 (2467-2470)、瀬戸窯産施軸陶器については平碗 (2471 2472)、緑軸小皿 (2473-2478)、直緑大皿 (2479)、入子 (2480) に墨書が認められた。平碗 (2472) 緑軸小皿 (2473 2486 2478) は古瀬戸後期である。直緑大皿は後期である。底部に「十」字が書かれるもの (2444 2473 2478) 「上」 (2448 2452 2455 2467 2474 2475 2480) 「○」 (2449 2451) 「|」 ないしは「—」 (2462 2463) 円内に横棒 (2457-2459) 「久」 (2469) 「神」 (2477) 「佛」 (2452) 格子状の斜線 (2450) 意味不明な記号 (2446 2460 2464) 円点の文様 (2479) 判読不能 (2461 2466) 欠損のため判読不能 (2445 2447 2453 2465 2468 2471 2472) がある。

### b. 近世 (第 224 図)

2482 は磁器碗の底部に「兵衛」の刻印が施される。2483 は匣鉢蓋の内面に○に+の組み合わせた刻書が施される。(酒井俊彦)



第 229 図 墨書土器

## 第2節 土製品

### 1. 狛犬 (第225図)

施軸された陶製の狛犬である。04Ca 区の北西部、溝で囲まれた中世集落のほぼ中央の遺物包含層で集中して検出された。2484 は頭部から底部の部分で、脚部と台座の大部分は欠損している。小型の狛犬である。2485 は体部背面台座部である。やや、大型のものである。2486 2490 2491 は脚先端の台座部である。いずれも小形のものである。2487 はやや大形の頭部側面である。2488 は台座部である。2489 は脚部の付け根部分である。これらは包含層の出土遺物から14世紀後半から15世紀前半の時期に属すと考える。

### 2. 加工円盤 (第226図)

陶磁器の破片を円形に打ち欠いたもので、南部地区を中心に出土している。遺構内外のものを一括する。素材の種類としては山茶碗(2492)、天目茶碗(2493 2494)、灰釉碗(2495 2496)、磁器(2497-2499)、甕(2500-2503)、擂鉢(2504)である。2492 2494 2495 は中世と考えられ、他は近世の時期に属す。

### 3. 土錘 (第227図)

土師器質の錘である。全て南部地区で出土した。遺構内外出土のものを一括する。小形のもの(2505 2507-2518)とやや大形のもの(2506)がある。小形ものは、出土地点が離れているが、定形化している。

### 4. 製塩土器 (第228図)

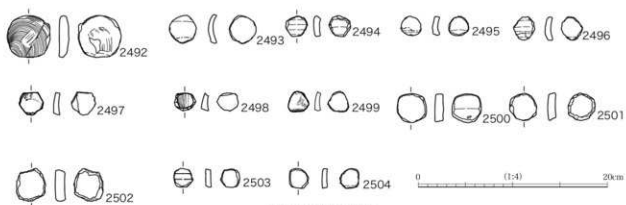
古代の製塩土器の脚部(2519-2522)である。いずれも脚の先端部で、確定できないが、8世紀以降の時期に属す。



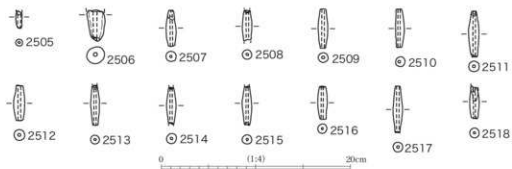
第230図 狛犬

### 5. 銅鐸型土製品 (第 229 図)

SB220 より出土した。胴下半および片面の身部分を欠損する。籠状具によって鈕部分に鋸歯文が、身部分に格子文が施される。全体に焼成がやや悪い。弥生時代後期に属する。(酒井俊彦)



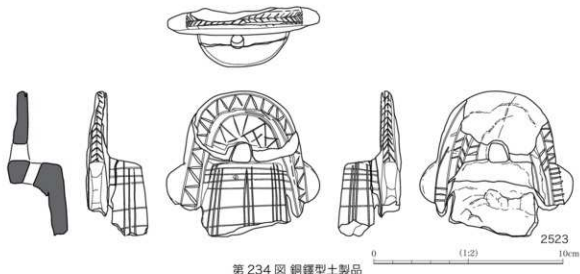
第 231 図 加工円盤



第 232 図 土錘



第 233 図 製塩土器



第 234 図 銅鐸型土製品

### 第3節 石製品

#### 1. 石鏃 (第229 230 図)

図示したもので遺構に伴うものは少なく、ほとんどが遺構外あるいは他時期の遺構埋土中より出土したものである。石材は105点中、黒曜石13点(1 4 9 10 22 23 27 29 38 55 66 78 98)下呂石10点(12 33 42 44 53 57 69 73 89 95)サヌカイト7点(14 16 40 72 86 100 101)水晶2点(60 76)ホルンフェルス1点(49)であり、72点はチャートである。縄文時代遺構が検出された00A区および01A区で多く検出された。縄文時代包含層が確認された01D区では出土点数は少ない。すべて縄文時代と考える。

##### SB003(第229 図)

遺構埋土中より19-21が出土した。石材はチャートである。

##### SB004(第229 図)

遺構埋土中より22が出土した。石材は黒曜石である。

#### 2. 有舌尖頭器 (第231 図)

調査区全体で8点検出された。南部地区6点(106-108 111-113)北部地区2点(109 110)である。遺構に伴うものはなく、他時期の包含層または遺構中より出土した。石材はチャート(106 109 112 113)、下呂石(108 110 111)、溶結凝灰岩(107)である。旧石器時代末から縄文時代初頭の時期である。

#### 3. 石錐 (第231 図)

00A区で1点のみ出土した(114)。石材はチャートである。縄文時代に属すると考える。

#### 4. スクレイパー類 (第231 図)

搔器類及び削器類を一括する。遺構に伴うものはない。南部地区13点、北部地区4点である。縄文時代の定型化したいわゆる石匙は横型石匙(120)と縦型石匙(128)が出土した。不定形なスクレイパー的な機能を持つものとして、縦長の剥片の長辺に連続剥離があるもの(115 118 126 129 130)と短辺にあるもの(116 119 121-125)とが認められる。117 127は全周に剥離が認められる。石材は溶結凝灰岩(118 128)とチャートである。全て縄文時代と考える。

#### 5. 打製石斧 (第232 図)

縄文時代のいわゆる打製石斧を一括する(131-138)。遺構に伴うものはないが、01D区の自然河道の縄文時代包含層からまとまって出土した(131-135)。南部地区からは2点出土している。石材は全てホルンフェルスである。

#### 6. 磨製石斧 (第233 図)

縄文時代の定角式磨製石斧である。南部地区1点(139)北部地区4点である(140-143)。遺構に伴うものは無く、140 141は01D区の自然河道の縄文時代包含層からまとまって出土した。石材は滑石(139 143)凝灰岩質泥岩(140 142)緑色岩(141)である。

#### 7. 棒状磨石 (第 233 図)

小形の棒状の石器で全面が研磨されるものである (144)。時代、性格は不明である。石材は泥岩である。

#### 8. 石棒 (第 233 図)

縄文時代のいわゆる石棒を一括する。145 は頭部に近い括れ部と考えられる。146 は体部、147 は頭部である。石材は凝灰岩質泥岩 (145 146)、ホルンフェルス (147) である。

#### 9. 石錘 (第 233 図)

自然石の両端を打ち欠き、錘として使用したものである。148 149 は扁平な石の楕円の両端部を打ち欠いている。縄文時代の時期に属すると考える。

#### 10. 敲石 (第 234 図)

自然石に人工的な敲打痕を有するものである (150-153)。長軸の頂部の両面に敲打痕を有するもの (150 152) と片面に有するもの (151 153) がある。150 は側面にも敲打痕がある。縄文時代と考える。

#### 11. 磨石 (第 235 図)

自然石の全面が研磨されているものを一括する。大形のもの (154 155) と小形のもの (156-162) がある。154 は敲打痕があり、敲石の機能がある。小形ものは顕著な研磨がある。162 は基石と考えられる。石材は安山岩 (154 155 157) 珪質岩 (158 159 161) チャート (156) アブライト (160) 水晶 (162) である。154 155 は縄文時代と考える。基石は中世以降である。

#### 12. 砥石 (第 236 237 図)

研磨用の石製品を一括する。弥生時代 (165) のものと中世以降のものがある。中世のもの (163 164 166-179) は立方体型 (172 173) 山型 (166 169) 棒状 (164 168 174 176) 大形棒状 (163 167 170 175 177 178) の 4 種類に大別される。171 は形状不明である。南部地区の中世集落範囲の出土が多く、北部地区のものは少ない (165 166 171 173)。包含層出土のものが多く、遺構に伴うものは少ない。石材は凝灰岩および凝灰岩質のものが多く、その他ホルンフェルス (163 175)、頁岩 (167) がある。

#### SB219( 第 236 図 165)

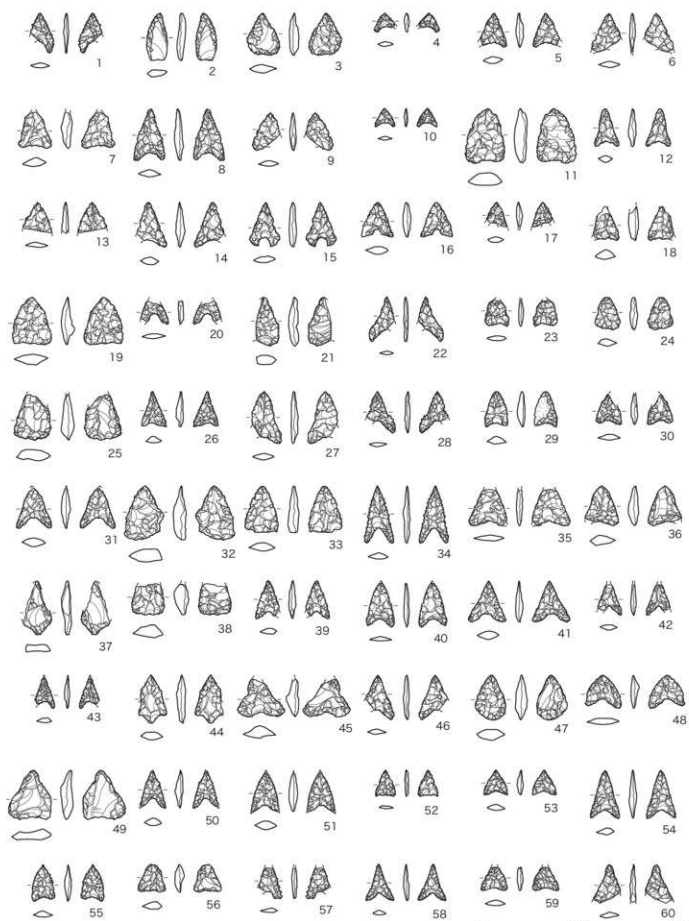
弥生時代後期の竪穴住居床面上より出土した。棒状で、6 面全てに研磨痕が認められる。石材は凝灰岩質泥岩である。

#### 13. 硯 (第 237 図)

小形の硯である。南部地区の中世集落内 (180-182) およびその周囲で出土した (183)。いずれも使用痕が顕著である。石材は凝灰岩質泥岩 (180 182) 泥岩 (181 183) である。中世の時期と考える。

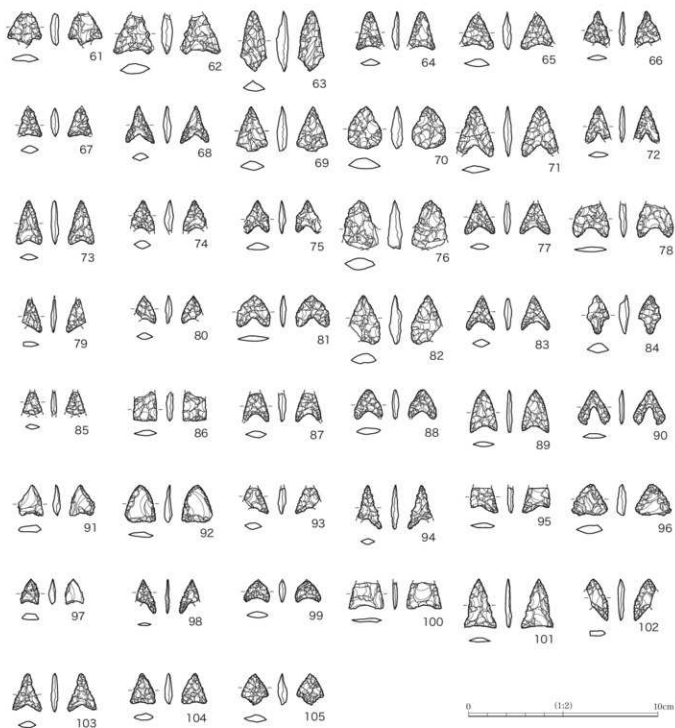
#### 14. 紡錘車 (第 237 図)

SB035 で出土した (184)。推定径 4.8cm の扁平な紡錘車である。古墳時代後期である。( 酒井俊彦 )

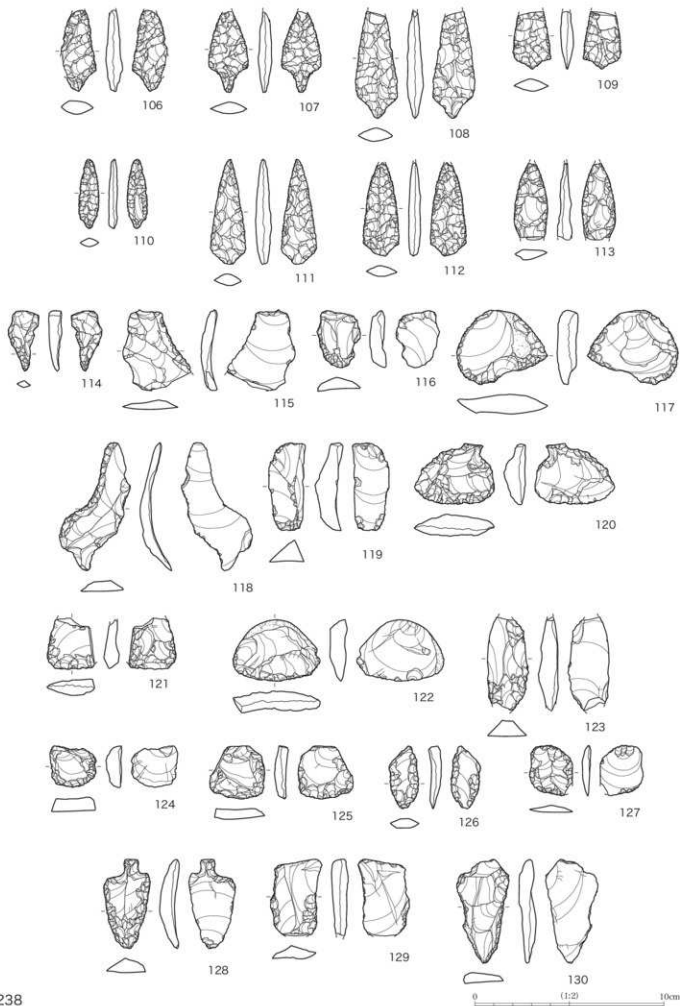


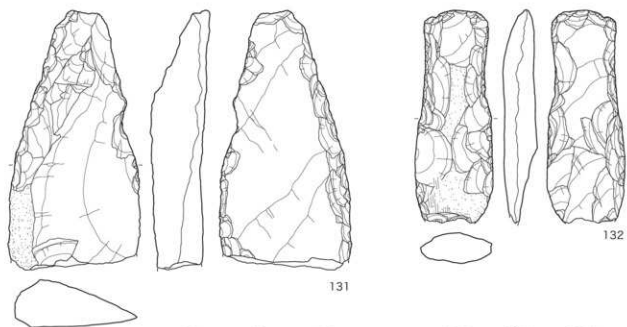
第235图石鏃(1)





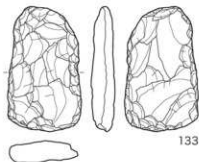
第236圖 石鏃(2)





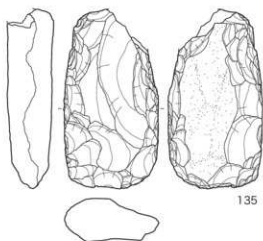
131

132



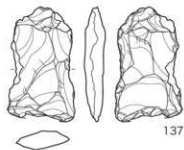
133

134



135

136

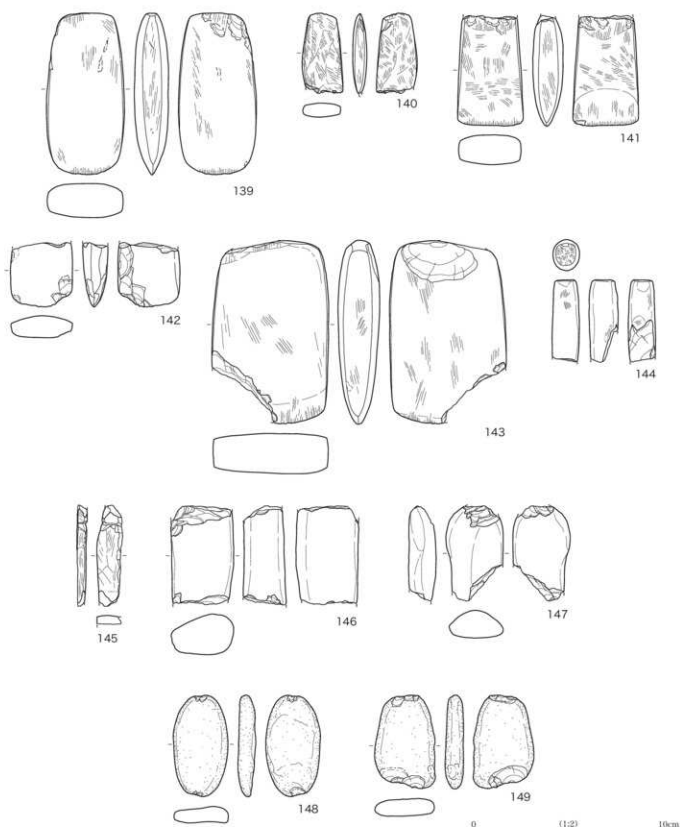


137

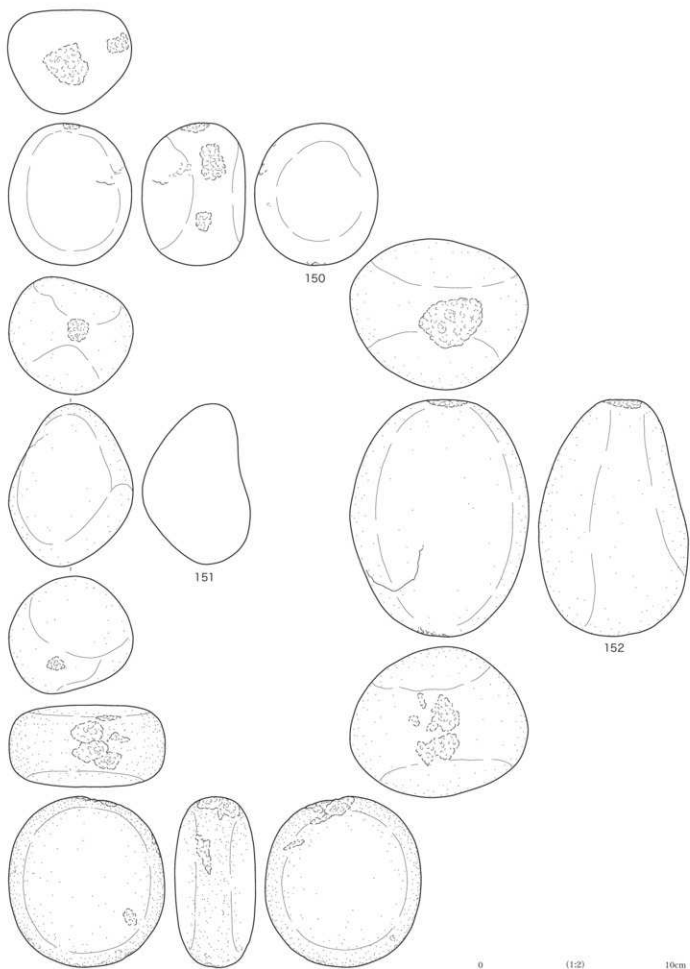
138

0 (1:2) 10cm

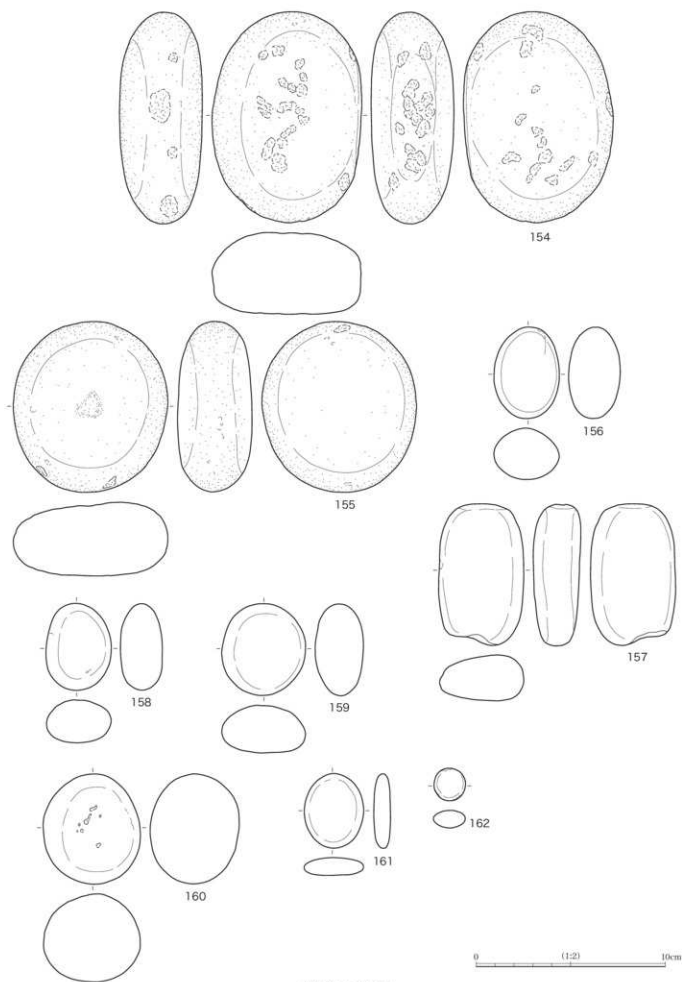
第238图 打製石斧



第 239 図 磨製石斧 石棒 石錘



第 240 図 貳石

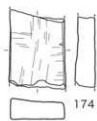


第 241 图 磨石類

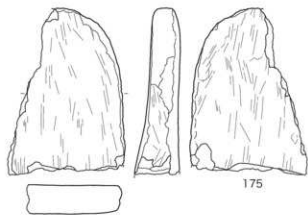


第242图 砾石





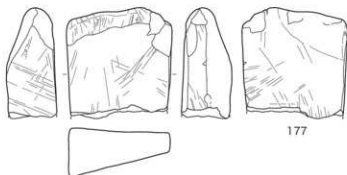
174



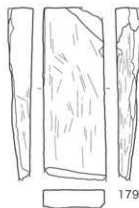
175



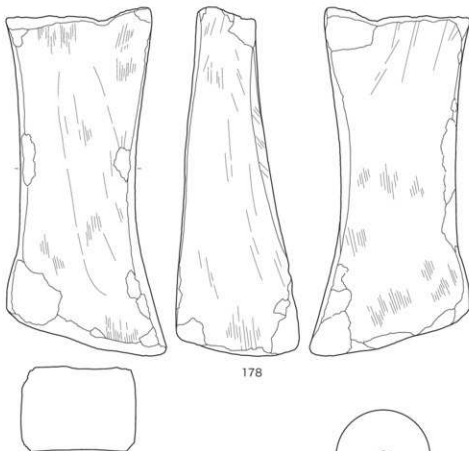
176



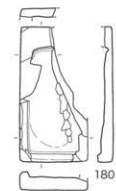
177



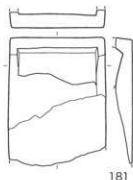
179



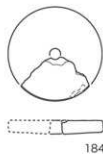
178



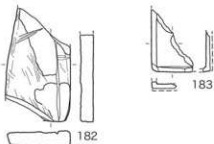
180



181



184



182

183

0 (1:2) 10cm



## 第4節 木製品

南部地区中世集落の遺構より、木製品が出土している。種別ごとに一括する。

### 1. 漆椀

SD084(第244図)

漆椀(1-3)が出土している。いずれも赤漆を施され、黒漆によって体部外面に文様が描かれる。遺存状況は悪い。中世15世紀代と考える。

### 2. 目盛板(第244図)

04E区の門前川河谷の包含層中から出土した(4 5)。薄い棒状の板の側面に一定の間隔で横方向の線刻が施される。

### 3. 曲物(第244図)

04E区の門前川包含層(6 7)と04BbSX027(8)より曲物の底板が出土した。6は2カ所の穿孔がある。やや大形のもの(6 7)と小形(8)ものがある。

### 4. 井戸側板

SE04(第245-249図)

04Ca区のSE04の井戸側に組まれた板材である。方形の井戸側の側面に縦方向に並べられた板材(9-14 16-24)と横木として組まれていたもの(15)である。前者は長64-71cm幅18-31cm厚さ3.5-5.3cmである。両端面以外の面は鑿鉋によって削られ、粗い削り痕を残す。21 23は穿孔がある。23は転用材の可能性がある。

### 5. 礎板(第250図)

04Ca区のSB057の柱穴より出土した(25 26)。丸太材を半裁して、中心の面を柱受けとしている。

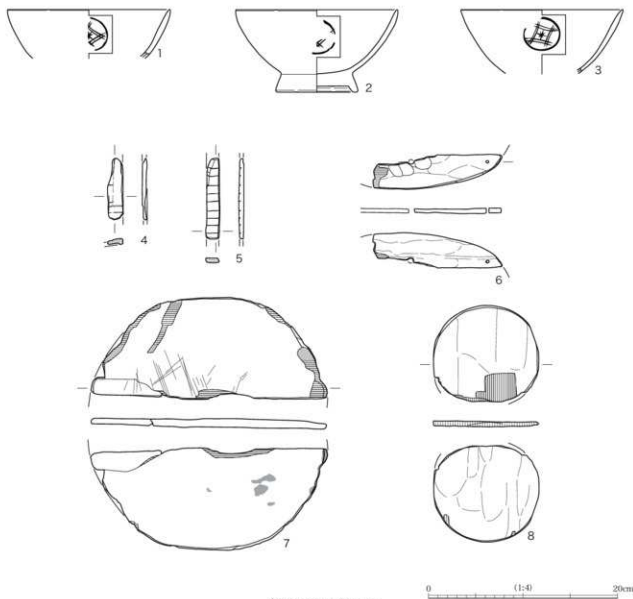
### 6. 柱根(第250図)

SK862(27)およびSB056の柱穴(28 29)より出土した。伐採後、丸太材の下端面を面取りし、表皮を剥いだ状態である。

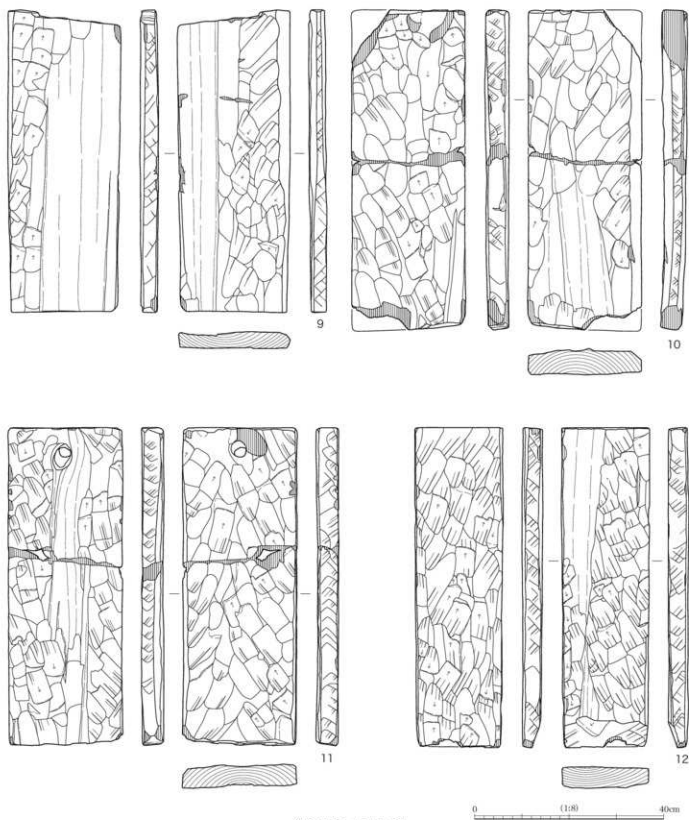
### 7. 杭(第251 252図)

SD084(30-50)

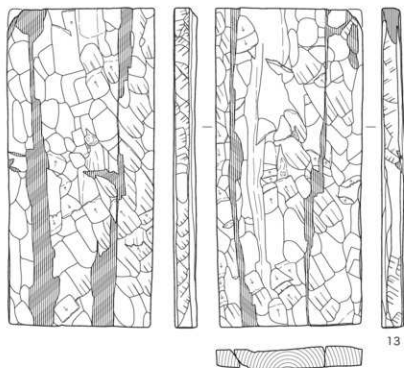
04Cb区部分の底中央に、溝の方向に平行して打ち込まれた状態で検出された。30-48は細い丸太材の先端部を尖らせたもので、大部分のものに表皮が残存している。49-50は太い丸太材を分割したもので先端を尖らせている。比較的大形の杭である。(酒井俊彦)



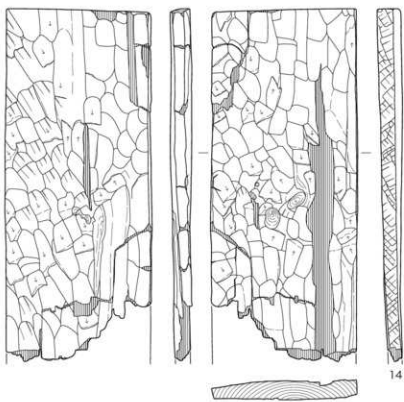
第244图 木製品(1)



第245圖 木製品(2)



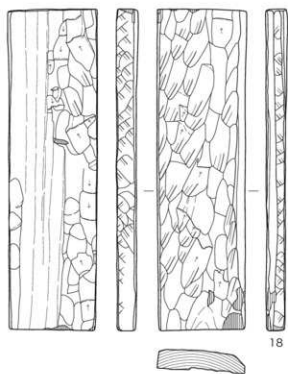
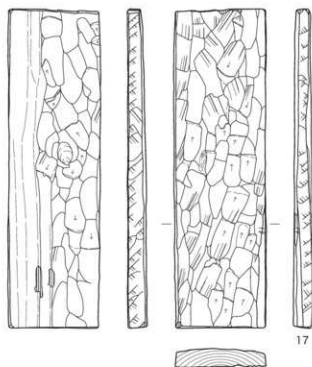
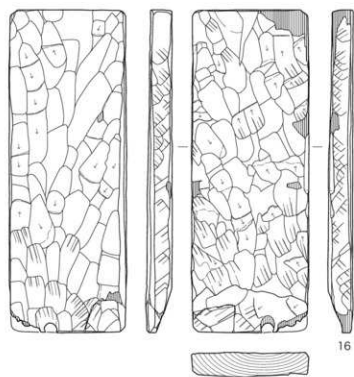
13



14

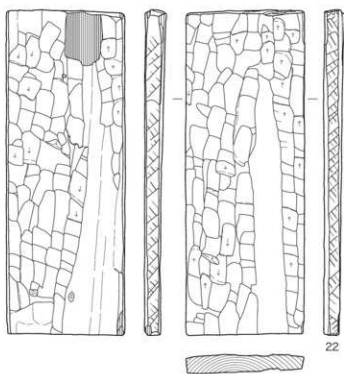
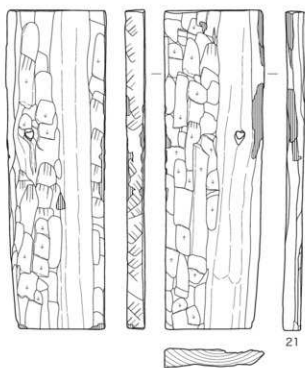
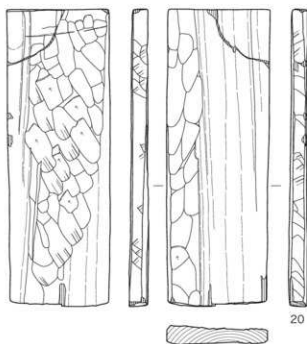
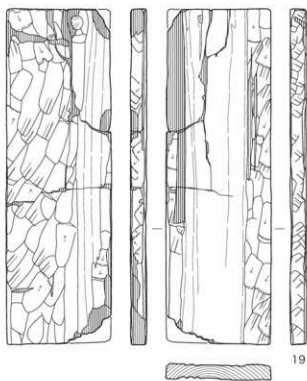
0 (120) 40cm

第246図 木製品 (3)



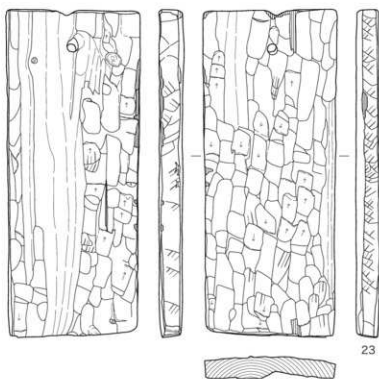
第247図 木製品(4)

0 (1:25) 40cm

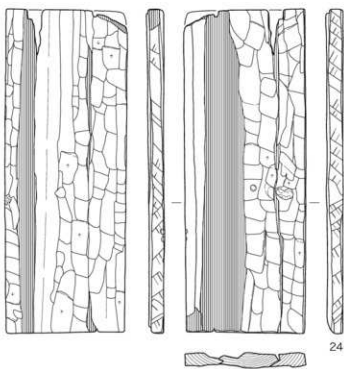


0 (1:8) 40cm

第248図 木製品(5)



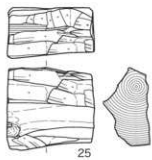
23



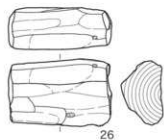
24

0 (1:8) 40cm

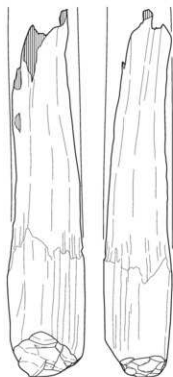
第249圖 木製品(6)



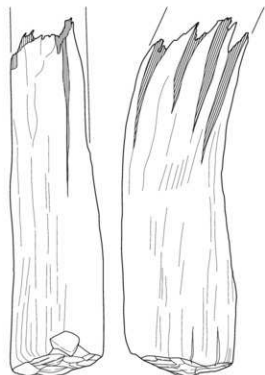
25



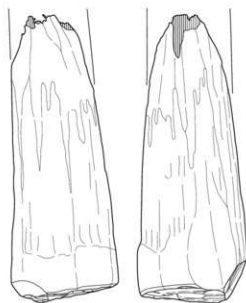
26



27



28



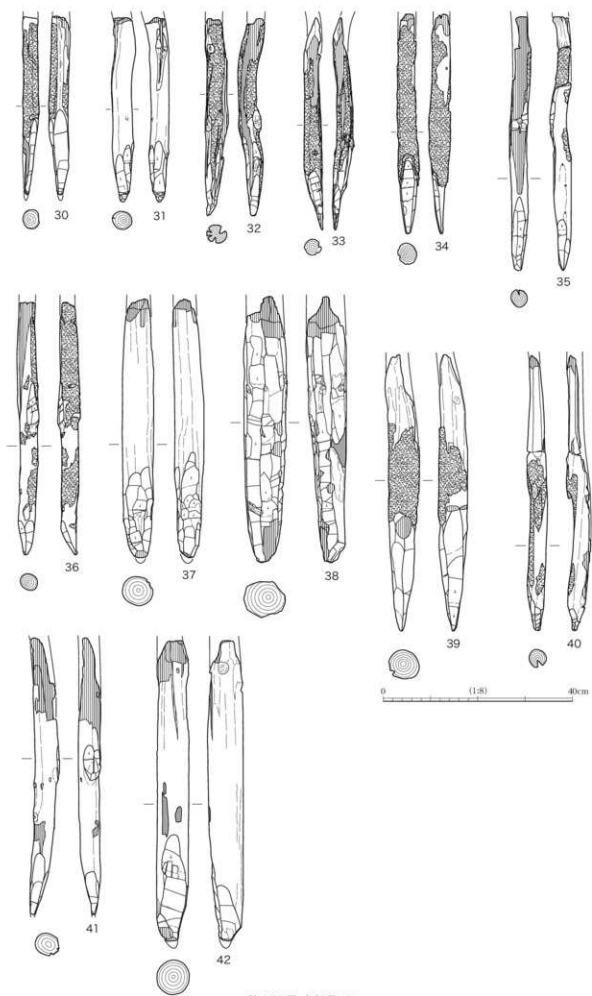
29



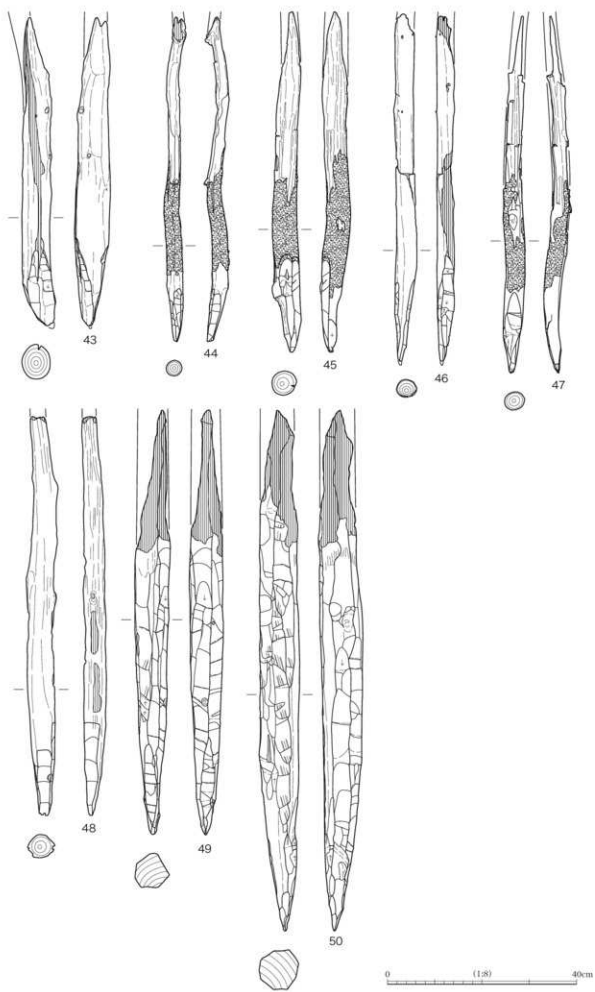
0 (1:8) 40cm

第250圖 木製品(7)





第251図 木製品(8)



## 第5節 金属製品

### 1. 鉄鏃 (第247図)

遺構外から出土した(1-3)。1・3は先端部分、2は基部と考える。時期不明である。

### 2. 釘 (第247図)

遺構に伴うものとして、近世溝(4)、中世の土坑(7)がある。5・6は遺構に伴わない。4は頭部、5・7は先端部である。

### 3. 刀子 (第247図)

02B区SK200より、刀子基部(8)が出土した。古墳時代の可能性がある。

### 4. 包丁 (第247図)

9は身と基部の境界部分である。時期は不明である。

### 5. 鏡 (第247図)

中世以降の鏡(14)と考えられる。

### 6. 銭貨 (第247図)

南部地区中世集落遺構および包含層から出土している。政和通宝(16・17) 皇宗通宝(18・19) 元□通宝(20) □裕元宝(21) □元□□(22) □□通宝(23)である。鑄銘不明を含め11世紀から13世紀の宗銭であると考えられる。

### 7. 不明 (第247図)

鉄製品(10-12)と銅製品(13)がある。鉄製品は棒状(10)と板状(11・12)のものがある。銅製品は屈曲した板状のものである。(酒井俊彦)



## 第6節 その他の遺物

### 1. 玉類 (第254図)

玉類を一括する。ガラス小玉(2524 2526 2527)、管玉(2525)、勾玉(2528)が出土した。2524は古墳時代前期 SB213より出土した。2525は溶結凝灰岩製で古墳時代前期 SB245より出土した。2526 2527は00A区の南斜面包含層より出土した。古墳時代の時期と考える。2528は土製品で遺構に伴わないが、古墳時代と考える。(酒井俊彦)

### 2. 金属関連遺物 (第255図)

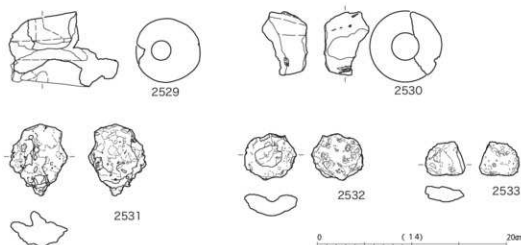
金属関連遺物には腕型鉄滓と羽口が存在する。

2529は古墳時代後期の01C区SB031から出土した羽口である。炉内に差し込まれる先端部はよく溶融していて表面が黒色から灰白色を呈しており、現状で滓はほとんど剥がれてしまっている。内径は約2.0cmを測り、製品表面の変色状況からみて、炉壁の厚さは3cmくらいと思われる。2530は戦国時代の溝SD053から出土した羽口で、先端部に近い部分が残存する。滓は付着せず灰色に変色した部分が認められる。胎土は2530と近似しており、所属時期は古くなる可能性も考えられる。羽口の具体的な使途については滓などが残存しないことから特定は難しい。

2531は04Ca区から出土した2分の1割重複腕型鉄滓である。上面は中央が大きく凹み全体に凹凸が激しく、表面に白色礫や流動滓が付着している。下面は土砂の固着が激しいが、比較的平滑で気泡は少ないと思われる。2532は04Ca区SK21から出土した完形の腕型鉄滓である。上面は中央が大きく凹み表面に砂粒が付着している。下面は平滑だが一定量の気泡が認められる。2533は00A区南側斜面遺物包含層から出土した4分の1割腕型鉄滓である。上面と下面ともに平滑で気泡は少ない。3点とも黒～黒灰色を呈しており質感が重いものである。これらの鉄滓は、形状と表面観察からみて鍛錬鍛冶に伴う滓と推定され、中世後期に属する資料と考えても矛盾はしないと思われる。(鈴木正貴)



第254図 玉類



第255図 金属関連遺物

## 第4章 自然科学的分析

### 第1節 山茶碗及び古瀬戸施釉陶器の胎土分析(X線回折試験及び化学分析試験)

#### 1. 実験条件

##### a. 試料

分析に供した試料は第2・3表胎土性状表に示す通りである。

X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。

化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

##### b. X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製 JDX-8020 X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°

計数時間: 0.5 秒。

##### c. 化学分析

元素分析は日本電子製 5300LV 型電子顕微鏡に 2001 型エネルギー分散型蛍光 X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15kV、分析: スプリント法、分析倍率: 200 倍、分析有効時間: 100 秒、分析指定元素 10 元素で行った。

#### 2. X線回折試験結果の取扱い

実験結果は第2・3表胎土性状表に示す通りである。

第1表右側に X線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に見える各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

##### a. 組成分類

###### 1) Mont-Mica-Hb 三角ダイヤグラム

第256図に示すように三角ダイヤグラムを1～13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont, Mica, Hb の3成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb) の X線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント (%) で表示する。

モンモリロナイトは  $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Mica}+\text{Hb}) \times 100$  でパーセントとして求め、同様に Mica, Hb も計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1～4は Mont, Mica, Hb の3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示す通りである。

###### 2) Mont-Ch Mica-Hb 菱形ダイヤグラム

第 257 図に示すように菱形ダイアグラムを 1～19 に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は 20 として別に検討した。

モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)、緑泥石 (Ch) の内、

a) 3 成分以上含まれない、b) Mont, Ch 2 成分が含まれない、

c) Mica, Hb の 2 成分が含まれない、の 3 例がある。

菱形ダイアグラムは Mont-Ch, Mica-Hb の組合せを表示するものである。

Mont-Ch, Mica-Hb のそれぞれの X 線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎に % で表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch\*100 と計算し、Mica, Hb, Ch も各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイアグラム内にある 1～7 は Mont, Mica, Hb, Ch の 4 成分を含み、各辺は

Mont, Mica, Hb, Ch のうち 3 成分、各頂点は 2 成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は第 2 図に示すとおりである。

### 3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法 (10 元素全体で 100% になる) で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいて SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 図、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub> 図、K<sub>2</sub>O-CaO 図の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

## 3.X 線回折試験結果

### a. タイプ分類

第 2・3 表胎土性状表には惣作鐘場遺跡、巡間 E 遺跡より出土した土器と峯窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡から出土した土器が記載してある。

第 6 表タイプ分類表に示すように土器は A タイプのみが検出された。

A タイプ: Mont, Mica, Hb, Ch の 4 成分にかける。

高温で焼成されているために鉱物は分解してガラスに変質している。

検出されたタイプは全て A タイプである。山茶碗・古瀬戸施釉陶器は高温で焼成されているために鉱物が分解してガラスに変質しているためである。

### b. 石英 (Qt)・斜長石 (Pl) の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第 258 図 Qt-Pl 図に示すように Qt の強度が小の領域から大の領域にかけて 3 グループと "その他" に分類された。

Qt:1-Qt が 1350～2800、Pl が 60～90 の領域に分布する。

Qt:2-Qt が 2850～4250、Pl が 50～75 の領域に分布する。

Qt:3-Qt が 4400～5400、Pl が 45～55 の領域に分布する。

"その他" 巡間 E-14 は Pl が 110 + と高く異質である。

#### 4. 化学分析結果

第4-5表化学分析表には惣作鐘場遺跡、巡問E遺跡より出土した土器と晚窟跡、笠松東窟跡、神事池窟跡から出土した土器が記載してある。

分析結果に基づいて第259図SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図、第260図Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>図、第261図K<sub>2</sub>O-CaO図を作成した。

a.Si-O<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の相関について

第259図SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図を基準として、惣作鐘場遺跡、巡問E遺跡より出土した土器と晚窟跡、笠松東窟跡、神事池窟跡から出土した土器を、I～IVの6タイプに分類した。

タイプI: SiO<sub>2</sub>が63～66%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が24～30%の領域に分布する。

タイプII: SiO<sub>2</sub>が66～69%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が23～26%の領域に分布する。

タイプIII: SiO<sub>2</sub>が69.5～72%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が20～24.5%の領域に分布する。

タイプIV: SiO<sub>2</sub>が71.4～74%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が18.5～22%の領域に分布する。

タイプV: SiO<sub>2</sub>が73.5～75.5%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が17.5～20.5%の領域に分布する。

タイプVI: SiO<sub>2</sub>が75.5～79%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が15～19%の領域に分布する。

b.4-2 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>の相関について

第260図Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>図に示すように、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の領域によって、惣作鐘場遺跡、巡問E遺跡より出土した土器と晚窟跡、笠松東窟跡、神事池窟跡から出土した土器はFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>:1～Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>:2の2タイプに分類した。

Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>:1-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が1.15～2.77%、TiO<sub>2</sub>が0.65～1.6%の領域に分布する。

Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>:2-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が3.0～3.9%、TiO<sub>2</sub>が1.13～1.7%の領域に分布する。

"その他"惣作鐘場-4はFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が5.49と高く異質である。

c.K<sub>2</sub>O-CaO図の相関について

第261図K<sub>2</sub>O-CaO図に示すようにK<sub>2</sub>OとCaOの値によって1～3の3グループと"その他"に分類した。

K<sub>2</sub>O:1-K<sub>2</sub>Oが2.0～2.7%、CaOが0.02～0.07%の領域に分布する。

K<sub>2</sub>O:2-K<sub>2</sub>Oが2.3～3.85%、CaOが0～3.2%の領域に分布する。

K<sub>2</sub>O:3-K<sub>2</sub>Oが2.74～3.85%、CaOが0.04～0.17%の領域に分布する。

'その他'惣作鐘場-4はCaOが0.19、巡問E-48はCaOが0.19、神事池-9はCaOが0.27とCaOの値が高く異質である。笠松東-3はK<sub>2</sub>Oが4.22と高く異質である。

#### 5. 組成分類

X線回折試験と蛍光X線分析結果に基づいて、惣作鐘場遺跡、巡問E遺跡より出土した土器と晚窟跡、笠松東窟跡、神事池窟跡から出土した土器を第6表タイプ分類表と第7表組成分類表に示すように分類した。

1) 第6表タイプ分類表に示すように、高温で焼成されているため鉱物は分解してガラスに変質し、すべてはAタイプになっている。

2) 第258図Qt-Pl図に示すように、Qt: 小の領域からQt: 大の領域に向かって3タイプに分類された。

3) 第259図SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図の相関の分析結果からタイプ。～7の6タイプに分類し、この6タイプと第258図Qt-Pl図に示すように、Qt: 小の領域からQt: 大の領域に向かって3タイプと第



260 図 Fe2O3-TiO2 図との関連を見たものが第7表組成分類表である。第7表に示すように、惣作鐘場遺跡、巡間E遺跡より出土した土器と晩窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡から出土した土器の組成分類では20タイプに分類された。

4) 第6表の基に各タイプについて詳述する。

1「タイプI:Qt-2・Fe2O3・2」惣作鐘場-24の山茶碗。

2「タイプI:Qt-2・Fe2O3・3」惣作鐘場-4の山茶碗。

3「タイプI:Qt-3・Fe2O3・3」惣作鐘場-16,19,21,23の山茶碗。

4「タイプII:Qt-1・Fe2O3・2」巡間E-22の山茶碗。

5「タイプII:Qt-2・Fe2O3・1」惣作鐘場-1,12,13の山茶碗、惣作鐘場-25の古瀬戸施軸陶器。

6「タイプII:Qt-2・Fe2O3・2」笠松東-3の山茶碗。

7「タイプII:Qt-3・Fe2O3・1」惣作鐘場-6の山茶碗。

8「タイプII:Qt-3・Fe2O3・2」笠松東-2の山茶碗。

9「タイプIII:Qt-1・Fe2O3・1」惣作鐘場-15,20の山茶碗。

10「タイプIII:Qt-2・Fe2O3・2」惣作鐘場-7の山茶碗。

11「タイプIII:Qt-2・Fe2O3・1」惣作鐘場-8,10,11,14,17,22、の山茶碗巡間E-35の古瀬戸施軸陶器、笠松東-6,9の山茶碗。

12「タイプIV:Qt-1・Fe2O3・1」惣作鐘場-33,36,39の古瀬戸施軸陶器、巡間E-8の山茶碗、巡間E-30,32,37,39,40,44,43,44,45の古瀬戸施軸陶器、笠松東-1と神事池-10の山茶碗。

13「タイプIV:Qt-2・Fe2O3・1」惣作鐘場-3,5の山茶碗、惣作鐘場-29,40の古瀬戸施軸陶器、巡間E-2,3,4の山茶碗、巡間E-34,36,42の古瀬戸施軸陶器、晩-9と神事池-8,9の山茶碗。

14「タイプIV:Qt-2・Fe2O3・2」巡間E-11の山茶碗。

15「タイプIV:Qt-3・Fe2O3・1」惣作鐘場-32と巡間E-29の古瀬戸施軸陶器。

16「タイプV:Qt-1・Fe2O3・1」惣作鐘場-2,9の山茶碗、惣作鐘場-31,34,38の古瀬戸施軸陶器、巡間E-5,6,7,9,12,13,15,16,17,18,19,20,21の山茶碗、巡間E-24,25,26,27,46,47,48の古瀬戸施軸陶器、晩-1,5,7、笠松東-5,8,10、神事池-1,2,4,5,7の山茶碗。

17「タイプV:Qt-2・Fe2O3・1」惣作鐘場-18の山茶碗、惣作鐘場-26,27,37の古瀬戸施軸陶器、巡間E-1の山茶碗、巡間E-31,33,38の古瀬戸施軸陶器、晩-2,3,4,6,10の山茶碗。

18「タイプV:Qt-4・Fe2O3・1」巡間E-14の山茶碗。

19「タイプVI:Qt-1・Fe2O3・1」惣作鐘場-28,35,39の古瀬戸施軸陶器、巡間E-23,28,41の古瀬戸施軸陶器、笠松東-4,7、神事池-3の山茶碗。

20「タイプVI:Qt-2・Fe2O3・1」巡間E-10、晩-8、神事池-6の山茶碗。

## 6. まとめ

第7表を分類された個体数の多いタイプで並べ替えると第8表組成分類表ようになる。

1) 16「タイプ V:Qt-1・Fe2O3・1」のタイプは最も多く検出されたタイプで、巡問E遺跡の山茶碗と惣作鐘場遺跡の山茶碗、巡問E遺跡の古瀬戸施軸陶器と惣作鐘場遺跡の古瀬戸施軸陶器が含まれており、巡問E遺跡の土器と惣作鐘場遺跡の土器との関連性が認められる。晚窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡の各窯跡の山茶碗も同じ組成を示す。13「タイプ、:Qt-2・Fe2O3・1」・17「タイプ、:Qt-2・Fe2O3・1」のタイプも山茶碗と古瀬戸施軸陶器の組み合わせで同じ傾向を示す。

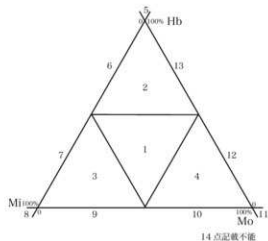
2) 12「タイプ IV:Qt-1・Fe2O3・1」は巡問E遺跡の古瀬戸施軸陶器と惣作鐘場遺跡の古瀬戸施軸陶器が同じ組成で、明らかに1)の山茶碗と古瀬戸施軸陶器の組み合わせとは異なる傾向を示す。

3) 11「タイプ III:Qt-2・Fe2O3・1」は惣作鐘場遺跡の山茶碗と笠松東窯跡の山茶碗が含まれ、両者の関連性が窺われる。

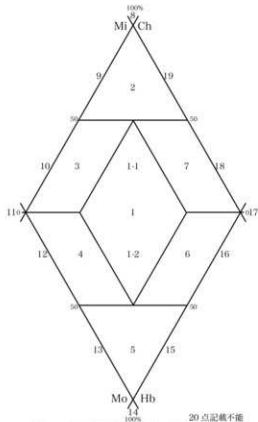
4) 3「タイプ I:Qt-3・Fe2O3・2」・5「タイプ I:Qt-2・Fe2O3・1」の2つは異なるタイプであるが惣作鐘場遺跡出土の山茶碗で、両者とも今回分析した窯跡の胎土とは異なる。他の窯跡か時期が異なるのかなど異なる要因があると判断される。

5) 分類したものの中で1個あるいは2個の個体数しかないものは組成がそれぞれ異なり、よくわからないものである。

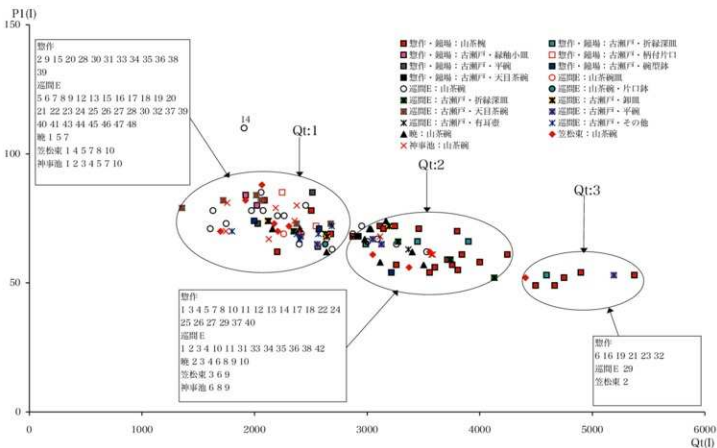
6) 晚窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡の各窯跡の山茶碗は各々がひとつのタイプを示すものではなく、分散する傾向が認められ、各窯跡の試料共に複数の時期あるいは複数の窯の試料が混在しているなど他の要因が含まれているように見受けられる。(第四紀地質研究所 井上 巖)



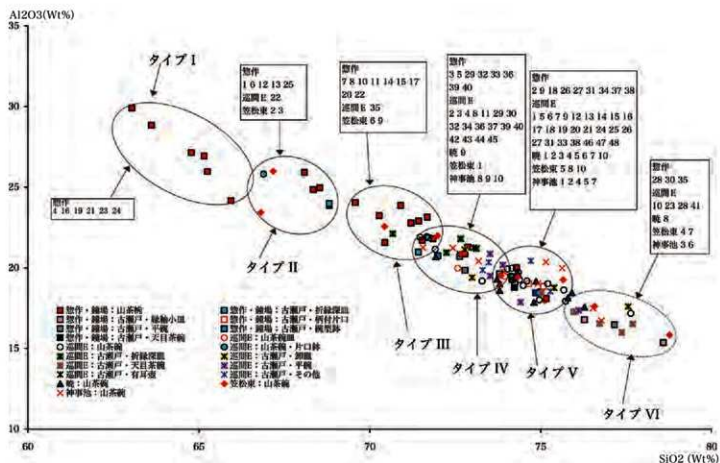
第256図 三角ダイヤグラム位置分類図



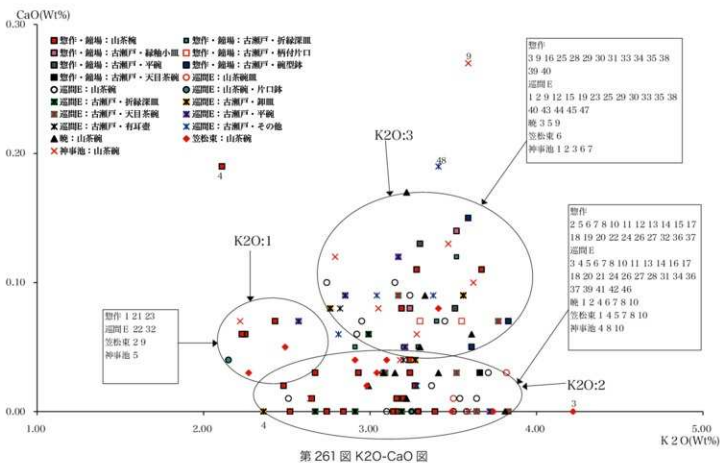
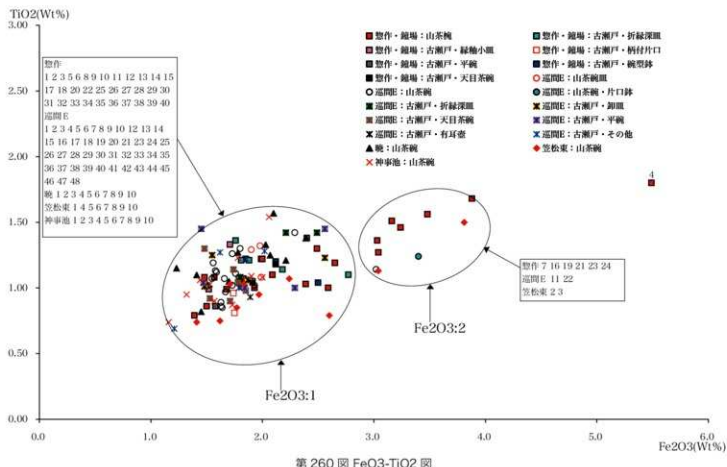
第257図 菱形ダイヤグラム位置分類図



第258図 Qt-Pt 図



第259図 SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 図



試料 No	タイプ 分類	組成分類				粘土鉱物および遊存矿物						種類	形状	形式		
		Mo-Mi-Hh	Mo-Ch-Mi-Hh	Qt	Pl	Crst	Mullite	K-feld								
製作-1	A	14	20	4001	58	101	139									
製作-2	A	14	20	2090	82	704	167									
製作-3	A	14	20	3460	71	264	134									
製作-4	A	14	20	4246	61	262	162									
製作-5	A	14	20	3115	72	434	158									
製作-6	A	14	20	4900	54	132	111	89								
製作-7	A	14	20	3250	57	225	131	86								
製作-8	A	14	20	3843	61	222	134									
製作-9	A	14	20	2506	78	158	145	95								
製作-10	A	14	20	3248	72	160	142									
製作-11	A	14	20	3601	56	77	133									
製作-12	A	14	20	3807	65	93	123	135								
製作-13	A	14	20	3757	57	90	127									
製作-14	A	14	20	3713	59	86	131									
製作-15	A	14	20	2679	69	124	138	89								
製作-16	A	14	20	5376	53	63	84									
製作-17	A	14	20	3146	71	321	133									
製作-18	A	14	20	2874	68	96	130									
製作-19	A	14	20	4750	52	66	58									
製作-20	A	14	20	2203	62	159	163	84								
製作-21	A	14	20	4667	49	121	123									
製作-22	A	14	20	3801	70	371	160	73								
製作-23	A	14	20	4497	49	70	109									
製作-24	A	14	20	3556	54	78	114	80								
製作-25	A	14	20	3216	64	103	134									
製作-26	A	14	20	2990	65	124	122									
製作-27	A	14	20	3741	59	89	129									
製作-28	A	14	20	1923	84	311	158									
製作-29	A	14	20	3900	66	72	122									
製作-30	A	14	20	2022	80	360	149	97								
製作-31	A	14	20	2548	72	150	154									
製作-32	A	14	20	4595	53	67	90									
製作-33	A	14	20	2030	73	392	158	98								
製作-34	A	14	20	2247	85	227	176	89								
製作-35	A	14	20	2515	85	191	141									
製作-36	A	14	20	2564	64	202	155									
製作-37	A	14	20	2924	68	140	179									
製作-38	A	14	20	2574	71	119	142									
製作-39	A	14	20	1998	74	306	153									
製作-40	A	14	20	3448	66	96	135	80								
範囲-1	A	14	20	2954	72	828	14									
範囲-2	A	14	20	3530	62	620	116									
範囲-3	A	14	20	3262	65	169	130									
範囲-4	A	14	20	3092	67	175	148	90								
範囲-5	A	14	20	2399	65	410	148									
範囲-6	A	14	20	1631	78	782	130	88								
範囲-7	A	14	20	2261	69	324	133	86								
範囲-8	A	14	20	2641	67	251	137									
範囲-9	A	14	20	2265	76	621	153									
範囲-10	A	14	20	3004	66	1091	134									
範囲-11	A	14	20	2873	69	768	118									
範囲-12	A	14	20	1608	71	844	164									
範囲-13	A	14	20	2690	63	674	139	87								
範囲-14	A	14	20	1908	110	910	152									
範囲-15	A	14	20	1750	73	401	163									
範囲-16	A	14	20	2059	85	571	147									
範囲-17	A	14	20	2417	69	374	124									
範囲-18	A	14	20	1974	78	357	167	86								
範囲-19	A	14	20	2077	78	565	162	84								
範囲-20	A	14	20	2455	80	602	161									
範囲-21	A	14	20	2205	76	824	144	101								
範囲-22	A	14	20	2629	65	419	216	75								
範囲-23	A	14	20	2374	73	356	163									
範囲-24	A	14	20	2955	62	597	169									
範囲-25	A	14	20	1358	79	620	186									
範囲-26	A	14	20	2677	73	382	150	92								
範囲-27	A	14	20	2016	84	432	162									
範囲-28	A	14	20	1721	82	574	176									
範囲-29	A	14	20	5193	53	65	84									
範囲-30	A	14	20	2409	68	734	151	72								
範囲-31	A	14	20	3129	65	126	132									
範囲-32	A	14	20	2558	65	364	148	83								
範囲-33	A	14	20	3051	67	159	159									
範囲-34	A	14	20	3276	66	194	135									
範囲-35	A	14	20	4129	52	73	126	87								
範囲-36	A	14	20	3740	59	73	134									
範囲-37	A	14	20	2348	70	309	144	87								
範囲-38	A	14	20	3196	72	310	145									
範囲-39	A	14	20	2633	69	261	165									
範囲-40	A	14	20	2645	68	170	137	88								

第2表 胎土性状表(1)

試料	タイプ	組成分類			粘土鉱物および遊存物質					検出	参照	型式
		No.	分類	Mo-Mi-1b	Mo-Cb,Mi-1b	Qt	Pl	Con	Mullite			
遠州E-41	A	14	20	2119	74	878	156			古瀬戸	深皿	様式1
遠州E-42	A	14	20	3368	63	249	149	76		古瀬戸	右耳壺	様式1
遠州E-43	A	14	20	2127	74	251	161	93		古瀬戸	右耳壺	様式1
遠州E-44	A	14	20	2400	67	416	157	83		古瀬戸	念珠	様式1
遠州E-45	A	14	20	2376	69	141	160			古瀬戸	駒籠	様式1
遠州E-46	A	14	20	2686	72	120	139			古瀬戸	人子	様式1
遠州E-47	A	14	20	1801	70	990	147			古瀬戸	折鉢小皿	様式1
遠州E-48	A	14	20	2567	69	288	150	93		古瀬戸	柄付月白	様式1
焼1	A	14	20	2640	62	220	141			山本綱	網	9型式
焼2	A	14	20	3169	74	548	134			山本綱	網	9型式
焼3	A	14	20	3021	71	600	123	82		山本綱	網	9型式
焼4	A	14	20	2979	67	371	130	78		山本綱	網	9型式
焼5	A	14	20	2403	71	517	140	92		山本綱	網	9型式
焼6	A	14	20	3401	62	337	127	90		山本綱	網	9型式
焼7	A	14	20	2160	71	851	156			山本綱	網	9型式
焼8	A	14	20	3117	58	200	135			山本綱	網	9型式
焼9	A	14	20	3502	57	302	126			山本綱	網	9型式
焼10	A	14	20	3032	71	228	123	86		山本綱	網	9型式
管形東-1	A	14	20	2306	72	212	142	93		山本綱	網	9型式
管形東-2	A	14	20	4408	52	84	116	79		山本綱	網	9型式
管形東-3	A	14	20	3374	56	77	109	93		山本綱	網	9型式
管形東-4	A	14	20	2065	88	392	147			山本綱	網	9型式
管形東-5	A	14	20	1921	82	544	158	91		山本綱	網	9型式
管形東-6	A	14	20	3557	62	92	130	92		山本綱	網	9型式
管形東-7	A	14	20	1697	70	990	166			山本綱	網	9型式
管形東-8	A	14	20	2176	73	690	138			山本綱	網	9型式
管形東-9	A	14	20	3050	61	711	151			山本綱	網	9型式
管形東-10	A	14	20	2207	70	617	161			山本綱	網	9型式
神事池-1	A	14	20	2189	79	935	170			山本綱	網	9型式
神事池-2	A	14	20	2400	70	512	145			山本綱	網	9型式
神事池-3	A	14	20	2356	74	495	132	93		山本綱	網	9型式
神事池-4	A	14	20	2377	80	955	136	80		山本綱	網	9型式
神事池-5	A	14	20	2127	67	1072	173			山本綱	網	9型式
神事池-6	A	14	20	3384	61	176	133			山本綱	網	9型式
神事池-7	A	14	20	1745	70	1406	163			山本綱	網	9型式
神事池-8	A	14	20	3572	61	113	126	86		山本綱	網	9型式
神事池-9	A	14	20	3116	68	546	127	81		山本綱	網	9型式
神事池-10	A	14	20	1758	81	1045	157	74		山本綱	網	9型式

Mo: モリスナイト Mi: 雲母 1b: 角閃石 Ch: 緑泥石 ChFe: 交代鉄 ChMg: 二交代鉄 Q: 石英 Pl: 斜長石 Con: クラソイト K-fels: Mullite-Al<sub>2</sub>SiO<sub>5</sub> K-fels: カリ長石 Halley: ハレーサイト Kad: カズナイト Py: 黒鉛

第3表 粘土性状表(2)

试样序号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total	备注	来源	日期
铸件-1	0.18	0.00	25.92	68.09	2.43	0.07	1.22	0.11	1.99	0.60	100.01	山天碱	碱	99年式
铸件-2	0.00	0.00	19.26	74.17	3.24	0.04	1.06	0.00	1.87	0.36	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-3	0.08	0.00	20.84	72.78	3.28	0.11	1.08	0.00	1.57	0.24	99.98	山天碱	碱	99年式
铸件-4	0.33	0.00	24.15	65.94	2.11	0.19	1.89	0.00	5.49	0.00	100.01	山天碱	碱	99年式
铸件-5	0.16	0.00	21.28	72.36	2.74	0.00	0.00	0.00	1.53	0.06	100.01	山天碱	碱	99年式
铸件-6	0.10	0.00	24.85	68.35	2.65	0.01	1.00	0.33	2.59	0.14	100.02	山天碱	碱	99年式
铸件-7	0.06	0.00	21.56	70.44	3.24	0.03	1.51	0.00	3.16	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-8	0.04	0.00	23.87	70.91	2.52	0.00	0.99	0.00	1.68	0.00	100.01	山天碱	碱	99年式
铸件-9	0.00	0.00	18.09	75.16	3.67	0.11	1.07	0.00	1.83	0.07	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-10	0.13	0.00	21.69	71.53	3.14	0.00	1.03	0.08	2.30	0.62	100.01	山天碱	碱	99年式
铸件-11	0.06	0.00	22.76	71.21	2.74	0.00	1.22	0.00	2.00	0.01	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-12	0.19	0.00	24.97	68.54	3.27	0.02	1.04	0.08	1.79	0.09	99.99	山天碱	碱	99年式
铸件-13	0.10	0.00	23.86	68.82	3.17	0.00	1.30	0.15	2.49	0.11	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-14	0.10	0.00	24.04	69.58	3.20	0.01	1.22	0.00	1.85	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-15	0.00	0.00	21.79	71.85	3.16	0.01	1.10	0.00	2.09	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-16	0.13	0.00	26.92	65.15	3.19	0.08	1.27	0.01	3.04	0.22	100.01	山天碱	碱	99年式
铸件-17	0.00	0.00	23.12	71.68	2.84	0.00	0.86	0.00	1.50	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-18	0.03	0.00	19.99	74.29	2.93	0.03	1.08	0.16	1.48	0.00	99.99	山天碱	碱	99年式
铸件-19	0.16	0.00	28.83	63.61	2.67	0.03	1.46	0.00	3.24	0.60	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-20	0.12	0.00	22.89	71.43	3.39	0.00	0.79	0.00	1.39	0.00	100.01	山天碱	碱	99年式
铸件-21	0.18	0.00	29.91	63.04	2.25	0.06	1.36	0.18	3.03	0.00	100.01	山天碱	碱	99年式
铸件-22	0.15	0.00	23.23	70.28	2.48	0.02	1.19	0.00	2.65	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-23	0.14	0.00	27.14	64.78	2.23	0.06	1.68	0.08	3.88	0.00	99.99	山天碱	碱	99年式
铸件-24	0.14	0.00	25.97	65.25	3.29	0.00	1.56	0.00	3.48	0.31	100.00	山天碱	碱	99年式
铸件-25	0.08	0.00	23.98	68.82	3.61	0.05	1.20	0.13	2.12	0.00	99.99	占那	碱	99年式
铸件-26	0.00	0.00	18.49	75.00	3.25	0.00	1.21	0.06	1.88	0.10	99.99	占那	碱	99年式
铸件-27	0.00	0.00	19.43	74.17	2.29	0.05	1.21	0.03	1.81	0.00	99.99	占那	碱	99年式
铸件-28	0.00	0.00	15.35	78.59	3.24	0.08	0.99	0.00	1.52	0.24	100.01	占那	碱	99年式
铸件-29	0.00	0.00	20.95	71.42	3.40	0.07	1.10	0.00	2.77	0.29	100.00	占那	碱	99年式
铸件-30	0.00	0.00	16.77	76.28	3.52	0.14	1.33	0.03	1.71	0.22	100.00	占那	碱	99年式
铸件-31	0.00	0.00	18.84	75.08	3.30	0.07	0.96	0.00	1.74	0.01	100.00	占那	碱	99年式
铸件-32	0.00	0.00	19.62	73.80	3.20	0.05	1.36	0.07	1.76	0.13	99.99	占那	碱	99年式
铸件-33	0.00	0.00	19.84	72.79	3.51	0.08	1.38	0.00	2.40	0.00	100.00	占那	碱	99年式
铸件-34	0.00	0.00	19.00	74.65	3.55	0.07	0.81	0.14	1.75	0.03	100.00	占那	碱	99年式
铸件-35	0.00	0.00	16.69	72.16	3.30	0.13	0.86	0.00	1.58	0.51	100.00	占那	碱	99年式
铸件-36	0.16	0.00	21.85	71.71	2.91	0.05	1.14	0.00	2.18	0.00	100.00	占那	碱	99年式
铸件-37	0.00	0.00	18.78	74.23	3.66	0.03	1.18	0.00	2.12	0.00	100.00	占那	碱	99年式
铸件-38	0.00	0.00	18.43	74.86	3.83	0.07	1.01	0.00	1.81	0.00	100.01	占那	碱	99年式
铸件-39	0.00	0.00	20.73	71.99	3.59	0.15	1.04	0.00	2.50	0.00	100.00	占那	碱	99年式
铸件-40	0.02	0.00	20.69	74.33	3.52	0.12	1.05	0.06	2.91	0.00	100.00	占那	碱	99年式
高纯-1	0.11	0.00	19.93	74.03	2.74	0.10	1.02	0.00	1.93	0.12	99.98	山天碱	碱	99年式
高纯-2	0.03	0.00	21.13	71.92	2.95	0.07	1.42	0.18	2.29	0.00	99.99	山天碱	碱	99年式
高纯-3	0.00	0.00	21.92	71.67	3.54	0.01	1.12	0.00	1.59	0.15	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-4	0.00	0.00	21.89	71.47	3.58	0.00	1.11	0.19	1.76	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-5	0.00	0.00	19.17	74.60	3.71	0.03	0.86	0.00	1.63	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-6	0.00	0.00	19.24	74.38	3.37	0.02	1.26	0.00	1.73	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-7	0.00	0.00	19.47	73.95	3.50	0.01	1.08	0.00	1.99	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-8	0.15	0.00	19.96	72.57	3.82	0.03	1.32	0.12	1.98	0.07	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-9	0.00	0.00	19.72	74.34	3.15	0.10	0.85	0.00	1.64	0.20	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-10	0.00	0.00	17.17	77.64	2.51	0.01	0.97	0.00	1.67	0.03	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-11	0.09	0.00	19.17	73.29	3.29	0.00	1.14	0.00	3.02	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-12	0.06	0.00	18.00	75.21	2.92	0.06	1.19	0.00	1.56	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-13	0.09	0.00	19.23	74.15	3.64	0.01	1.08	0.00	1.79	0.00	99.99	山天碱	碱	99年式
高纯-14	0.00	0.00	18.62	75.68	3.08	0.03	1.03	0.00	1.49	0.05	99.98	山天碱	碱	99年式
高纯-15	0.00	0.00	19.04	74.25	3.45	0.07	1.13	0.44	1.58	0.02	99.98	山天碱	碱	99年式
高纯-16	0.10	0.00	19.49	74.13	3.25	0.00	0.89	0.36	1.63	0.14	99.99	山天碱	碱	99年式
高纯-17	0.00	0.00	17.99	75.12	3.50	0.00	1.29	0.00	1.90	0.20	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-18	0.00	0.00	18.90	74.49	3.64	0.00	1.02	0.00	1.73	0.22	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-19	0.03	0.00	17.92	75.73	3.24	0.09	1.07	0.26	1.66	0.00	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-20	0.02	0.00	19.96	74.16	3.10	0.00	1.07	0.00	1.55	0.14	100.00	山天碱	碱	99年式
高纯-21	0.14	0.00	18.01	74.96	3.56	0.00	1.30	0.00	1.80	0.28	99.99	山天碱	碱	99年式
高纯-22	0.19	0.00	25.81	66.89	2.15	0.04	1.24	0.00	3.40	0.30	100.02	山天碱	碱	99年式
高纯-23	0.19	0.00	15.99	77.37	3.77	0.07	0.90	0.00	1.71	0.00	100.00	占那	碱	99年式
高纯-24	0.00	0.00	18.44	75.62	3.64	0.00	1.30	0.65	1.48	0.07	100.00	占那	碱	99年式
高纯-25	0.02	0.00	17.26	75.96	3.17	0.09	1.14	0.17	1.74	0.45	100.00	占那	碱	99年式
高纯-26	0.03	0.00	17.29	76.03	3.52	0.03	1.08	0.08	1.85	0.11	100.02	占那	碱	99年式
高纯-27	0.00	0.00	16.54	76.72	3.83	0.00	1.04	0.09	1.78	0.00	100.00	占那	碱	99年式
高纯-28	0.01	0.00	16.52	77.69	3.09	0.03	0.92	0.04	1.53	0.17	100.00	占那	碱	99年式
高纯-29	0.00	0.00	19.50	73.52	3.17	0.12	1.00	0.12	2.29	0.17	99.99	占那	碱	99年式
高纯-30	0.00	0.00	18.01	74.96	3.56	0.00	1.04	0.14	1.47	0.04	100.01	占那	碱	99年式
高纯-31	0.00	0.00	17.86	74.41	3.72	0.00	1.45	0.00	2.56	0.00	100.00	占那	碱	99年式
高纯-32	0.07	0.00	20.17	73.89	2.57	0.07	1.45	0.00	1.45	0.32	99.99	占那	碱	99年式
高纯-33	0.00	0.00	17.37	76.11	3.21	0.05	1.00	0.02	1.84	0.41	100.01	占那	碱	99年式
高纯-34	0.00	0.00	20.94	72.24	3.19	0.00	1.42	0.00	2.21	0.00	100.00	占那	碱	99年式
高纯-35	0.10	0.00	22.11	70.67	2.99	0.06	1.42	0.16	2.40	0.40	100.00	占那	碱	99年式
高纯-36	0.00	0.00	21.79	72.66	2.67	0.00	1.08	0.00	1.80	0.00	100.00	占那	碱	99年式
高纯-37	0.01	0.00	21.19	73.12	2.91	0.00	1.02	0.11	1.50	0.14	100.00	占那	碱	99年式
高纯-38	0.03	0.00	18.75	75.39	2.76	0.08	1.06	0.00	1.87	0.07	100.01	占那	碱	99年式
高纯-39	0.00	0.00	21.11	72.78	3.27	0.04	1.25	0.00	1.55	0.60	100.00	占那	碱	99年式
高纯-40	0.10	0.00	19.39	72.99	3.56	0.09	1.23	0.00	2.56	0.09	100.01	占那	碱	99年式
高纯-41	0.00	0.00	17.60	77.56	2.36	0.00	1.01	0.00	1.48	0.00	100.01	占那	碱	99年式

第4表 化学分析表(1)

试样序号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NO	Total	备注	日期
附件-1	0.18	0.00	25.92	68.09	2.43	0.07	1.22	0.11	1.99	0.00	100.01	山形鋼	9型式
返回E-42	0.00	0.00	20.84	72.63	3.20	0.04	1.04	0.34	1.91	0.00	100.00	古瀬 <sup>12</sup>	有耳卓 機1
返回E-43	0.00	0.00	21.23	73.04	2.82	0.08	0.93	0.00	1.89	0.00	99.99	古瀬 <sup>12</sup>	有耳卓 機1
返回E-44	0.00	0.00	20.34	73.48	3.04	0.09	1.27	0.00	1.62	0.17	100.01	古瀬 <sup>12</sup>	金組 機1
返回E-45	0.00	0.00	19.85	73.30	3.38	0.09	1.28	0.06	2.02	0.01	99.99	古瀬 <sup>12</sup>	梅組 機1
返回E-46	0.00	0.00	18.53	75.28	3.28	0.02	1.60	0.00	1.79	0.10	100.00	古瀬 <sup>12</sup>	人子 機1
返回E-47	0.05	0.00	20.43	74.71	2.81	0.06	0.69	0.03	1.21	0.00	99.99	古瀬 <sup>12</sup>	若緑小皿 機1
返回E-48	0.00	0.00	18.46	74.84	3.41	0.19	1.22	0.00	1.85	0.02	99.99	古瀬 <sup>12</sup>	納付口 機1
機-1	0.00	0.00	19.66	74.33	3.30	0.05	1.15	0.14	1.23	0.14	100.00	山形鋼	機 9型式
機-2	0.03	0.00	18.60	73.80	3.81	0.00	1.33	0.25	2.03	0.14	99.99	山形鋼	機 9型式
機-3	0.05	0.00	18.15	75.80	3.22	0.17	1.10	0.07	1.41	0.03	100.00	山形鋼	機 9型式
機-4	0.06	0.00	19.17	74.86	2.99	0.02	1.05	0.00	1.70	0.13	99.98	山形鋼	機 9型式
機-5	0.00	0.00	19.02	73.80	3.61	0.06	1.21	0.03	2.21	0.05	99.99	山形鋼	機 9型式
機-6	0.01	0.00	17.86	74.80	3.15	0.03	1.38	0.00	2.39	0.38	100.00	山形鋼	機 9型式
機-7	0.00	0.00	18.47	75.91	3.22	0.01	0.82	0.12	1.45	0.00	100.00	山形鋼	機 9型式
機-8	0.00	0.00	17.56	76.28	3.08	0.03	1.27	0.00	1.78	0.00	100.00	山形鋼	機 9型式
機-9	0.06	0.00	20.67	71.93	3.33	0.09	1.57	0.16	2.10	0.10	100.01	山形鋼	機 9型式
機-10	0.00	0.00	19.30	73.72	3.41	0.03	1.25	0.21	2.07	0.00	99.99	山形鋼	機 9型式
管形束-1	0.07	0.00	20.84	72.67	3.49	0.00	0.95	0.00	1.97	0.00	99.99	山形鋼	機 9型式
管形束-2	0.00	0.00	26.00	67.17	2.27	0.03	1.13	0.26	3.04	0.10	100.00	山形鋼	機 9型式
管形束-3	0.21	0.00	23.43	66.81	4.22	0.00	1.50	0.00	3.81	0.02	100.00	山形鋼	機 9型式
管形束-4	0.00	0.00	15.83	78.77	2.98	0.02	0.75	0.04	1.62	0.00	100.01	山形鋼	機 9型式
管形束-5	0.03	0.00	19.52	73.84	3.74	0.00	0.85	0.00	1.77	0.25	100.00	山形鋼	機 9型式
管形束-6	0.08	0.00	22.55	70.43	3.41	0.08	1.07	0.15	2.24	0.00	100.01	山形鋼	機 9型式
管形束-7	0.00	0.00	17.62	76.58	3.04	0.03	1.03	0.00	1.71	0.00	100.01	山形鋼	機 9型式
管形束-8	0.01	0.00	19.42	74.32	3.10	0.04	1.03	0.00	1.83	0.24	99.99	山形鋼	機 9型式
管形束-9	0.09	0.00	21.99	71.08	2.49	0.05	0.79	0.00	2.60	0.00	99.99	山形鋼	機 9型式
管形束-10	0.00	0.00	19.25	75.66	2.91	0.04	0.74	0.00	1.41	0.00	100.01	山形鋼	機 9型式
押形造-1	0.05	0.00	19.04	74.92	3.05	0.08	1.06	0.28	1.44	0.09	100.01	山形鋼	機 9型式
押形造-2	0.08	0.00	18.95	73.79	3.62	0.10	1.08	0.13	2.00	0.27	100.02	山形鋼	機 9型式
押形造-3	0.05	0.00	17.49	76.53	3.28	0.06	1.03	0.00	1.53	0.03	100.00	山形鋼	機 9型式
押形造-4	0.07	0.00	19.76	73.92	3.18	0.04	1.09	0.04	1.90	0.00	100.00	山形鋼	機 9型式
押形造-5	0.01	0.00	20.35	75.15	2.22	0.07	0.74	0.03	1.16	0.29	100.02	山形鋼	機 9型式
押形造-6	0.09	0.00	16.72	76.78	3.47	0.13	0.87	0.00	1.73	0.22	100.01	山形鋼	機 9型式
押形造-7	0.02	0.00	19.98	75.03	2.79	0.12	0.90	0.00	1.57	0.00	101.01	山形鋼	機 9型式
押形造-8	0.00	0.00	21.25	71.56	3.59	0.00	1.54	0.00	2.06	0.00	100.00	山形鋼	機 9型式
押形造-9	0.11	0.00	20.41	73.18	3.59	0.27	0.95	0.16	1.32	0.00	99.99	山形鋼	機 9型式
押形造-10	0.05	0.00	21.22	72.43	2.64	0.01	1.23	0.42	1.78	0.23	100.01	山形鋼	機 9型式

第5表 化学分析表(2)



試料 No.	タイプ 分類	組成分類			形状	形式
		Mo-Mb-Hb	Mo-Ch-Mi-Hb	難熔		
製作-1	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-2	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-3	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-4	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-5	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-6	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-7	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-8	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-9	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-10	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-11	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-12	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-13	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-14	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-15	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-16	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-17	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-18	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-19	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-20	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-21	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-22	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-23	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-24	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
製作-25	A	14	20	占開戸	鋼製扉	後1-2
製作-26	A	14	20	占開戸	折縁深窓	後1
製作-27	A	14	20	占開戸	折縁深窓	後1
製作-28	A	14	20	占開戸	縁飾小皿	後1
製作-29	A	14	20	占開戸	折縁深窓	後1
製作-30	A	14	20	占開戸	縁飾小皿	後1
製作-31	A	14	20	占開戸	柄付片口	後1
製作-32	A	14	20	占開戸	折縁深窓	後1
製作-33	A	14	20	占開戸	平鋼	後1
製作-34	A	14	20	占開戸	柄付片口	後1
製作-35	A	14	20	占開戸	平鋼	後1
製作-36	A	14	20	占開戸	折縁深窓	後1
製作-37	A	14	20	占開戸	大口茶碗	後1
製作-38	A	14	20	占開戸	鋼製扉	後1-2
製作-39	A	14	20	占開戸	鋼	後1
製作-40	A	14	20	占開戸	折縁深窓	後1
造開-1	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-2	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-3	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-4	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-5	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-6	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-7	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-8	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-9	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-10	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-11	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-12	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-13	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-14	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-15	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-16	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-17	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-18	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-19	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-20	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-21	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
造開-22	A	14	20	山系鋼	片口鉢	9型式
造開-23	A	14	20	占開戸	大口茶碗	後1
造開-24	A	14	20	占開戸	大口茶碗	後1
造開-25	A	14	20	占開戸	大口茶碗	後1
造開-26	A	14	20	占開戸	大口茶碗	後1
造開-27	A	14	20	占開戸	大口茶碗	後1
造開-28	A	14	20	占開戸	大口茶碗	後1
造開-29	A	14	20	占開戸	鋼	後1
造開-30	A	14	20	占開戸	平鋼	後1
造開-31	A	14	20	占開戸	平鋼	後1
造開-32	A	14	20	占開戸	平鋼	後1
造開-33	A	14	20	占開戸	平鋼	後1
造開-34	A	14	20	占開戸	折縁深窓	後1
造開-35	A	14	20	占開戸	折縁深窓	後1
造開-36	A	14	20	占開戸	折縁深窓	後1
造開-37	A	14	20	占開戸	折縁深窓	後1
造開-38	A	14	20	占開戸	鋼	後1
造開-39	A	14	20	占開戸	鋼	後1
造開-40	A	14	20	占開戸	鋼	後1

試料 No.	タイプ 分類	組成分類			形状	形式
		Mo-Mb-Hb	Mo-Ch-Mi-Hb	難熔		
造開-41	A	14	20	占開戸	鋼	後1
造開-42	A	14	20	占開戸	有耳窓	後1
造開-43	A	14	20	占開戸	有耳窓	後1
造開-44	A	14	20	占開戸	巻組	後1
造開-45	A	14	20	占開戸	巻組	後1
造開-46	A	14	20	占開戸	人子	後1
造開-47	A	14	20	占開戸	折縁小皿	後1
造開-48	A	14	20	占開戸	柄付片口	後1
焼-1	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
焼-2	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
焼-3	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
焼-4	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
焼-5	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
焼-6	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
焼-7	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
焼-8	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
焼-9	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
焼-10	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
笠松電-1	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
笠松電-2	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
笠松電-3	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
笠松電-4	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
笠松電-5	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
笠松電-6	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
笠松電-7	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
笠松電-8	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
笠松電-9	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
笠松電-10	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
神事池-1	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
神事池-2	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
神事池-3	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
神事池-4	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
神事池-5	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
神事池-6	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
神事池-7	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
神事池-8	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
神事池-9	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式
神事池-10	A	14	20	山系鋼	鋼	9型式

第6表 タイプ分類表

試料 No	器種	器形	形式	Fe	Qt	Si
製作-24	山茶碗	碗	9型式	2	2	1
タイプ I:Qt-2 Fe2O3-2						
製作-4	山茶碗	碗	9型式	3	2	1
タイプ I:Qt-3 Fe2O3-2						
製作-16	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
製作-19	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
製作-21	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
製作-23	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
タイプ II:Qt-1 Fe2O3-2						
巡回E-22	山茶碗	片口鉢	9型式	2	1	2
タイプ II:Qt-2 Fe2O3-1						
製作-1	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
製作-12	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
製作-13	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
製作-25	古瀬戸	碗型鉢	後1・2	1	2	2
タイプ II:Qt-2 Fe2O3-2						
笠松東-3	山茶碗	碗	9型式	2	2	2
タイプ II:Qt-3 Fe2O3-1						
製作-6	山茶碗	碗	9型式	1	3	2
タイプ II:Qt-3 Fe2O3-2						
笠松東-2	山茶碗	碗	9型式	2	3	2
タイプ II:Qt-1 Fe2O3-1						
製作-15	山茶碗	碗	9型式	1	1	3
製作-20	山茶碗	碗	9型式	1	1	3
タイプ III:Qt-2 Fe2O3-2						
製作-7	山茶碗	碗	9型式	2	2	3
タイプ III:Qt-1 Fe2O3-2						
製作-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
製作-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
製作-11	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
製作-14	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
製作-17	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
製作-22	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
巡回E-35	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	3
笠松東-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
笠松東-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
タイプ IV:Qt-1 Fe2O3-1						
製作-33	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
製作-36	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	1	4
製作-39	古瀬戸	盤	後1	1	1	4
巡回E-8	山茶碗	皿	9型式	1	1	4
巡回E-30	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
巡回E-32	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
巡回E-37	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	1	4
巡回E-39	古瀬戸	即皿	後1	1	1	4
巡回E-40	古瀬戸	即皿	後1	1	1	4
巡回E-43	古瀬戸	有耳壺	後1	1	1	4
巡回E-44	古瀬戸	壺	後1	1	1	4
巡回E-45	古瀬戸	梅壺	後1	1	1	4
笠松東-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	4
神事池-10	山茶碗	碗	9型式	1	1	4
タイプ IV:Qt-2 Fe2O3-1						
製作-3	山茶碗	皿	9型式	1	2	4
製作-5	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
製作-29	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
製作-40	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
巡回E-2	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
巡回E-3	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
巡回E-4	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
巡回E-34	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
巡回E-36	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
巡回E-42	古瀬戸	有耳壺	後1	1	2	4
製作-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
神事池-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
神事池-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
タイプ IV:Qt-2 Fe2O3-2						
巡回E-11	山茶碗	碗	9型式	2	2	4
タイプ IV:Qt-3 Fe2O3-1						

試料 No	器種	器形	形式	Fe	Qt	Si
製作-32	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	3	4
巡回E-29	古瀬戸	平碗	後1	1	3	4
タイプ V:Qt-1 Fe2O3-1						
製作-2	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
製作-9	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
製作-31	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
製作-34	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
製作-38	古瀬戸	碗型鉢	後1・2	1	1	5
巡回E-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-6	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-7	山茶碗	皿	9型式	1	1	5
巡回E-9	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-12	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-13	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-15	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-16	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-17	山茶碗	皿	9型式	1	1	5
巡回E-18	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-19	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-20	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-21	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡回E-24	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	5
巡回E-25	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	5
巡回E-26	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	5
巡回E-27	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	5
巡回E-46	古瀬戸	入子	後1	1	1	5
巡回E-47	古瀬戸	折縁小皿	後1	1	1	5
巡回E-48	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
製作-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
製作-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
製作-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-8	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-14	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-2	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-4	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
タイプ V:Qt-2 Fe2O3-1						
製作-18	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
製作-26	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	5
製作-27	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	5
製作-37	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	2	5
巡回E-1	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
巡回E-31	古瀬戸	平碗	後1	1	2	5
巡回E-33	古瀬戸	平碗	後1	1	2	5
巡回E-38	古瀬戸	即皿	後1	1	2	5
製作-2	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
製作-3	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
製作-4	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
製作-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
製作-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
タイプ V:Qt-4 Fe2O3-3						
巡回E-14	山茶碗	碗	9型式	1	4	5
タイプ VI:Qt-1 Fe2O3-1						
製作-28	古瀬戸	縁飾小皿	後1	1	1	6
製作-30	古瀬戸	縁飾小皿	後1	1	1	6
製作-35	古瀬戸	平碗	後1	1	1	6
巡回E-23	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	6
巡回E-28	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	6
巡回E-41	古瀬戸	加皿	後1	1	1	6
笠松東-4	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
笠松東-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
神事池-3	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
タイプ VI:Qt-1 Fe2O3-1						
巡回E-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	6
製作-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	6
神事池-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	6

第7表 組成分類表(1)

試料 No	器種	器形	形式	Fe	Qt	Si
タイプ V:Qt-1 Fe203-1						
製作-2	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
製作-9	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
製作-31	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
製作-34	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
製作-38	古瀬戸	碗型鉢	後1・2	1	1	5
遠聞E-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-6	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-9	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-12	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-13	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-15	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-16	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-17	山茶碗	皿	9型式	1	1	5
遠聞E-18	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-19	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-20	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-21	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
遠聞E-24	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	5
遠聞E-25	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	5
遠聞E-26	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	5
遠聞E-27	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	5
遠聞E-46	古瀬戸	人子	後1	1	1	5
遠聞E-47	古瀬戸	折縁小皿	後1	1	1	5
遠聞E-48	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
晩-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
晩-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
晩-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-8	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-10	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-2	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-4	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
タイプ V:Qt-2 Fe203-1						
製作-18	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
製作-26	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	5
製作-27	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	5
製作-37	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	2	5
遠聞E-1	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
遠聞E-31	古瀬戸	平碗	後1	1	2	5
遠聞E-33	古瀬戸	平碗	後1	1	2	5
遠聞E-38	古瀬戸	脚皿	後1	1	2	5
晩-2	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
晩-3	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
晩-4	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
晩-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
晩-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
タイプ IV:Qt-2 Fe203-1						
製作-3	山茶碗	皿	9型式	1	2	4
製作-5	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
製作-29	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
製作-40	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
遠聞E-2	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
遠聞E-3	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
遠聞E-4	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
遠聞E-34	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
遠聞E-36	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
遠聞E-42	古瀬戸	有耳壺	後1	1	2	4
晩-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
神事池-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
神事池-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
タイプ IV:Qt-1 Fe203-1						
製作-33	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
製作-36	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	1	4
製作-39	古瀬戸	盤	後1	1	1	4

試料 No	器種	器形	形式	Fe	Qt	Si
遠聞E-8	山茶碗	皿	9型式	1	1	4
遠聞E-30	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
遠聞E-32	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
遠聞E-37	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	1	4
遠聞E-39	古瀬戸	脚皿	後1	1	1	4
遠聞E-40	古瀬戸	脚皿	後1	1	1	4
遠聞E-43	古瀬戸	有耳壺	後1	1	1	4
遠聞E-44	古瀬戸	壺腹	後1	1	1	4
遠聞E-45	古瀬戸	梅瓶	後1	1	1	4
笠松東-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	4
神事池-10	山茶碗	碗	9型式	1	1	4
タイプ III:Qt-2 Fe203-1						
製作-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
製作-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
製作-11	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
製作-14	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
製作-17	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
製作-22	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
遠聞E-35	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	3
笠松東-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
笠松東-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
タイプ VI:Qt-1 Fe203-1						
製作-28	古瀬戸	緑釉小皿	後1	1	1	6
製作-30	古瀬戸	緑釉小皿	後1	1	1	6
製作-35	古瀬戸	平碗	後1	1	1	6
遠聞E-23	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	6
遠聞E-28	古瀬戸	大目茶碗	後1	1	1	6
遠聞E-41	古瀬戸	脚皿	後1	1	1	6
笠松東-4	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
笠松東-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
神事池-3	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
タイプ I:Qt-3 Fe203-2						
製作-16	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
製作-19	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
製作-21	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
製作-23	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
タイプ II:Qt-2 Fe203-1						
製作-1	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
製作-12	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
製作-13	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
製作-25	古瀬戸	碗型鉢	後1・2	1	2	2
タイプ III:Qt-1 Fe203-1						
製作-15	山茶碗	碗	9型式	1	1	3
製作-20	山茶碗	碗	9型式	1	1	3
タイプ III:Qt-2 Fe203-1						
遠聞E-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	6
晩-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	6
神事池-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	6
タイプ IV:Qt-3 Fe203-1						
製作-32	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	3	4
遠聞E-29	古瀬戸	平碗	後1	1	3	4
タイプ I:Qt-2 Fe203-2						
製作-24	山茶碗	碗	9型式	2	2	1
タイプ I:Qt-2 Fe203-3						
製作-4	山茶碗	碗	9型式	3	2	1
タイプ II:Qt-1 Fe203-2						
遠聞E-22	山茶碗	片口鉢	9型式	2	1	2
タイプ II:Qt-2 Fe203-2						
笠松東-3	山茶碗	碗	9型式	2	2	2
タイプ II:Qt-3 Fe203-1						
製作-6	山茶碗	碗	9型式	1	3	2
タイプ II:Qt-3 Fe203-2						
笠松東-2	山茶碗	碗	9型式	2	3	2
タイプ III:Qt-2 Fe203-2						
製作-7	山茶碗	碗	9型式	2	2	3
タイプ IV:Qt-2 Fe203-2						
遠聞E-11	山茶碗	碗	9型式	2	2	4
タイプ V:Qt-4 Fe203-1						
遠聞E-14	山茶碗	碗	9型式	1	4	5

第8表 組成分類表(2)

## 第2節 炭化物の放射性炭素年代測定

### 1.02A区・03B区測定資料

#### a. はじめに

総作跡遺跡より検出された炭化物の加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を実施した。

#### b. 試料と方法

試料は02A区SB208のカマドから採取した炭化物1点、同SB210のカマドから採取した炭化物1点、同SB217床面から出土した炭化物1点、03B区SB035から採取した炭化物2点、同SB039から採取した炭化物1点、同SB041カマドから採取した炭化物1点、同SB045カマドから採取した炭化物1点を併せて8点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨(グラファイト)に調整した後、加速器質量分析法(AMS)にて測定した。測定された14C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した14C濃度を用いて14C年代を算出した。

#### c. 結果

第9表に、各試料の同位体分別効果の補正值(基準値-25.0%)、同位体分別効果による測定誤差を補正した14C年代、14C年代を暦年代に較正した年代を示す。

14C年代値(yrBP)の算出は、14Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した14C年代誤差( $\pm 1\sigma$ )は、計数値の標準偏差 $\sigma$ に基づいて算出し、標準偏差(One sigma)に相当する年代である。これは、試料の14C年代が、その14C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

#### 暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された14C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、および半減期の違い(14Cの半減期 $5,730 \pm 40$ 年)を較正し、より正確な年代を求めるために、14C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と14C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて14C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて14C年代を暦年代に較正した年代を算出する。

14C年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3(CALIB 3.0のバージョンアップ版)を使用した。なお、暦年代較正值は14C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、1 $\sigma$ 暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された14C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその1 $\sigma$ 暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。1 $\sigma$ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

#### d. 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した1 $\sigma$ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

(本小節は(株)パレオ・ラボ山形秀樹氏の報告を酒井俊彦がまとめたものである。)

## 引用文献

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎 - 日本先史時代の 14C 年代、p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended 14C Database and Revised CALIB3.0 14C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver, M., Reimer, P.J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, F.G., v.d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{POB}}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に校正した年代	
				暦年代校正値	1 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-1644 (AMS)	炭化物 IISCK02A SB208カマド	-24.3	1415 $\pm$ 30	cal AD 645	cal AD 620 - 660 (100%)
PLD-1645 (AMS)	炭化物 IISCK02A SB210カマド	-27.0	1300 $\pm$ 30	cal AD 690	cal AD 675 - 720 (65.6%) cal AD 745 - 765 (34.3%)
PLD-1673 (AMS)	炭化物 IISCK02A SB217	-24.6	1810 $\pm$ 30	cal AD 235	cal AD 135 - 160 (27.6%) cal AD 170 - 200 (30.4%) cal AD 210 - 240 (42.0%)
PLD-2878 (AMS)	炭化物 IISCK03B SB035 サンプル 1	-27.3	1,545 $\pm$ 35	cal AD 535	cal AD 435 - 455 (15.2%) cal AD 460 - 520 (59.3%) cal AD 525 - 545 (18.3%)
PLD-2879 (AMS)	炭化物 IISCK03B SB035 サンプル 2	-26.3	1,605 $\pm$ 35	cal AD 430	cal AD 420 - 440 (28.8%) cal AD 450 - 470 (21.0%) cal AD 480 - 530 (50.2%)
PLD-2880 (AMS)	炭化物 IISCK03B SB039	-28.9	1,535 $\pm$ 35	cal AD 540	cal AD 465 - 500 (28.2%) cal AD 530 - 565 (37.9%) cal AD 570 - 580 (10.1%)
PLD-2881 (AMS)	炭化物 IISCK03B SB041カマド	-29.1	1,630 $\pm$ 30	cal AD 420	cal AD 385 - 440 (77.5%) cal AD 450 - 465 (10.2%)
PLD-2882 (AMS)	炭化物 IISCK03B SB045カマド	-26.5	1,540 $\pm$ 35	cal AD 540	cal AD 440 - 450 (11.7%) cal AD 460 - 520 (51.3%) cal AD 530 - 560 (35.4%)

第 9 表 放射性炭素年代測定および暦年代校正の結果

## 2.02A 区・02B 区・02D 区測定資料

### a. はじめに

惣作銅場遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

### b. 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表 1 のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた 14C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C 年代、暦年代を算出した。

### c. 結果

第 11 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比  $\delta$  (13C)、同位体分別効果の補正を行った 14C 年代、14C 年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、第 262 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

14C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。14C 年代(yrBP)の算出には、14C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した 14C 年代誤差  $\pm 1\sigma$  は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の 14C 年代がその 14C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

#### 暦年較正

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された 14C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い (14C の半減期 5730  $\pm$  40 年) を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。14C 年代の暦年較正には OxCal3.10 (較正曲線データ: INTCAL04) を使用した。なお、1  $\sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された 14C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2  $\sigma$  暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

### d. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。なお PLD-6218 については年代値が古く、較正曲線範囲外であったため 14C 年代を暦年代に較正した年代範囲は得られなかった。

(パレオ・ラボ 小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・瀬谷薫)

#### 参考文献

- Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, Radiocarbon, 37, 425-430.
- Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43, 355-363.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の 14C 年代, 3-20,
- Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE

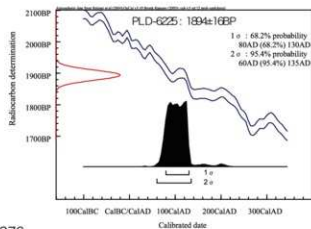
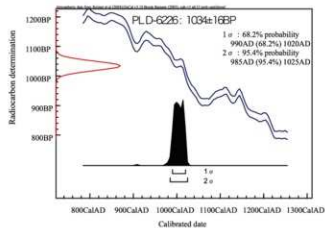
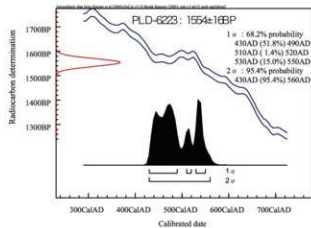
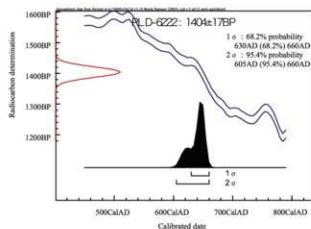
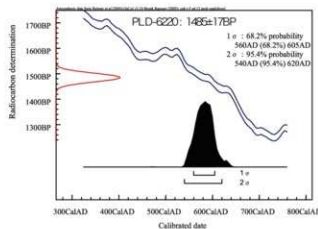
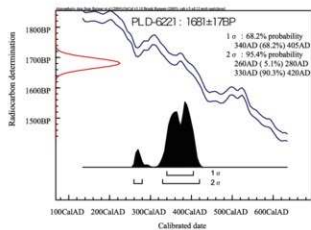
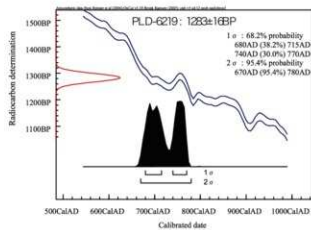
Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP, Radiocarbon, 46, 1029-1058.

測定番号	産物データ	試料データ	炭化期	測定
PLD-6218	位置: XJ7F 産物: SX11北側 (E1河堤) その他: 1SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PatcoLabo; NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6219	位置: XJ10f 産物: SX02内 No.202埋設 その他: 1SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PatcoLabo; NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6220	位置: XJ12b 産物: SX02内 北東側 その他: 1SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PatcoLabo; NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6221	位置: XJ14a 産物: SB10 その他: 1SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PatcoLabo; NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6222	位置: XJ15a 産物: SD01 その他: 1SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PatcoLabo; NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6223	位置: XJ15a 産物: SD01 その他: 1SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PatcoLabo; NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6225	位置: H13i 産物: SD08 その他: 1SSK02B	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: wet カビ: 無	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PatcoLabo; NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6226	位置: VIE3a 産物: SK05 その他: 1SSK02D	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: wet カビ: 無	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PatcoLabo; NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH

第 10 表 測定試料及び処理

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に校正した年代範囲		暦年校正年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )
			1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲	
PLD-6218	-24.55 $\pm 0.16$	54360 $\pm 970$	校正曲線範囲外		54361 $\pm 965$
PLD-6219	-25.76 $\pm 0.15$	1285 $\pm 15$	680AD(38.2%)715AD 740AD(30.0%)770AD	670AD(95.4%)780AD	1283 $\pm 16$
PLD-6220	-26.32 $\pm 0.16$	1485 $\pm 15$	560AD(68.2%)605AD	540AD(95.4%)620AD	1485 $\pm 17$
PLD-6221	-25.54 $\pm 0.14$	1680 $\pm 15$	340AD(68.2%)405AD	260AD(5.1%)280AD 230AD(90.3%)420AD	1681 $\pm 17$
PLD-6222	-28.46 $\pm 0.14$	1405 $\pm 15$	630AD(68.2%)660AD	605AD(95.4%)660AD	1404 $\pm 17$
PLD-6223	-26.37 $\pm 0.16$	1555 $\pm 15$	430AD(51.8%)490AD 510AD(1.4%)520AD	430AD(95.4%)560AD	1554 $\pm 16$
PLD-6225	-24.85 $\pm 0.14$	1895 $\pm 15$	80AD(68.2%)130AD	60AD(95.4%)135AD	1894 $\pm 16$
PLD-6226	-26.47 $\pm 0.14$	1035 $\pm 15$	990AD(68.2%)1020AD	985AD(95.4%)1025AD	1034 $\pm 16$

第 11 表 放射性炭素年代測定および暦年代校正の結果





### 第3節 植物珪酸体分析

#### 1.00A 区

##### a. はじめに

今回の分析目的は、赤津川左岸の段丘上(標高約170m)に位置する惣作・鐘場遺跡における古墳時代～平安時代頃の周辺植生に関する情報を得ることにある。調査は、本時期の土坑内堆積物(覆土)と、遺物包含層を対象として、植物珪酸体分析を実施する。

##### b. 試料

分析試料は、古墳時代～平安時代に構築された4基の土坑(SK63・SK189・SK203・SK219)覆土と、各遺構周囲の古墳時代～平安時代の遺物包含層から採取された10点である。各試料の詳細は、結果と共に第12表に示す。なお、各土坑の機能・用途としては、遺構の形態や出土遺物などから、墓として利用されたものの可能性が考えられている。

##### c. 分析方法

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理(70W, 250KHz, 1分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後に、プレパラートで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)、および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。

同定・計数結果、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(植物珪酸体密度)を求める。結果は、検出された植物珪酸体の種類とその密度を一覧表として示す。また、各遺構における植物珪酸体密度の層位変化をみるため図示する。

##### d. 結果

結果を第表、第図に示す。植物珪酸体含量値は約5,000～90,000個/gと試料間で差が大きい。保存状態はいずれの試料も悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。以下に、各土坑およびその周囲の包含層における産状を述べる。

##### SK63

覆土の植物珪酸体密度は下層が33,406個/g、上層が94,418個/gであり、上層で増加する。各種類では、覆土下層・上層ともに、ネザサ節を含むタケ亜科の密度が高い。栽培植物のイネ属、ヨシ属、ススキ属などが低密度で出現する。また、上層では稲秆殻に形成されるイネ属穎珪酸体も認められる。SK63 東側肩部の包含層では、植物珪酸体密度が140個/gと極めて少ない。

##### SK189

覆土の植物珪酸体密度は、下層が32,558個/g、上層が70,732個/gであり、上層で増加する。各種類では、ネザサ節を含むタケ亜科の密度が高く、ヨシ属・ススキ属などが低密度で出現する。覆土下層からは低密度であるが栽培植物のイネ属が出現する。一方、SK189 南側の包含層では、植物珪酸体密度は32,965個/gであり、SK189 覆土下層とはほぼ同様の値を示す。組成も類似する。

##### SK203

覆土の植物珪酸体密度は13,911個/gである。各種類ではネザサ節を含むタケ亜科の密度

が高く、栽培植物のイネ属、ヨシ属やススキ属などが低密度で出現する。SK02北側の包含層では、植物珪酸体密度は5,101個/gであり、覆土試料と比較して少ない。各種類ではネザサ節を含むタケ亜科の密度が高い。

#### SK219

覆土の植物珪酸体密度は、下層で40,436個/g、上層で54,561個/gであり、上層でやや高くなる。各種類では上層・下層とも、ネザサ節を含むタケ亜科の密度が高く、ヨシ属、ススキ属などが低密度で出現する。

#### e. 考察

##### (1) 植物珪酸体含量密度

古墳時代～平安時代に構築された土坑覆土の植物珪酸体含量密度は、SK63・SK189・SK203では覆土下層に比べ覆土上層で高く、SK219でも顕著ではないが、高くなる傾向を示した。これは土坑覆土の特徴の一つといえる。このような覆土下部と上部の産状の違いは、覆土上層と下層の堆積環境の違いや形成時期における周辺植生の違いを反映している可能性が考えられる。すなわち、覆土下層と上層が同様な堆積環境であったとすれば、何らかの理由により覆土上層ほど植物体が多く取り込まれていることになる。逆に堆積環境が異なっていたとすれば、下層に比較して上層の方が長期間に亘って植物珪酸体が蓄積していくような状況にあったことになる。この点については、発掘調査時の覆土の堆積・土壌構造の観察結果に基づいて検討する必要がある。

一方、土坑覆土と包含層における植物珪酸体含量密度を見ると、SK63では包含層の方が低く、SK189とSK203では、ほぼ等しいか包含層の方がやや少ないという結果が得られた。覆土下層の由来は特定できないが、包含層に由来するものとすれば、今回の結果は調和的といえる。また、この結果からみても、覆土上層は、今回の覆土下層や包含層とは異なる成因のものであることが窺われる。

##### (2) 古植生

古墳時代～平安時代の土坑覆土および、その周囲の包含層の植物珪酸体組成は、いずれもネザサ節を含むタケ亜科の含量密度が高かった。土坑覆土が人為的な埋土ではなく、機能期から放置期に形成されたものとすれば、覆土形成期を通じて、遺構周辺の緩斜面にはネザサ節を含むタケ亜科植物が分布していたことが推定される。このほか、ヨシ属・ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科なども植生構成要素として分布していたことが推定される。

また、各土坑からは栽培種のイネ属が検出されている。SK63では覆土上層で稲稈に形成される珪酸体も確認されている。これらのイネ属珪酸体の含量密度は低く、調査区の立地環境を考慮すると、調査地点周辺に分布していたと考えられるよりも、何らかの目的で持ち込まれたものが堆積物中に混入したと考えられる。また、覆土上層や包含層については、調査区の広い範囲で近年の耕作による攪乱の影響が及んでいる可能性もあることから、上層からの落ち込みの影響も含めて評価する必要がある。

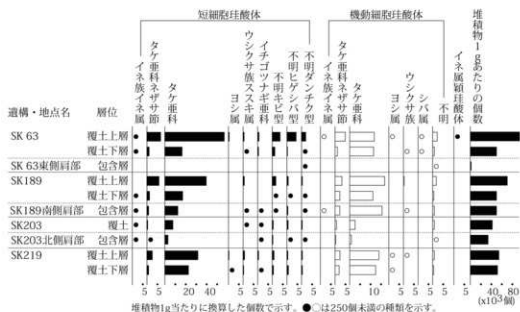
ところで、本地域の古墳時代～平安時代頃の古植生については、本遺跡北側に位置する上品野蟹川遺跡において花粉分析に基づく検討結果がある(新山1999)。その結果に基づくと、本地域では、鎌倉時代頃までカシ類などを主体とする暖温帯性の植生が成立していたことが推定されている。今回の土坑覆土や包含層からは、樹木起源の植物珪酸体が確認されなかったことから、少なくとも遺構近辺に林分が成立しておらず、林域は離れた場所に存在した可能性が考えられる。当時の植生については、今後の調査事例の蓄積をもって検証していくことが大切と考える。

引用文献

近藤 三・佐瀬 隆 (1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p.31-64.  
 新山雅広 (1999) 上品野蟹川遺跡の花粉群集. 「上品野蟹川遺跡2 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告書第21集」 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

種 類	上段：遺構・地点名、下段：層位									
	SK63		SK63東側副部	SK189		SK189南側副部	SK203	SK203北側副部	SK219	
	覆土上層	覆土下層	包含層	覆土上層	覆土下層	包含層	覆土	包含層	覆土上層	覆土下層
イネ科葉部短細胞珪酸体										
イネ族イネ属	238	127	0	0	61	62	119	108	0	0
タケ亜科ネザサ節	6,540	1,018	0	5,732	1,219	810	317	72	2,538	788
タケ亜科	56,841	16,480	0	39,635	17,010	12,401	7,689	2,982	31,595	22,581
ヨシ属	357	0	0	0	0	0	0	0	254	66
ウシクサ族ススキ属	476	127	0	610	0	187	198	0	698	328
イチゴフナ子実科	595	382	0	0	0	125	198	36	444	131
不明キビ型	3,686	1,209	0	1,707	122	125	436	251	825	525
不明ヒゲシハ型	4,400	255	0	610	61	436	555	108	444	722
不明ダンチク型	2,022	64	70	366	61	62	317	180	381	394
イネ科葉身機動細胞珪酸体										
イネ族イネ属	119	0	0	0	0	62	0	0	0	0
タケ亜科ネザサ節	4,875	1,145	0	3,293	2,317	2,306	713	323	2,347	1,969
タケ亜科	11,773	11,453	0	16,708	11,157	15,517	2,616	826	14,021	12,407
ヨシ属	119	0	0	0	0	0	0	0	127	66
ウシクサ族	0	191	0	366	0	125	0	0	127	0
シハ属	238	191	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	2,140	764	70	1,707	549	748	753	216	761	460
合 計										
イネ科葉部短細胞珪酸体	75,154	19,662	70	48,659	18,535	14,208	9,829	3,736	37,178	25,535
イネ科葉身機動細胞珪酸体	19,264	13,744	70	22,073	14,023	18,757	4,082	1,365	17,383	14,901
総 計	94,418	33,406	140	70,732	32,558	32,965	13,911	5,101	54,561	40,436
組 織 方										
イネ属短細胞	238	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第 12 表 各地点の植物珪酸体含量



第 263 図 各地点の植物珪酸体含量

## 2.01A 区

### a. はじめに

今回の調査は SX001 の埋土について珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析を行い、当時の古環境に関する情報を得ることを目的にする。

### b. 試料

試料は、惣作鐘場遺跡 (II SSK01A) の SX001 から採取された試料 20 点である。試料番号 6～9 は褐色の中粒砂からなるが、それ以外は有機物の分解が進んだ黒褐色の砂質シルトからなる。

### c. 分析方法

#### (1) 珪藻分析

試料を湿重で 7g 前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸 600 倍あるいは 1000 倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に 100 個体以上同定・計数する (化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、原口ほか (1998)、Krammer (1992)、Krammer and Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991a, 1991) などを参照する。

同定結果は、海水生種、海水～汽水生種、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並び、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度 (pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。堆積環境の解析は、海水～汽水生種については小杉 (1988)、淡水生種については安藤 (1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内 (1991)、汚濁耐性については、Asai and Watanabe (1995) の環境指標種を参考とする。

#### (2) 花粉分析

試料約 10 g について、水酸化カリウムによる泥化、節別、重液 (臭化亜鉛: 比重 2.3) による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス (無水酢酸 9:濃硫酸 1 の混合液) 処理の順に物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類 (Taxa) について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表として示す。複数の種類をハイフオンで結んだものは、両者の区別がつかないものである。

#### (3) 植物珪酸体分析

湿重 5 g 前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理 (70W, 250KHz, 1 分間)、沈定法、重液分離法 (ポリタングステン酸ナトリウム, 比重 2.5) の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後に、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部 (葉身と葉鞘) の葉部短細胞に由来した植物珪酸体 (以下、短細胞珪酸体と呼ぶ) および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ) を、近藤・佐瀬 (1986) の分類に基づいて同定・計数する。結果は、検出された植物珪酸体の種類とその個数の一覧表で示す。また、内容物や古植生について検討するために、植物珪酸体群集図を作成する。

#### d. 結果

##### (1) 珪藻分析

結果を第13・14表、第264図に示す。珪藻化石は、試料番号20で100個体以上産出するものの、他の試料からはほとんど産出しない。産出分類群数は20属83種類である。試料番号20では淡水生種が多産する。全体的には、貧塩不定性種(少量の塩分があってもこれによく耐えることができる種)、好+真アルカリ性種、流水不定性種(止水域にも流水域にも生育する種)が多産する。中でも、陸生珪藻B群(伊藤・堀内, 1991)・好汚濁性種(Asai and Watanabe, 1995)の*Navicula confervacea*が約30%産出する。その他は、好流水性種・中〜下流性河川指標種(安藤, 1990)・好清水性種(Asai and Watanabe, 1995)の*Achnanthes lanceolata*、流水不定性種の*Gomphonema parvulum*、真止水性種・好清水性種の*Tabellaria flocculosa*などが10%前後産出する。なお、陸生珪藻とは、多少の湿り気のある乾いた環境に生育する珪藻であり、中でも、乾燥に耐性のある種がA群とされる。陸生珪藻A群に随伴し、湿った環境にも水中にも生育する種がB群とされる。好汚濁性種は有機的に汚濁した環境で生育する種であり、好清水性種は有機的に清浄な環境に生育する種である。中〜下流性河川指標種とは、主に中〜下流部、すなわち、河川沿いに河成段丘・扇状地・自然堤防・後背湿地といった地形が見られる環境で生育する種とされる。

##### (2) 花粉分析

結果を第15表に示す。花粉化石は試料番号20を除くと検出数が少なく、保存状態も悪い。試料番号1〜19においては、全体的に針葉樹花粉、イネ科花粉、シダ類孢子がわずかに検出される。これは、針葉樹花粉やシダ類孢子は広葉樹花粉に比べて風化に強く(徳永・山内, 1971など)、一方、イネ科花粉は形態が特徴的なため風化を受けても種類の特定がしやすいためである。試料番号20は、これらに比べると保存状態は良い。木本花粉は、ほとんどがマツ属(複維管束亜属)からなり、スギ属、ヤマモモ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属などが産出する。種類構成は単調である。草本花粉も種類構成が単調である。その中にはイネ科が多産し、カヤツリグ科・キク亜科のほか、栽培種のソバ属が産出する。

##### (3) 植物珪酸体分析

結果を第16表、第264図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、全般に保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められるものが多い。各試料の産状はほぼ同様であり、クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つ。特に、試料番号1〜8ではネザサ節の短細胞珪酸体、あるいは機動細胞珪酸体の産出が目立つ。また、ヨシ属やススキ属なども認められる。

#### e. 考察

##### (1) 微化石の産状について

今回分析を行った試料は全般に化石の保存状態が悪く、特に花粉化石と珪藻化石は試料番号20以外からはほとんど産出しなかった。このような化石の産状の原因については、SX01遺構埋土の堆積・土壌構造の観察結果を踏まえた評価が必要である。ただし、花粉化石の保存状態を見る限り、風化作用の影響を受けていることが窺える。花粉化石は、空気に触れる酸化条件下では風化作用の影響により分解消失することが知られている。一方、珪藻化石も保存状態が悪かった。土壌中の珪酸分は、溶脱や沈殿、再結晶化などによって徐々に風化すると考えられている(千木良, 1995)。これらことから、SX01埋土中の珪藻や花粉化石は、風化作用により消失している可能性が高いと判断される。

以上のことから、遺構埋土の形成期には、乾湿を繰り返すような水文環境が形成され、離水時に地表面が大気に曝される期間が一定期間続くような土壌環境であったと考えられる。また、産出した珪藻化石の種類構成をみると、同一試料から水域に生息する種類と陸域に生息する種類が産出するなど、異なる生態性をもつ種群が混在しており、かつ多産種が確認されないといった傾向が確認される。このような群集組成は、河川の氾濫などによって短期間に堆積した一過性の堆積物や水田耕作土などで特徴的に観察される混合群集の特徴に類似する(堀内ほか,1996)。このことから、遺構埋土が氾濫性の堆積物に由来する可能性が考えられるが、この点については遺構埋土の堆積・土壌構造を踏まえて評価する必要がある。一方、試料番号20は他の試料と比べると化石の保存状態が良く、堆積状況が異なる可能性が考えられる。珪藻化石群集は、上述の混合群集の様相を示しており、氾濫性の堆積物に由来する可能性が考えられる。

## (2) 植生について

花粉化石が比較的多産した試料番号20は、二次林の代表的な樹種であるマツ属復雑管束亜属が多産し、種類構成も単調であったことから、当時の遺跡周辺の植生は、人為的ないし自然擾乱が及んだ植生であったことが推定される。栽培植物のソバ属が産出しており、本種類が虫媒性で花粉生産量が少ない種類であることから、遺構周辺ではソバ属が分布しており、畑作が行われていた可能性がある。

一方、植物珪酸体組成をみると、クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つことから、これらの種類が付近に分布していたことが推定される。また、ヨシ属やスキキ属なども分布していたことが窺える。

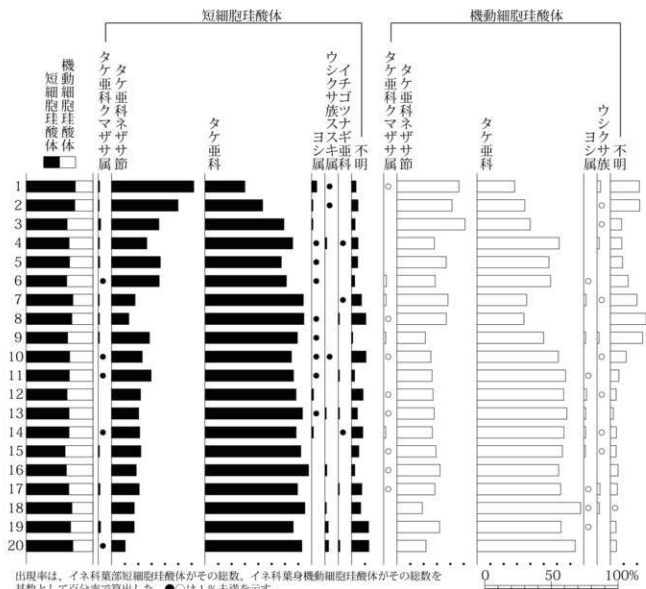
## 引用文献

- 安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, p.73-88.
- Asai, K. and Watanabe, T.(1995)Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa, Diatom, 10, p.35-47.
- 千木良 雅弘,1995,風化と崩壊. 近未来社,204p.
- 原口和夫・三友 清・小林 弘(1998)埼玉の藻類 珪藻類.「埼玉県植物誌」, p.527-600., 埼玉県教育委員会.
- 堀内誠示・高橋 敦・橋本真紀夫(1996)珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について -混合群集の認定と堆積環境の解釈-. 日本文化財科学会, 第13回大会発表要旨集, p.62-63.
- 伊藤良永・堀内誠示(1991)陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p.23-45.
- 近藤謙三・佐瀬 隆(1986)植物珪酸体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p.31-64.
- Krammer, K.(1992)PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa, BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA, BAND 26, p.1-353., BERLIN・STUTTGART.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1986)Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae, Band 2/1 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1988)Bacillariophyceae, Teil 2,

Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae, Band 2/2 von: Die Süsswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1991a)Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae, Band 2/3 von: Die Süsswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1991b)Bacillariophyceae, Teil 4, Achnantheaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae)und Gomphonema, Band 2/4 von: Die Süsswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.



第 264 図 植物珪酸体群集





種 類	試料番号																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
木本花粉																				
ツグ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	1	3	1
ツグ属(樹皮)亜属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ツグ属(樹皮)中亜属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
ツグ属(樹皮)不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	3	2	109
コウヤクキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	3
ヤブキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
ヤブキ亜属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
コナラ属コナラ亜属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
ニレ属-クヤキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
エビノキ属-ムクノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ササキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
スイカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
草本花粉																				
イネ科	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	5	-	2	2	-	1	4	4	1	23
カヤクサ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
ソバ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
ナデシコ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
キク亜科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
タンポポ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
不明花粉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4
シダ類孢子																				
ミズゴケカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
イノモトソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
他のシダ類孢子	-	-	-	1	2	-	-	4	-	3	1	1	2	3	10	17	19	39	50	152
合 計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	2	3	1	4	2	8	10	232
木本花粉	0	0	0	2	0	0	0	2	1	5	0	2	3	1	1	4	4	2	3	1
草本花粉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
シダ類孢子	0	0	0	1	2	0	4	0	3	1	1	2	3	10	19	19	39	50	153	
総計(不明花粉(-))	0	0	0	3	2	0	1	4	2	4	7	4	4	8	12	24	25	51	62	418

第 15 表 花粉分析結果

種 類	試料番号																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
イネ科葉部細胞壁残体																				
タケ亜科クマザク属	3	2	4	2	3	1	2	2	2	1	1	-	-	1	2	-	3	-	4	1
タケ亜科ネザク亜属	189	145	81	96	79	45	30	61	51	68	48	47	50	49	39	49	45	40	26	26
タケ亜科	92	126	135	152	150	135	189	173	149	144	152	151	169	162	161	164	164	198	157	186
ヨシ属	12	3	2	1	1	1	-	1	1	1	3	1	3	-	-	-	-	-	-	-
ウレクサ属ススキ属	1	1	-	3	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	3	-	3	6
イネゴマナ科亜科	-	-	-	1	-	-	1	2	-	-	2	-	2	1	-	-	2	-	-	3
不明キビ型	-	3	3	3	6	2	6	7	1	6	1	7	3	7	5	3	6	10	14	17
不明ヒザン(明)	5	5	2	3	4	1	9	7	-	11	3	6	2	7	3	2	4	5	11	10
不明ダンクナ型	5	6	1	5	2	2	4	11	1	7	1	6	5	6	4	-	8	3	5	6
不明																				
イネ科葉部細胞壁付残体																				
タケ亜科クマザク属	1	-	-	-	-	3	2	1	2	1	-	1	1	2	1	1	1	-	-	-
タケ亜科ネザク亜属	51	45	73	36	52	41	42	40	28	30	33	38	36	35	47	45	38	23	38	24
タケ亜科	31	39	57	79	76	79	41	38	66	72	83	91	87	86	103	85	84	94	75	81
ヨシ属	-	-	-	-	-	1	2	-	2	-	1	3	2	2	-	-	1	1	1	-
ウレクサ属	3	1	1	2	-	-	1	-	2	1	-	-	1	1	-	-	3	2	-	-
不明	24	24	12	11	13	19	22	29	32	14	8	6	3	6	7	8	7	1	5	5
合 計	307	291	228	231	262	221	256	233	215	222	229	221	231	237	224	211	236	204	227	256
イネ科葉部細胞壁付残体	110	109	143	128	141	143	110	108	132	118	125	140	129	132	161	139	134	121	119	110
イネ科葉部細胞壁付残体	417	400	371	359	403	364	366	341	347	340	354	361	360	369	385	350	370	385	356	366

第 16 表 植物珪酸体分析結果

## 第4節 惣作・鐘場遺跡における古環境変遷

### 1. はじめに

瀬戸市惣作町・鐘場町の惣作・鐘場遺跡調査地点にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、放射性炭素年代測定から新たな知見が得られたので報告する。

### 2. 試料および分析方法

惣作鐘場遺跡の地下層序解析のため、各調査区において遺構検出面からバックホーにより掘削し、層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。層序断面からは放射性炭素年代測定用試料を採取した。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析(AMS)法により測定を行なった。加速器質量分析法は125 $\mu$ mの篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石黒(グラフィイト)に調整後、加速器質量分析計にて測定した。測定された14C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した14C濃度を用いて14C年代を算出した。14C年代値の算出には、14Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。14C年代の暦年代への較正にはCALIB4.3を使用した。測定は株式会社パレオ・ラボ(Code No.; PLD)に依頼した。

### 3. 分析結果

#### 惣作鐘場遺跡の深掘層序

惣作鐘場遺跡の調査区全体では4地点(00A区・01D区・04B区・04D区)の深掘層序断面を得たが、各地点の地下層序全体は砂や礫の粗い粒子から構成されているため、年代測定に有効な試料を採取することができなかった。それらのうち堆積年代の得られた01D区(第265図)の地下層序について下位層より述べる。

調査区北端の地点1では深度約1.5mの層序断面を得た(第266・267図)。下位層より、標高177.39-177.44mまでは灰色の中礫サイズの礫の混じる粘土質シルト層である。堆積構造はみられなかった。標高177.44-177.63mは灰褐色を呈するシルト質細粒砂層である。シルト成分に比べて砂成分が優勢である。標高177.63-177.77mは灰褐色の粘土層であり、塊状であり、堆積構造はみられない。標高177.77-177.89mは黒褐色粘土層で、塊状・均質である。標高177.89-178.08mは褐色を呈する粘土ないしシルトの混じる細粒砂層である。堆積構造はみられない。標高178.08-178.36mは黒褐色の細粒砂混じりの粘土層である。本層も塊状・均質であり、堆積構造は確認できなかった。標高178.36-178.59mは黄色の細粒砂層である。堆積構造はみられない。標高178.59-178.72mは褐色のシルト質極細粒砂層である。標高178.72-178.81mは黒褐色シルト層、標高178.81-179.07mは褐色を呈する粗粒砂・極粗粒砂の混じるシルト層である。なお、標高177.89-178.08mの褐色粘土・シルト混じり細粒砂層と、その上位を覆う標高178.08-178.36mの黒褐色細粒砂混じり粘土層からは縄文時代中期の遺物が出土している(宇佐見ほか, 2002)。

### 4. 放射性炭素年代測定

01Da区の層序断面において3試料の放射性炭素年代値を得た(第17表)。最下位層で

ある標高 177.39-177.44m の中礫混じり粘土質シルト層の標高 177.44m から採取した炭化物は 8325, 8305, 8300, 8260, 8250, 8240, 8215 cal yrs(BC 6375, 6355, 6350, 6310, 6300, 6290, 6265)(PLD-1502)と、全試料中でもっとも古い年代値を示した。また、標高 177.77-177.89m の黒褐色粘土層の標高 177.84m より採取した炭化物が 3830, 3785, 3780 cal yrs BP(BC 1880, 1835, 1830)(PLD-1504)。縄文時代中期の遺物が出土している標高 178.08-178.36m の黒褐色細粒砂混じり粘土層において、標高 178.28m から採取した炭化物が 3960, 3950, 3930 cal yrs BP(BC 2010, 2000, 1980)(PLD-1503)と約 3900-3700 年前代の数値年代であった。

## 5. 堆積層序から推定される惣作鐘場遺跡調査地点の古環境

01Da 区の層序断面の最下位には粘土質シルト層 (標高 177.39-177.44m) がみられたが、その後に実施したバックホーによる深掘により、この粘土質シルト層のさらに下位には層厚約 1m の大礫・巨礫層が確認された。礫層とその直上を覆う粘土質シルト層との境界は、柱状図作成地点を最深部とするような下に凸の形態をしていた。このことより柱状図の作成地点では礫層からなる流路があり、その後の流路の変遷によって残り残された流路跡に細粒堆積物が埋積していったものと推定できる。また、この流路跡を埋積する堆積物は柱状図を見ても明らかのように、層厚約 20cm の細粒砂層と層厚 10-20cm 程度の砂混じりの粘土層とが交互に繰り返して堆積していることが確認できる (図 3)。この事実は、礫を運搬していた流路が放棄され放棄河道となった凹地に、洪水時に短時間で細粒砂層が堆積し、それ以外のときには砂粒子の混じる粘土層が堆積していたものと推定される。埋積の始まった時期は放射性炭素年代測定により最下位層の中礫の混じる粘土質シルト層で約 8300-8200 年前代、黒褐色を呈する粘土層で約 3900-3700 年前代を示し、その頃に埋積されたものであることがわかった。

さて、惣作鐘場遺跡の調査範囲の西側には赤津川が北から南へ流下している。赤津川は名古屋市北部を流れる矢田川の最上流部にあり、惣作鐘場遺跡の調査地点北方の瀬戸市鳳山町において東から西への流れを北東から南西方向へと変化させる。鳳山町付近よりも東側には中生代白亜紀 - 新生代古第三紀の領家帯の花こう岩類が広範囲に露出して (仲井, 1970; 領家研究グループ, 1972; Nakai, 1976; 仲井, 1982)、標高 200m 以上の山地を形成している。ところで、瀬戸市地域には花こう岩類などの基盤岩類に囲まれた盆地状構造を示す地形が多く認められており、調査地点は赤津盆地と呼称されている (水野ほか, 1986)。本盆地は瀬戸市鳳山町・中畑町から惣作町・鐘場町を通り、塩草町に至る北東 - 南西方向に延びた盆地状構造を呈している。今回の惣作鐘場遺跡の調査地点はこの盆地北東部の基盤岩類との縁辺部にあたっており、堆積盆地縁辺の堆積層序と堆積物から得られた放射性炭素年代測定により約 8000 年前代から約 3900-3700 年前代の堆積年代値が得られた。また、約 3900-3700 年前代を示す堆積物から縄文時代中期頃の遺物が出土した事実はたいへん意義のあるものである。

鬼頭 剛 (愛知県埋蔵文化財センター)・森 勇一 (愛知県立津島高等学校)

## 謝辞

本論を作成するにあたり、名古屋大学大学院環境学研究所の海津正倫氏には惣作・鐘場遺跡の地下層序について現地にてご助言・ご討論いただいた。愛知県埋蔵文化財センター調査研究員の酒井俊彦氏には惣作鐘場遺跡に関する考古学的情報を教えてくださいました。試料の整理・保管と図面作成では整理補助員の服部久美子・村上志穂子氏にお手伝いいただいた。記して厚

くお礼申し上げます。

文献

水野 取・伊藤竹次・深見洋治郎・片 征治・石川輝海, 1986。大地, 瀬戸市史資料編2 自然, 瀬戸市, 1-100.

仲井 豊, 1970, 愛知県三河地方の花崗岩類, 地球科学, 24, 139-145.

Nakai Y., 1976, Petrographical and petrochemical studies of the Ryoke granites in the Mikawa-Tono district, central Japan, Bull. Aichi Univ. Educ., (Nat. Sci.), 25, 97-112.

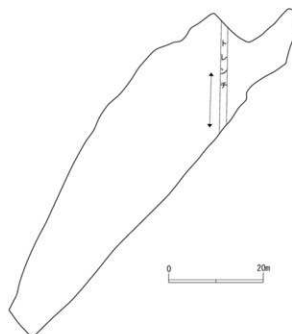
仲井 豊, 1982, 中部地方嶺家帯の武節花崗岩, 日本地質学会第 89 年学術大会講演要旨, 404.

嶺家研究グループ, 1972, 中部地方嶺家帯の花崗岩類の相互関係, 地球科学, 26, 1-21.

宇佐見 守・藤岡幹根・織部匡久, 2002, 惣作鐘場遺跡, 平成 13 年度愛知県埋蔵文化財センター「年報」, 愛知県埋蔵文化財センター, 32-39.

標高 (m)	地植物	試料の種類	<sup>14</sup> C年代 (yrs BP)	δ <sup>13</sup> C PDB (‰)	暦年代校正前 (1σ, cal AD/BC)	暦年代校正前 (1σ, cal yrs BP)	1σ暦年代範囲 (cal AD/BC, probability)	1σ暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
177.44	中瀬辺じり 粘土質シルト層	炭化物	7460±50	-	BC 6376, 6355,	8325, 8305, 8300,	BC 6123/6250(45.0%)	8270-8300(45.0%)	PLD-1502(AMS)
					6350, 6310, 6300, 6290, 6205	8260, 8250, 8240, 8215	BC 6385-6330(45.0%)	8335-8280(45.0%)	
177.84	黒褐色粘土層	炭化物	3530±50	-26.4	BC 1880, 1835, 1830	3830, 3785, 3780	BC 1845-1770(57.4%)	3795-3720(57.4%)	PLD-1504(AMS)
178.28	黒褐色細粒砂じり 粘土層	炭化物	3630±50	-26.6	BC 2010, 2000, 1980	3960, 3850, 3830	BC 2040-1920(91.3%)	3960-3870(91.3%)	PLD-1503(AMS)

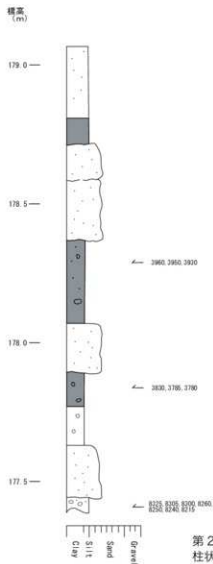
第 17 表 惣作・鐘場遺跡 O1Da 区における放射性炭素年代測定結果



第 265 図 惣作・鐘場遺跡 O1Da 区における柱状図作成地点  
矢印の範囲は図 2 の写真撮影範囲を示す。



第 266 図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区の層序断面写真  
 撮影地点は図 1 を参照(北東方向から撮影)。  
 中央の黒褐色を呈する粘土層より縄文時代中期の遺物が出土する。



第 267 図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区における柱状図  
 柱状図右側の数値は暦年代較正值 (cal yrs BP) を示す。

## 第5章 まとめ

今回の調査は期間5年、21調査区、調査面積約3万㎡におよぶ。出土遺物は旧石器時代から江戸時代にわたる。各時代の現在の問題点をあげる。

### 1. 旧石器時代～縄文時代初頭

有舌尖頭器が南部地区6点、北部地区2点出土した。00A区で2点集中して出土したが、全体として分散した出土状況である。遺構および石器剥片などが集中して出土する地点は確認できない。遺物の出土状況と洪積段丘上の分布のあり方などが今後の課題である。

### 2. 縄文時代

南部地区00A区2棟と01A区5棟の中期の竪穴住居が検出された。また、同時期の袋状ピット2基が00A区で検出された。01A区に隣接する02D区では後期以降の土器埋設遺構が2基検出され、遺存状況が悪いが、竪穴住居に伴う可能性がある。南部地区全体に削平が著しいため確定できないが、遺物の量としては少ないことから中期、後期とも短期間の小規模な集落と考えられる。また、02D区の調査では少量であるが、早期末から前期初頭の土器を検出している。北部地区では、01D区で赤津川沿いの自然河道斜面の包含層中より中期後半の土器がまとまって出土した。調査区内からは同時期の遺構は検出されておらず、丘陵斜面からの流れ込みと考えられる。近接した地区に集落が展開していた可能性が大きい。また、包含層中より前期の土器が少量出土した。また、02A区より縄文後期土器が出土しているが、遺構は検出されない。調査区全体としてこの時代の遺物が少量認められ、一時期の集落は存在するが、継続的な居住はなかったものと推定される。

### 3. 弥生時代

北部地区の02B区に集中し、後期の竪穴住居2棟、溝1条が検出された。遺物は04Ab区で若干検出されるが、遺構としては確認できない。住居は舌状の河岸段丘の尖端にあり、尖端の直下の谷部で溝が集落の周囲をめぐる。集落の一部しか検出されていないため確定できないが、溝は環濠としての機能をもっていたものと考えられる。溝は後期の時期に属し、最下層からこの時代の土器が検出されている。惣作川の谷筋にあり、谷に沿って流れ下った土石流によって一時埋没したあと、再掘削されており、最終的に古墳時代前半に放棄された。機能停止後の埋没過程で、土器類が投棄され、溝の上層より一括して出土している。南部地区では、03B区で竪穴住居が検出されている。調査区北西側の瀬戸市埋文センターで確認された集落の一部であるが、調査区内の端で検出されており、それ以外の遺構は確認されない。また、04B区および04Ca区の東側の下位段丘面の黒ボク面で少量の弥生土器が検出される。中世以降は水田として利用されており、弥生時代に生産域が展開していた可能性が高い。それ以外では、自然河道などで土器が少量出土している。南部地区は遺構、遺物は少ないが、集落および水田域が確認され、未調査部分に集落および生産域、墓域などが広がる可能性がある。

### 4. 古墳時代

竪穴住居が調査区全域で検出される。時間的に前半と後半で集落の展開が異なる。古墳時代前半では、遺構は北部地区のみに集中する。弥生時代集落の位置する段丘面を中心に継続し

て営まれる。後半の5世紀半ば以後は南部地区にも展開すると同時に、北部地区でも遺跡の北部に竪穴住居が広がり、01D区で竪穴住居と掘立柱建物が確認される。01D区から02A区、04A区では7世紀代の竪穴住居が集中するが、遺構のきりあいが少なく、同一時期の集落としては数棟の小規模なものである。南部地区は03Bから04C区に6世紀代の竪穴住居が集中する。遺構のきりあいは少なく、一時期の集落としては小規模であるが、周囲の未調査の部分の広がりから全体像は確定できない。04D区では5世紀代の竪穴住居が3棟検出され、ほぼ同一時期と考えられる。また、01C区から00A区の上位段丘面上に7世紀代の竪穴住居が2～4棟の群で検出される。小時期ごとに地点を変えて集落が展開した結果と考える。遺物は包含層から須恵器を中心に5世紀から7世紀代の遺物が検出される。上位段丘面全体にこの時期の集落が広がるものとする。

## 5. 古代

主な遺構としては、竪穴住居が南部地区00A、03B、04Cb区に各1棟、北部地区02B区に1棟、04A区に4棟検出された。前時代に比較して遺構は少なく、南部地区では単独で検出される。未調査部分を考慮しても、前時代より小規模な集落であり、この現象が今後の検討課題となる。

## 6. 中世

04C・04D区で中世の溝によって囲まれた集落を確認した。13世紀代の遺構は少数ながら認められ、遺構は14世紀後半から増大し、15世紀中葉に溝で囲まれる集落が形成される。15世紀後半に盛期を迎え、16世紀前葉に遺構が激減して廃絶する。掘立柱建物の柱穴は溝に囲まれる範囲に集中する。溝の変遷は4時期が認められるが、遺物からは確定しえない。十数年程度の間隔で溝の掘り直しによって溝の構成が変化する。細かい構成の変化による集落の防御機能の変遷をたどることが今後の課題である。01A区では数棟から構成される掘立柱建物群が検出された。やや古い時期で14世紀代である。03A区では中世溝と単独の中世の掘立柱建物が検出される。また、00Aから02Cの上位段丘から下位段丘にかけての斜面に、15世紀代の包含層が検出されたが、遺構そのものは遺存状況が悪く、あまり検出されない。同じ状況は01A区の南東側の赤津川河谷斜面、02D区南側の門前川河谷斜面、02A区北側の赤津川河谷斜面にも認められる。14世紀から15世紀にかけて、段丘面上と緑辺の斜面の土地改変が行われたことが推測される。また、北部地区の02B区の下位段丘面上に15世紀代の集落が認められる。上位段丘の縁に沿う溝をもない、南部地区の溝で囲まれた集落との関連が考えられるが、大部分が調査区外であり、今後の検討課題である。

## 7. 近世

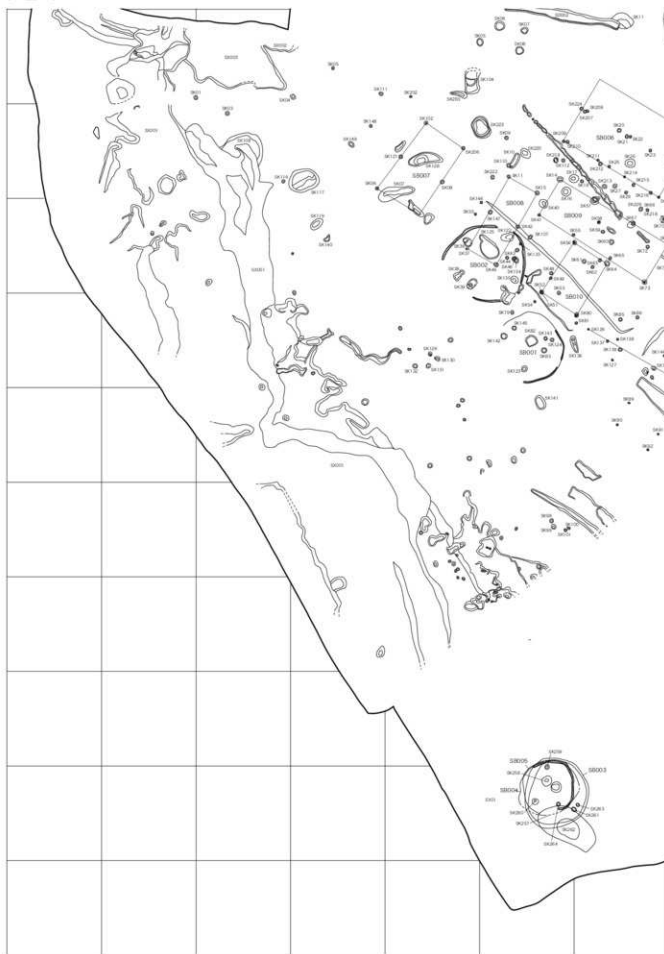
04Cb区および04D区で江戸時代前半の掘立柱建物などが検出された。遺構の密度は低いが、施軸陶器、土師器鍋、木製品などが検出され、集落が形成されていたことが予想される。04Db区から04Cb区の南西端に遺構が多く検出され、瀬戸市埋文センターの調査結果とも合わせて調査区の北西側の上位段丘面に遺構が展開するものと考えられる。また、04B区の水田溝より19世紀中葉の幕末の施軸陶器類がまとまって出土し、集落が存在したことが予想される。(酒井俊彦)





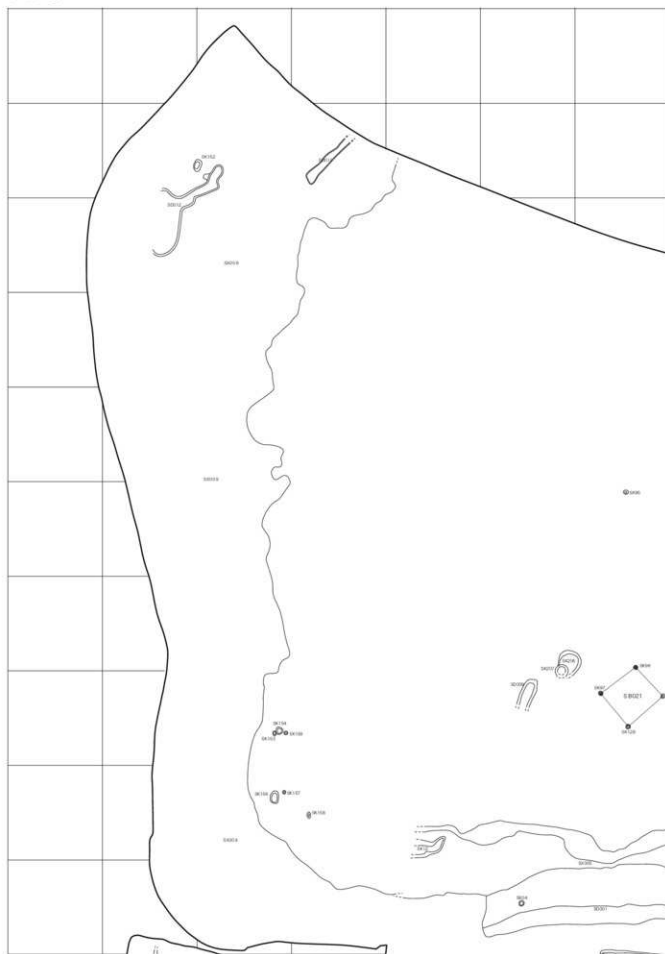


PL 1





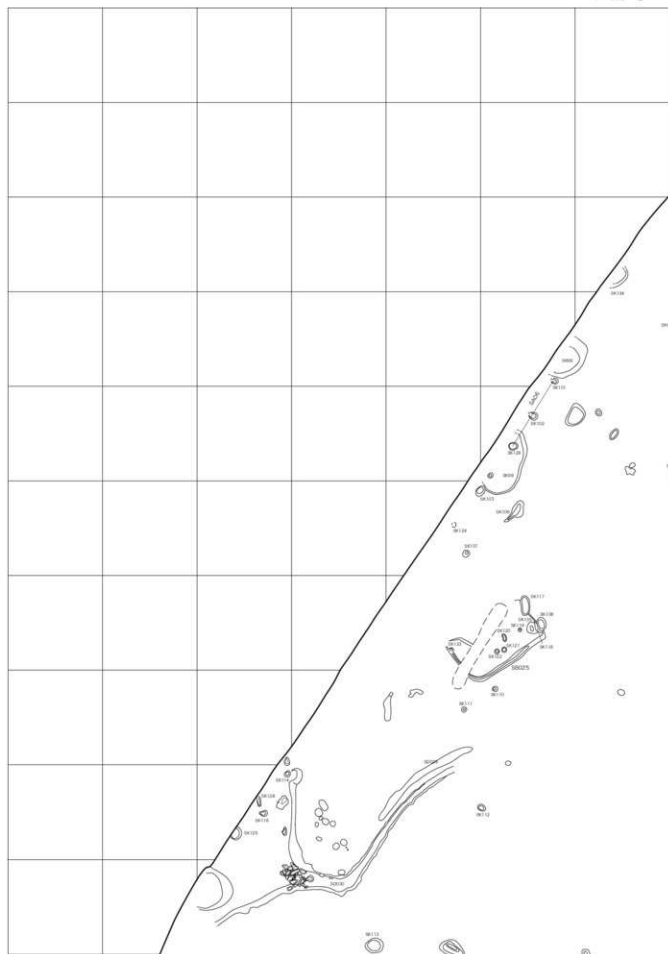
PL 3



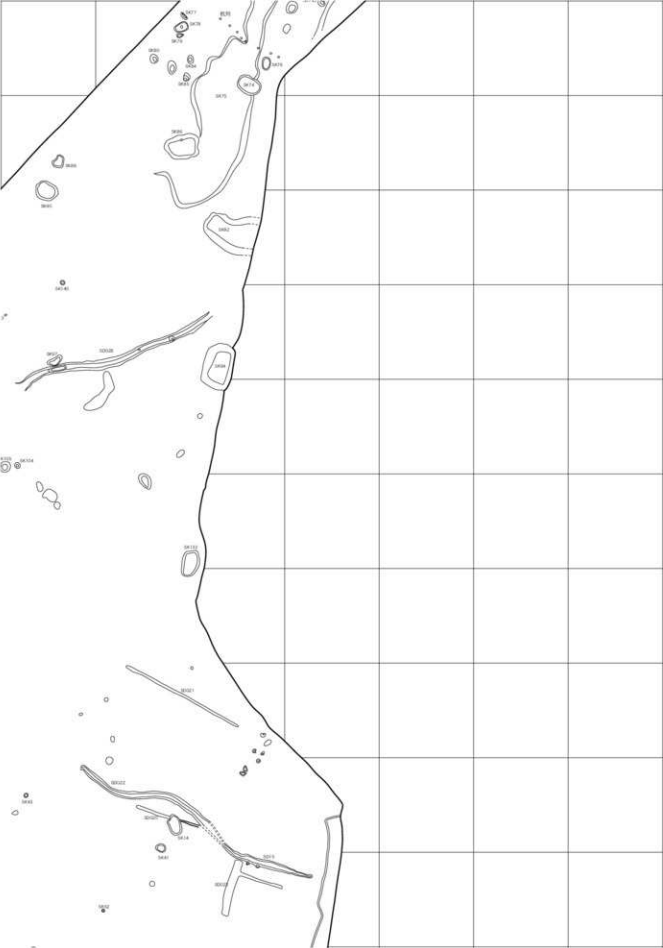


PL 5

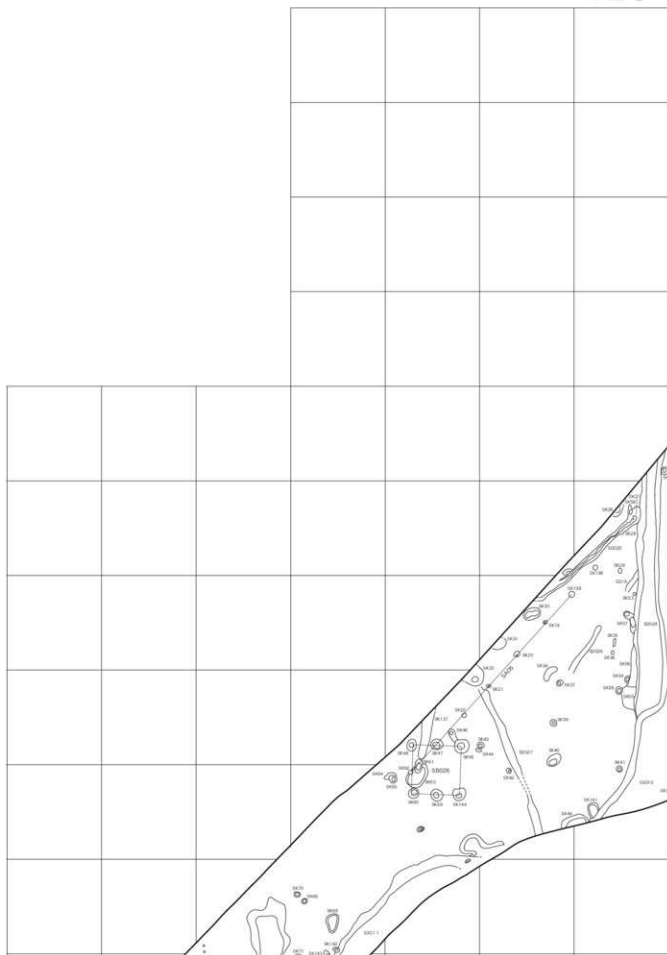


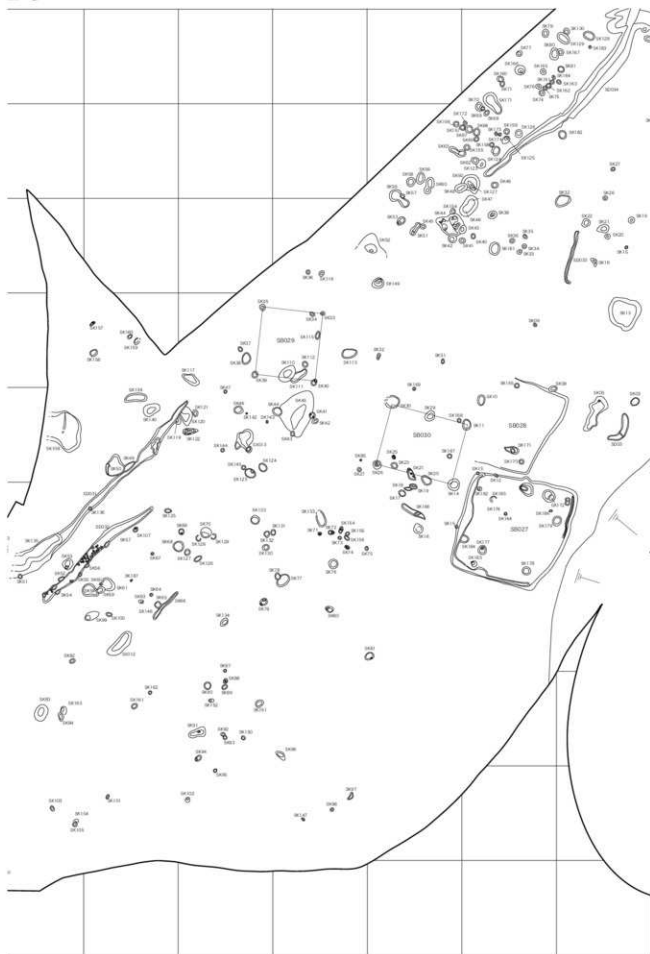


PL 7



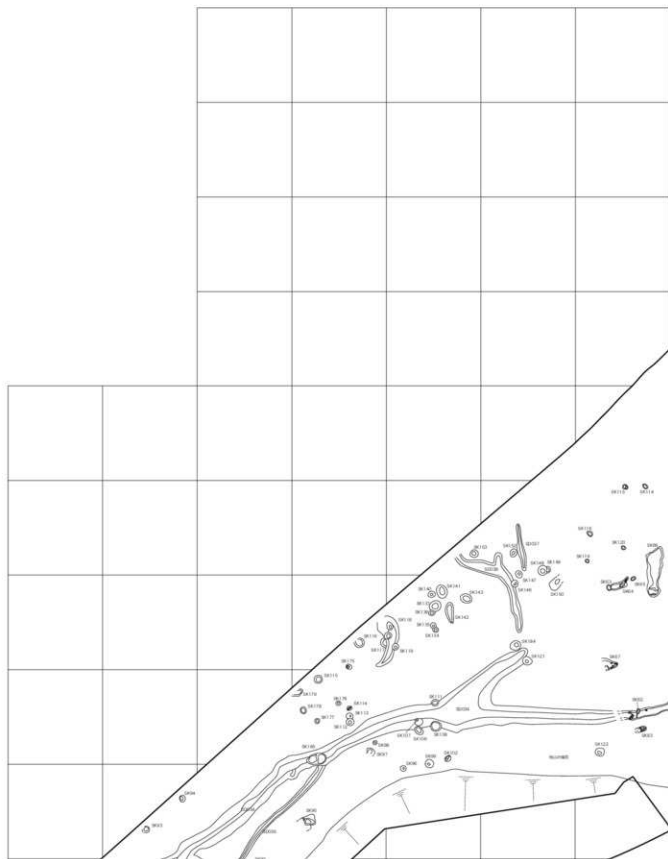






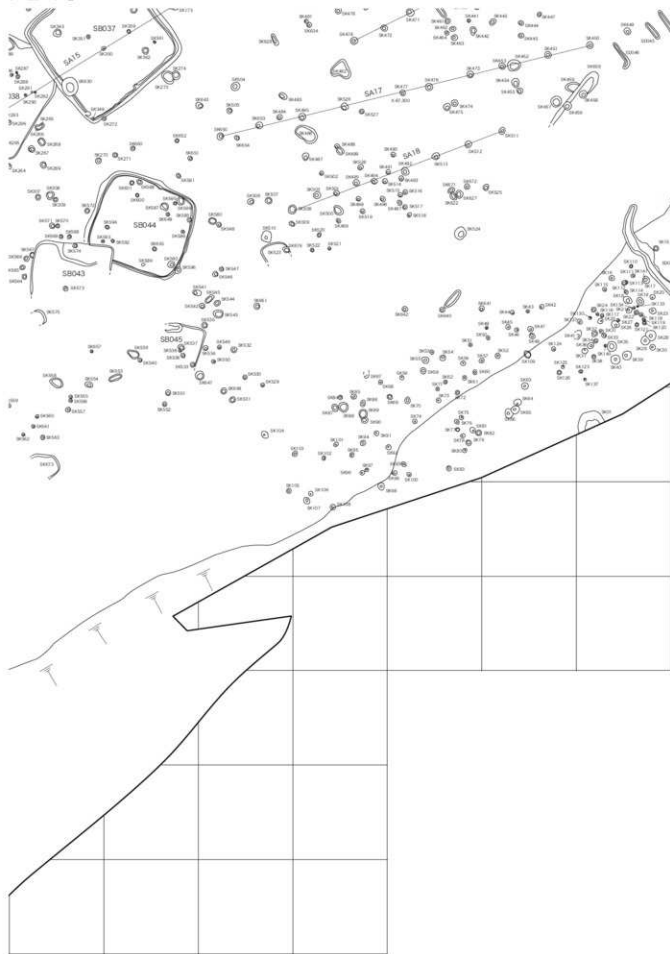


PL 11





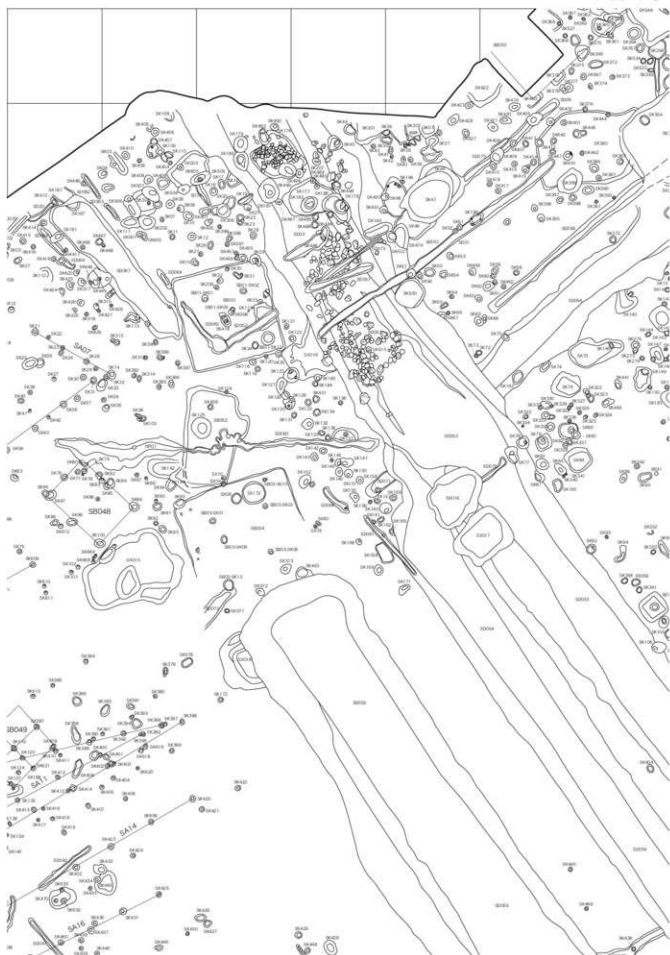
# PL 13



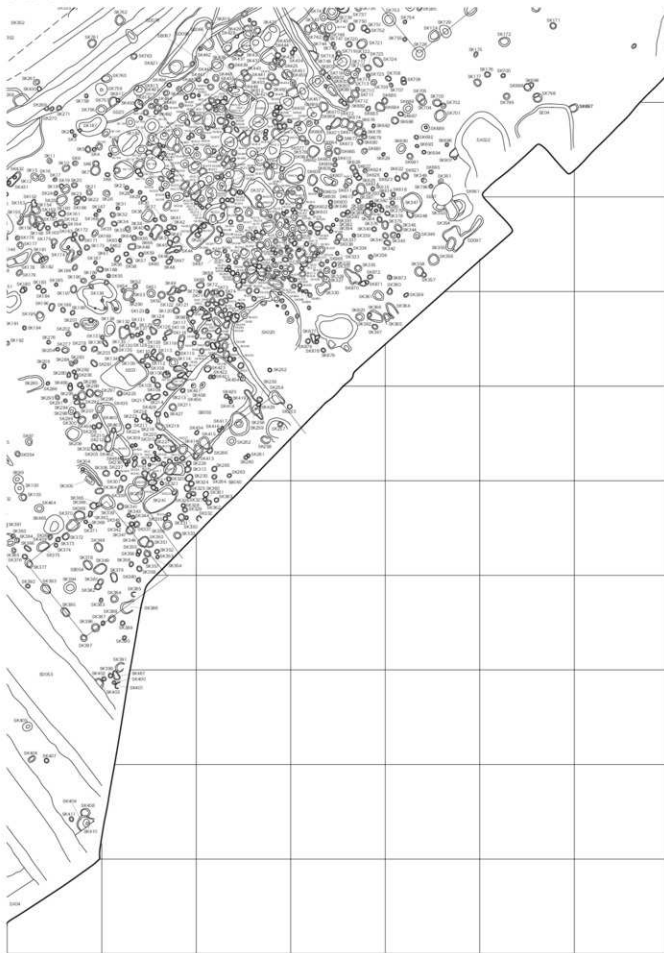


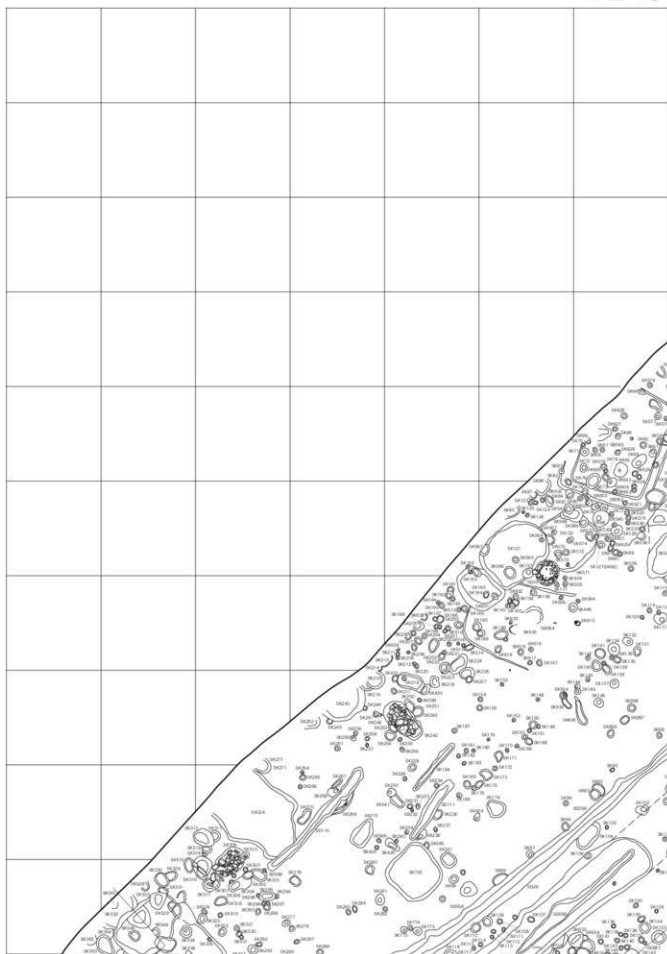




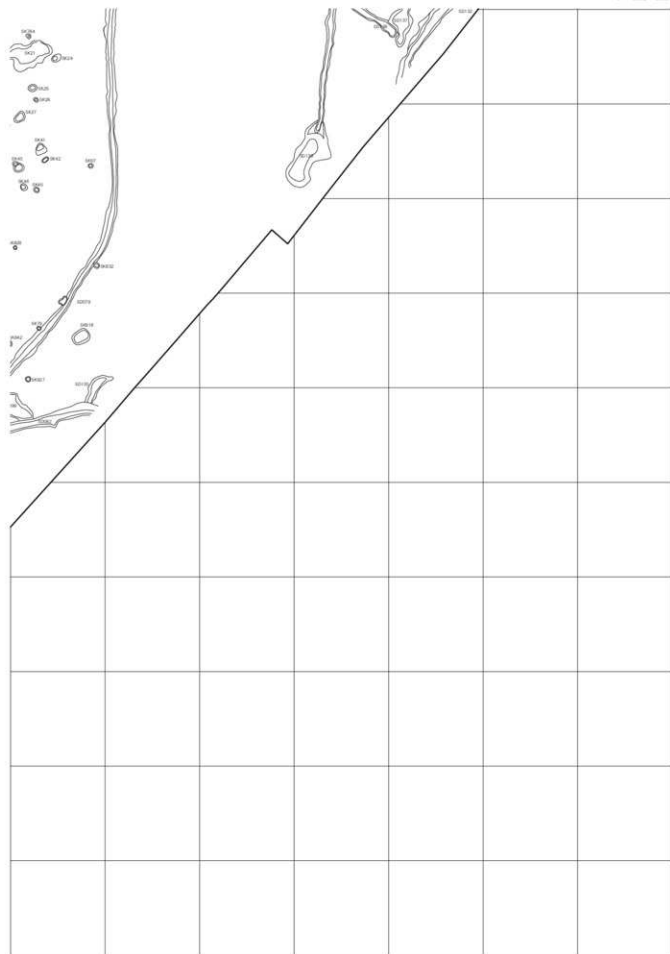


PL 17

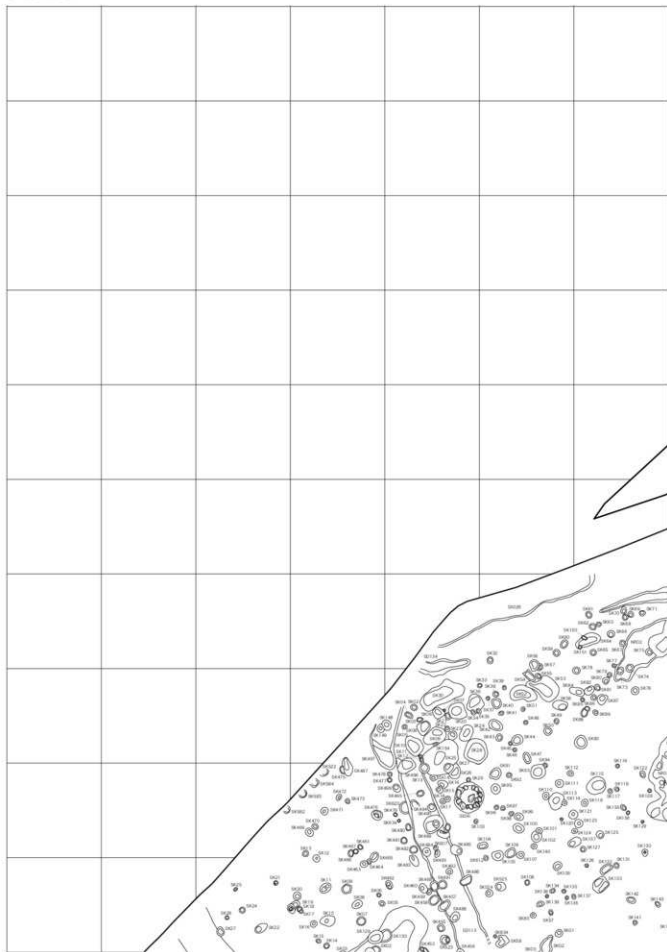


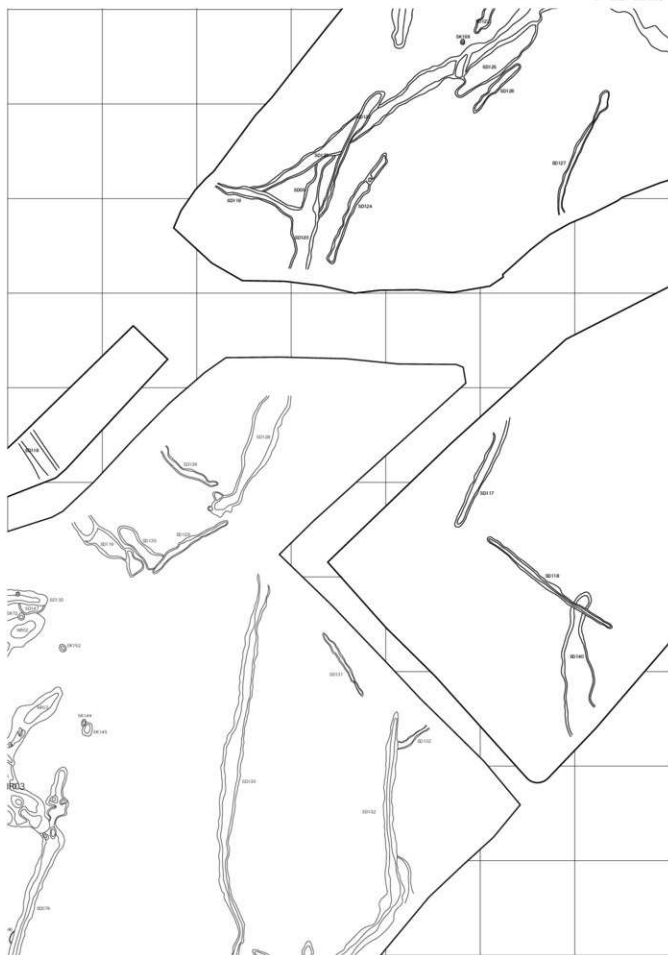


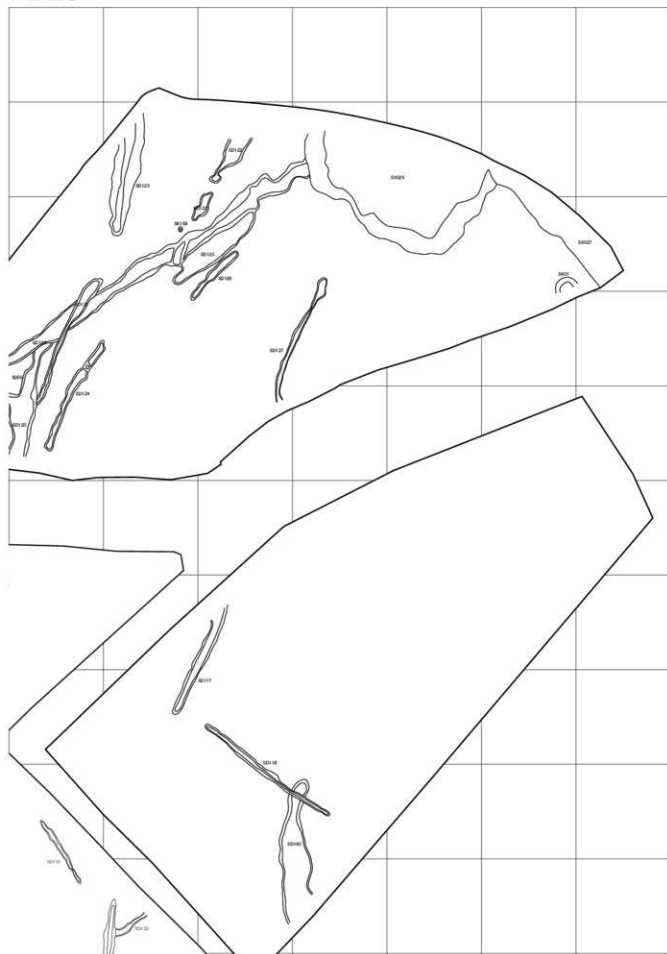




PL 21



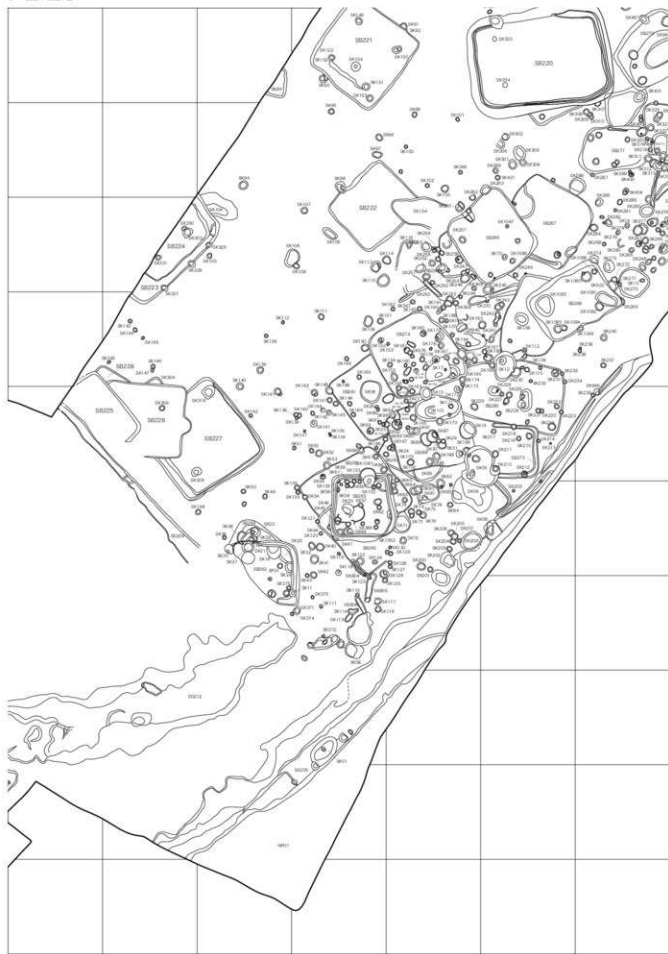


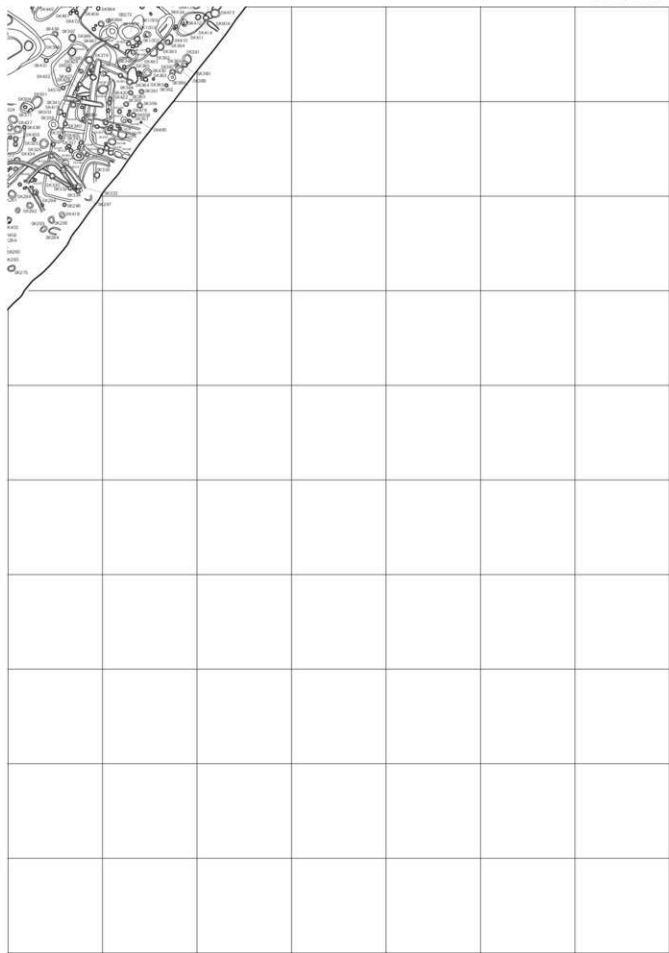


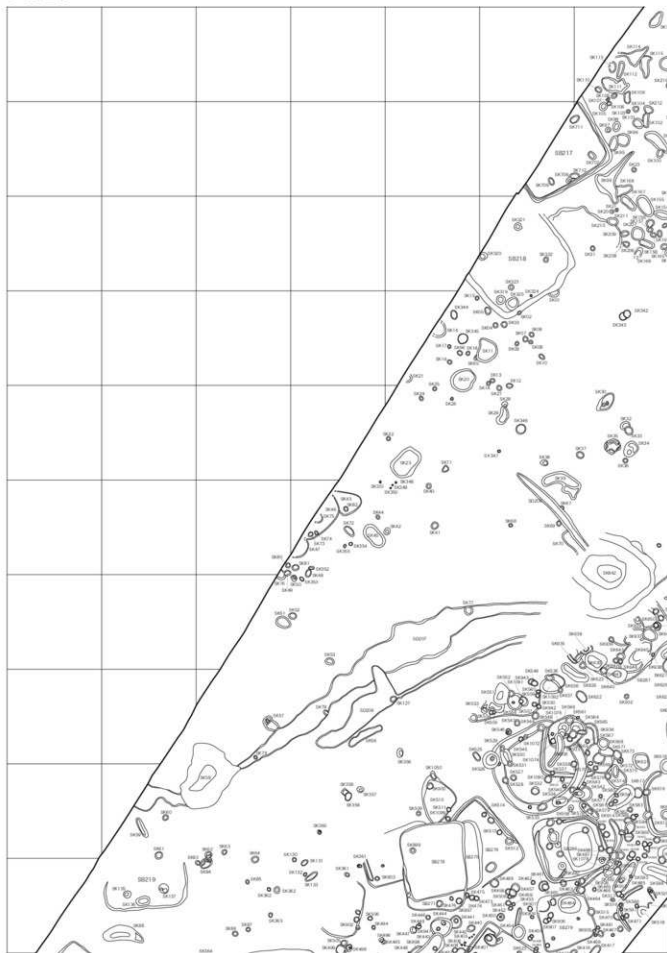


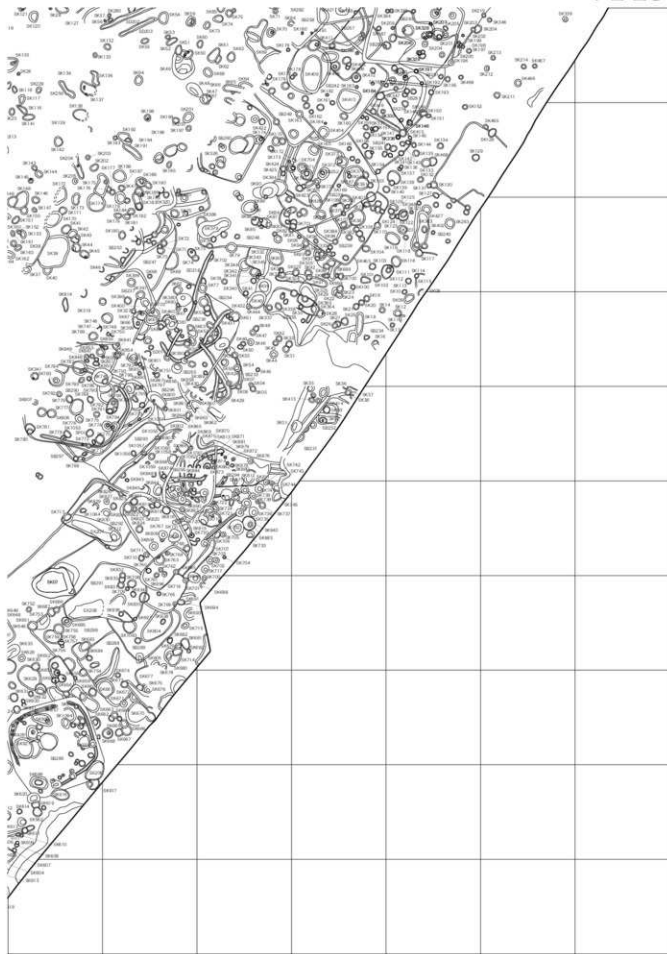


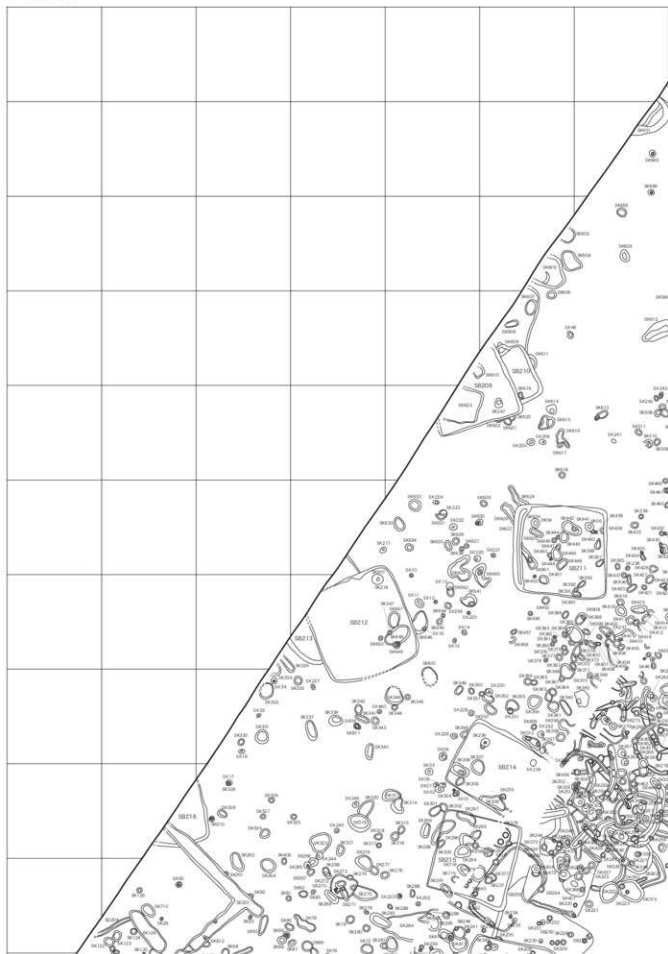
PL 25

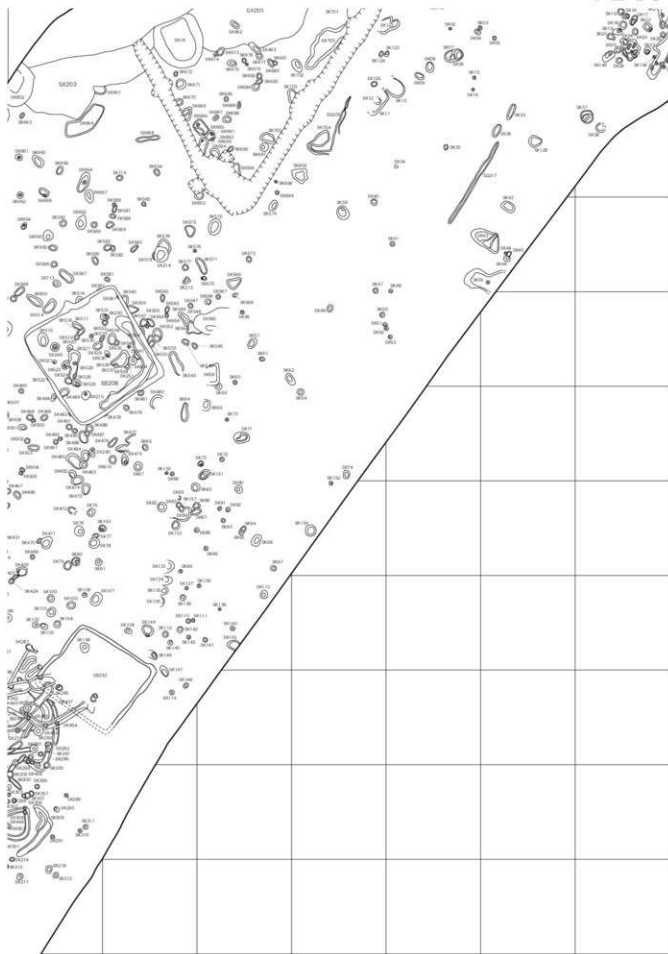




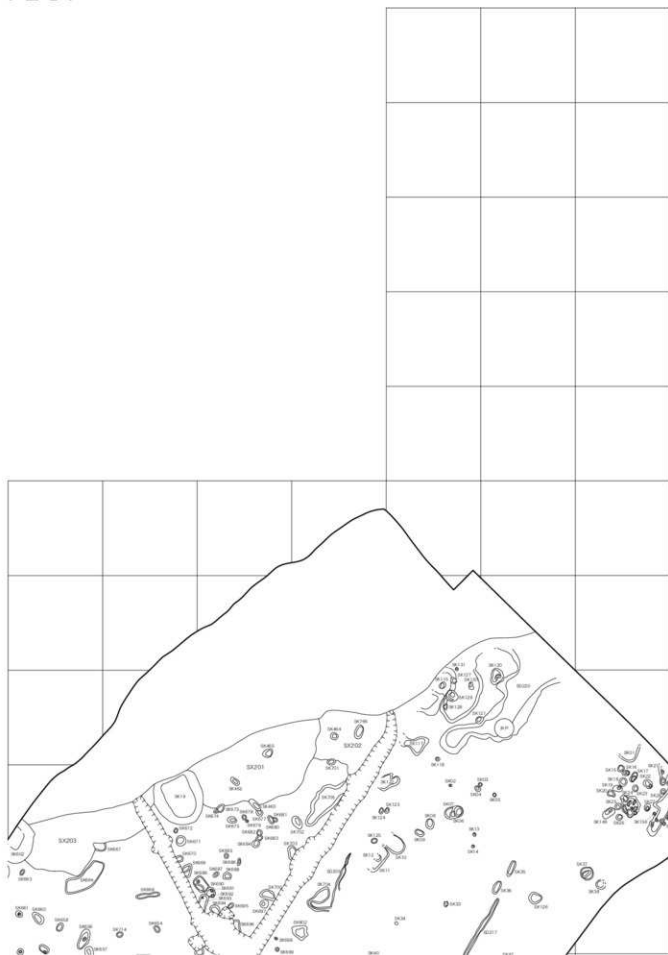




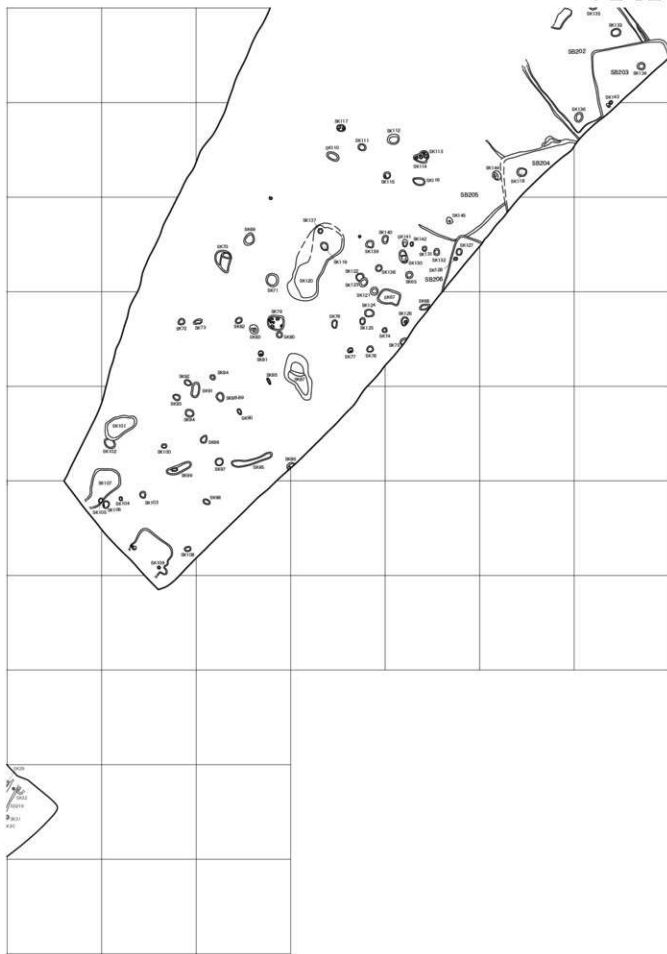




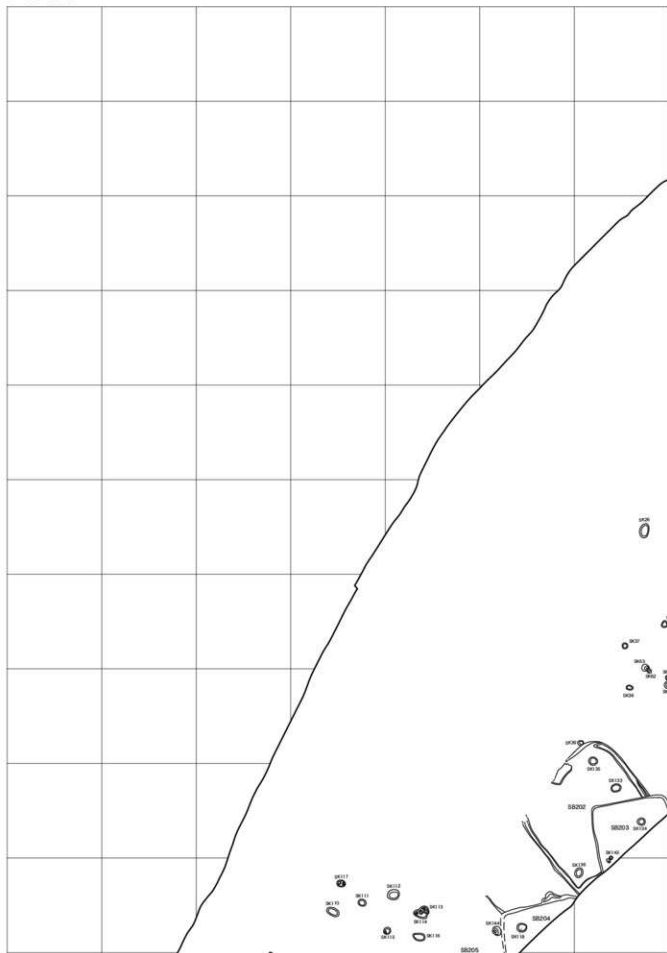
PL 31

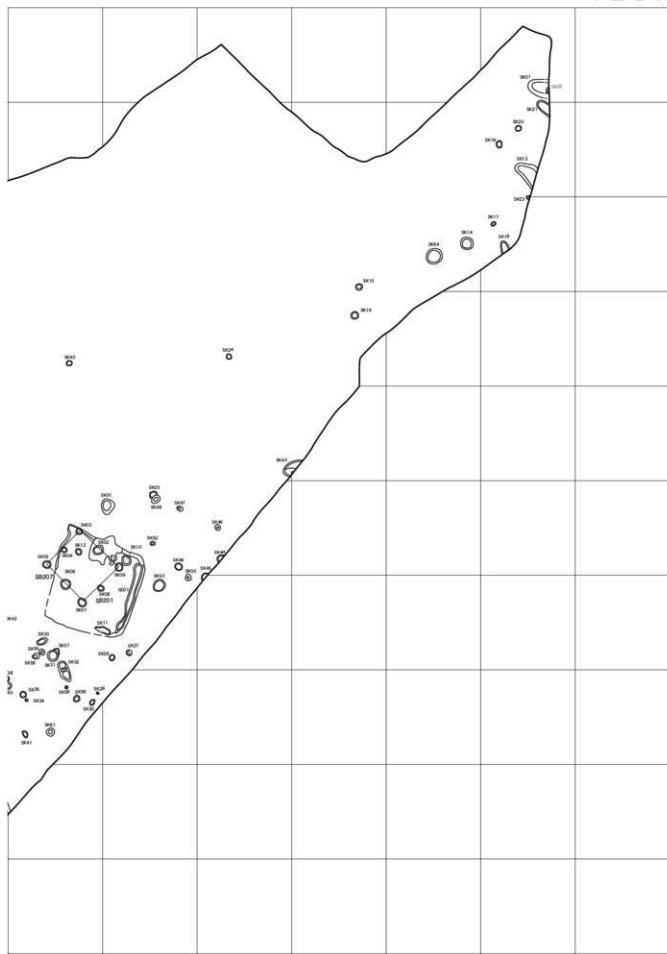






PL 33







00A区全景(南)



01A区全景(北)



O1B区全景(南)



O1C区全景(南)



01Da 区全景 (南)



01Db 区全景 (北東)



O2A 区下面全景 (北東)



O2B 区全景 (北東)



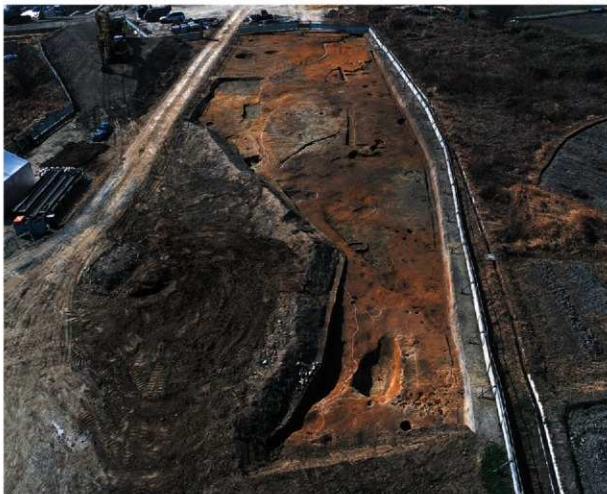


02C区全景(東)



03Aa区全景(北)





03Ab 全景 (北)



03B 区全景 (南西)

PL 41



03C 全景 (南西)



04Aa 区全景 (南西)



04Ab 全景 (北東)



04B 区全景 (南西)



PL 43



04Ca 全景 (南西)



04Cb 区全景 (南西)



04Da 全景 (西)



04Db 区全景 (東)

PL 45



04E 全景 (北東)



04F 区全景 (北)



SB001(南西)



01A区SK82(南西)



SB002(南東)



SB003(北西)



SB004(北西)



SB005(北東)



SB001・002(東)



SB017(南西)





SB219(北)



SB220(西)



SB220(北)



SD212(東)



SD212(東)





SB011・012(南西)



SB013・014(南)



SB025(西)



SB027(東)



SB031(南西)



SB031窟(北東)



SB032(南西)



SB033(南東)



SB035(南西)



SB035(南東)



SB036(西)



SB037(南東)



SB037(西)



SB038(南)



SB039-042(南東)



SB041(南)



SB044(南西)



SB051(南)



SB052(西)



SB053(西)



SB051~053(南西)



SB060-065(南東)



SB061(南)



SB062・063(南)



SB201(東)



SB204(南)



SB205(南)



SB202・203(北)



SB208(南)



SB209・210(北)



SB211(南)



SB212(南)





02A 区古墳時代整穴住居群 (北東)



SB213(東)



SB214(北西)



SB215(南)



SB216(南)



02B区竪穴住居群(北東)



SB217(南)



SB218(南東)



SB221(南東)



SB222(南西)



SB223・224(南西)



SB225(南西)



SB227(東)



SB242(東)



SB243(南)



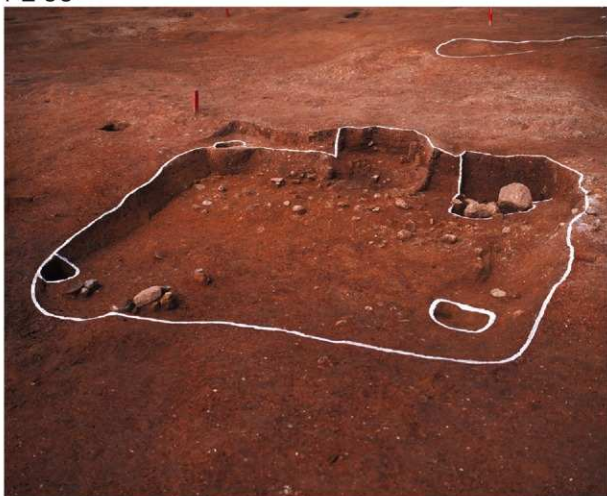
SB267(北)



SB279(北)



SB285(北)



SB018(南東)



SB018 窠(南東)



SB043(南)



SB263(西)



SB278(南)





04Ca区大溝群(北)



SD084(東)



SB055(南)



SB056(北西)



SB263(西)



04Ca区SK964(南)



04Cb区SK500(南)



02B区SK58(北東)



SE01(南西)



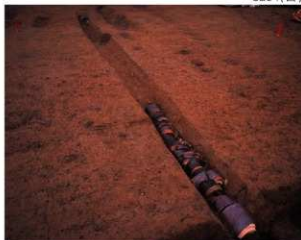
SE03(東)



SE04(西)



SE07(南)



SD003(南西)



SX024(南東)



SE05(北西)



SE06(東)



1



163



172



141



177



147



179





PL 61





301



319



302



323



304



324



305



353



316



364



PL 63



372



444



375



450



402



451



425



456



432



457





466



484



471



485



473



490



481



511



482



512



513



533



517



534



528



562



531



576



532



618







772



826



773



828



807



829



808



809



845





957



1073



993



1083



999



1086



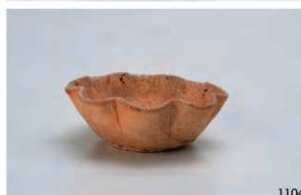
1067



1103



1070



1104







1285



1382



1318



1439



1360



1472



1361



1475



1373



1556





1679



1837



1680



1839



1727



1844



1766



1848



1772



1849















2368



2373



2369



2374



2370



2375



2371



2408



2372



2412





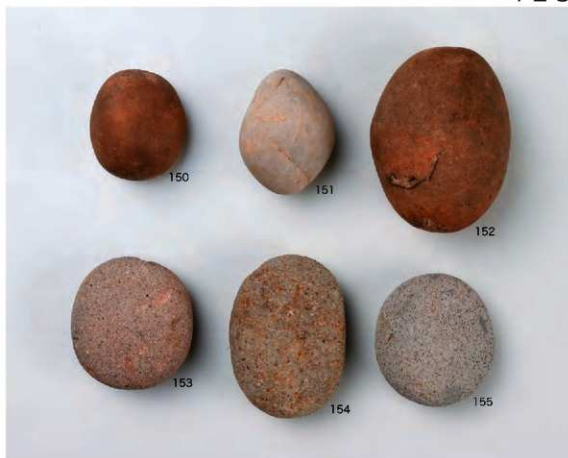
PL 83





PL 85









報告書抄録

ふりがな	そうさくかむばいせきに						
書名	惣作・鐘場遺跡II						
副書名							
巻次							
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第150集						
編著者名	酒井俊彦						
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日	2008年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	m	調査原因
惣作・鐘場遺跡	瀬戸市惣作町・鐘場町	03	03792	35° 12' 47"	137° 07' 47"	20011120- 20040931	28650 道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
惣作・鐘場遺跡	集落	旧石器時代	竪穴住居	有舌尖頭器	中期集落		
		縄文時代		竪穴住居 溝		縄文土器	後期集落
		弥生時代	竪穴住居	弥生土器	集落		
		古墳時代	竪穴住居	土師器 須恵器	集落		
		奈良時代	竪穴住居	土師器 須恵器	集落		
		平安時代	竪穴住居	土師器 須恵器 灰釉陶器	集落		
		鎌倉時代～室町時代	掘立建物 土坑 溝	土師器 須恵器 灰釉陶器 山系陶 古瀬戸窯焼陶器 土師器 木製品	集落		
		江戸時代	掘立建物 土坑 溝	瀬戸窯産灰釉陶器 土師器 溝	集落		
文書番号	発掘届	発掘許可	調査終了届	遺物発見届	埋蔵文化財 保存証	埋蔵文化財 認定	
	12埋セ163-1 12.11.1	12教生216-39 12.12.7	12埋セ 13.3.30	12埋セ 13.3.30	12埋セ 13.3.30	12教生216-39 13.5.28	
	12埋セ208-5 13.3.9	12教生216-48 13.3.30	13埋セ 13.10.24	13埋セ 13.10.24	13埋セ 13.10.24	12教生216-48 13.12.11	
	13埋セ174 14.3.1	14教生36-28 14.3.14	14埋セ101 14.10.21	14埋セ99 14.10.21	14埋セ100 14.10.21	14教生72-8 14.12.27	
	15埋セ8 15.4.30	15教生72-2 15.5.12	15埋セ118 16.3.25	15埋セ118 16.3.25	15埋セ118 16.3.25	15教生72-2 16.3.31	
	15埋セ111 16.2.25	15教生72-10 16.3.5	16埋セ61 16.10.21	16埋セ61 16.10.21	16埋セ61 16.10.21	16教生1787 17.1.27	
要約	旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。縄文時代から近世の各時代に渡って集落が展開する。中心となる時代は古墳時代と室町時代である。室町時代に多数の掘立建物が展開し、15世紀中葉に集落の周囲に大溝を巡らせ、16世紀前半に廃絶する。						

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第150集

## 惣作・鐘場遺跡Ⅱ

2008年3月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 新日本法規出版株式会社